

朝酌川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

- IV -

平成 4 年 3 月

部 河 川 課
育 委 員 会

朝酌川河川改修工事に伴う

タテチョウ遺跡発掘調査報告書

- IV -

平成 4 年 3 月

島根県土木部河川課
島根県教育委員会

序

本報告書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成2・3年度に実施した朝酌川中小河川改修工事予定地内に所在するタテチョウ遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。この遺跡につきましては、昭和52年以来調査を行ってまいりましたが、このたび河川改修に伴う調査を終了する運びとなりました。

今回の調査でも、大量の弥生土器をはじめ、縄文時代から平安時代に至る多種多様の遺物が出土しました。とりわけ弥生時代を中心に、畿内や北九州さらには朝鮮半島との交流をうかがわせる土器・石器など興味深い資料を付加することができましたことは、山陰地域の当該期文化の展開を考える上で意義があるものと考えております。

本書では、多岐にわたる出土遺物について充分な検討ができず、不備な点も少なからずありますが、従来の調査成果とあわせてこの調査結果が多少なりとも埋蔵文化財に対する理解に役立てば幸いに存じます。

発掘調査および本書の刊行にあたり、各方面から多人なるご支援、ご協力をいただいた関係各位に心よりお礼申し上げます。

平成4年3月

島根県教育委員会

教育長 坂 本 和 男



例 言

1. 本書は島根県上木部の委託を受けて、島根県教育委員会が1990・91年度（平成2・3年度）の2ヵ年にわたって実施した、一級河川朝鶴川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘地は次のとおりである。1990年度調査区—島根県松江市西川津町1261番地 他。
1991年度調査区—島根県松江市西川津町1127番地 他。
3. 調査組織は次のとおりである。

(1990年度)

- 事務局 泉 恒雄（文化課長），藤原義光（同課長補佐），勝部 昭（同課長補佐），野村 純一（同文化係長），坂根 繁（文化係主事），佐伯善治（財務課予算経理係長），野津健二（同主事），田部利夫（島根県教育文化財団嘱託）
調査員 宮澤明久（文化課埋蔵文化財第1係長），佐伯徳哉（同主事），林 健亮（同主事），瀬古諒子（同臨時職員）

(1991年度)

- 事務局 日次理雄（文化課長），藤原義光（同課長補佐），勝部 昭（同課長補佐），高橋 研（同文化係長），伊藤 宏（文化係主事），佐伯善治（財務課予算経理係長），野津健二（同主事），田部利夫（島根県教育文化財団嘱託）
調査員 宮澤明久（文化課埋蔵文化財第1係長），佐伯徳哉（同主事），林 健亮（同主事），瀬古諒子（同臨時職員）
遺物整理 岩成直子，奥田美穂子，奥野香美，金津まり子，近藤千穂子，瀬田明子，津森真弓，中村暢夫，平井明子，藤本千夏，松本令子，馬庭志洋子，山根由利子，古岡和美，吉岡三枝子

5. 自然遺物の同定および自然科学的分析は次の方々の協力をいただき、その結果を収録した。

(敬称略、順不同)

- 大西郁夫（島根大学理学部教授），徳岡隆大（同教授），山本重幸，田村嘉之（以上 土壌分析），西本豊弘（国立歴史民俗博物館考古研究部助教授 獣骨），三浦 清（島根大学教育学部教授 石材），渡邊正巳（川崎地質株式会社大坂支店技術部付課長代理 樹種鑑定）

6. 発掘調査および遺物整理にあたり次の方々に御指導、御助言をいただいた。記して感謝する。

(敬称略 五十音順)

- 赤澤秀則（鹿島町教育委員会），池田満雄（島根県文化財保護審議会委員），泉 拓良（奈良大学

文学部助教授), 置田雅昭(大理大学付属天理参考館学芸員), 小田富士雄(福岡大学人文学部教授), 亀田修一(岡山理科人文学理学部助教授), 七田忠昭(佐賀県教育委員会), 田中清美(財団法人大阪市文化財協会), 田中義昭(鳥取人文学法文学部教授), 都出比呂志(大阪大学文学部教授), 西谷 正(九州大学文学部教授), 平井 勝(岡山県立古代吉備文化財センター), 水島稔夫(下関市教育委員会), 三宅博士(安来市教育委員会), 柳本照男(農中市教育委員会), 山本 清(島根県文化財保護審議会会長)

7. 出上遺物については、遺物の種類毎に通し番号を与えてそれを挿図番号とし、各番号の前には略号を付した。略号は縄文土器がJ(Jomon Pottery), 弥生土器がY(Yayoi Pottery), 土師器がH(Haji Pottery), 須恵器がSU(Sue Pottery), その他の土器がE(Etc), ミニチュア土器がM(Miniature), 土製品がCL(Clay Object), 石器がST(Stone Tool), 木製品がW(Wood), である。
8. 挿図中の方位は国上調査法による第Ⅲ座標系X軸の方向を指す。従って、磁北より $7^{\circ}12'$, 真北より $0^{\circ}32'$ 東の方向を指す。
9. 掲載図面は佐伯, 林, 渕吉が作成し, 奥田, 奥野, 近藤, 津森, 平井, 馬庭, 山根, 古岡(二)が添書した。写真は自然遺物を除き佐伯, 林が撮影した。自然遺物については各執筆者の撮影である。
10. 本書の執筆は調査員が討議して行い, その分担は本文目次に示した。
11. 本書の編集は宮澤明久, その他文化課職員の協力を得て, 佐伯, 林, 渕吉が行った。
12. 本書で掲載した「遺跡位置図」は建設省国土地理院発行のものを使用し、「調査区位置図」は松江圏都市計画図をトレースして使用した。

本文目次

I. 調査に至る経緯 (佐伯)	1
II. 遺跡の位置と歴史的環境 (佐伯)	3
III. 遺跡の概要 (林)	
(1) 調査の経過	8
(2) 遺構の概要	13
IV. 出土遺物	
(1) 繩文土器 (瀬古)	30
(2) 弥生土器 (瀬古)	48
(3) 土師器 (瀬古)	116
(4) 近畿系上器・瓦質土器 (瀬古)	150
(5) 須恵器 (瀬古)	155
(6) その他の土器 (瀬古)	169
(7) ミニチュア土器 (林)	171
(8) 土製品 (林)	174
(9) 石器 (林)	178
(10) 木製品 (林)	194
(11) 金属遺物 (林)	222
V. タテヂョウ遺跡1990、91年度調査出土の動物遺体 (西本豊弘)	223
VI. タテヂョウ遺跡の珪藻遺骸分析と軟X線解析	225
(大西郁夫・徳岡隆夫・山本重幸・田村嘉之)	
VII. 松江市タテヂョウ遺跡出土木製品の樹種の記載 —その2— (渡邊正巳)	231
VIII. 松江市タテヂョウ遺跡出土の材化石 (渡邊正巳)	235
IX. 原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区の範囲確認調査 (佐伯・林)	246
X. まとめ (佐伯・林・瀬古)	253

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	5・6
第2図	調査区配置図	9・10
第3図	1977年度調査区配置図	11・12
第4図	河道検出状況	14
第5図	河道2実掘状況	15
第6図	しがらみ状遺構平面図	16
第7図	しがらみ状遺構付近土層断面図	17
第8図	しがらみ状遺構立面図	17
第9図	河道2平面図	18
第10図	河道4検出状況	20
第11図	河道4平面図	21
第12図	1990年度調査区東壁土層図	23・24
第13図	1991年度第I調査区東壁土層図	25・26
第14図	1991年度第II調査区東壁土層図	27
第15図	1990年度調査区北壁土層図	28
第16図	1990年度調査区土層断面図	29
第17図	縄文土器実測図(1)	34
第18図	縄文土器実測図(2)	35
第19図	縄文土器実測図(3)	36
第20図	縄文土器実測図(4)	37
第21図	縄文土器実測図(5)	38
第22図	縄文土器実測図(6)	39
第23図	縄文土器実測図(7)	40
第24図	弥生土器実測図(1)	51
第25図	弥生土器実測図(2)	52
第26図	弥生土器実測図(3)	53
第27図	弥生土器実測図(4)	54
第28図	弥生土器実測図(5)	55
第29図	弥生土器実測図(6)	56
第30図	弥生土器実測図(7)	57
第31図	弥生土器実測図(8)	58

第32図	弥生土器実測図（9）	59
第33図	弥生土器実測図（10）	60
第34図	弥生土器実測図（11）	61
第35図	弥生土器実測図（12）	62
第36図	弥生土器実測図（13）	63
第37図	弥生土器実測図（14）	64
第38図	弥生土器実測図（15）	65
第39図	弥生土器実測図（16）	66
第40図	弥生土器実測図（17）	70
第41図	弥生土器実測図（18）	71
第42図	弥生土器実測図（19）	72
第43図	弥生土器実測図（20）	73
第44図	弥生土器実測図（21）	74
第45図	弥生土器実測図（22）	75
第46図	弥生土器実測図（23）	76
第47図	弥生土器実測図（24）	77
第48図	弥生土器実測図（25）	78
第49図	弥生土器実測図（26）	79
第50図	弥生土器実測図（27）	80
第51図	弥生土器実測図（28）	84
第52図	弥生土器実測図（29）	85
第53図	弥生土器実測図（30）	86
第54図	弥生土器実測図（31）	87
第55図	土師器実測図（1）	118
第56図	土師器実測図（2）	119
第57図	土師器実測図（3）	120
第58図	土師器実測図（4）	121
第59図	土師器実測図（5）	122
第60図	土師器実測図（6）	123
第61図	土師器実測図（7）	124
第62図	土師器実測図（8）	125
第63図	土師器実測図（9）	126
第64図	土師器実測図（10）	127
第65図	土師器実測図（11）	128

第66図	土師器実測図（12）	129
第67図	土師器実測図（13）	130
第68図	土師器実測図（14）	131
第69図	土師器実測図（15）	132
第70図	土師器実測図（16）	133
第71図	近畿系土器・瓦質土器実測図	153
第72図	須恵器実測図（1）	158
第73図	須恵器実測図（2）	159
第74図	須恵器実測図（3）	160
第75図	須恵器実測図（4）	161
第76図	須恵器実測図（5）	162
第77図	須恵器実測図（6）	163
第78図	土器実測図	169
第79図	ミニチュア上器実測図	171
第80図	土製品実測図	175
第81図	石器実測図（1）	179
第82図	石器実測図（2）	181
第83図	石器実測図（3）	183
第84図	石器実測図（4）	185
第85図	石器実測図（5）	187
第86図	石器実測図（6）	188
第87図	石器実測図（7）	189
第88図	木製品実測図（1）	195
第89図	木製品実測図（2）	197
第90図	木製品実測図（3）	199
第91図	木製品実測図（4）	201
第92図	木製品実測図（5）	203
第93図	木製品実測図（6）	205
第94図	木製品実測図（7）	207
第95図	木製品実測図（8）	209
第96図	木製品実測図（9）	210
第97図	木製品実測図（10）	211
第98図	木製品実測図（11）	212
第99図	木製品実測図（12）	213

第100図 木製品実測図（13）	214
第101図 木製品実測図（14）	215
第102図 木製品実測図（15）	216
第103図 金属遺物実測図	222
第104図 壁面の断面図	228
第105図 タテチョウ遺跡東西壁面断面図と柱状図	229
第106図 タテチョウ遺跡における堆積物中の珪藻化石の分析結果	230
第107図 調査地点	237
第108図 試料採取地点	238
第109図 材化石の出現率と花粉化石の出現率の関係	242
第110図 調査区配置図	247
第111図 西川津遺跡Ⅱ区土層断面図	248
第112図 原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区出土遺物実測図（1）	249
第113図 原の前遺跡・西川津遺跡Ⅱ区出土遺物実測図（2）	250

表 目 次

第1表 動物遺体出土内容	224
第2表 木製品樹種一覧表	234
第3表 タテチョウ遺跡出土材化石一覧表	243

図 版 目 次

- 図版 1 タテチヨウ遺跡近景・遠景
図版 2 河道 1 完掘状況、河道 1 土層断面
図版 3 河道 2 検出状況、河道 2・3 土層断面
図版 4 河道 3 完掘状況、河道 3 土層断面
図版 5 河道 4 検出状況、河道 4 完掘状況
図版 6 河道 4 土層断面、1991年度Ⅰ調査区東壁
図版 7 1991年度第Ⅱ区調査区東壁、遺物出土状況
図版 8 遺物出土状況
図版 9 しがらみ状遺構検出状況、しがらみ状遺構付近土層断面
図版10 1990年度調査区完掘状況、1991年度第Ⅰ調査区完掘状況
図版11 繩文土器（1）
図版12 繩文土器（2）
図版13 繩文土器（3）
図版14 繩文土器（4）
図版15 弥生土器（1） 壺
図版16 弥生土器（2） 壺
図版17 弥生土器（3） 壺
図版18 弥生土器（4） 壺
図版19 弥生土器（5） 壺
図版20 弥生土器（6） 壺
図版21 弥生土器（7） 無頬壺・甕
図版22 弥生土器（8） 甕
図版23 弥生土器（9） 壺
図版24 弥生土器（10） 壺
図版25 弥生土器（11） 壺
図版26 弥生土器（12） 鉢・蓋
図版27 弥生土器（13） 底部
図版28 弥生土器（14） 壺
図版29 弥生土器（15） 壺
図版30 弥生土器（16） 壺
図版31 弥生土器（17） 壺

- 図版32 弥生土器 (18) 瓢
- 図版33 弥生土器 (19) 瓢
- 図版34 弥生土器 (20) 鉢 高坏
- 図版35 弥生土器 (21) 高坏 底部
- 図版36 弥生土器 (22) 壺 瓢
- 図版37 弥生土器 (23) 壺 瓢
- 図版38 弥生土器 (24) 壺 瓢
- 図版39 弥生土器 (25)
- 図版40 土師器 (1) 壺
- 図版41 土師器 (2) 壺
- 図版42 上師器 (3) 瓢
- 図版43 上師器 (4) 瓢
- 図版44 土師器 (5) 瓢
- 図版45 土師器 (6) 瓢
- 図版46 土師器 (7) 高坏
- 図版47 上師器 (8) 高坏 鼓形器台
- 図版48 土師器 (9) 鼓形器台 低脚坏
- 図版49 土師器 (10) 低脚坏
- 図版50 土師器 (11) 瓶形上器
- 図版51 上師器 (12) 瓢
- 図版52 土師器 (13) 瓢
- 図版53 土師器 (14) 高坏 坏
- 図版54 土師器 (15) 風 かまと
- 図版55 近畿系土器 (1) 瓦質上器
- 図版56 近畿系土器 (2)
- 図版57 須恵器 (1) 蓋坏
- 図版58 須恵器 (2) 坏
- 図版59 須恵器 (3) 坏
- 図版60 須恵器 (4) 長頸壺 広口壺
- 図版61 須恵器 (5) 皿 盤 龍 瓢
- 図版62 須恵器 その他の土器
- 図版63 ミニチュア土器・土製品
- 図版64 石 器 (1)
- 図版65 石 器 (2)

- 図版66 石 器 (3)
- 図版67 木製品 (1)
- 図版68 木製品 (2)
- 図版69 木製品 (3)
- 図版70 木製品 (4)
- 図版71 木製品 (5)
- 図版72 木製品 (6)
- 図版73 木製品 (7)
- 図版74 木製品 (8)
- 図版75 木製品 (9)
- 図版76 獣 骨 (1)
- 図版77 獣 骨 (2)
- 図版78 獣 骨 (3)
- 図版79 資料採取地点
- 図版80 2-bの拡大写真
- 図版81 木製品の樹種 (1)
- 図版82 木製品の樹種 (2)
- 図版83 材化石 (1)
- 図版84 材化石 (2)
- 図版85 材化石 (3)
- 図版86 材化石 (4)
- 図版87 材化石 (5)
- 図版88 材化石 (6)
- 図版89 原の前遺跡第1トレンチ南壁・西川津遺跡Ⅲ区第3トレンチ西壁
- 図版90 原の前遺跡・西川津遺跡Ⅲ区出土遺物

第I章 調査に至る経緯

タテチヨウ遺跡は、松江市の北東方向から大橋川に流れる朝酌川沿いにある。昭和9(1934)年に行われた堰と水門を造る工事に際して多くの土器が出土してその存在が確認された。そして、昭和24(1949)年に至って山本清氏によって一部試掘調査が行われ、本遺跡が弥生時代を中心古墳時代におよぶ複合遺跡であることが明らかとなった。当時、山陰地方では弥生時代前期土器が出土する遺跡が少なかったこともあり特に注目された。

ところが、朝酌川は度々氾濫を起こし、1970年代から急増した川津地区の住宅に損害を与えるに至った。そのため昭和47(1972)年から島根県土木部において河積拡大の河川改修計画が企画された。島根県教育委員会では昭和49(1974)年に県土木部の依頼を受け遺跡範囲確認のための予備調査を行った。

一方、松江市が松江圏都市計画を立案するに伴い、松江市教育委員会は、同予定地内にかかるタテチヨウ遺跡西側部分の試掘調査を昭和49年11月に、発掘調査を同12月から翌50年2月まで行った。

昭和52(1977)年、県教委と県土木部は協議の末、予備調査の結果に基づいて400m²の調査区を4箇所、計1,600m²について、遺跡の概要把握のための事前調査を実施することになった。同年10月から翌53年3月にかけて行われた調査で、弥生土器を中心に縄文時代から中世に至るまでの多量の遺物が出土した。(『タテチヨウ遺跡発掘調査報告書』Ⅰ 1979)

県土木部の河川改修工事予定地の取得完了(昭和58(1983)年7月)、松江市立第二中学校移転、「松江圏都市計画事業北部土地区画整理事業」伴い、県教委と県土木部とで再三協議の結果、昭和59(1984)年度と昭和60(1985)年度の2箇年にわたって調査を実施することになった。この調査では、木製品を含む多量の遺物が出土し、これらの整理に約2年を要した。(『タテチヨウ遺跡発掘調査報告書』Ⅱ 1987)

また、昭和60年この調査区の北隣接地で松江市の事業である橋梁架設工事が予定され、松江市教育委員会による発掘調査が行われた。また、県教委でもその周辺2,000m²を昭和62(1987)年度に調査することになり、同年5月6日から翌63年の1月12日まで発掘調査を行った。

昭和63年度になると、東山橋上流方面の対岸側に調査区を移して2,000m²について調査を実施することになった。発掘調査期間は同年4月11日から12月24日までの約8ヶ月であった。この調査区からも、縄文時代から中世に至るまでの多量の遺物が出土し、出土遺物の整理には約1年を要した。(『タテチヨウ遺跡発掘調査報告書』Ⅲ 1990)

平成2年度も、引き続き昭和63年度調査区の上流側の調査を続行し、同年7月5日から12月21日

まで1,600m²について調査を行った。また、同年、この調査区上流側加羅橋南側で、松江市の事業である橋梁架設工事が予定され、松江市教育委員会による発掘調査が行われた。

平成3年度は、前年度調査区上流側2,000m²について4月22日から8月5日まで調査を行った。また、加羅橋上流側に位置する原の前遺跡及び、西川津遺跡Ⅱ区の遺跡範囲確認のための予備調査を9月2日から10月16日まで併せて実施した。

本報告書は、平成2・3（1990・1991）年度発掘調査の報告である。

第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

タテヨウ遺跡は、松江市西川津町にある。この遺跡は、松江市の東郊に位置し、市の北東部澄水山麓に流れを発し、市街の東辺を南下して大橋川に注ぐ朝鈴川沿いの冲積地に立地している。遺跡の範囲は南北約300m程の広がりを持つと考えられ、遺跡付近の標高は約1mである。朝鈴川の上流部、本遺跡の北東約1.5kmには西川津遺跡があり、また、西川津遺跡と本遺跡の間にも原の前遺跡と称する遺跡の存在が知られている。朝鈴川をはさむ平野周辺の丘陵先端部には、金崎古墳群をはじめとして多くの古墳が存在する。

本遺跡周辺では、現在のところ旧石器時代の遺跡は知られていないが、タテヨウ遺跡、西川津遺跡において、^{若1}尖頭器や細石刃核と考えられる石器が出上しており、将来、付近で旧石器時代の遺跡が確認される可能性も考えられる。

縄文時代の遺跡としては、金崎遺跡、城の越遺跡、西川津遺跡などが知られている。本遺跡北側丘陵上に位置する金崎遺跡では深鉢土器が出土しているほか、城の越遺跡では晩期の土器片が採集されている。朝鈴川上流部に位置する西川津遺跡は昭和55年から発掘調査が行なわれており、縄文～弥生時代のものを中心とした多量の遺物を出土している。縄文時代の遺物としては早期末の縦縫上器をはじめ、前期、晩期の土器や石器類が多量に出上しており、この地域における縄文時代人の生活の痕跡を何うことができる。

弥生時代の遺跡としては、西川津遺跡をはじめ、朝鈴川南岸丘陵麓にある貝崎遺跡、橋本遺跡などが知られている。西川津遺跡で出土した弥生時代の遺物には前期から中期にかけての多量の土器類をはじめ、木製品、石器、骨角器などが見られる。また、小丸山古墳群のある丘陵上をはじめ、朝鈴川上流部北側の丘陵裾部標高20～30mに位置する芝原遺跡、坂本中遺跡、持田神社前、本遺跡南側東山の麓に位置する橋木遺跡からは少量ながら弥生上器片が出上しており、集落跡の存在が推定される。西川津遺跡と本遺跡の間に位置する原の前遺跡では昭和62年に試掘調査が行なわれ、弥生土器片が出土している。しかし、現在のところ本遺跡周辺での集落跡や、墓の存在は知られておらず今後の調査による発見が期待される。

古墳時代の遺跡としては、本遺跡周辺の丘陵上に見られる数多くの古墳をはじめ、集落跡が知られている。

この地域における大型の前期古墳の存在は、今のところ知られていないが、古い様相を示す古墳としては、木棺直葬形態をもつ道仙古墳群、箱式石棺と練床をもつ小丸山古墳群など一辺10m程度の方墳が、本遺跡北方の丘陵先端部に見られる。

中期に入ると本遺跡東側丘陵上にある山崎古墳をはじめとして、一辺20m未満の方墳が相当数築造されるようになる。その一方で、直径30m以上に及ぶ大源1号墳、宮垣古墳など大型の円墳や、全長20~30m前後に及ぶ前方後方墳を含む金崎古墳群、薬師山古墳が本遺跡北側の丘陵上に築造されており、比較的大規模な古墳が見られるようになる。中でも、全長35mに及び、堅穴式石室を内蔵し、做製内向花文鏡、滑石製異形子持勾玉、碧玉製勾玉、同素玉、同管玉などの玉類のほか、金環、須恵器などの豊富な副葬品が出土している金崎1号墳は特に有名である。

出雲地方の後期古墳の特徴の一つとされる石棺式石室は、この地域に多く見られ、東持田町の佐々木亮宅畠中古墳、野津真宅前古墳、加佐奈子古墳、佐々木浅市宅裏古墳、加美古墳、上東川津西宗寺古墳などが丘陵裾部に築造されているが、整正のものは殆ど見られず、石棺式石室亜流と称されるものが多い。出雲地方に多く見られる横穴墓は、この地域では比較的少なく、穴の口横穴群や鐵治屋谷横穴墓群などわずかしか知られていない。この地域の後期古墳でも特殊なものとしては、片袖式の横穴式石室を持ち全長50mにも及ぶ大型の薄井原古墳や、中国地方の平野部では珍しい袖なしの横穴式石室を持つ岡田薬師山古墳などが知られている。

本遺跡周辺の標高30m程度の低丘陵上の斜面には集落跡も見られ、住居跡18棟を検出した堤追遺跡や柴遺跡が知られている。

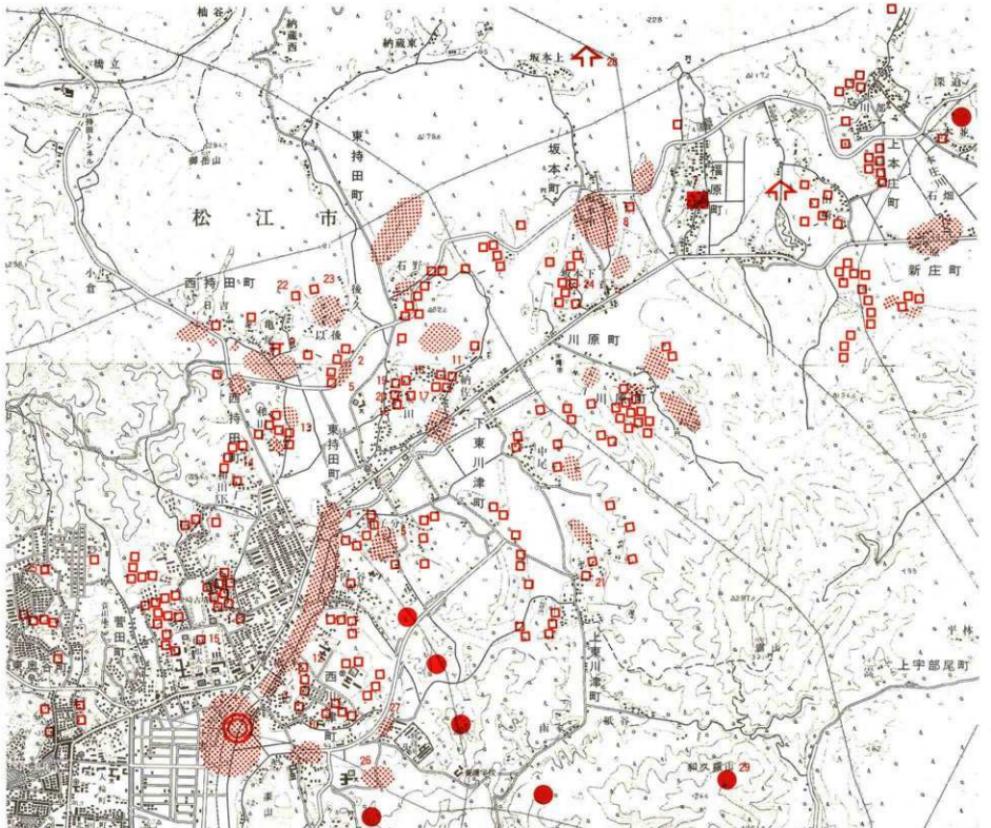
律令制下においては、この遺跡の周辺地域は島根郡山口郷と呼ばれたものと考えられる。^{註3} 朝酌川の支流福原川沿いの微高地にある芝原遺跡は、墨書き土器や建物跡などから島根郡家に比定されている。また、昭和53年にタテチョウ遺跡で発見された「驛」の墨書き入り須恵器は、この地域における駅家の存在を推測させる。また、持田川流域条里制遺跡として、奈良時代の水田状況が残された遺跡が知られているが、分布調査では、繩文土器、須恵器が出土している。^{註4}

律令制の崩壊から中世への移行期におけるこの地域の状況は、よくわからないが、平安時代の遺跡としては坂本町坊床庵寺があり、瓦類や藏骨器が採集されている。また、昭和62年度のタテチョウ遺跡の発掘調査では平安時代の河道路を検出している。

中世になると、律令制下の山口郷は長田郷と呼ばれるようになる。長田郷は、成立当初より東郷と西郷に分かれていたと推測され、^{註5} 鎌倉時代にはこの地域の在地領主であった長田氏一族によって支配されていた。鎌倉時代の末期、本遺跡周辺の長田西郷は、莊園領主万葉小路家の派生した雜掌と地頭長田氏らによって支配が行なわれており、市成地区楽山北麓にある「政所」の地名は、この雜掌の支配拠点の痕跡であろうと思われる。^{註6}

南北朝~室町時代になると、長田東郷は朝山氏に支配が移り、西郷は、從来の長田一族か、もしくは佐々木一族による支配が行なわれたものと推測される。

戦国時代に入り、尼子氏の領国支配が進展するなかで、この地域は多賀氏の支配に入っている。^{註7}



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (国土地理院 加賀・松江 1:25000) 25000)

1. 金鶴古墳群
2. 城の遺跡
3. 原の前遺跡
4. 西川津遺跡
5. 貝鏡遺跡
6. 小丸山古墳群
7. 芝原遺跡
8. 坂本中遺跡
9. 持田古社
10. 橋本遺跡
11. 道仙古墳群
12. 山崎古墳
13. 大河古墳群
14. 宮垣古墳
15. 萩崎山古墳
16. 佐々木亮宅煙中古墳
17. 野津屋宅前古墳
18. 加佐奈子古墳
19. 佐々木浅市宅裏古墳
20. 加美古墳
21. 西宗寺古墳
22. 穴の口横穴群
23. 銀治屋谷横穴墓群
24. 薄川原古墳
25. 向田豪師山古墳
26. 堤路遺跡
27. 柴遺跡
28. 芳床廣寺
29. 和久麗山城

尼子支配の末期になると、この地域周辺では戦いがくり返され、本遺跡近辺でも、尼子方にあった多賀氏の和久羅山城をめぐって尼子、毛利両軍が戦いを交えている。この時期、まだ本遺跡付近は、朝酌川河口部であったといわれる。

- 註1 「タテヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 島根県教育委員会 1990年
- 註2 「西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ 海崎地区1」 島根県教育委員会 1987年
- 註3 「山陰国風土記」 内田律雄『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ 海崎地区1』 島根県教育委員会 1987年
- 註4 『小丸山古墳群』 松江市教育委員会 1986年
- 註5 山本清『川津郷土誌』 1982年
- 註6 文永8、11月日「関東御教書」「千家文書」「新修島根県史史料編1」
- 註7 元応2、3、2、「関東下知状」「飯野八幡宮文書」「史料叢集古文書編」
- 註8 井上寛司「中世の朝酌川流域」「西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ 海崎地区1」 島根県教育委員会 1987年

第三章 遺跡の概要

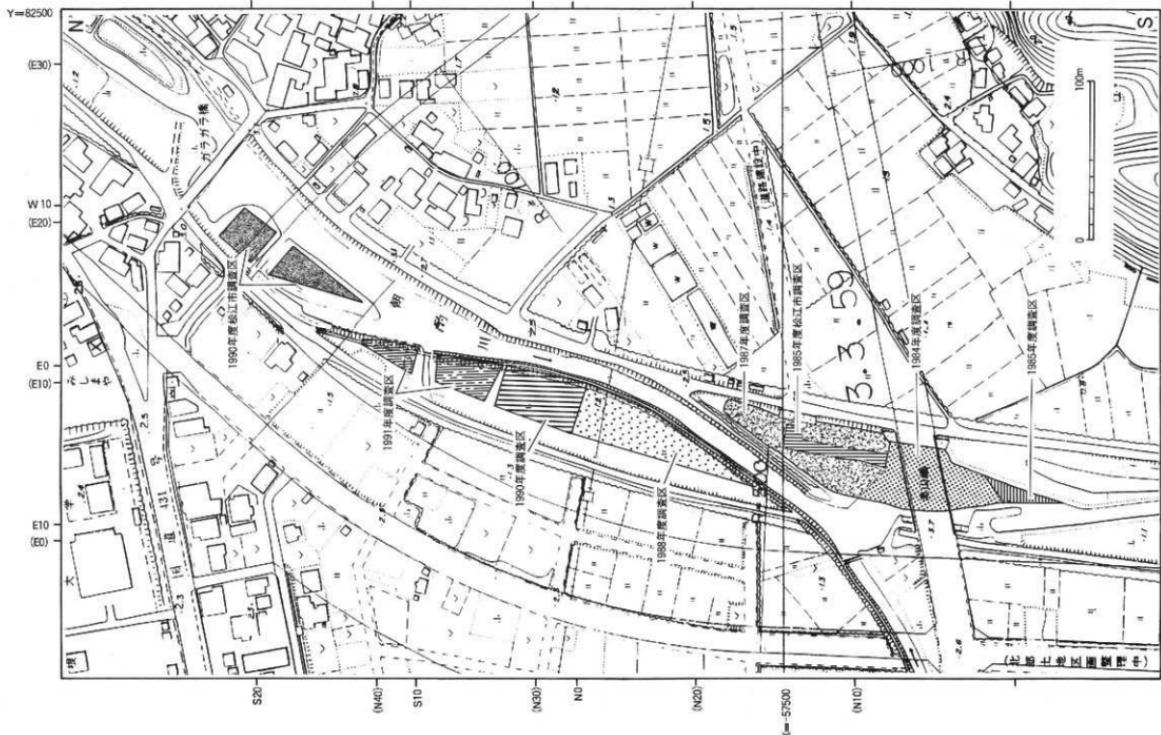
(1) 調査の経過

今回のタテヨウ遺跡の現地調査は、1990年（平成2年）7月5日から12月21日までと、1991年（平成3年）5月1日から8月6日までの2ヵ年にわたって実施した。このうち1990年度の調査区は、1988年度調査区の北側隣接地に約1600m²を設定し、旧河道3本の他、しがらみ状遺構を検出した。また、1991年度は1990年度松江市調査区との間に約1700m²を設定し、旧河道を検出した。これらの調査区は1977年度（昭和52年度）の第Ⅲ・Ⅳ調査区を含んでいる。グリッドの設定は、国土地標を使用したが、現地調査前の準備不足のため、1984～1988年度調査区のものとは異なるものになってしまった。すなわち、座標軸X=-57,320,000 Y=82,280,000の交点をN0E0とし、南に向かってCN1, N2…、西に向かってE1, E2…と呼び、各方眼の北東の交点をグリッド名とした。従って、N0E0は1988年度のN32、5E11に当たる。

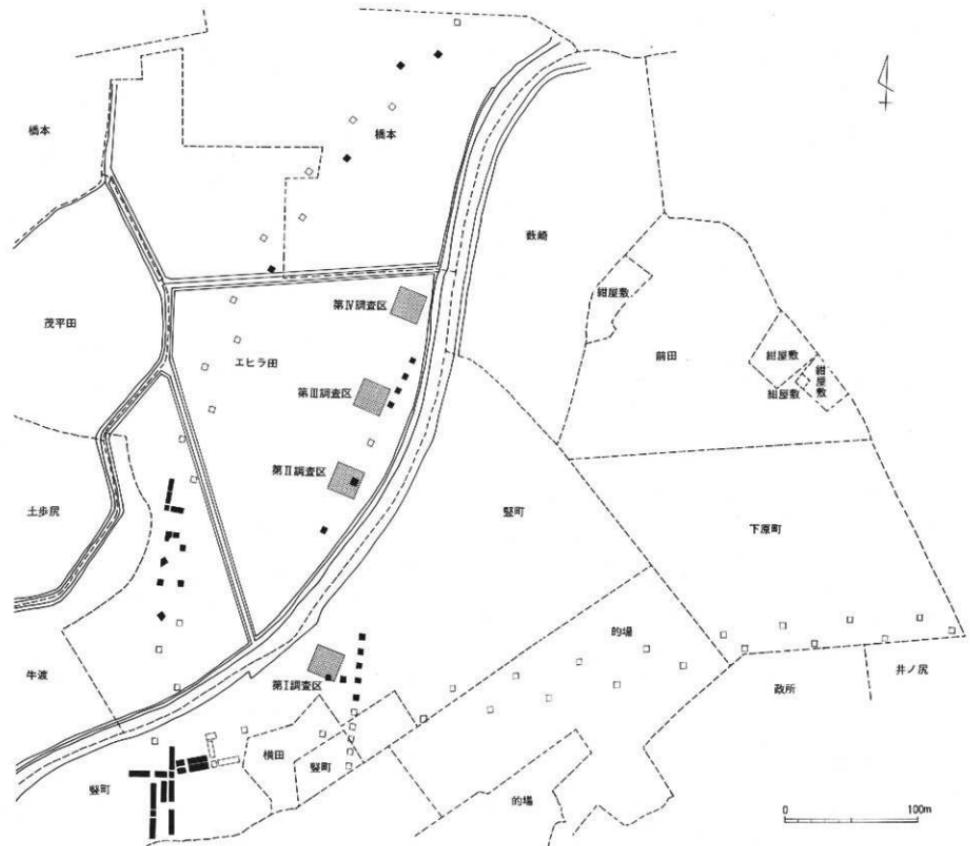
1990年度の調査では、前年度までの調査成果を参考に、上層の耕作土・粘質土部分を重機により除去し、暗青灰色砂質土より下層を人力により掘削した。また、旧河道が検出されることを想定して、調査区北端に東西にトレントを設定し、土層の確認に努めた。その結果、遺物包含層の状況と河道1を確認したが、その後トレントに掛からなかった部分から河道2・3が相次いで検出され、その都度調査方針を変更せざるを得なくなってしまった。1991年度の調査区は、調査範囲中程に農業用水用の水路があるため、調査区も南北に二分し、南側をⅠ区、北側をⅡ区と仮称した。この年度の調査でも、上層の耕作土・粘質土部分を重機によって除去した後に人力による掘削を開始している。前年度の調査により、土層がかなり複雑に堆積していること、旧河道が更に増える可能性が高いことが推定されたため、調査区端の4辺にトレントを設定し、旧河道等を確認した上で掘削を開始した。この結果、南側の第Ⅰ調査区で河道4を検出することができた。

現地調査が終了した1991年8月より出土遺物の整理、報告書の作成を開始した。遺物は、洗浄・注記の終了したものから総てに目を通し、尖端可能なものの、特異なものを抽出し、尖端するものを決定した。また、この作業と並行して、木製品の一部と河道4埋土中で採集した自然木から樹種鑑定用のプレバラートを作成する作業を行った。

この間、将来の調査に備え加羅加羅橋上流側に当たる原の前遺跡右岸と、西川津遺跡Ⅱ区の学園橋までの部分について遺跡の範囲確認調査を行った。この調査では、両遺跡で合計6ヵ所のトレントを設定し、総てのトレントから遺物が出土した。



第2図 調査区配置図（松江市都市計画1991 1:2500 1987に加筆）



第3図 1977年度調査区配置図

(2) 遺構の概要

1990・91年度の調査では、4本の旧河道の他、2本以上のような自然流路を検出した。また、土層の堆積状況より、遺跡全体が河川堆積層であったことを確認した。

1990年度の調査では、1988年度の調査結果により、土層の堆積状況が非常に複雑であることが予想されたため、調査区北端にトレーナーを入れ土層の確認に努めた。その結果、耕作上・暗褐色粘質土・灰褐色粘質土を除去後、多量の遺物を含んだ暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層が検出された。しかし、調査が進展して行くにしたがって、この調査区では暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層は調査区全面には広がらず、南東隅では自然流路（河道3）によって削られていることが判明した他、砂礫層を含んだ上層中にも何本かの自然流路が存在することが判った。そのため、各自然流路毎に掘削を行い、自然流路の掘削終了後に流路に伴わない遺物包含層を掘削することとした。

1991年度の調査でもトレーナーにより、自然流路（河道4）の存在が確認され、1990年度と同様に自然流路毎の掘削を行っている。

旧河道に伴わない遺物包含層

旧河道以外の遺物包含層部分は、各調査区の北西側と1991年度第Ⅱ調査区に広がっている。暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層を中心に多数の土器・石器類を出土しているが木製品は旧河道内に比べ少ない。土器類は弥生時代前期の土器を中心に縄文土器から上師器までを含んでいるが須恵器は殆ど見られなかった。1990年度調査区の暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層より下層は、無遺物層である青灰色細砂層までの間に砂層が見られる部分があり、弥生時代前期の土器が少量出土している。この砂層内から出土する土器は、殆ど弥生時代前期に集中しており、破片も比較的大きなものが多い事から、比較的近くの弥生時代前期の遺跡から流入してきた物と考えられる。

今回の調査では最も上流にあたる1991年度第Ⅱ調査区では旧河道は検出されず、暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の堆積も薄い状態であった。暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の直下に無遺物層である青灰色細砂層が見られ、全体に遺物の出土量が少なかった。1991年度第Ⅱ調査区で出土した遺物の中には須恵器・木製品は見られず、土師器も僅かしかなかったが、縄文土器・弥生時代前期の土器の割合が多かったことが注意される。1991年度第Ⅱ調査区で出土した縄文土器・弥生土器は、いずれも水磨を受けた小片がほとんどであった。1988年度調査では1.5km離れた上流の西川津遺跡出土弥生土器とタテヨウ遺跡出土土器が接合した例があり、1991年度第Ⅱ調査区の遺物は、上流の西川津遺跡等から流れてきたものである可能性もある。

なお、1991年度第Ⅱ調査区にはコンクリート片等が詰まった大きな土壙が開けられており、広い範囲で搅乱を受けていた。

河道3（第4図 図版4）

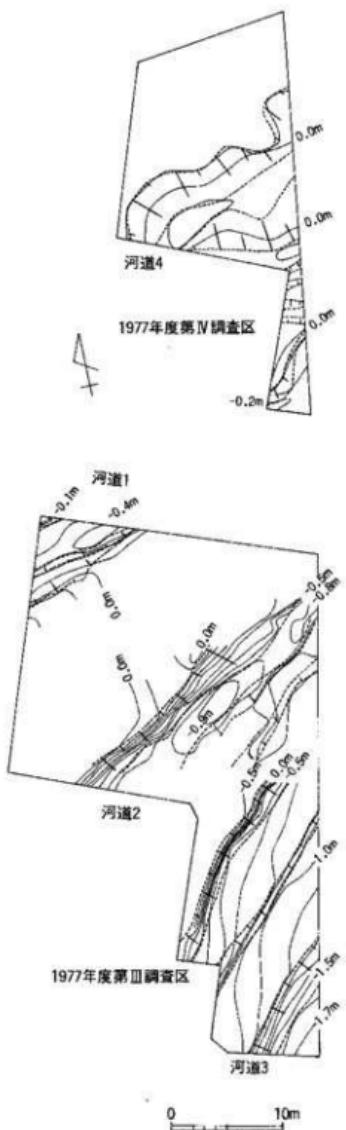
河道3は1990年度調査区の南東に、北東から南西に向かって検出された自然流路で、検出した最深部の標高は標高-1.3m、検出面肩部から底部までの比高差は1.1mにもなる。東岸は検出できなかったが、土層がいずれも東に大きく傾斜して堆積していたことから、河道の中央は調査区より東を流れる現在の朝靄川内にあったと考えられる。標高-0.6m付近には幅2m程の平坦面が広がっており、河岸段丘状になっている。肩部付近の傾斜はその後に検出した他の自然流路に比べ急傾斜になっている。河道3の埋土は砂層を縞状に挟み、植物質を含んだ粘質土である。この堆積は、砂疊層が多量に堆積した他の自然流路とは堆積の仕方が異なるように見える。すなわち、砂疊層の堆積は水流の強い力により一度に堆積したと考えられるのに対し、粘質土の堆積は緩んだような状況で時間をかけて堆積したと思われる。

河道3から出土した遺物には、縄文上器は全く見られず、弥生土器・土師器・石器の出土も少量に止どまった。しかし、河道3の底面にはわずかに砂層が見られ、砂層とその直上の粘質土内からは、ほぼ完形を保つ須恵器や、曲物等の木製容器類が出土し、河道3の埋没時期は9世紀後半から10世紀初め頃と推定される。

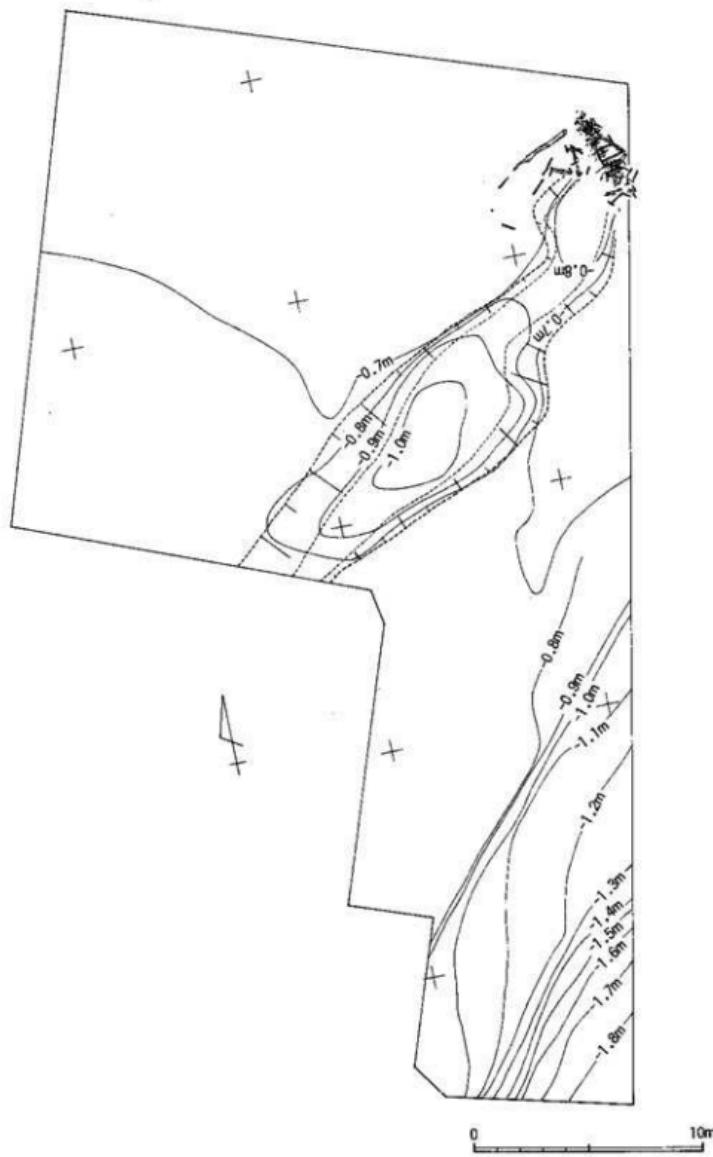
河道3は検出位置や出土遺物から、1988年度調査の第2河道に続くものと考えられる。

河道2（第5図 図版3）

河道2は1990年度調査区のはば中央を北東から南西に横断する自然流路で、検出した部分の最大幅約9m、肩部から底部までの比高差約1.0m、最深部の標高-1.1mを測る。東岸は河道3に切られており、最大幅は更に広かったものと思われる。



第4図 河道検出状況（1:500）



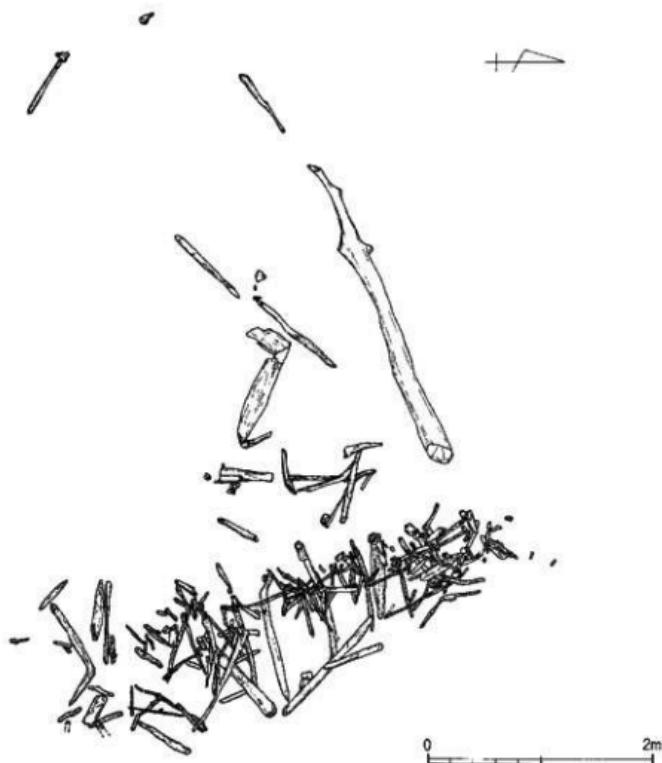
第5図 河道2完掘状況 (1:250)

埋土は青灰色砂礫層が厚く堆積しており、植物質を含む薄い粘質土や砂層が縦状に見られる。青灰色砂礫層中には土器片を中心とした多数の遺物を含んでいた。

自然流路底面には50cm程もある円礫が見られる部分があったほか、50本以上にも及ぶ杭が打ち込まれていた。杭は河道2東岸にあたるN3E1付近に集中して見られ、N1E0付近からは、多くの立ち杭や小枝を絡ませた施設が検出され、しがらみ状遺構と呼んだ。

しがらみ状遺構（第6～8図 図版9）は1990年度調査区の北東隅にあり、約2mにわたって河道2を横切る形で設置されていた。

しがらみ状遺構は直径約10cm、長さ約2mの杭、小枝を落とし先端を尖らせた長さ30cm程の細い棒、小枝をそのまま使用した横木等を組み合わせたもので、約50cm間隔で打ち込まれた杭の間に細

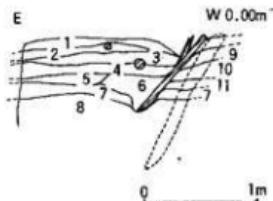


第6図 しがらみ状遺構平面図 (1:50)

い棒を立て並べ、それに沿

わせて横木を置いたもので
ある。全体に大きく西に傾
斜しており、水圧により傾
いたことが予想される。土
層断面を見ると、しがらみ
状造構より西側は青灰色細
砂層が堆積しており、河道

1. 淡灰色砂質土
2. 雪灰色粘質土
3. 間灰色粘礫土
4. 黄褐色砂質土
(褐色粘土ブロックを含む)
5. 青灰色砂層
6. 青灰色砂層
(褐色粘土ブロックを多く含む)
7. 青灰色砂層
(ブロックを含まない)
8. 灰色細砂層
9. 青灰色粘質土
10. 青灰色砂質土
11. 黄灰色砂質土



第7図 しがらみ状造構付近土層断面図 (1:50)

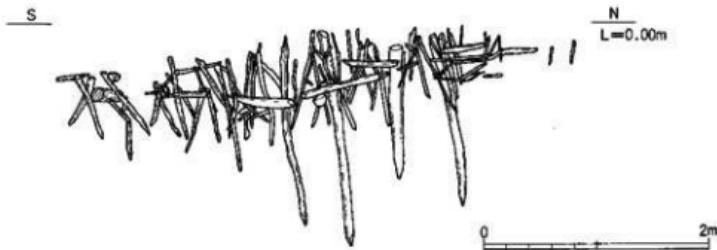
2の底面より下層の状況と同様だが、東側は砂礫層が深く潜り込んだように堆積しており、東側から流れてくる流路をせき止めるように設置されていたと考えられる。

しがらみ状造構東側の深く落ち込んだ部分からは、ほぼ完形を保つ須恵器長頸瓶(SU-75)が出土しており、この須恵器は8世紀代のものと推定される。このことよりしがらみ状造構の埋没時期は8世紀代と考えられる。

河道2の東岸、しがらみ状造構南側には前述の通りに多くの杭が打ち込まれていたが、その周辺からも完形に近い須恵器が多く出土している。それらはしがらみ状造構で出土した須恵器とはほぼ同時期のものと考えられ、河道2の埋没年代は8世紀代と考えられる。

河道1(第4図 図版2)

河道1は、1990年度調査区の北西隅に掛かった小さな自然流路で、土層断面により確認された。河道2・3と同様に北東から南西に向かって伸びており、西側で大きく広がっている。広がった部分での最大幅約5m、検出面肩部から底部までの比高差約30cm、最深部の標高-0.4mを測る。南東岸の標高-0.1m付近には幅約2mの平坦面が見られ、段をもっている。埋土は、底面に、植物の腐食によると思われる粘質土が薄く堆積している他は、自然流路に伴わない遺物包含層と同様の青灰色砂礫層であった。出土遺物は、他の旧河道に比べて少なく、縄文・弥生土器を中心少量の

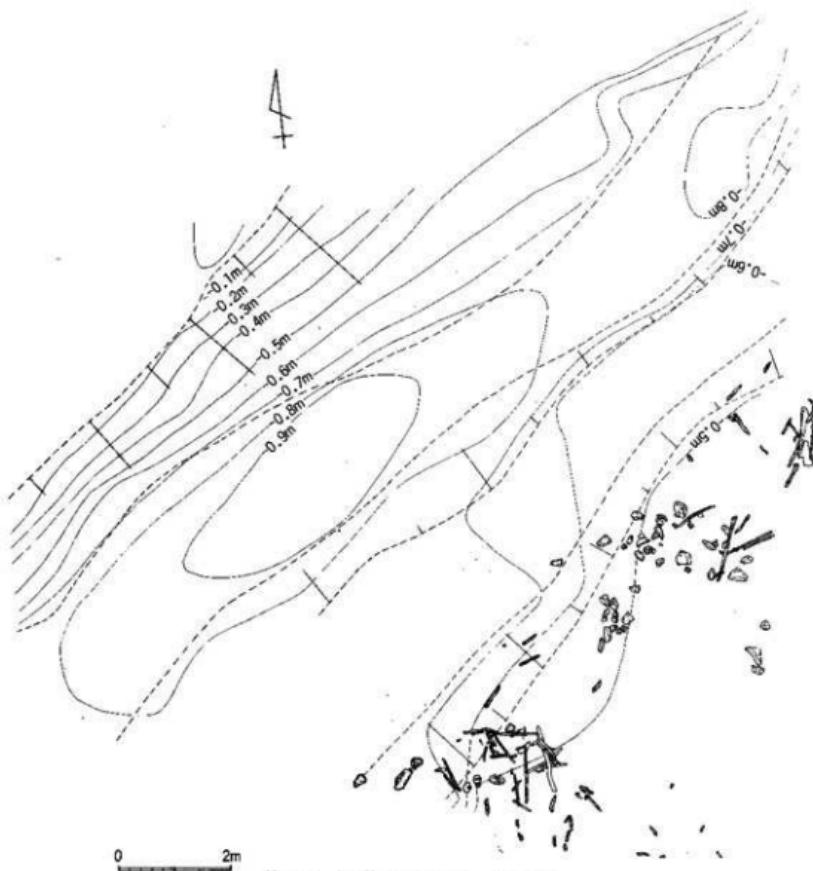


第8図 しがらみ状造構立面図 (1:50)

土師器を含んでいる。出土遺物は小片が多く、河道1の埋没年代を示すものは見られなかった。

河道4（第10・11図 図版5・6）

河道4は1991年度第Ⅰ調査区中程を横断する大きな自然流路で北東から南西に向かい、S2ライン付近で南に大きく流路を変えている。南側については、S52年度第Ⅱ調査区内に向かって延びており、1990年度調査区との関連は判らない。S2E0付近での幅は約7mで流路が南に変わ部分では約4mまで狭くなる。検出面肩部から底部までの比高差約30cm、最深部の標高-0.3mを測る。上層の堆積状況は非常に複雑で、堆積・侵食を何回か繰り返しており、植物の腐食土や粘質土が砂疊



第9図 河道2平面図 (1:100)

層の間に挟まれている。腐食土層下面の砂質土中には多量の自然木が堆積している部分が見られた。この部分は、S3E0・S2E0付近を中心にしており、流路が方向を変える部分にあたり、上流から流れできたものが飄みに溜まつたまま堆積したものと考えられる。これらの中には、木製品や土器類も含まれており、特に鼓形器台（63-150）が完形を保つまま出土しており、河道4の埋没時期を推定させるものになっている。

S2E1とS3E1には河道4と同時に埋没したと思われる土壌2基が見られる。いずれも直径約1m、深さ約30cmの不整円形を呈している。S3E1付近は元々遺物包含層が薄く、この土壌も無遺物だったが、S2E1のものには、河道4と同様に自然木が堆積しており、河道4が流れているころに同時に開いていた土壌で、河道4と同時に埋没したものであろう。自然流路に比較的近く、土層の堆積状況や遺物の出土状況から人為的に掘られた土壌とは考えられず、倒木等により自然にできたものであろう。

その他の自然流路（第11図）

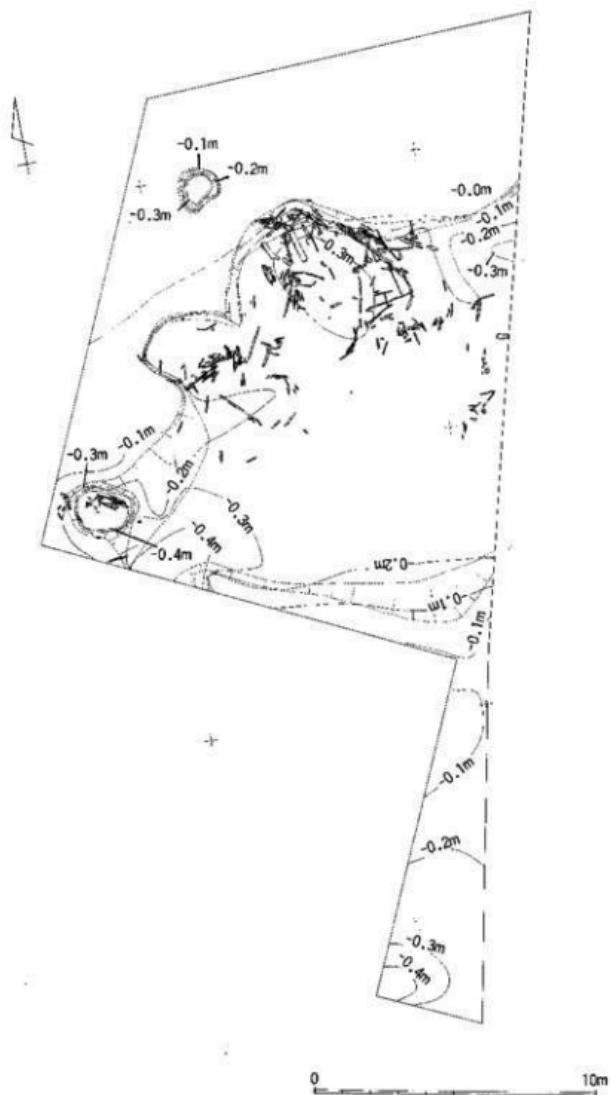
河道4の南側は、S52年度第Ⅳ調査区によって切られているが、残る部分には10cm間隔の等高線にも現れない小さな自然流路が何本か確認されている。S1ライン付近に見られる2本の流路は、いずれも幅2m、深さ10cm以下の小さなもので、河道4とほぼ並行し、東西方向に走っている。遺物包含層部分と同様の青灰色砂礫層が埋土となっており、河道4の上層部分とは層位的な違いは見られない。

S1E0付近を北東—南西方向に走る自然流路は他の2本に比べ、やや大きなものになっている。検出面肩部から底部までの比高差は約30cmあり、最深部の標高は-0.3mを測る。東岸は調査区内では確認できず、大きな河道であった可能性も考えられる。埋土は、青灰色砂礫層を主に、粘質土や砂層が複雜に堆積していた。縄文・弥生土器片が多く出土し、規模や方向などから1990年度調査区の河道1とつながる可能性があったが、矢板工事の都合により調査区の間隔が開いてしまったため不明である。

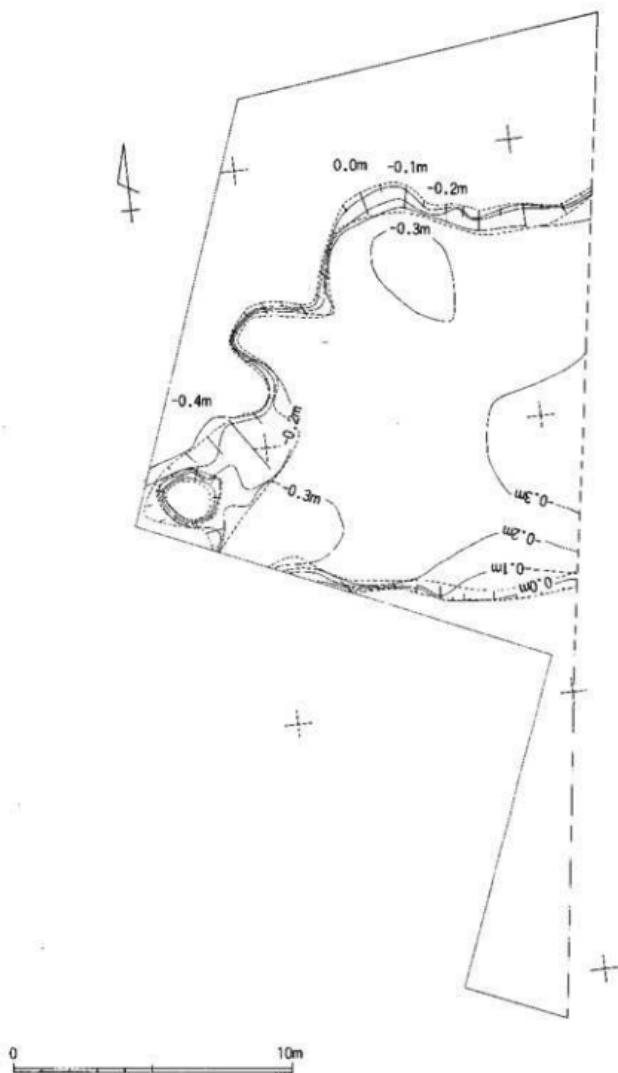
河道2・3の埋没年代は前述したとおりであるが、他の自然流路に関しては各時代の遺物が混在しており、その年代を決めるにくくなっている。

河道4は埋土に土器類が含まれていることにより、古墳時代初頭をさか上ることは考えられない。また、河道4からは須恵器類が出土していないことから、古墳時代前半代に埋没したことが推定される。河道4周辺の小さな自然流路や土壌も河道4と層位的には明確な違いが見られないことから、それに近い時期に埋没したものであろう。

河道1はその上層に河道2の埋土を被っているので、少なくとも8世紀代までには埋没していたはずである。出土遺物も1991年度の河道4とほぼ同様であり、古墳時代の前半期に埋没したもので



第10図 河道4検出状況 (1 : 200)

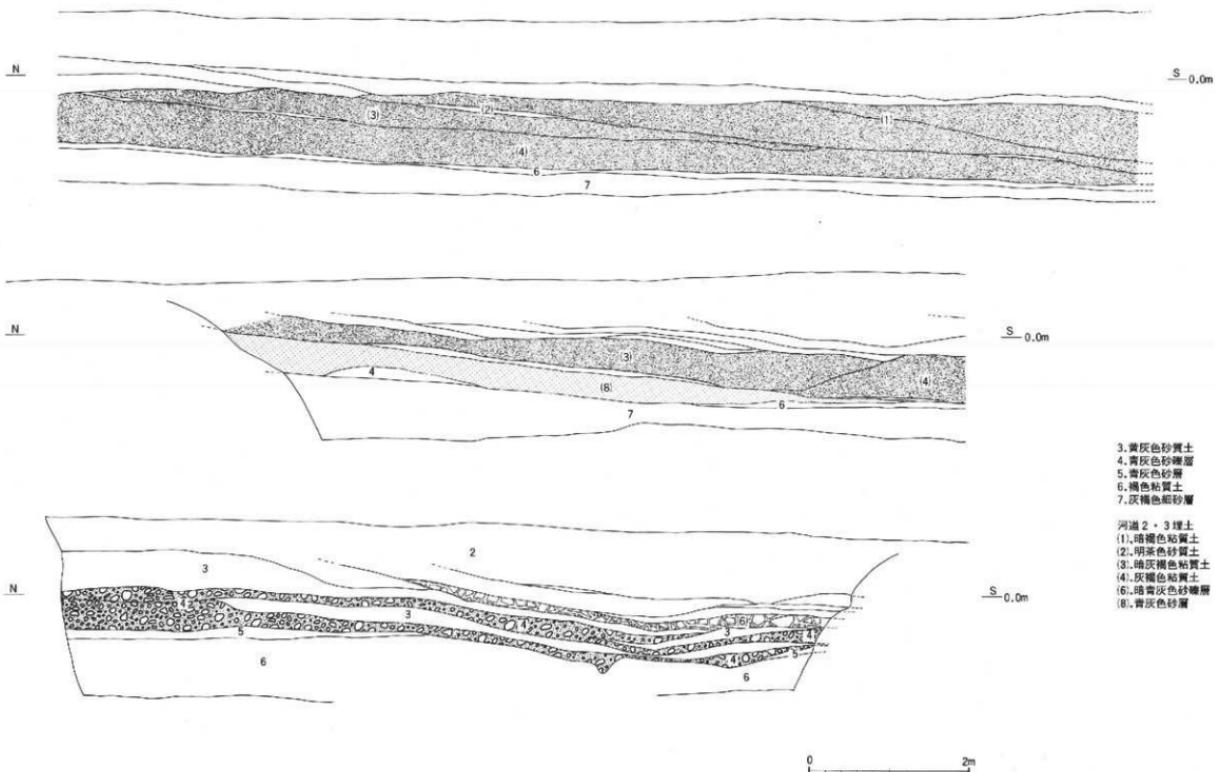


第11図 河道4平面図 (1 : 200)

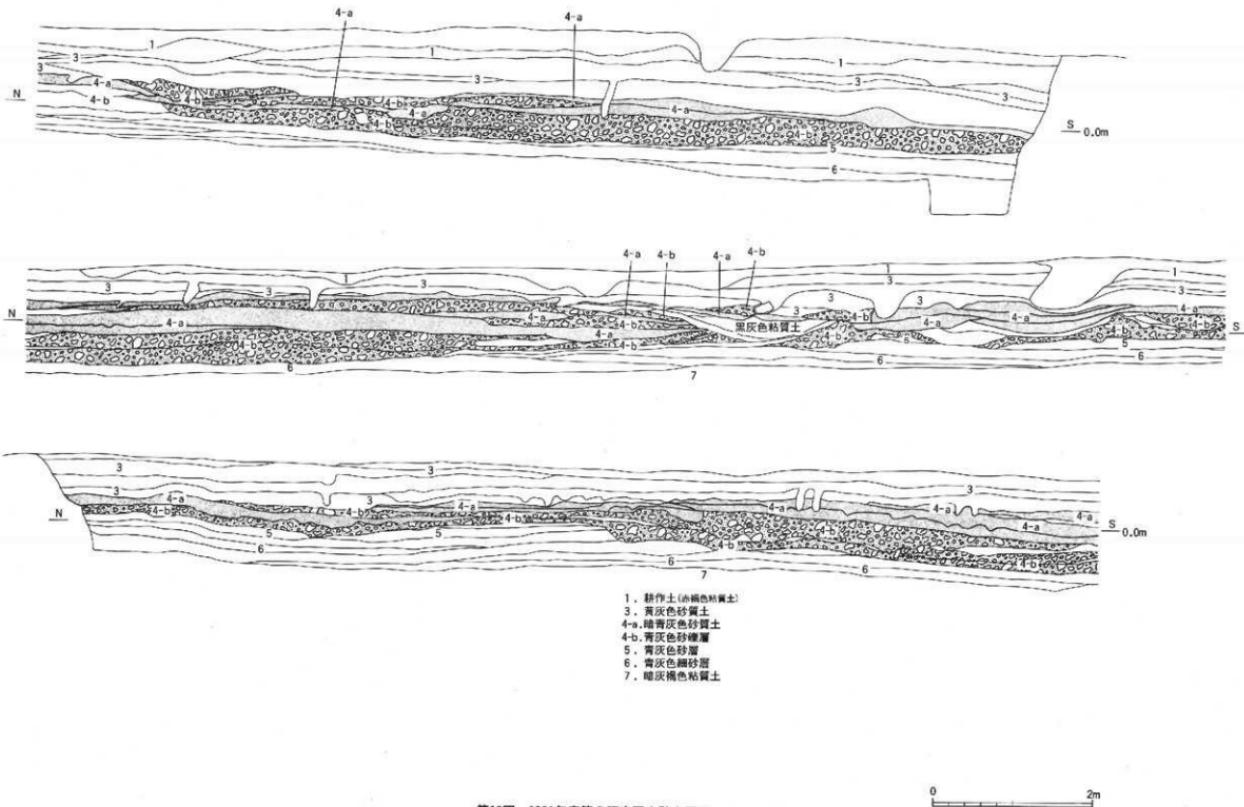
であろうか。

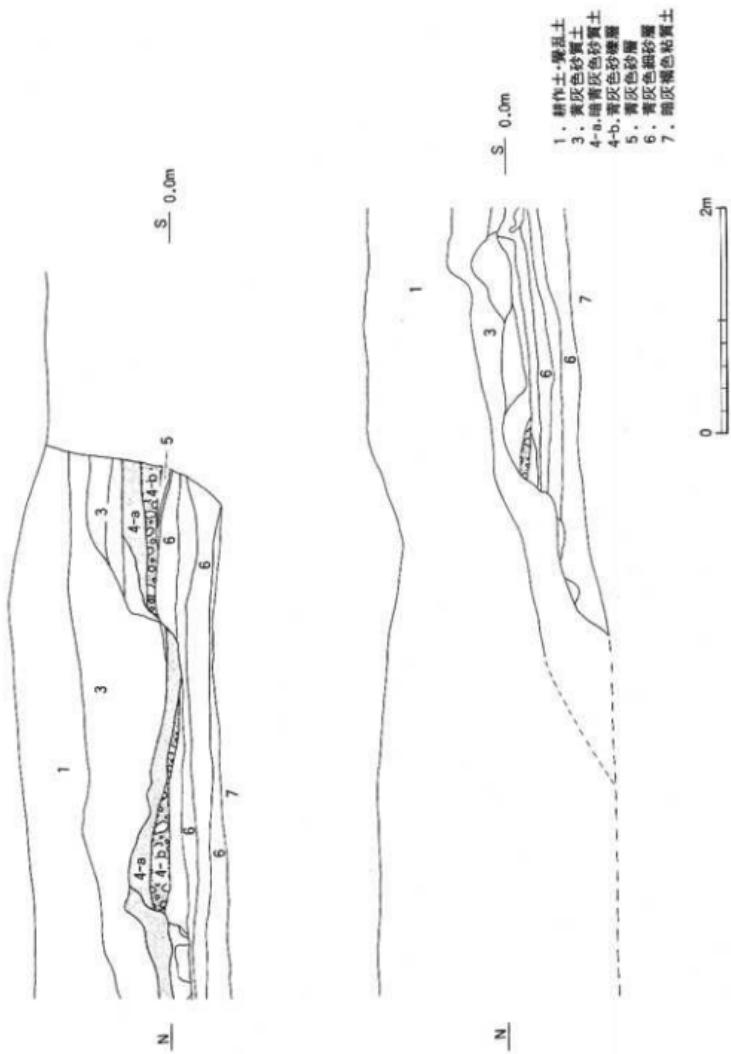
1990年度調査区の河道以外の遺物包含層と1991年度の調査区では、須恵器類はほとんど出土していない。また、いずれの自然流路も遺物包含層を掘り込んでおり、遺物包含層である暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層の堆積時期は少なくとも古墳時代前半期以前であろう。

以上の事より、タテチョウ遺跡の土層は次の順序によって堆積したと考えられる。①青灰色細砂層が堆積している。その上層に弥生時代前期の土器を含む砂層が堆積する。②青灰色細砂層を削りながら青灰色砂礫層が堆積、さらにその上に暗青灰色砂質土が堆積する。③青灰色砂礫層・暗青灰色砂質土を削りながら、河道1・4が流れ、古墳時代前半期に埋没する。④青灰色砂礫層・暗青灰色砂質土を削りながら、河道2が流れ、しがらみ状遺構が設置される。8世紀代になって埋没する。⑤河道2の埋土を削りながら河道3が流れる。河道3は9世紀後半から10世紀初頭に埋没し、現朝酌川に近い状況になる。また、今回の調査では1988年度に検出した空町時代の河道（第1河道）が検出されていない。この河道は1990年度調査区よりも更に東の現朝酌川内に含まれるものと思われる。

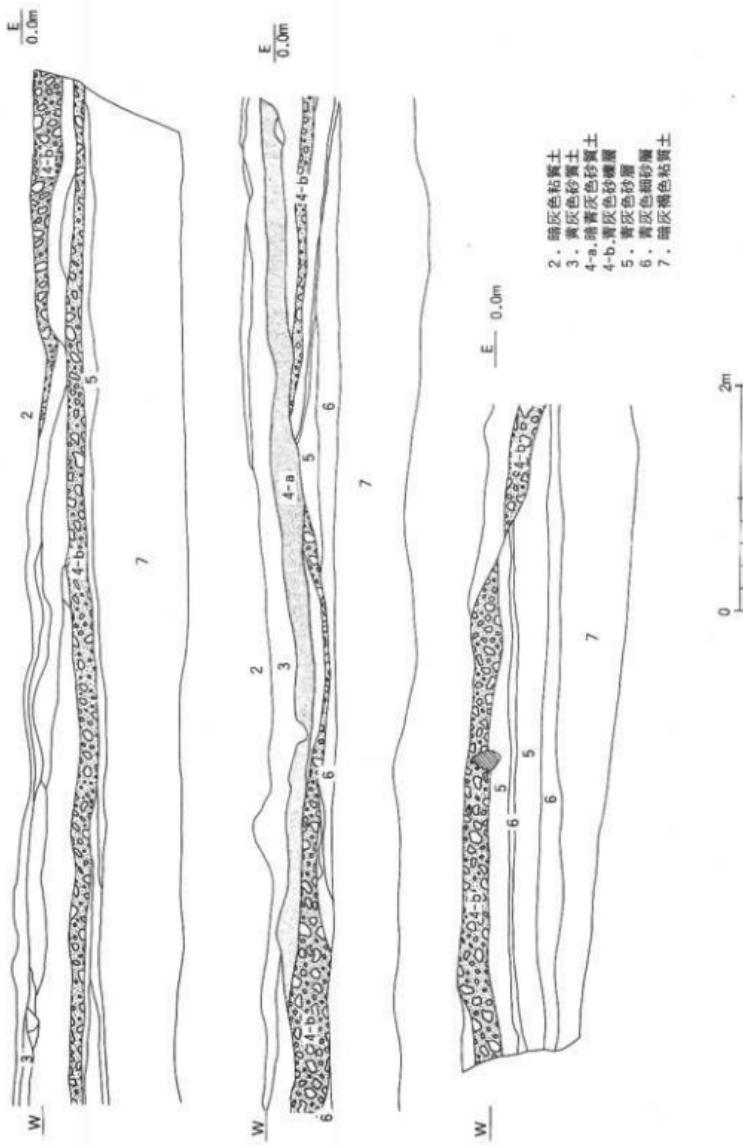


第12図 1990年度調査区東壁土層図 (1 : 50)

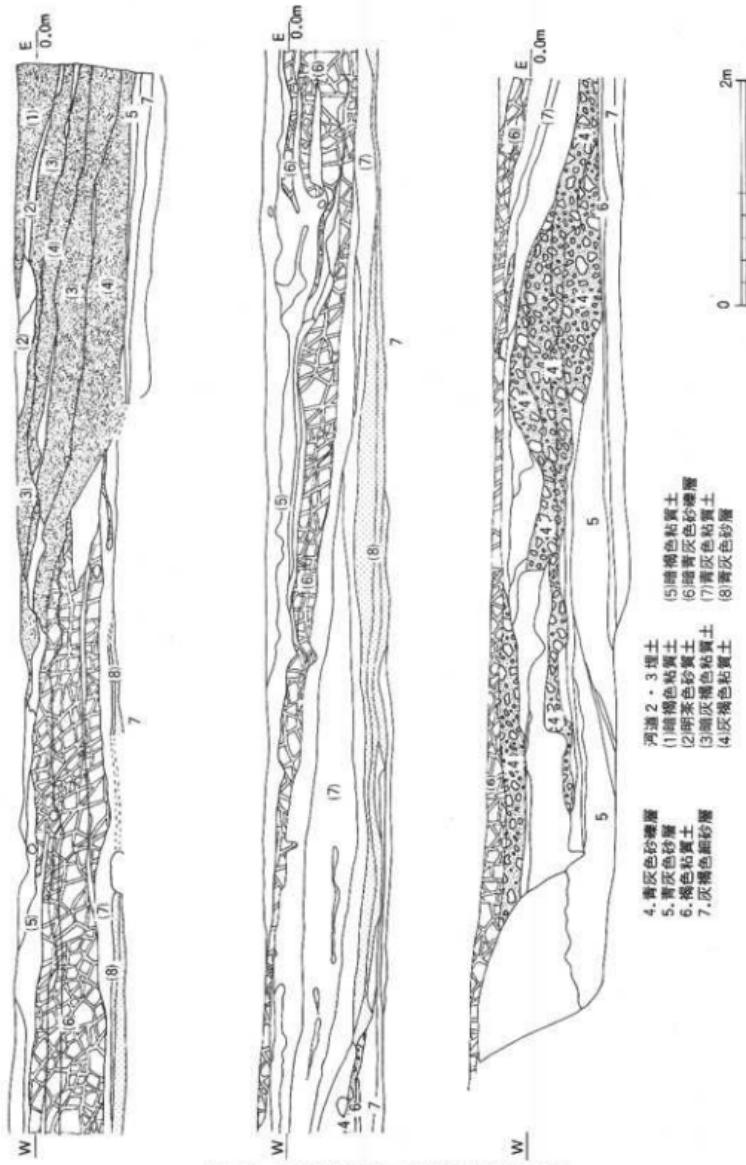




第14図 1991年度第II調査区東壁土層図 (1 : 50)



第15図 1990年度調査区北壁土層図 (1 : 50)



第16図 1990年度調査区土層断面図 (1 : 50)

第Ⅳ章 出土遺物

今回の調査でも、縄文土器、弥生土器、上師器、須恵器、ミニチュア上器等の土器類、土製品、石器、木製品、獸骨等多量の遺物が出上している。ここでは遺物の種類毎にまとめ、若干の説明と検討を行う。

なお、遺構の概要のところで述べられているように、遺物包含層以外に4本の河道が検出されており、本来ならば各遺構毎に遺物を掲載するべきであろう。しかしながら、一部の遺物を除き、遺構間での明確な違いを見い出すことができなかった。そこで、出土位置については、本文中でふれられるものはできるだけふれ、ふれられなかったものについては、観察表の備考欄に記載することとした。

1. 縄文土器

縄文土器は河道3を除く調査区の上層から下層までまんべんなく出土している。総点数は約350点を数えるが、その大半は摩滅した小片で、実測可能なものは少なかった。実測点数は170点、内図示したものは139点である。その内訳は早期末から前期初頭と考えられるもの35点、前期と考えられるもの10点、中期と考えられるもの5点、後期と考えられるもの15点、晚期と考えられるもの74点である。

(1) 早期末から前期初頭の土器 (第17、18図 J-1~35)

早期末から前期初頭としたものはいずれも小破片であった。

胎土に織維を含むもの (J-1・9・11・12・14) と胎土に織維を含まないもの (J-10・13・15~35) がある。胎土に織維を含むもののうち、J-1~8は織維を多量に含んでいるが、それ以外のものは若干認められるという程度である。器面調整は内外面とも条痕、若しくは片面のみ条痕のものがほとんどであり、縄文地の織維土器である。いわゆる「菱模式土器」は見られなかった。

胎土に織維を含まないものには、無文のものと文様を施すものがある。

無文のものには条痕地のものとナデ仕上げのものがある。無文条痕地の土器には平口縁のもの (J-10・13・16)、波状口縁のもの (J-17)、外面に肥厚帯を貼り付けたもの (J-21~23) がある。また、無文ナデ仕上げの土器には平口縁をもつもの (J-15)、口縁外面に肥厚帯を貼り付けた波状のもの (J-26) がある。

文様の施された土器については、その文様によって条痕文土器、刺突文土器、押し引き文土器、

沈線文土器、隆帯文土器に分類した。

刺突文上器としたものには、半截竹管によるもの（J-18・27・32・33）、貝によるもの（J-31）、棒状工具によるもの（J-19）、ヘラによるもの（J-30）の他、工具の判らないもの（J-20、28）が見られ、その施文位置や文様構成はさまざまである。器面調整は条痕地のものとナデのもの、両者を施したものがある。

押し引き文土器としたものはJ-34・35である。J-34は内湾する胴部に斜めと水平方向の施文を行うものである。J-35は波状口縁を持つもので、隆帯の上下に山形に施文されている。

J-25は沈線文土器である。口縁外面に肥厚帯を貼り付け、その直下に斜めの平行沈線を引く。外面は条痕地、内面は凹凸の著しいナデで調整される。

J-29は隆帯文土器である。条痕地の胴部片で、刻み目を持つ横方向の低い隆帯が走る。摩滅のためはっきりしないが、隆帯は縦方向にもある可能性がある。

以上までに、早期末から前期初頭の土器と考えられるものについて述べたが、これらの土器と同様のものは、朝鶴川の上流にあたる西川津遺跡^{註1}で多量に出土している。

（2）前期の土器（第18図 J-36～47）

J-36～49はD字刺突文、J-40・41は押し引き状のD字刺突文、J-43・44はC字刺突文を施すものである。これらの刺突文土器は羽島下層Ⅲ式に併行すると思われる。

J-42は半截竹管による2連1単位の押し引き文を施すもので、波状口縁をなす。

J-45はヘラで区画線を引き、その中にC字の連続刺突文を直線及び曲線状に施文するものである。内面はナデ調整を行う。J-46は胴くびれ部以下に繩文を施すものである。J-45・46は磯の森式併行のものと考えられる。

J-47は平口縁の深鉢で、口唇は平らに作り、内面は二枚貝条痕の後ナデで平滑にしている。外面は摩滅のため調整不明である。

（3）中期の土器（第19図 J-48～52）

J-48はやや厚手の平口縁深鉢形土器である。地文に繩文を施し、外面に突帯文を貼り付ける。突帯文上には貝殻腹縁による刺突文を持つ。

J-49は口縁部の小片で、内湾するキャリバー形のものと考えられる。外面には沈線と円形刺突文によって作り出された波状文が見られる。

J-50・51は体部の小片である。外面に繩文、内面にナデを施している。

J-52は外面に素隆帯を貼り付け、円形刺突文で飾るキャリバー形波状口縁の土器である。端部内

面はやや厚く作られ、繩文が施される。船元里木様式併行かと思われる。

(4) 後期の土器 (第19図 J-53~68)

J-54~56は中津式併行と考えられるもので、いずれも太い沈線文と磨消繩文を持つ。

J-53はJ-54~56より細目の沈線文を持つものであるが、著しく摩滅しており詳細は不明である。

J-57は外面に沈線文を施し、口縁端部内面を肥厚させたものである。福田KⅡ式併行と考えられる。

J-58・59は縁帶文土器である。J-58には藤手状の沈線文が見られる。J-59は肥大した縁帶部分で、円形の刺突、沈線、刻み目を持つ。

J-60~64の土器は、元住吉山式併行と考えられるものである。J-60は細目の弧状沈線と磨消繩文が施される薄手のものである。口縁端部は内湾する。

J-61は口縁部断面が逆「く」の字状を呈し、波状口縁をもつものである。肥厚した口縁端部外面には沈線を引き、その下部に刻み目を加えている。

J-62は凹線文が施され、屈曲部外面に浅い刻み目を持つものである。

J-63は逆「く」の字状の平縁を持つ浅鉢と考えられる。外面には細い沈線と円弧状の貼りつけ隆帯を持つ。J-64も同様のものか。

J-65~68は逆「く」の字状口縁をもつ土器で、外面に凹線文が施される。宮滝式併行のものと考えられる。

(5) 晩期の土器 (第19~23図 J-69~139)

J-69~82は晩期前半の深鉢、又は鉢と考えられるものである。

J-69は頸部がくびれ胴部に稜を持つもので、北九州市貫川遺跡出土のものに類品が見られる。^{註2}

J-70は口縁部がゆるやかに外反し胴部のやや張る深鉢である。外面は部分的に削った後ナデが施される。

J-71~77は口縁部が外反し、若干胴部の張る深鉢である。これらの土器には口縁内面、頸部外面に円形の刺突文が施されている。J-81はJ-71~77より口縁部が短く、胴部の張るものである。

J-78~80は鉢形上器である。J-71~77・81と同様に口縁内面に竹管状工具による円形刺突文を施している。

J-83は口頸部が内傾し、胴部との境に稜線を持つものである。

浅鉢と考えられるものにはJ-84~98がある。

J-84は口頸部を「く」の字状に屈曲させ、張り出した胴部に稜線を持つものである。波状口縁の

波頭部はリボン突起状を呈する。晩期前半のものであろう。

J-86～88は長頸の浅鉢である。J-86は長く外反する頸部に直立する短い口縁部をもつ。内外面ともヘラミガキが施される。J-87は口頸部が長く外反し、端部内面に沈線をもつものである。外面はヘラミガキ、内面はナデで調整される。J-88は口頸部が長く外反して、そのまま端部に至るものである。

J-89・90はポール状をなす浅鉢で、内外面ともヘラミガキを施している。

J-91は口縁部が短く外反し波状を呈するもの、J-92は口頸部が屈曲し胸部を張り出させ、口唇内面を肥厚させ段をなす波状口縁のものである。

J-93は口縁部内面に段をもつもの、J-94は碗形の体部に内傾する口縁のつくもの、J-95は口縁部が直立気味に外反し、口唇内面に不明瞭な沈線をもつものである。

J-96～98は浅鉢の底部になると思われる。

J-85は口縁部が直立気味に外反し、胸部の張り出す鉢形のものである。^{註3}

J-99～139はすべて突帯文系の土器である。

J-99は刻み目突帯を貼り付け、頸胸部界に段をもつ鉢形の土器である。滋賀里IV式併行であろうか。

J-100～112は突帯の他に、口唇にも刻み目をもつもので、突帯貼り付け位置はやや下がったところにある。

J-113～131は突帯上にのみ刻み目をもつもので、突帯貼り付け位置がやや下がった所にあるもの（J-113～121他）と、口唇部に接してあるもの（J-128～131他）とがある。

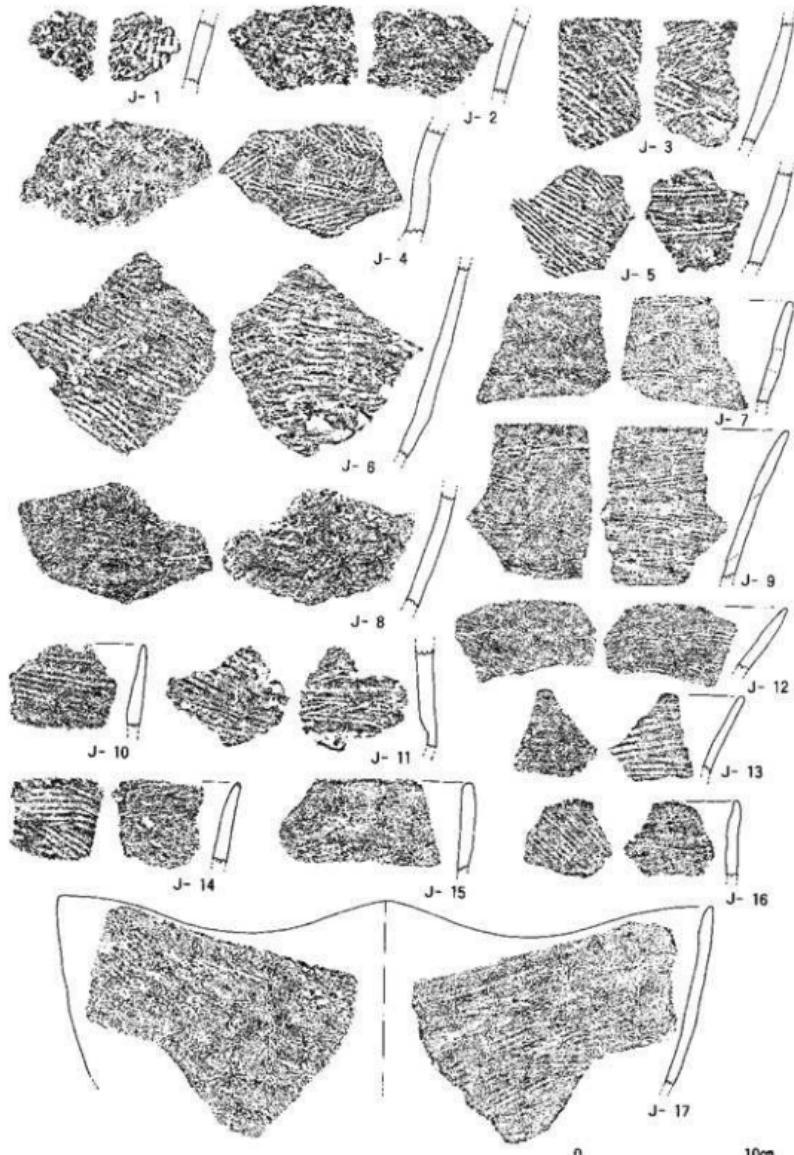
J-132～138は刻み目を施さない突帯をもつものである。突帯貼り付け位置は口唇部からやや下がった位置につくもの（J-132・133・135・138）と、口唇部に接するもの（J-134・136・137）の両者がある。

J-139は短く外反する口縁外面に刻み目突帯を貼り付ける土器である。外面には条痕とハケ目の両者が見られ、内面はハケ目のちナデ調整を施し指頂圧痕が著しい。砂粒をかなり含むが器面は滑らかで焼皮は良く、外傾接合を行う。突帯を備えるものの、一見して他の突帯文土器とは異なった印象を受ける。纏文土器として扱ったが、亦生土器の範疇に入る可能性もある。

註1 『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ（御崎地区1）』 島根県教育委員会 1987年

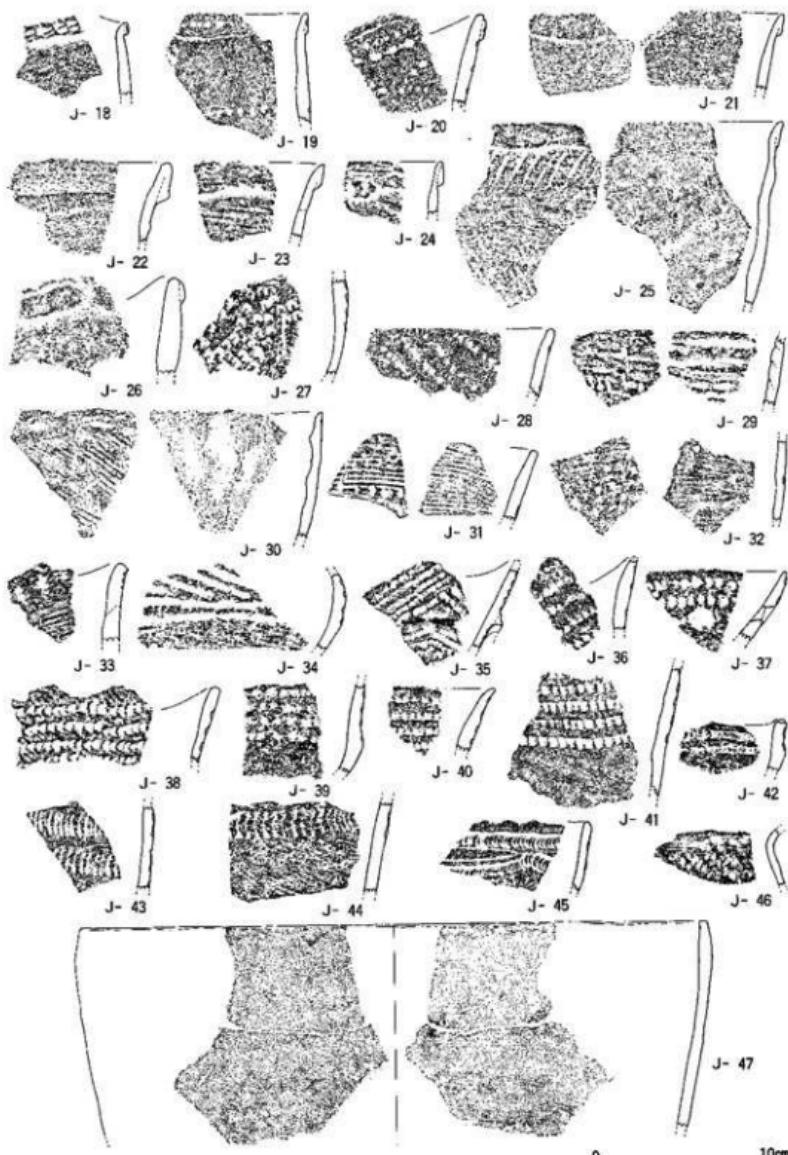
註2 『北九州市埋蔵文化財報告書 第85集 貢川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2 貢川遺跡Ⅱ』 （財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1989年

註3 泉拓良氏より「大阪市長原遺跡出土の突帯文土器と共伴する壺形土器に似る」との御教示を得た。

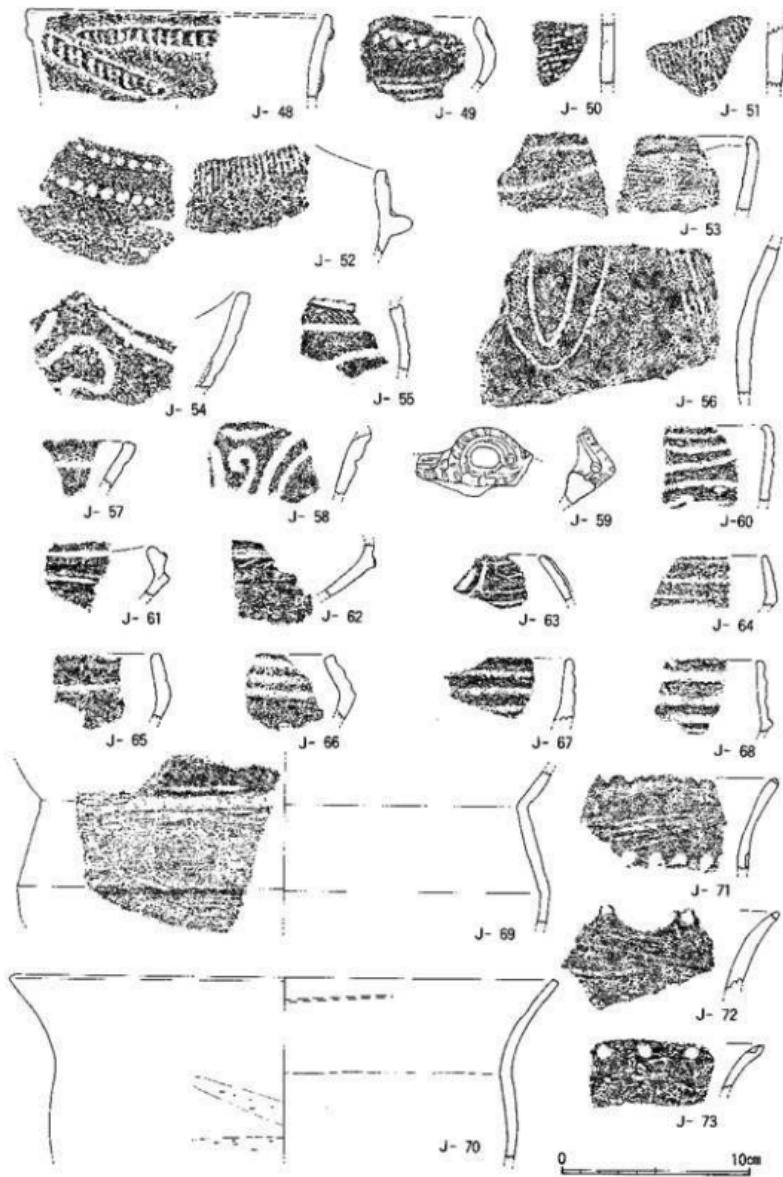


第17図 縄文土器実測図(1) (1 : 3)

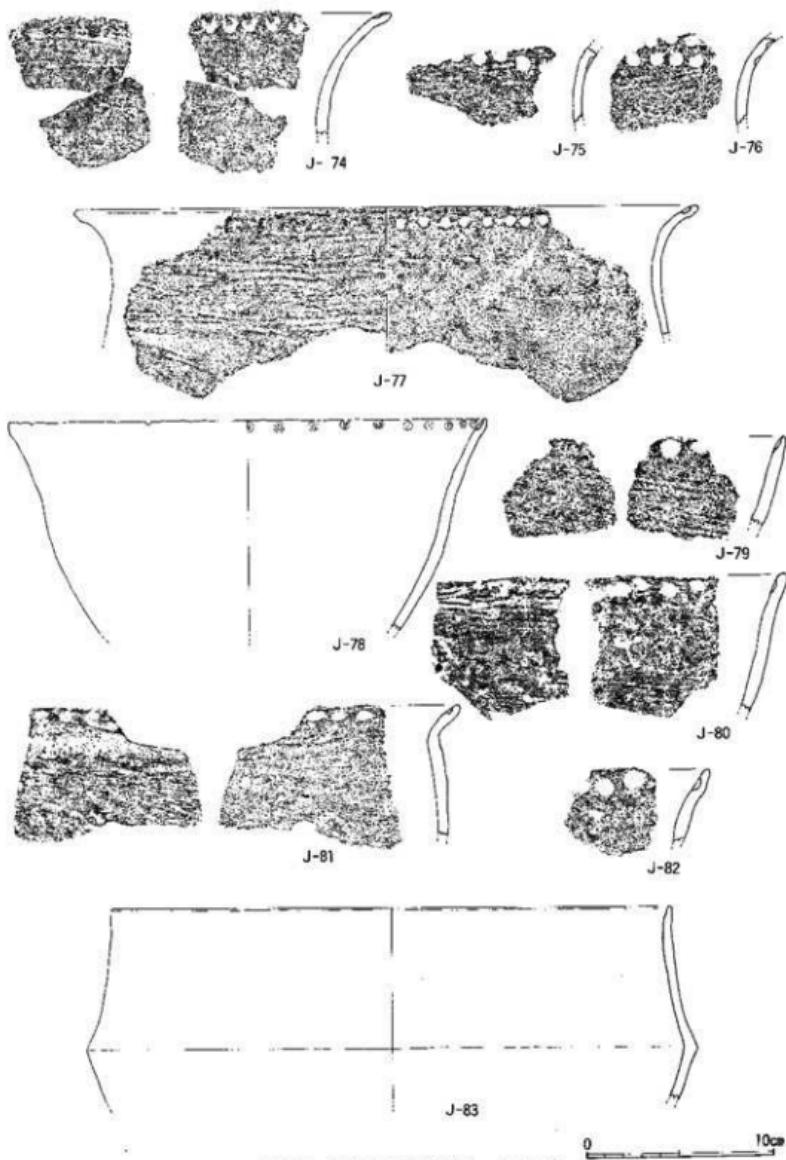
0 10cm



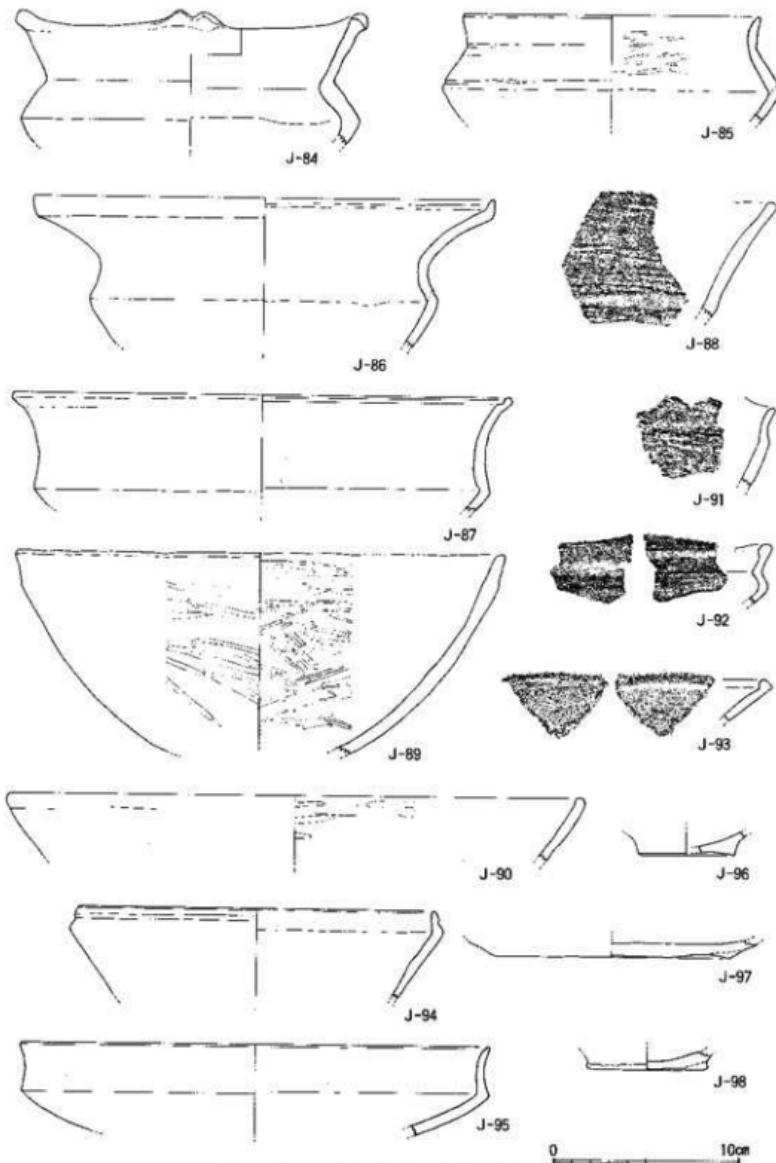
第18図 桶文土器実測図(2) (1 : 3)



第19図 縄文土器実測図(3) (1 : 3)



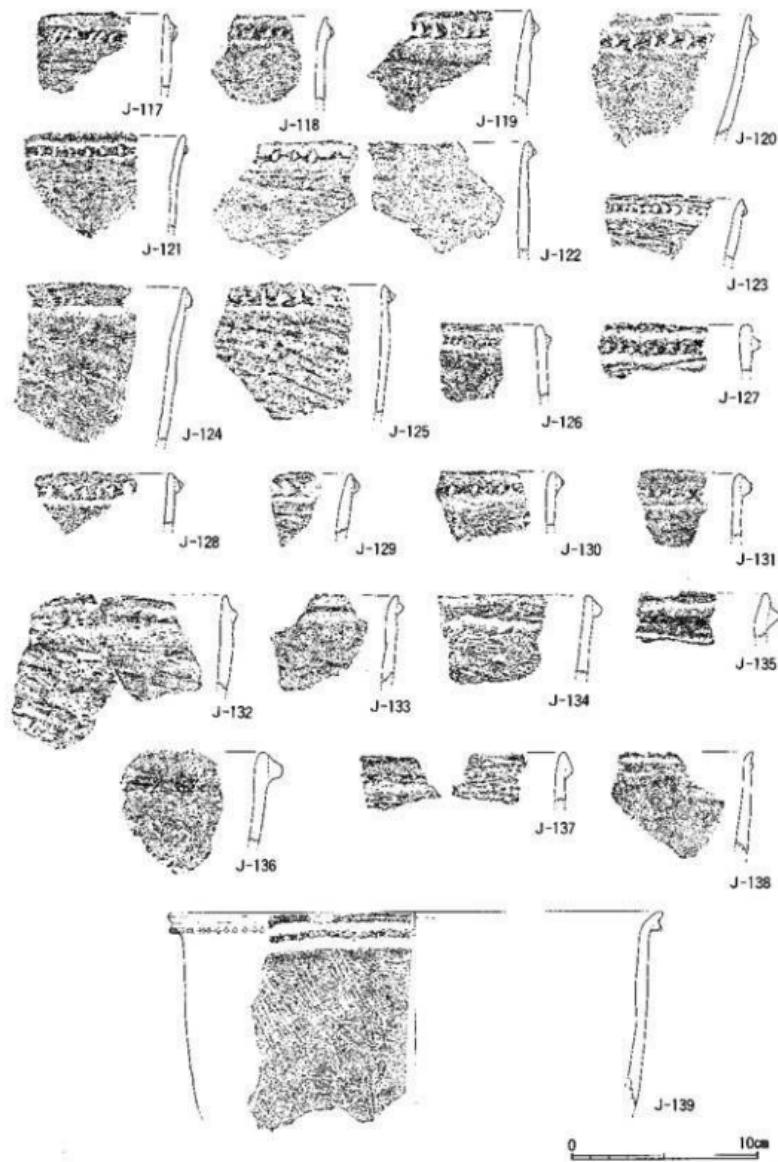
第20図 繩文土器実測図(4) (1 : 3)



第21図 桶文土器実測図(5) (1 : 3)



第22図 縄文土器実測図(6) (1 : 3)



第23図 縄文土器実測図(7) (1 : 3)

縄文土器観察表

番号	種類	出土地点	層位	径量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
第17回 J-1	灰陶	II	NIE2	暗灰色 砂質土 (漆脱入)		外面:ナデ 内面:朱痕	胎土:繊維を多量に含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
第17回 J-2	灰陶	II	トレンチ内	暗灰色 砂層		調整不明	胎土:1~2mmの大砂粒、繊維を含む 焼成:良好 色調:外:灰褐色、内:褐色	
第17回 J-3	灰陶	II	NIE2	暗灰色 砂礫層		内外面:二枚貝条痕	胎土:2mmの大砂粒、繊維を含む 焼成:良好 色調:外:灰褐色、内:黒褐色	
第17回 J-4	灰陶	II	トレンチ内	暗灰色 砂層		外面:ナデ 内面:二枚貝条痕、指痕による絞糸の凹凸顕著	胎土:1~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:頭部灰褐色~黒褐色	
第17回 J-5	灰陶	II				外面:二枚貝条痕、炭化物付着 内面:二枚貝条痕	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外:灰褐色、内:褐色	外面にスヌ付若
深鉢	第17回 J-6	II	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層		内外面:二枚貝条痕	胎土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17回 J-7	II	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	平口縁	外面:ナデ 内面:横方向の細かい 条痕	胎土:1~2mmの大砂粒(白色) を含む、繊維を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17回 J-8	II	S3E0	暗青灰色 砂礫層		内面:磨滅している がナデか?	胎土:1mm未満の砂粒を若干含む、 繊維を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色~暗褐色	河岸4
深鉢	第17回 J-9	II	NIE1	暗灰色 砂層	平口縁	外面:二枚貝条痕、ナ デ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む、 繊維を含む 焼成:良好 色調:外:灰褐色、内:黒褐色	
深鉢	第17回 J-10	II	NIE1	赤褐色~ 青灰色 砂礫層	平口縁	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ、指痕	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河岸2
深鉢	第17回 J-11	II	I区 トレンチ内 土割			内外面:二枚貝条痕	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む、 繊維を含む 焼成:良好 色調:暗褐色~黒褐色	
深鉢	第17回 J-12	II	NIE1	赤褐色~ 青灰色 砂礫層	平口縁	外面:ナデ 内面:二枚貝条痕、ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む、 繊維を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河岸2
深鉢	第17回 J-13	II	NIE2	暗灰色 砂礫層	平口縁	外面:条痕の上からナ デする、内面:二枚貝条痕	胎土:1mm以下の砂粒をかなり 含む 焼成:良好 色調:暗褐色~黒褐色	内に炭化物付着
深鉢	第17回 J-14	II	NIE2	青灰色 砂礫層	平口縁 口唇に削り	外面:二枚貝条痕 内面:強いナデ又は二 枚貝のケメリ状	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河岸2
深鉢	第17回 J-15	II	I区 トレンチ内		平口縁	内外面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17回 J-16	II	S3E0		平口縁	外面:朱痕 内面:朱痕	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第17回 J-17	II	SIE0	灰褐色 砂礫層	口径 35.0 波状口縁	波状口縁 外面:朱痕、ナデ 内面:二枚貝条痕	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-18	II	I区 S6W1	青灰色 砂礫層		波状口縁外面に肥厚帯 肥厚帯上と肩部に丸い 棒による剥突文	胎土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-19	II				山根部外面に肥厚帯 肥厚帯上と肩部に丸い 棒による剥突文	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外:褐色、内:灰褐色	外面に炭化物付 着
深鉢	第18回 J-20	II	NIE2	褐色 砂質土		波状口縁、腹部外面に 斜付け肥厚帯 剥突文	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:茶褐色	

器種	器 名 号	國 家 名 字	出上地點	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・施成・色調	備 考
深鉢	第18回 J-21	11	I区 トレンチ内			口縁端部外面に貼付記 厚帯	外面:ナデ 内面:条痕,ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色~灰褐色	
深鉢	第18回 J-22	11	NIE1	褐色 砂礫層		口縁部外面に貼付記厚 帯	外面:条痕	胎土:2mm未満の砂粒を含む 施成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第18回 J-23	11	S3E0	暗青灰色 砂礫層		口縁端部外面に貼付記 厚帯	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色	河道4
深鉢	第18回 J-24	11	S3W1	青灰色 砂礫層		口縁外面に貼付記厚帯, 粘土粒が付着	外面:ヨコ条痕,ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm未満の白色粒を多く 含む 施成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第18回 J-25	11	S1E0	灰褐色 砂礫層		口縁外面に貼付記厚帯 斜めの弦紋	外面:条痕 内面:ナデ,垂張压痕, 凹凸者	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第18回 J-26	11				波状口縁,端部外面に 貼付記厚帯	調整不明	胎土:5mmの大粒砂粒を含む 施成:良好 色調:黄褐色	
深鉢	第18回 J-27	11	NDE2	暗灰色 砂礫層		半金竹管による押引状 の刺突文	内面:ナデ	胎土:1~2mmの大粒砂粒を多く 含む 施成:良好 色調:灰褐色,内 黑褐色	河道1
深鉢	第18回 J-28	11	NDE2	褐色 砂礫層		刺突文(D字爪形文に 近いか)	内面:ナデ,捺江痕	胎土:1~2mmの大粒砂粒を若干 含む 施成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-29	11	S1E0	暗青灰色 砂礫層 ~砂層		外縁にかすかな垂 帶等上にやや斜めに刻 目	外面:条痕 内面:条痕	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色~灰褐色	河道4
深鉢	第18回 J-30	11	NZ22	暗灰色 砂礫層		刺突文(へら状のもの による)	外面:ナデ,二枚貝条痕 (斜め) 内面:ナデ,条痕,凹凸 者	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色~灰褐色	
深鉢	第18回 J-31	11	NZ22	暗灰色 砂礫層		二枚貝による刺突文	外面:二枚貝条痕 内面:二枚貝条痕	胎土:微少な砂粒をかなり含む 施成:良好 色調:灰褐色(スヌード), 内 黑褐色	
深鉢	第18回 J-32	11	S3F0	暗青灰色 砂礫層		半金竹管による刺突文	内面:二枚貝条痕	胎土:小砂粒を含む 施成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
深鉢	第18回 J-33	11	N3E1	赤褐色~ 青灰色 砂礫層		波状口縁,端部外面に 貼付記厚帯 刺突文(具?)	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色	河道2
深鉢	第18回 J-34	11	NZ23	暗灰色 砂礫層		押引状の刺突文	外面:ナデ 内面:?	胎土:1~2mmの大粒砂粒を多量 に含む 施成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第18回 J-35	11	I区 S7W1	青灰色 砂礫層		波状口縁,外面に垂帶 押引状の刺突文	内面:条痕,ナデ	胎土:小砂粒を多く含む。大砂 粒を少く含む 施成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第18回 J-36	12	S3W1	暗青灰色 砂礫層		波状口縁,半金竹管によるD字爪 形文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 施成:良好 色調:暗褐色	河道4
深鉢	第18回 J-37	12	NZ31	褐色 砂礫層		直径1.1cmの円孔を有 する半金竹管によるD字爪 形文	内面:二枚貝条痕,ナデ	胎土:1~2mmの大粒砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	
深鉢	第18回 J-38	12	NZ22	褐色 砂礫層		波状口縁,口縁は平坦 D字爪形文	外面:条痕の上から丁 寧なナデ 内面:丁寧なナデ,凹凸 者	胎土:1~3mm未満の砂粒を少 し含む 施成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-39	12	NZE1 ~NZE1	青灰色 砂礫層		D字爪形文	内面:ナデ	胎土:普通,1mm未満の砂粒を含む 施成:良好 色調:暗褐色	河道2
深鉢	第18回 J-40	12	NZE1	褐色 砂礫層		押引状のD字爪形文	外面:丁寧なナデ 内面:ナデ	胎土:小砂粒を含む 施成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-41	12	トレンチ内	青灰色 砂礫層		押引状のD字爪形文	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:2~3mmの大粒砂粒を多く 含む 施成:良好 色調:暗褐色	

器種	辨 番	固 定 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
深鉢	第18回 J-42	12	NSE1	褐色 砂礫層		波状口縁か? 2連1単位の押引状の刺 突文(竹管)	内面:ナデ	胎土:2~5mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色~黒褐色	
深鉢	第18回 J-43	12	NSE2	暗灰色 砂礫層		C字爪形文	内外面:丁寧なナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:外:暗褐色、内:淡褐色 胎土:1mm未満の白色砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-44	12	NSE2	淡灰色 砂礫層		C字爪形文	外面:朱痕後ナデ 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-45	12	I区 NSE1	灰褐色 砂礫層		ヘラで区画線を引き子 の中に字通模様文を施す	内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第18回 J-46	12	S2E0	暗青灰色 砂礫層		くびれ部の破片 縞文	外面:縞文、ナデ 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:金色の雲母を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河通4
深鉢	第18回 J-47	12	I区 西側 排水路	青灰色 砂礫層	口径 33.7	平口縁	外面:ナデか? 内面:横方向の二枚貝 朱痕後ナデ、平滑	胎土:2mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第19回 J-48	12	NIE?	褐色 砂質土	口径 16.0	平口縁、貼付陸橋上に 只観腹線による刻文を 施す	縞文地	胎土:密 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-49	12	NSE1	青灰色 砂礫層		キャリバー形口縁部、 外面に円形の刺突文を 2段に施す	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1mm前後の白色粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
深鉢	第19回 J-50	12	NP2	褐色 砂礫層			外面:縞文 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-51	12					外面:朱痕か擦糸? 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-52	12	SSW1	造青灰色 砂礫層		波状口縁。外面に突帯 がつく 円形刺突文	外面:朱痕か? 内面:縞文か?	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河通4
深鉢	第19回 J-53	12	I区 トレンチ内	耕土		沈縞文	外面:磨滅して不明 内面:二枚貝条痕	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-54	12	I区 トレンチ内			波状口縁 太い沈縞文、磨痕縞文	内面:ナデか?	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
深鉢	第19回 J-55	12	NSE1	褐色 砂礫層		太い沈縞文、磨痕縞文	内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-56	12	NIE0	青灰色 砂質土		J字文? 磨痕縞文	内面:ナデ	胎土:1~4mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河通2
深鉢	第19回 J-57	12	SEW1	青灰色 砂礫層		口縁部内面は肥厚 沈縞文	ナデ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深鉢	第19回 J-58	12	NED	青灰色 砂礫層		沈縞文		胎土:1mm前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
深鉢	第19回 J-59	12	SEW1	青灰色 砂礫層		轟帯文		胎土:少砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	
深鉢	第19回 J-60	12	NIE1	褐色 砂礫層		沈縞文、磨痕縞文	内面:ナデ	胎土:少砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
深鉢	第19回 J-61	12	NIE2	暗灰色 砂質土		波状口縁		胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
深鉢	第19回 J-62	12	NSE2	暗灰色 砂礫層			内外面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	

器種	番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第19回 J-63	12	トレンチ内	暗灰色 砂質土	円弧状の隆起、沈線文		胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	
深鉢	第19回 J-64	12	II区	青灰色 砂礫層	沈線文	磨滅して不明	胎土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第19回 J-65	12	SSE1	暗青灰色 砂礫層	凹穂文	ナデか?	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道4
深鉢	第19回 J-66	12	N4E1	暗青灰色 砂礫層	口縁部は外傾し、外面に凹穂文3条	内面: ナデか?	胎土: 1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道2
深鉢	第19回 J-67	12	N4E2	青灰色 砂礫層	口縁部は直立し、外面に凹穂文3条	磨滅して不明	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道2
深鉢	第19回 J-68	12	II区 S6W1	青灰色 砂礫層	口縁部は直立し、外面に凹穂文3条	内面: ナデ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第19回 J-69	12	N2E1	暗青灰色 砂礫層	頸部は「く」の字状に屈曲し、腹部には縦をもつ。外面に炭化物付着	外面: 二枚貝条痕 内面: ナデ	胎土: 1mm大の砂粒を含む(全 断面) 焼成: 良好 色調: 外 黑褐色、内 淡褐色	河道2
深鉢	第19回 J-70	12	N3E1	赤褐色~ 青灰色 砂礫層	口縁部外反、腹部はあまり張らない。	外面: 略分的にケズリあり、一部ナデ、下半、二枚貝条痕ナデ	胎土: 1mm未満の瓦石、石灰粒 多く含む 焼成: 良好 色調: 茶褐色	河道2、外面: 炭化物付着
深鉢	第19回 J-71	12	耕土中		口縁部外反 口唇に短目、竹管状工具による内唇の刺突文	外面: ナデ、ナデ 内面: ナデ?	胎土: 小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 外 茶灰色、内 淡褐色	
深鉢	第19回 J-72	12	N1E2	暗青灰色 砂質土	II種外反 二角状の刺突文	外面: ナデ 内面: 二枚貝条痕、ナデ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第19回 J-73	12	N2E3	褐色 砂礫層	竹管状の刺突文	外面: ナデ 内面: ナデ、ケズリ?	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 茶褐色	
深鉢	第20回 J-74	13	N2E2	暗灰色 砂礫層	口縁部外反 竹管状の刺突文	外面: 二枚貝条痕 内面: ナデ	胎土: 1~3mm大の砂粒をかなり含む 焼成: 良好 色調: 外 淡褐色、内 淡黄褐色	
深鉢	第20回 J-75	13	N2E3	赤褐色 砂質土	竹管状の刺突文	内面: ナデ	胎土: 1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
鉢?	第20回 J-76	13	II区 S6W1	青灰色 砂礫層	円形刺突文	外面: 下半、一枚貝ナデ 内面: ナデ、下半、ケズリ後ナデ	胎土: 1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第20回 J-77	13	N1E2	淡灰色 砂層(下層)	口縁部強く外反 口縁内面に竹管状工具による刺突文	外面: 一枚貝条痕 内面: 上半 ナデ、下半 ナデ	胎土: 1mm前後の長石、右英粒 多く含む 焼成: 良好 色調: 淡白色~灰色	
鉢	第20回 J-78	13	N1E1	褐色 砂質土	II径 25.6 口縁内面に円形刺突文	外面: 一部条痕? 内面: すこかに条痕を残す。粗面状	胎土: 1~3mm人の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
鉢	第20回 J-79	13	耕土中		口縁内面に円形刺突文	外面: ナデ 内面: 下半 一枚貝条痕	胎土: 1mm人の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第20回 J-80	13	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口縁内面に巻貝尾部による円形刺突文	外面: 条痕、ナデ 内面: 上半 ナデ、下半 ナデ	胎土: 1~2mm人の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道4
深鉢	第20回 J-81	13	N2E2	暗灰色 砂礫層	口縁部は強く外反し、 腹部がやや膨らむ 口縁内面に竹管状工具による円形刺突文	外面: 二枚貝条痕後ナデ 内面: ナデ	胎土: 2mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
深鉢	第20回 J-82	13	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口縁部外反 竹管状工具による円形刺突文	外面: ナデ? 内面: ナデ?	胎土: 1~2mmの瓦石及び灰岩 多く含む 焼成: 良好 色調: 茶褐色	河道4
深鉢	第20回 J-83	13	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 30.0 II縁は内傾気味	外面: ナデ 内面: ナデ	胎土: 1~2mmの瓦石及び灰岩 多く含む 焼成: 良好 色調: 茶褐色	

番号	井戸番号	採取番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
深鉢	第21回 J-84	13	NIE2	褐色 砂質土		波状口縁	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～黒褐色、内 部褐色	
鉢 or 壺	第21回 J-85	13	トレンチ内	灰色 砂層	口径 15.8		外唐:ナデ? 内面:ミガキ	胎土:細かい白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色～灰褐色	
浅鉢	第21回 J-86	13	NIE2	暗灰色 砂質層	口径 24.6	長瓶で口縁端部は直立 する	口縁端部はナデ、頭部 以下へラミガキ 内面:ミガキ	胎土:1mm前後の長石、石英粒 及び金雲母を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
浅鉢	第21回 J-87	13	NIE2	暗青灰色 砂質土	口径 26.6	長瓶で口縁内面に沈積	外面:上半 ミガキ、下 半 ナデ 内面:ナデ?	胎土:1mm未満の長石、石英粒 を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
浅鉢	第21回 J-88	13	NIE2	淡灰色 砂質土	口径 26.6	長瓶で口縁端部はやや 平坦につくる	外面:二枚貝条痕、ナデ 内面:ナデ、ミガキ?	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～淡灰褐色	河道2
浅鉢	第21回 J-89	13	NIE2	暗青灰色 砂層	口径 26.2	口縁部は内側しつつ大 きく開く	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:1～4mm大的砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗灰色	河道2
浅鉢	第21回 J-90	13	NIE2	暗灰色 砂質層	口径 30.8	口縁部は内側しつつ大 きく開く	外面:ナデ 内面:ミガキ	胎土:1～3mm大的砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
浅鉢	第21回 J-91	13	NIE2	暗青灰色 砂質土		波状口縁か?	外面:二枚貝条痕、ナデ 内面:ナデ、ミガキ	胎土:2mm大的砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
浅鉢	第21回 J-92	13				波状口縁	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
浅鉢	第21回 J-93	13	SIE2	暗青灰色 砂質層 ～砂層		口縁端部は内側に肥厚 する	外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
浅鉢	第21回 J-94	13	NIE1	褐色 砂層	口径 19.0	口縁端部はやや内傾し、 外側に沈積状の凹みをもつ	内面:ナデ	胎土:1mm未満の長石、石英、雲 母等を含む 焼成:良好 色調:外 灰褐色、内 呈褐色	
浅鉢	第21回 J-95	13	NIE1	木青色 粘土質 90128	口径 25.0	口縁部は直立気味に外 方に反する ↑↑縁端部内面に不明瞭 な沈積	外面:上半 ナデ、下半 部無明 内面:ミガキ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色～暗灰色	
浅鉢	第21回 J-96	13	NIE2	褐色 砂質層	底径 5.0		外面:ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
浅鉢	第21回 J-97	13	NIE2	青灰褐色 砂質層	底径 12.6		外面:磨滅により調 査不明	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
浅鉢	第21回 J-98	13	NIE2	暗青灰色 砂質土	底径 6.4		内面:ナデ、ケメリ?	胎土:1～2mm大的砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
鉢?	第22回 J-99	14	中央ベルト	暗青灰色 砂質層 ～砂層	口径 20.9	頭部に段 刻目実唇文	外面:ヘラケメリ後 半 ミガキ 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	炭化物付着、河 道2
浅鉢	第22回 J-100	14	NIE2	褐色 砂質土 ～暗青褐色 砂層		刻目実唇文、口唇に残 い刻目	外面:工具による横方 向の強いナデ 内面:横方向の強いナ デ	胎土:1mmまでの砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	炭化物が付着
浅鉢	第22回 J-101	14	NIE2	木青 ～ 青灰色 砂質層	口径 27.6	頭目実唇文、口唇に残 い刻目	外面:上半 強いナデ 下半 条痕の上から強 いナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道2
浅鉢	第22回 J-102	14	NIE2	褐色 砂質層		刻目実唇文、口唇に刻 目	外面:? 内面:ナデ	胎土:1mm大的砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
浅鉢	第22回 J-103	14	EK SW1	暗灰色 砂層		刻目実唇文、口唇に刻 目	外面:二枚貝条痕 内面:ナデ	胎土:1～3mm大的砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
深鉢	第22回 J-104	14	NIE2	青灰色 砂質層		刻目実唇文、口唇に刻 目	外面:ナデ? 内面:ナデ	胎土:1～3mm大的砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2

番号	通 用 番 号	固 定 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・施成・色調	備 考
深鉢	第22回 J-105	14	S7W1	青灰色 砂礫層		側部にむかう張り出す 刻目安帝文(ヘラ), 口 唇に刻目(ヘラ)	外面: ナデ 内面: 強いナデ(横方向) 研磨	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深灰褐色	
深鉢	第22回 J-106	14	IIK トレンチ内 耕土			刻目安帝文(ヘラ), 口 唇に刻目(ヘラ)	外面: ナデ 内面: ナデ(朱赤の上から) 研磨	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深灰褐色	
深鉢	第22回 J-107	14	II区 トレンチ内			刻目安帝文, 口唇に刻 目	外面: ナデ 内面: ナデ, 条痕	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深灰褐色	
深鉢	第22回 J-108	14	S3W1	暗青灰色 砂礫層		刻目安帝文, 口唇に刻 目	削減して不明	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 灰色	河道4
深鉢	第22回 J-109	14	S3W1	暗灰色 砂礫層		刻目安帝文, 口唇に刻 目	外面: ナデ 内面: ナデ	胎土: 1mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深灰褐色	河道4
深鉢	第22回 J-110	14	N3E1	赤褐色 砂礫層		刻目安帝文, 口唇に刻 目	外面: 二枚貝条痕 内面: 二枚貝条痕	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 灰色	河道2
深鉢	第22回 J-111	14	N3E2	褐色 砂礫層		刻目安帝文, 口唇に刻 目	内面: ナデ	胎土: 1mm以下の砂粒を含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
深鉢	第22回 J-112	14	N1E2	暗灰色 砂質土 (礫含)		刻目安帝文, 口唇に刻 目	外面: ナデ? 内面: ナデ?	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
深鉢	第22回 J-113	14	N1E2	暗青灰色 砂礫層	口径 31.6	刻目安帝文	外面: 上半 ナデ, 下半 ナデ? 内面: ヘラケズリ後ナ デ	胎土: 1~2mmの大長石, 石英粒 を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
深鉢	第22回 J-114	14	N2E2	暗灰色 砂礫層		刻目安帝文	外側: 条痕とナデ? 内面: 工具による強い ナデか?	胎土: 2mm未溝の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 深褐色	
深鉢	第22回 J-115	14	N2E2	暗灰色 砂質土 (礫含)		刻目安帝文	外面: 二枚貝条痕 内面: 二枚貝条痕	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰色~暗灰色	
深鉢	第22回 J-116	14	トレンチ内	暗灰色 砂礫層		刻目安帝文	外面: 二枚貝条痕 内面: 二枚貝条痕	胎土: 1mm前後の砂粒を含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
深鉢	第22回 J-117	14	II区 S3W1	青灰色 砂礫層		刻目安帝文(貝殻?)	内面: 条痕	胎土: 1mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 灰色~灰褐色	
深鉢	第22回 J-118	14	N1E2	暗青灰色 砂礫層		刻目安帝文(貝殻?)	外面: ナデ 内面: ナデとケズリ?	胎土: 2mm未溝の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰褐色	
深鉢	第22回 J-119	14	N2E3	褐色 砂礫層		刻目安帝文	外面: 強いナデ 内面: 二枚貝条痕	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰色	
深鉢	第22回 J-120	14	N2E1	暗赤褐色 砂層		刻目安帝文	外面: 上半 ナデ, 下半 ナデ? 内面: 上半 ナデ, 下半 条痕	胎土: 1mm未溝の白色及び透明な 砂粒, 金属性を含む 施成: 良好 色調: 灰色~暗灰色	河道2
深鉢	第22回 J-121	14	S3E1	暗青灰色 砂礫層		刻目安帝文	外面: 二枚貝条痕, ナデ 内面: 二枚貝条痕, ナデ	胎土: 1mm未溝の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 深褐色	河道4
深鉢	第22回 J-122	14	N3E1	暗青灰色 砂層		刻目安帝文	条痕後ナデ?	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰色~暗灰色	河道2
深鉢	第22回 J-123	14	N1E2	暗灰色 砂質土 (礫)		刻目安帝文	外面: 強減してはっきりした いナデか? 内面: 地方向にナデ, 一 箇二枚貝条痕	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 深褐色	外面に炭化物付 着
深鉢	第22回 J-124	14	S3E3	青灰色 砂礫層		刻目安帝文	外面: 強いナデ 内面: ナデ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰色	河道4
深鉢	第22回 J-125	14	N2E2	暗灰色 砂礫層		刻目安帝文	外面: 強いナデ 内面: ナデ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 施成: 良好 色調: 灰色~暗灰色	

番号	地名	測量番号	出土地点	層位	土量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	鉄土・焼成・色調	備考
深井	第23回 J-126	14	Ⅲ区 トレンチ内			刻目突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	鉄土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-127	14	NIE2	暗灰色 砂質土		刻目突帯文	外面:二枚貝条痕	鉄土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-128	14	SIE2	暗灰色 砂礫層		刻目突帯文	内面:ナデ	鉄土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-129	14	中央ベルト 海苔附着 砂礫層			刻目突帯文	外面:条痕、ナデ 内面:ナデ	鉄土:1~2mm大の白色砂粒を 多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-130	14	Ⅲ区 SW2	青灰色 砂礫層		刻目突帯文	内外面:磨滅	鉄土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-131	14	SW1	暗青灰色 砂礫層		刻目突帯文	外面:ナデ?	鉄土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	河道4
深井	第23回 J-132	14	Ⅲ区 SW1	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	鉄土:1~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-133	14	Ⅲ区 トレンチ 土	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ? 内面:ナデ?	鉄土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
深井	第23回 J-134	14	Ⅲ区 SW1	青灰色 砂礫層		突帯文	外面:条痕 内面:ナデ	鉄土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	炭化物付着
深井	第23回 J-135	14	NIE2	暗青灰色 砂質土		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	鉄土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面の一部にス ス付着、河道2
深井	第23回 J-136	14		暗青灰色 砂質土		突帯文	外面:ナデ? 内面:ナデ?	鉄土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	炭化物付着
深井	第23回 J-137	14	NIE2 河底	暗青灰色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:非常に細かい条 痕か?	鉄土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
深井	第23回 J-138	14	NIE1	褐色 砂礫層		突帯文	外面:ナデ 内面:ナデ	鉄土:1~2mm大の砂粒を少し 含む 焼成:良好 色調:褐色	
深井	第23回 J-139	14	NIE1	暗灰色 砂層	口径 26.6	口縁部はやるく強く外 反し、底部近くの外周 に點状突起をもつ 突起上に刻目	外面:貝殻条痕とハケ 跡 内面:ハケ目後ナデ、指 甲条痕が確認	鉄土:1mm前後の白色、黒褐色、 炭化物砂粒及び金属粉をかなり 含む 焼成:良好 色調:褐色	

2. 弥生土器

弥生土器は今回も出土量が多くコンテナ90箱を数えたが、全形をうかがえるものはほとんどなく、摩滅した小破片が大半を占めた。器形の判る破片をおおまかに時期別、器種別に分類し実測を行った。実測点数638点のうち、図示したものは558点である。内訳は、前期と考えられるもの266点、中期と考えられるもの270点、後期と考えられるもの84点である。

(1) 前期の土器 (第24~39図 Y-1~266)

壺 (Y-1~123)

壺としたものは広口壺、短頸壺、無頸壺が見られる。

広口壺は、形態と文様の違いによりⅣ類に分ける。

I類 (Y-1~16・23・25~30) は、口頸部界や頸胴部界に弱い段をもつものである。段はハケ目原体やヘラ先による押圧と削り取りによって作り出される。この段に沿って直線文、縞杉文、木の葉文、重弧文等が施されるものもある。器面調整は大半が内外面ヘラミガキで、ヘラミガキの下にハケ目の残るものもある。

II類 (Y-17~20) は、口頸部界や頸胴部界に段の代わりに沈線が施されるものである。

III類 (Y-21・22・24・34・35) としたものは、口頸部界や頸胴部界に削り出し状の突帯を設けるものである。Y-21・22・24は口頸部界に削り出し状の突帯を設け、そのうえに1~3条の沈線を引く。口縁部の形状は短く外反するもの (Y-21) と発達して大きく外反するもの (Y-22・24) とがある。Y-34・35は頸胴部界にハケ目原体による削り出し状の突帯を設け、その上に4~5条の沈線を引いている。器面調整はヘラミガキである。この類の頸胴部界には木の葉文、縞杉文、山形文等をもつものがあり、西川津遺跡^{註1}から出土している。

IV類 (Y-23・32・33) は、口頸部界にハケ目原体による段を設け、その上部にヘラ描き直線文を施すものである。器面調整はハケ目とヘラミガキ、ナデにより行われる。

V類は、口頸部界や頸胴部界に数条のヘラ描き直線文が施されるもので、口縁の形態により2種類に分けることができる。

V-1類 (Y-36~38・40・44) は、口縁部が短く外反するものである。端部無文のY-36・37と、端部に面をもち斜格子文、羽状文等を施すY-38・40・44がある。

V-2類 (Y-39・41~43・45~48) は、口縁部が大きく外反して開くものである。端部無文のものと、斜格子文、羽状文、直線文等をもつものがある。Y-47は口頸部界にハケ目原体で段を作り出し、その直下に現存で5条の貝殻腹縁による直線文が施されている。また、Y-48は9条におよ

ぶ直線文を施されたもので、その直下に突帯を付けたものである。

V類 (Y-49~51・53~55) は、頸部および胴部に貼り付け突帯をもつものである。Y-49は筒状の頸部に突帯1条をもち、口縁部をやや短めに外反させる。Y-50は筒状の頸部に2条、Y-51は頸胴部界と胴部に1条ずつの突帯をもつ。以上のものの器面調整はすべてヘラミガキである。Y-53は口頸部が大きく外反して開くもので、外面には耳状に湾曲した突起を貼り付けた土器である。耳状突起には直径6ミリの円孔を2カ所に穿孔している。頸下部外面には現存2条の刻み目突帯をもち、口頸部内面にも突帯が巡る。器面調整は外面に荒い縱方向のハケ目を、内面にナデを行う。耳状の突起をもつ土器は県内ではタテチョウ遺跡^{註2}、西川津遺跡^{註3}、布田遺跡^{註4}で出土している。布田遺跡出土のものは、内面の突帯を伴っている。Y-54は扁球状の胴部に2条の刻み目突帯を貼り付けるものである。器面調整はハケ目とナデを行う。

VI類 (Y-52・57) は、口縁部を短く外反させ、内傾する円筒状の頸部をもつものである。Y-52は頸部に直線文と円形刺突文をもっている。Y-57はY-52をやや大型にした無文のものである。

短頸壺 (Y-62・63) は2点を図示した。ごく短く外反した口縁部をもち、なで肩で胴張りのする土器である。

Y-58・61・64は広口壺とも短頸壺ともいえないもので、口縁部はゆるく短く外反し、肩から胴部にかけて強く張るものである。内外面横方向のヘラミガキを施す。

無頸壺 (Y-121~123) としたものは3点を図示した。

Y-121は、内外面とも横方向にていねいなヘラミガキを施されたもので、内湾する口縁部に直径5ミリの円孔が穿たれている。Y-122は端部外面に貼り付け突帯と沈線をもつもので、内面ヘラミガキである。Y-123は口縁部に直径7ミリの円孔2個が穿たれている。器面調整は、外面に斜め方向のヘラミガキを、内面上半にはハケ目、下半にはナデを行う。

Y65~120は変胴部の文様の拓影を示したものである。綾杉文 (Y-65~91) を表したもので、ヘラによるもの (Y-65~74) と貝殻腹縁によるもの (Y-75~91) がある。ヘラによるもののうちY-66~69・73は頸胴部界に段をもち、その直下に直線文とともに施されている。貝殻腹縁によるもののうちY-76~78・80は段を、Y-79は削り出し状の突帯を、Y-81は多条の沈線を、Y-83・84は貼り付け突帯をもつものであり、綾杉文はそれらの直下に直線文とともに施文される。

木の葉文 (Y-92~97) をもつものは6点が見られた。無軸木の葉文は1点のみ (Y-95) で、他は有軸木の葉文をもつ。縦軸、斜軸の両者があり、直線文、羽状文、重弧文などと組み合わせて用いられている。Y-92は有軸木の葉文が直線文の下に並列しておかかる。

重弧文 (Y-98~102) は5点を確認している。Y-98・102は段の直下に直線文とともに施文されるもの、Y-99は綾杉文・平行線文と組み合わせて用いられるものである。

山形文（Y-103～105）は3点が見られた。Y-104は段の直下に直線文とともに施されるもの、Y-105は山形文の中心に軸線をもつものである。

この他の文様としては鉛歯文（Y-106）、斜格子文（Y-107・108）、有軸羽状文（Y-110・111）、削り出し突帯文（Y-112・113・115）、直線文（Y-116・117）、貼り付け突帯文（Y-118～120）などがある。

壺（Y-124～237）

壺は、その形態と文様の違いによりⅥ類に分類した。

Ⅰ類（Y-124～128）としたものは、口頸部界に弱い段をもつものである。口縁部は短く外反し胴部は張り出さない。段はハケ目原体やヘラで作り出される。器面調整は内外面ハケ目、口縁部ヨコナデである。

Y-130は段が逆に付いているもので、口縁端部は面をなす。

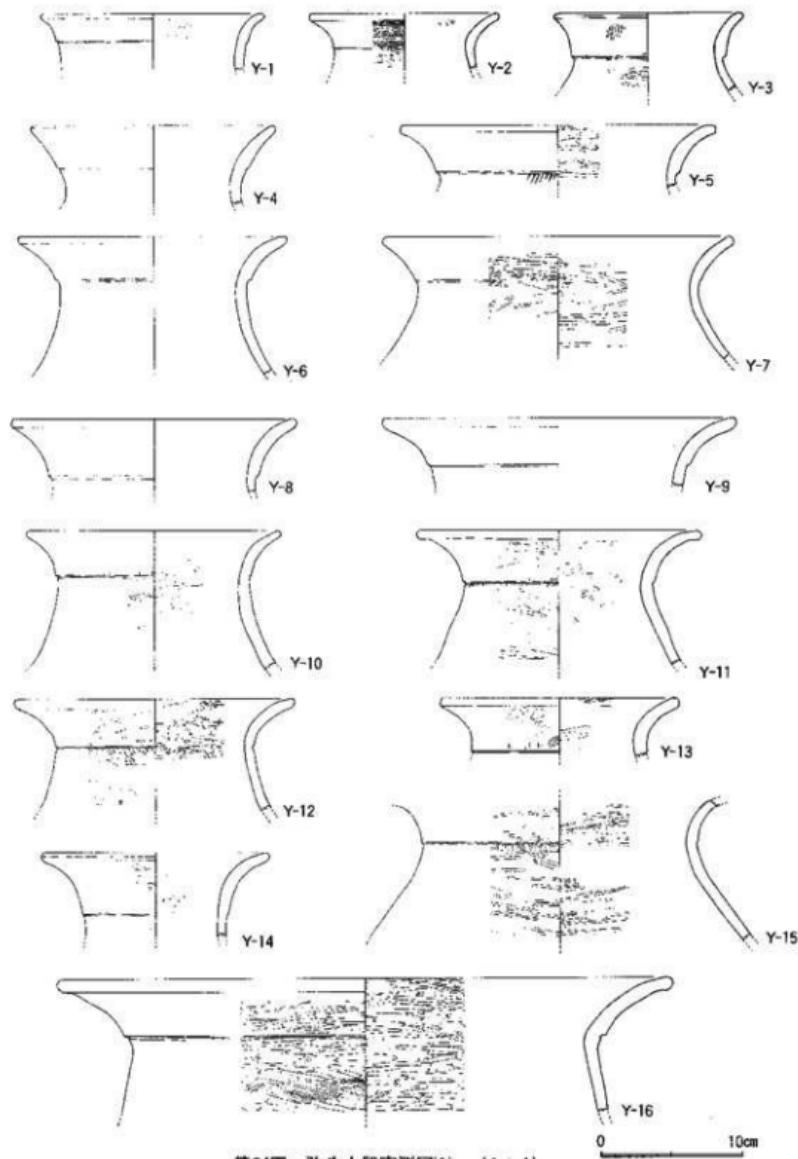
Ⅱ類（Y-129・131～161）は、Ⅰ類で段のあった部位に1～2条のヘラ描き直線文をもつものである。一部の土器には口縁端部に、ヘラやハケ目原体、貝などによる刻み目をもつものも見られる。器面調整は人半のものがハケ目とナデによるが、まれにヘラミガキによるもの（Y-143）もある。大型品は少ない。

Ⅲ類（Y-167～190・192）は口頸部界に、数条のヘラ描き直線文をもつものである。口縁部は短く外反し、口縁端部を刻むものが多い。胴部は、張り出さないものと、やや張り出すものがある。器面調整はハケ目とナデを行う。

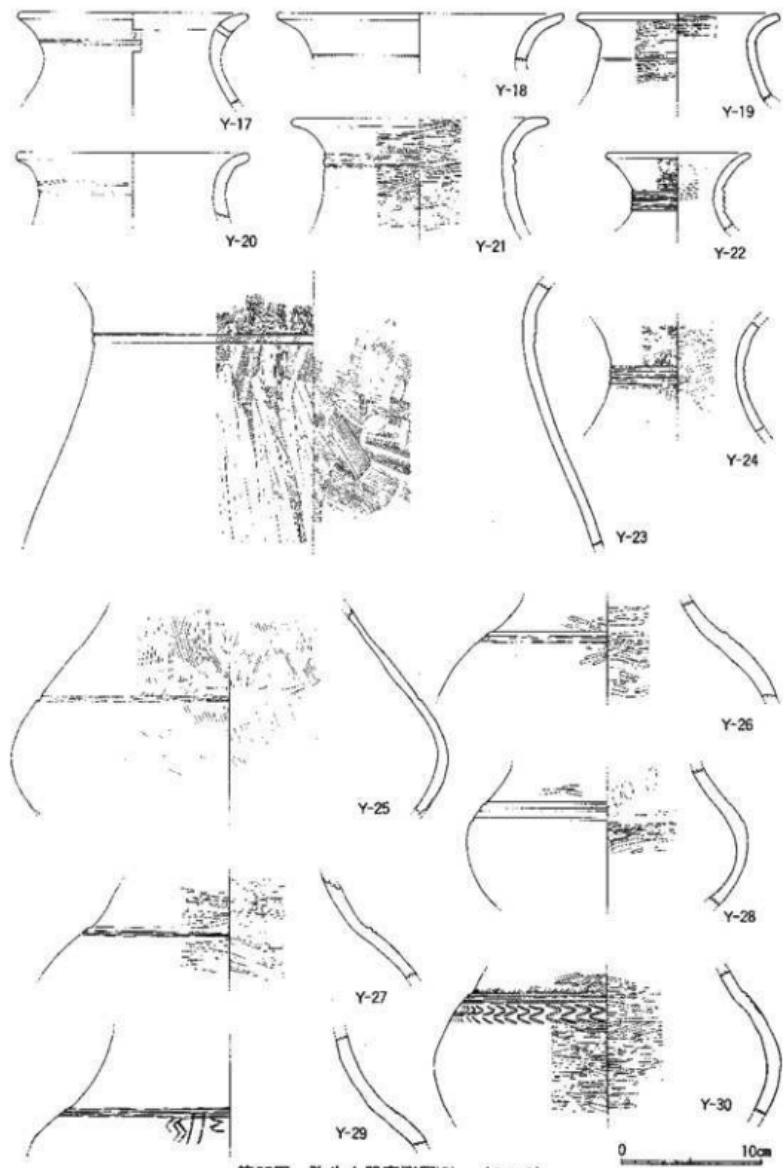
Ⅳ類（Y-191・193～196・203～205・209～216）は口縁部が短く外反し、口頸部界に多条のヘラ描き直線文をもつものである。これらの中には、直線文間や直線文直下に刺突文を加えるものもある。刺突文は竹管や棒状工具による円形・梢円形のもの、ヘラによる紡錘形・三角形状のもの等が見られ、変化に富む。胴部はやや張り出しが大半である。器面調整はハケ目とナデによるが、196・197のようにヘラミガキするものもある。

Ⅴ類（Y-198～202）は逆「L」字状を呈す口縁をもち、頸部に数条から多条のヘラ描き直線文や刺突文をもつものである。器面調整はハケ目とナデを行う。

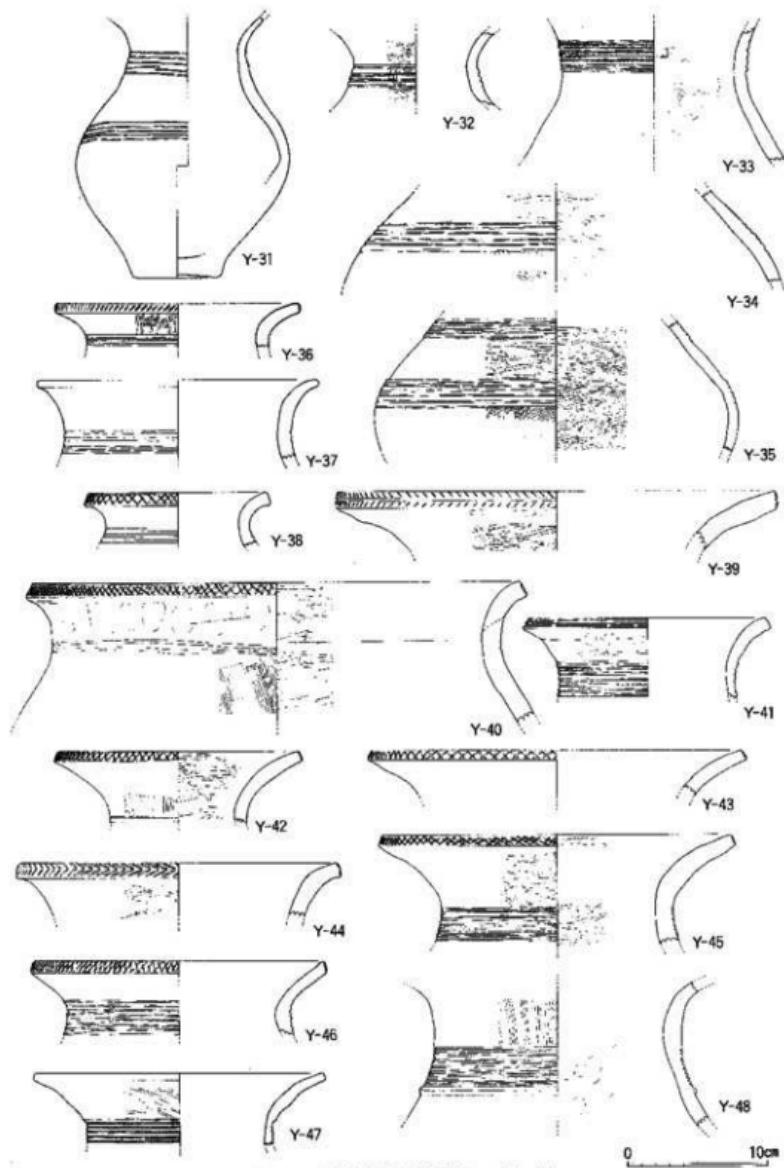
Ⅵ類（Y-163～166・206・207・217～237）は、口縁部を短く外反させ文様を施されないもの、もしくは、端部を刻むだけのものをこの類とする。胴部は張り出さないものと、やや張り出るものがある。器面調整はハケ目とナデで行われ、指頭圧痕が顕著である。2～3ミリ大の大粒の砂粒を含み、やや厚手のものが多く、中期のものとは異なった印象を受ける。



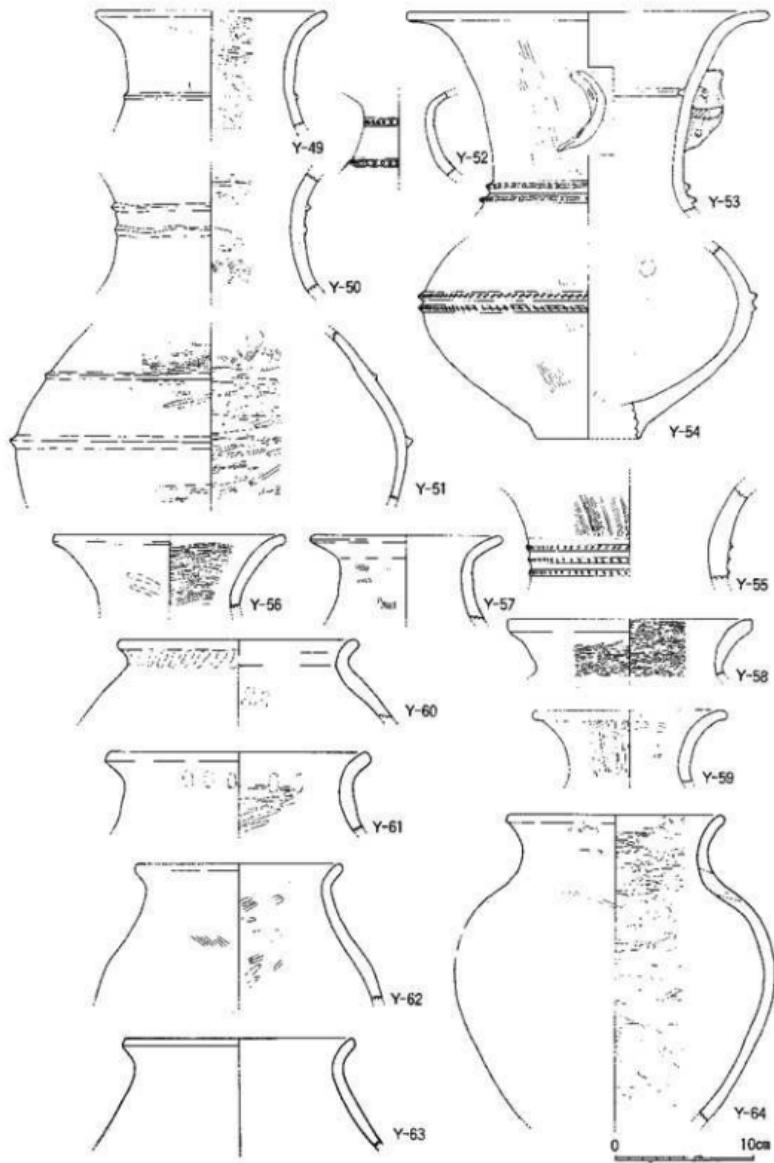
第24図 弥生土器実測図(1) (1 : 4)



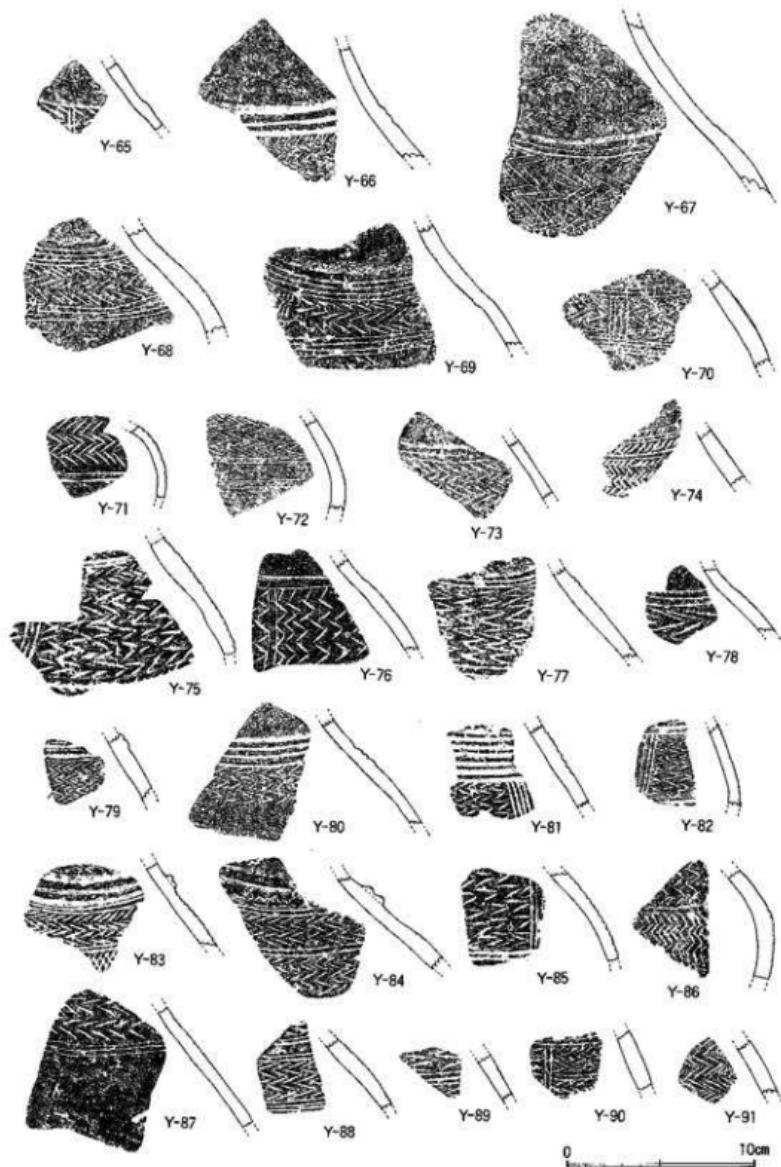
第25図 弥生土器実測図(2) (1 : 4)



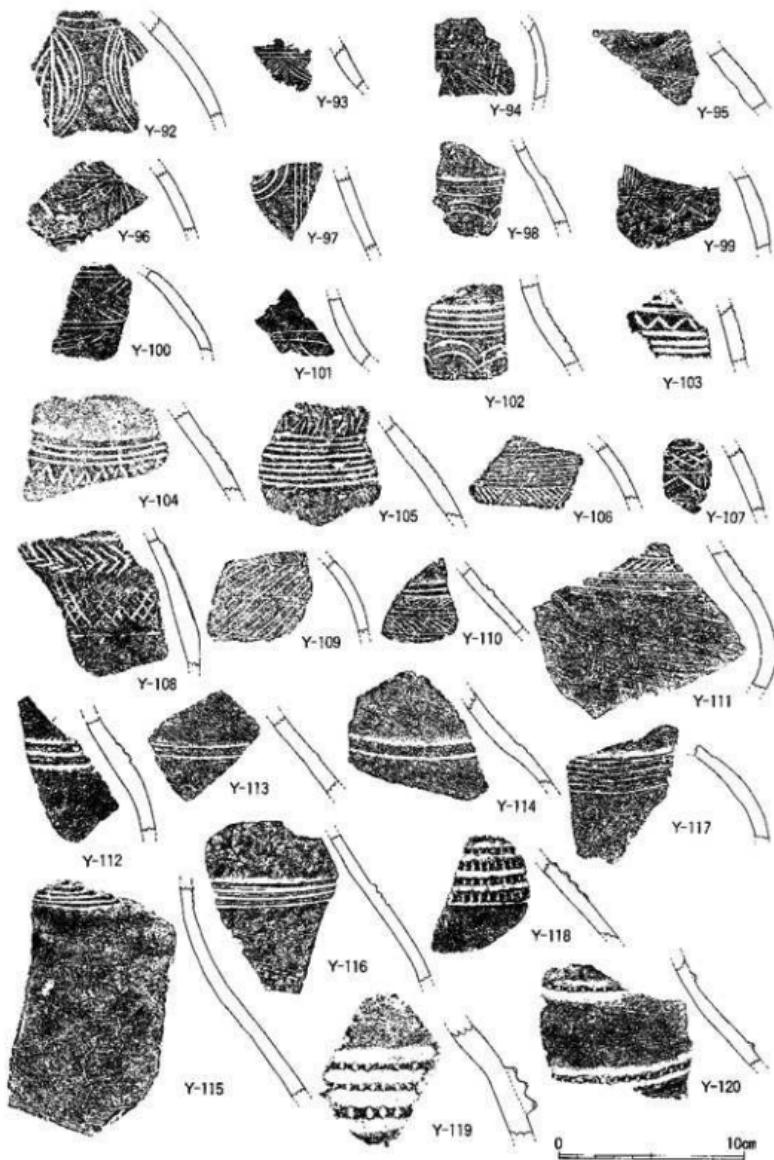
第26図 弥生土器実測図(3) (1 : 4)



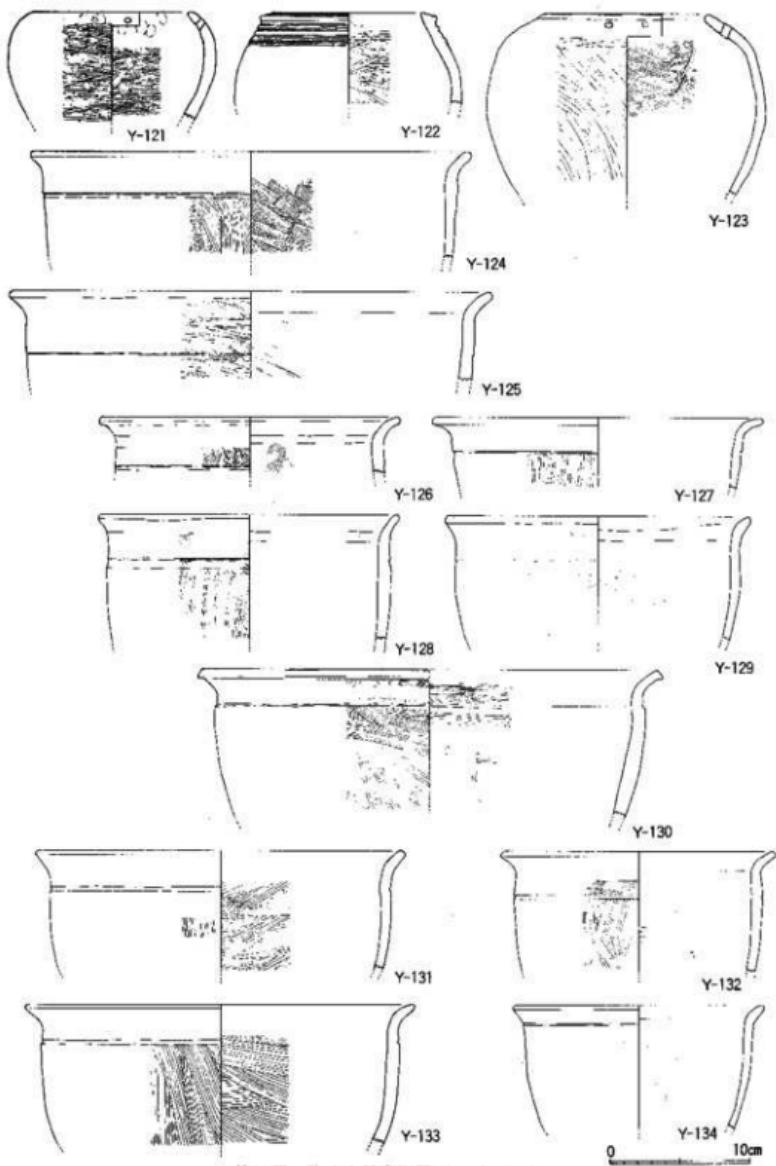
第27図 弥生土器実測図(4) (1 : 4)



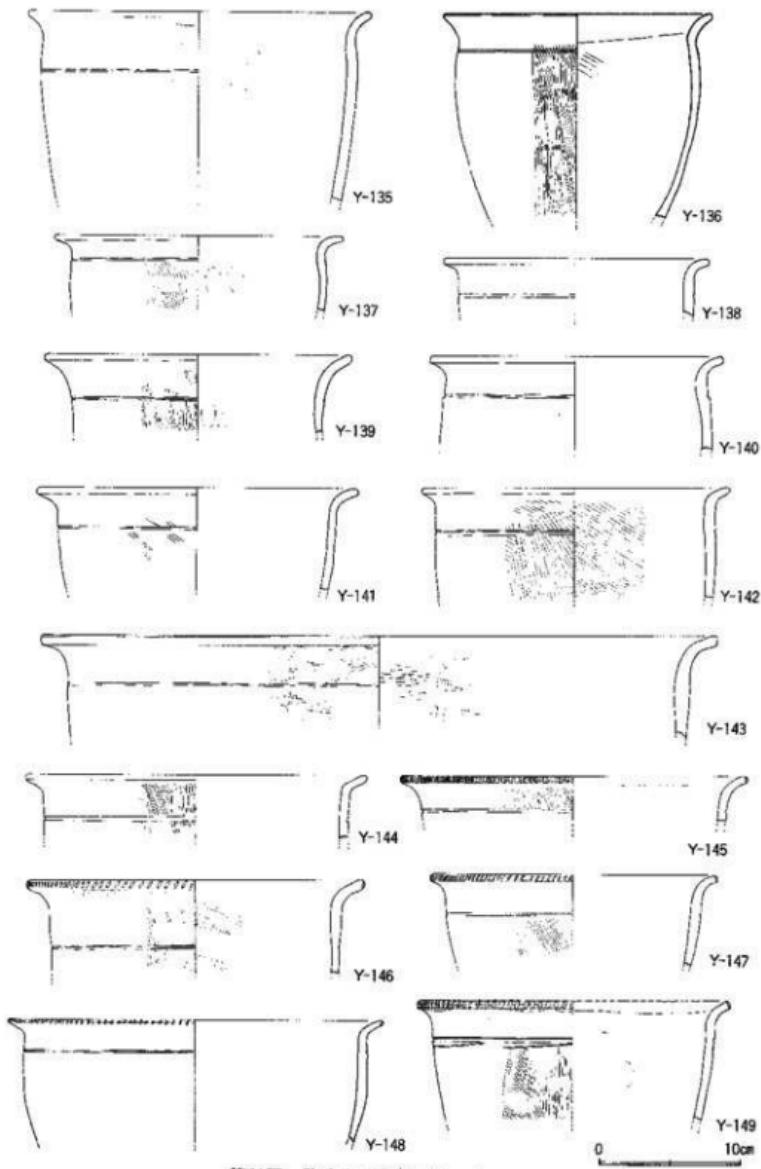
第28図 弥生土器実測図(5) (1 : 4)



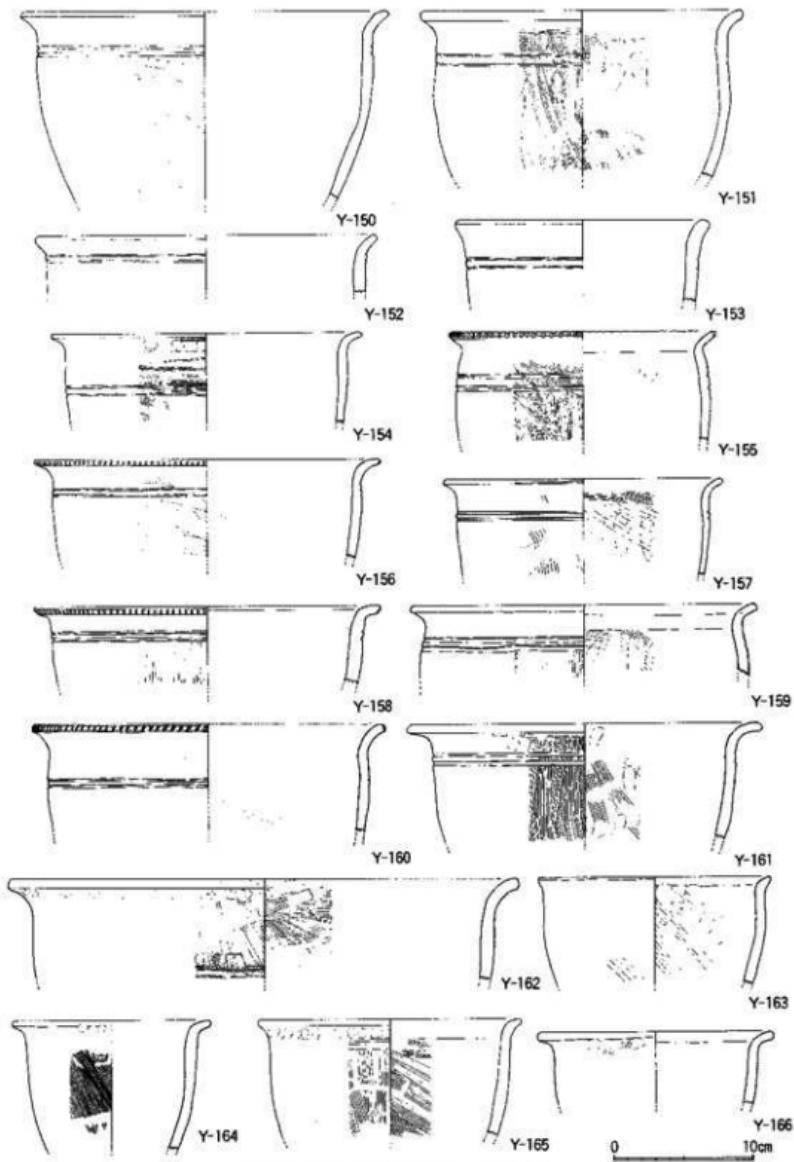
第29図 弥生土器実測図(6) (1 : 4)



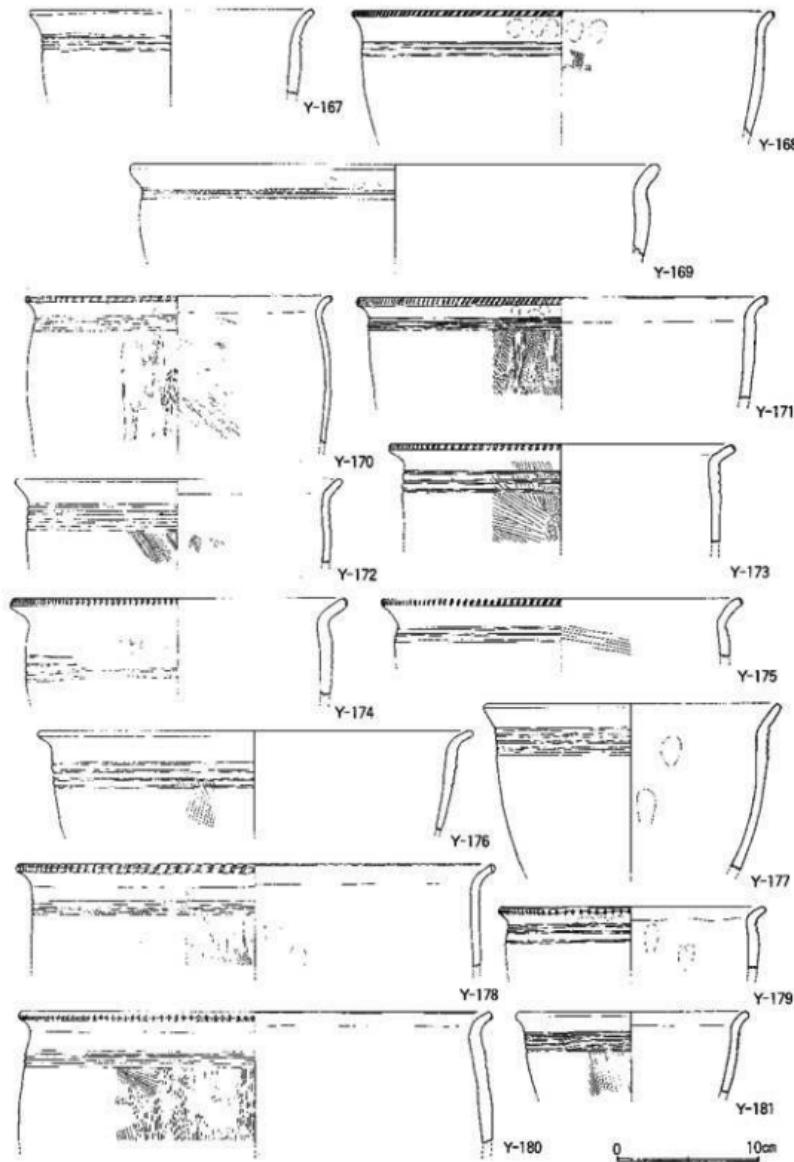
第30図 弥生土器実測図(7) (1 : 4)



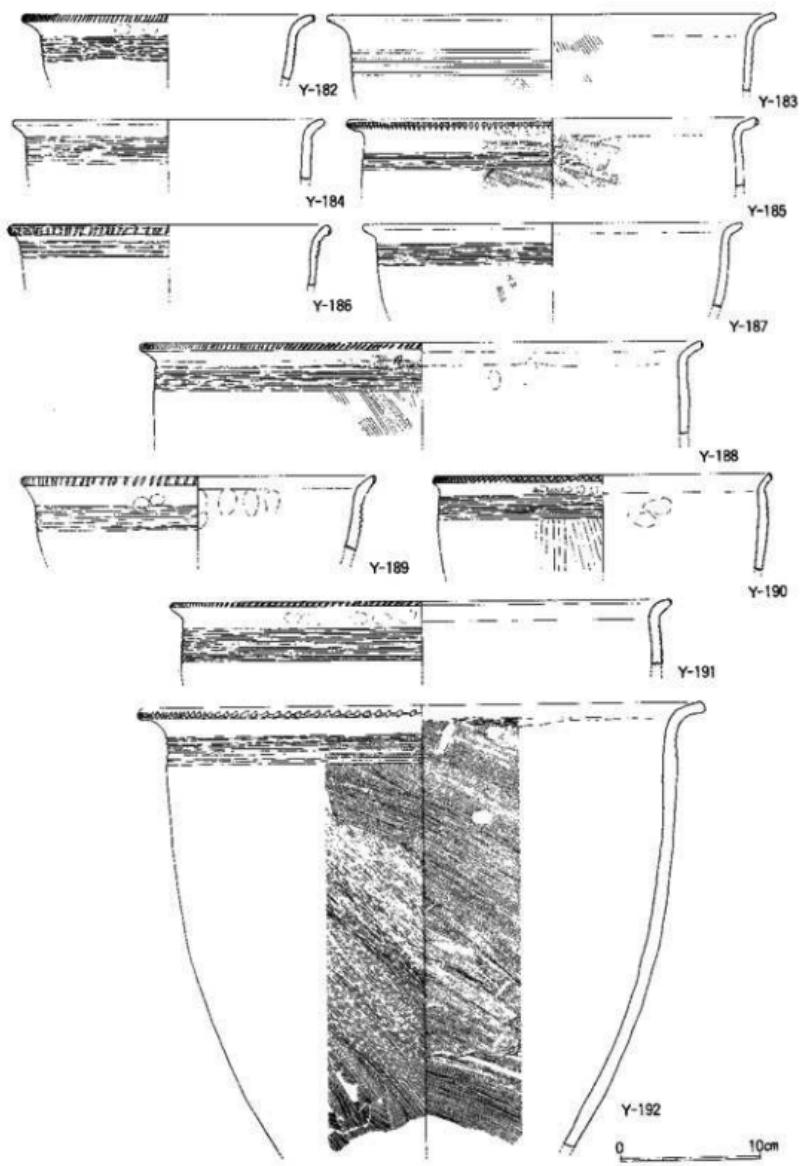
第31図 弥生土器実測図(8) (1 : 4)



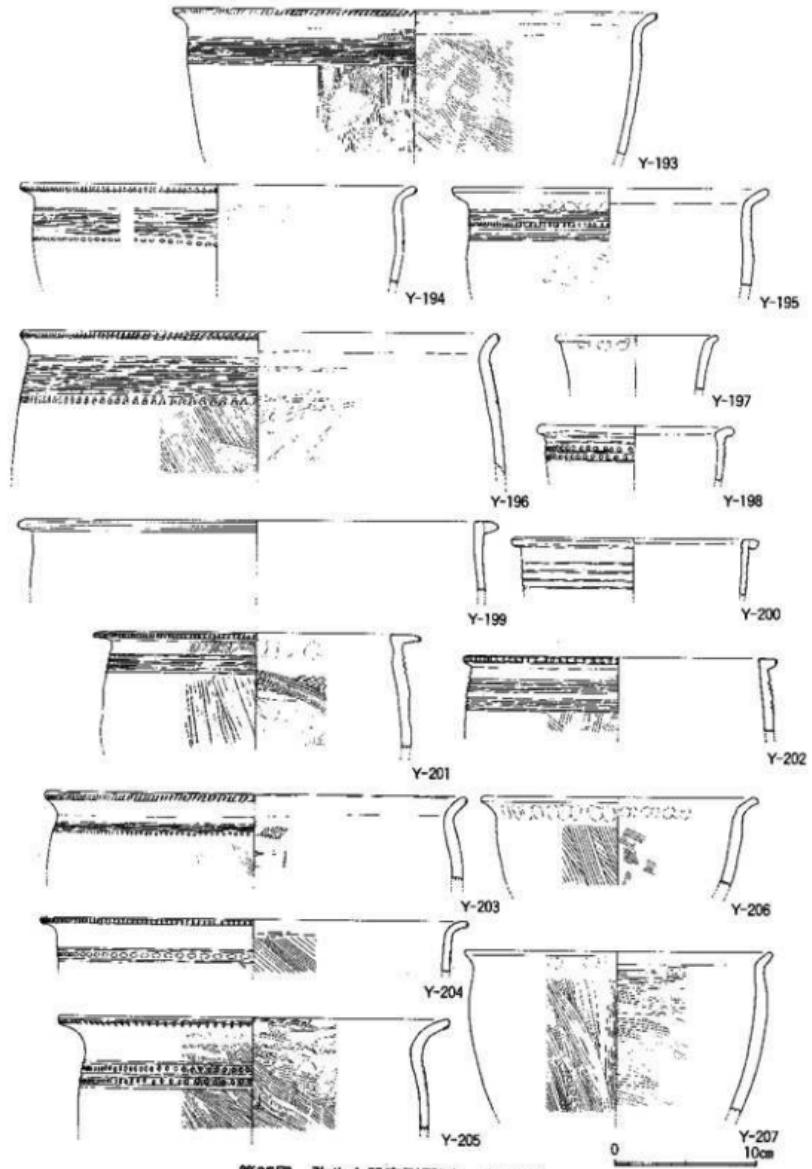
第32図 弥生土器実測図(9) (1 : 4)



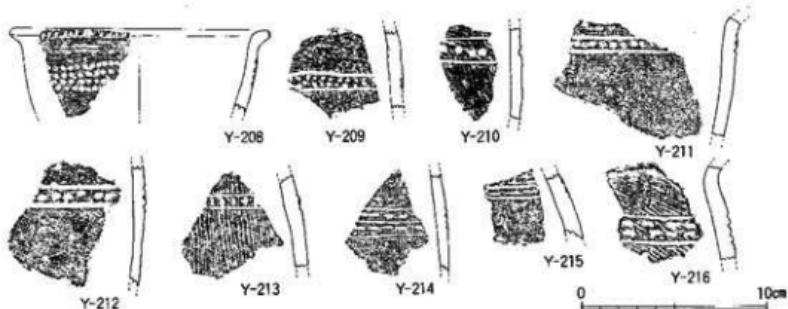
第33図 弥生土器実測図(1) (1 : 4)



第34図 弥生土器実測図(II) (1 : 4)



第35図 弥生土器実測図(2) (1 : 4)



第36図 弥生土器実測図⑩ (1:4)

鉢 (Y-208~247)

鉢には、口縁部が短く外反するもの (Y-208・238~240・242・244・247)、短く屈曲するもの (Y-241・243・245)、直口のもの (Y-246) がある。外反するものと直口の中には (Y-246・247) 外面に偏平な把手を備えるものが見られる。器面調整は、Y-240・242・243がヘラミガキ、それ以外のものはハケ目とナデを行う。

蓋 (Y-248~252)

蓋としたものには、壺用のものと甕用のものが見られた。

壺用の蓋はY-248のみである。天井部に乳頭状の突起を2個もつ。天井部と、笠形に開いていく部分との境には1条の沈線が施される。

Y-249~252は甕用の蓋である。天井部に平坦面をもち、末広がりになっている。Y-251はナデ調整、他は内外面ともヘラミガキが行われている。

底部 (Y-253~266)

Y-253~266には前期上器の底部と考えられるものを図示した。Y-256の底外面にはモミや、ワラと思われる植物の茎の圧痕が見られる。Y-265・266は焼成後に穿孔されている。

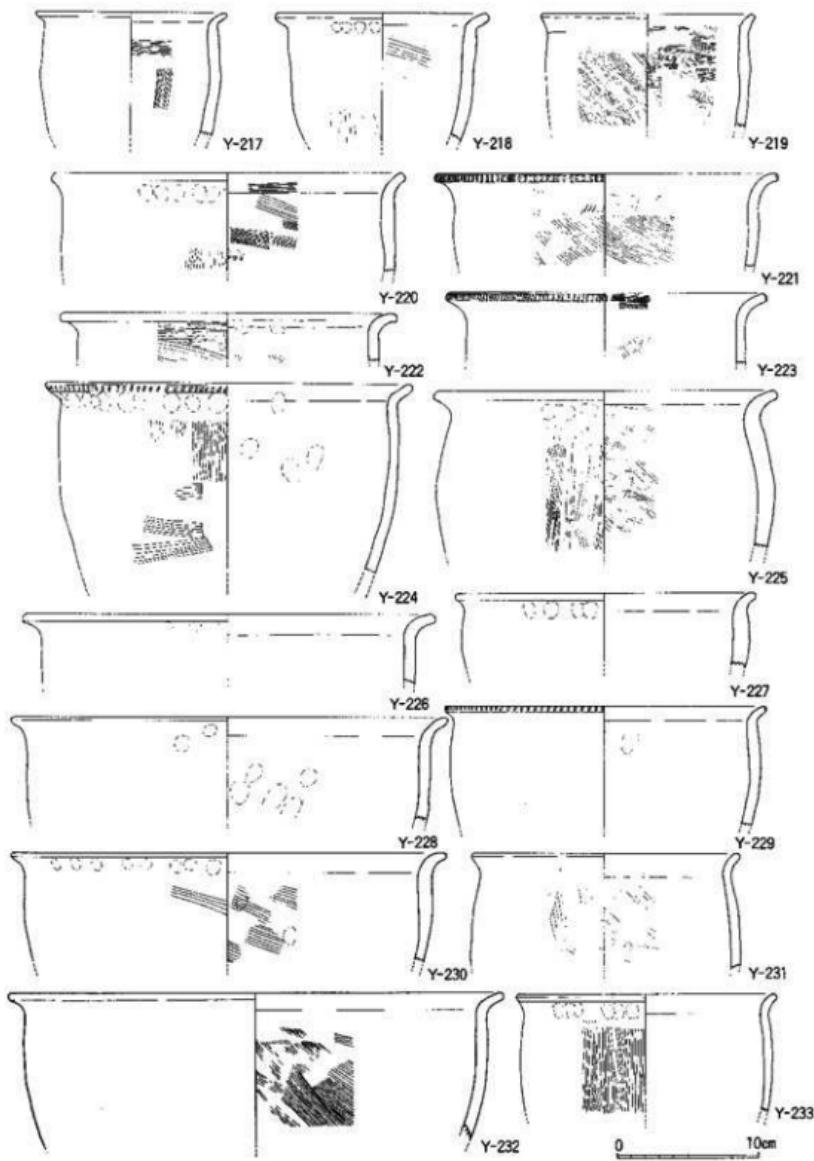
註1 『西川津遺跡発掘調査報告書V(海崎地区3)』 島根県教育委員会 1989年

註2 『タテチョウ遺跡発掘調査報告書II』 島根県教育委員会 1990年

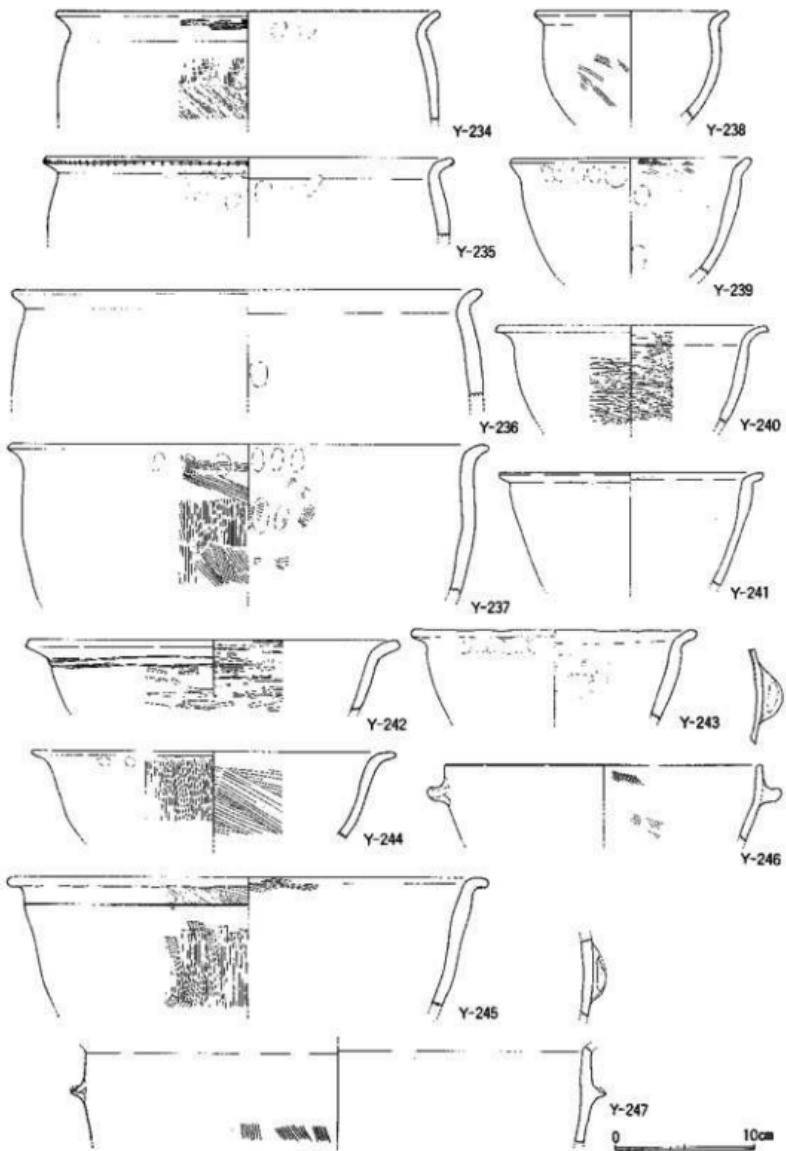
註3 内田律雄氏の御教示による。

註4 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書II』 島根県教育委員会 1983年

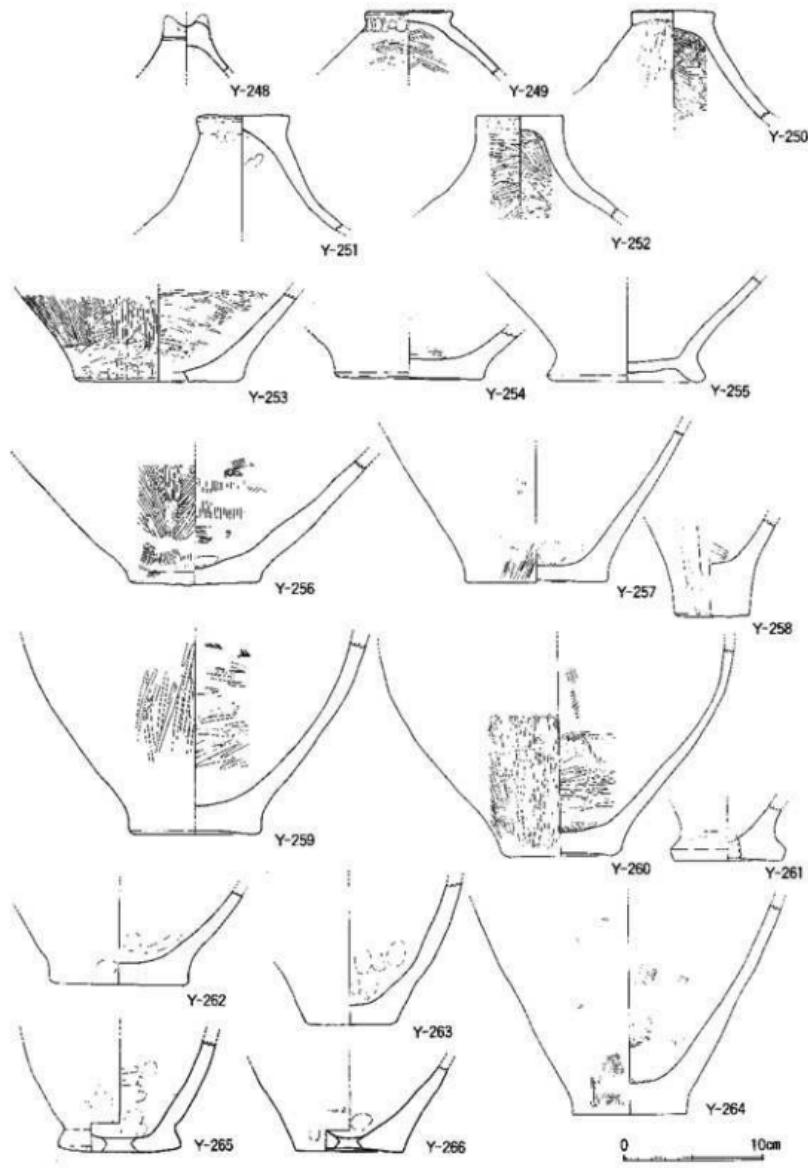
註5 壺の頸部内面に突帯が施される土器は、下関市綾羅木郷遺跡をはじめ、瀬戸内地方でみられる土器である。しかし実見した時の印象では、それらの土器群に付けられる突帯は蓋受けとしての機能が強く推定されるもので、この土器の突帯とは異なるものようである。



第37図 弥生土器実測図14 (1 : 4)



第38図 弥生土器実測図(5) (1 : 4)



第39図 弥生土器実測図(6) (1 : 4)

(2) 中期の土器 (第40~50図 Y-267~474)

広口壺、短頸壺、長頸壺、直口壺、壺、鉢、高杯等の器種がある。

壺 (Y-267~346)

壺については、形態及び手法の特徴から7種類に分類した。

くし書き直線文をもつものをI類としたが、口縁部の形態は様々であった。口頸部がゆるやかに外反して開き、多条のくし書き文と刺突文が施されるもの (Y-267), 円筒状の頸部からごく短く外反する口縁部をもつもの (Y-268), 逆「L」字状を保す口縁部をもち、円筒状の頸部にくし書き文が施されるもの (Y-269) 等が見られる。

II類としたものは、口縁部が朝顔状に大きく開くもので、さらに3種に細分できる。

口縁端部が上下、又は下方にわずかに拡張するものをII-1類 (Y-271~273・274~280・308・309) とした。端部は無文のもの、刻み目をもつもの等があり、頸部には断面三角状の突帯文、指頭圧痕文帯をもつものもある。II-2類 (Y-289~296・298~304・306・307) としたものは、口縁端部が上下、又は下方に大きく拡張されたものである。端部内外面に斜行文、山形文、斜格子文、羽状文、刺突文、円形浮文、刻み目突帯文等様々な文様が施される。II-3類 (Y-297・305・310~313) としたものは、形態的にはII-2類と変わらないが、口縁端部に凹線文が施されるものとした。Y-297・305・310・311は、II-2類に使用されている文様と凹線文が合せて施されるものである。

「ハ」の字状に開く口縁部をもつものをIII類とした (Y-282~288)。口縁端部は拡張し水平、もしくは内傾する平坦面をもつ。Y-287・288は端部に円形浮文、斜格子文等が施文されている。口頸部外面の文様には山形文 (Y-282), 貼り付け突帯文 (Y-283・286・287), 刻み目突帯文 (Y-284・288), 凹線文 (Y-285), 波状文等が見られる。

IV類 (Y-313~321・324) は円筒状の頸部から短く外反する口縁部をもつものである。口縁端部は内傾方向に拡張し、凹線文が施される他、頸部にも凹線文をもっている。さらにY-314は口縁端部の凹線文の上にハケ目原体による刻み目が、Y-321は円形浮文が施される。Y-323は以上の土器よりも口縁部が大きく反るものである。

V類 (Y-270・328・331) は短い逆「L」字状の口縁部と「ハ」の字に開く胸部をもつものである。Y-270の胸部外面には、くし書き直線文と波状文が施される。

VI類 (Y-326・327) は胸部が強く張った、短頸の直口壺である。Y-326は口縁端部が平坦に作られ、外面にヘラによる刻み目を施される。Y-327はやや長めの口頸部をもつもので、端部上面に、わずかにくぼんだ面をもち、外側には刻み目を施している。器面調整は外面ハケ目、内面ナデを施

す。

Ⅷ類（Y-332～340）は口頸部が「く」の字状に緩く屈曲する壺である。口縁端部が丸く終わるものと面をなすものがある。Y-332は前者にあたるもので、胴部はあまり張り出さず長胴の傾向がある。器面調整は外面ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデを行っている。Y-333以下は後者のもので端部を拡張し、胴部が強く張る。器面調整は外面ハケ目、内面はハケメもしくはナデ、口縁部ヨコナデを施している。

Y-329は細頸の直口壺である。口縁端部は平坦に作られており、胴部にむかいソロバン玉状に張り出す器形になると思われる。細長い頸部には凹線5条が施される。外面ハケ目、内面ナデで調整され、口縁端部の内面には指頭圧痕が著しく、肩部には絞り目が見られる。出費部ではあまり見かけないものである。

Y-341・342は口縁部が逆「ハ」の字状に大きく聞くものである。口縁端部は拡張しており、Y-341には凹線文が施されている。またY-330は内面に漆が厚く付着したものである。内外面ヘラミガキで調整される。

第43図（Y-343～346）には壺胴部の文様の拓影を示した。いずれも、くし状工具により施文されている。Y-343は直線文と波状文、Y-344・345は直線文と斜格子文、Y-346は流水文である。

壺（Y-347～443）

壺は形態と手法の特徴から4種類に分類した。

I類としたものは、くし描きによる直線文をもつもので、口縁部の形状から、さらに3種に細分できる。I-1類（Y-347～352）は口縁部が短く外反するものである。頸部以下に3～5条単位のくし描き直線文を数回施し、一部のものには、その直下に三角形状の刺突文をもつものもある。胴部の張り出するもの（Y-348・349・351）と、張り出さないもの（Y-347・350・352）がみられる。器面調整はハケ目とナデを行う。I-2類（Y-353・354）は口縁部がごく短く、「く」の字状に屈曲するものである。胴部は強く張り出している。I-3類（Y-355・356）は口縁部が逆「L」字状を呈するものである。

II類（Y-358～362）としたものは、口縁部がごく短く、屈曲気味に外反するもので、くし描き直線文をもたないものである。胴部はやや張り出している。ヘラによる刺突文をもつもの（Y-360）や棒状工具による刺突文をもつもの（Y-361）も見られる。器面調整はハケ目とナデによるが、ヘラミガキが施されるもの（Y-360）もある。

III類は口頸部を「く」の字状に屈曲させたものであるが、屈曲部の度合い、口縁端部の形状によりさらに4種に細分できる。III-1類（Y-363～370）は屈曲部内面に、はっきりした棱をもたな

いものである。Y-369だけは口縁端部に面をもつが、それ以外のものは丸く納められる。胴部はやや張り出している。Ⅲ-2類（Y-371～383）は屈曲部内面にはっきりした稜線をもち、口縁端部に小さな面をもつものである。胴部を強く張り出させたものが多い。Ⅲ-3類（Y-384～401）はⅢ-2類の口縁端部をやや拡張し、そこに1～2条の凹線を施したものである。凹線上にはさらに刻み目を施し装飾するものも見られる。胴部の形状は張り出すものが多い。Ⅲ-4類（Y-402～406）はⅢ-3類の口縁部をさらに拡張し、くり上げ状を呈するものである。端部外面には凹線や刻み目をもっている。胴部内面をヘラケズリするもの（Y-406）もある。

Ⅳ類（Y-407～425）は口頭部が「く」の字状に屈曲し、屈曲部外面に指頭圧痕文帯をもつものである。口縁端部は拡張されており、一部の上器には刻み目や凹線を施すものも見られる。

Ⅴ類としたもののは、前述の壺體類とよく似た形状をしている。この2種は前者が屈曲部内面に後をもつものに対し、後者は同位置に面をもつと言う点で相違する。ここでは下山南通遺跡^{註1}での分類を参考に前者を壺、後者を壺とした。

鉢（Y-426～443）

口縁部の形状から2類に分類し、口縁部が短く外反するものをⅠ類、直立または内湾するものをⅡ類とした。

Ⅰ類（Y-426～428）は口縁部が短く外反するもので、器面はハケ目とヘラミガキで調整する。

Ⅱ類（Y-429～443）は口縁部が直立または内湾し、端部に平坦面をもつものである。口縁部から胴部の外面には貼り付け突帯、くし描き波状文、刺突列点文、指頭圧痕文帯等で装飾される。器面は摩滅しているものが多く、大半のものは調整が見えないが、ハケ目またはナデによる調整が確認できるものもある。

高杯（Y-445～458）

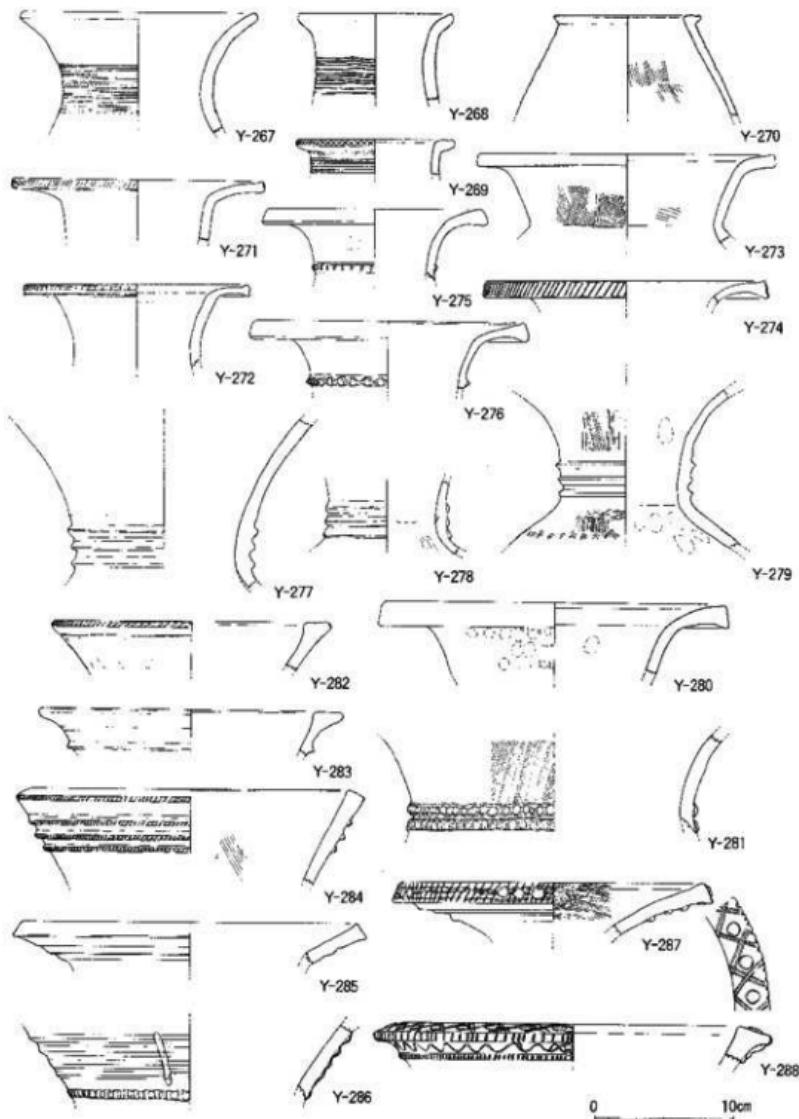
杯部の形態には5種類のものが見られる。

Ⅰ類（Y-445）は端部に水平な面をもつものである。口縁部を屈曲させ水平方向に延ばした形状になっている。

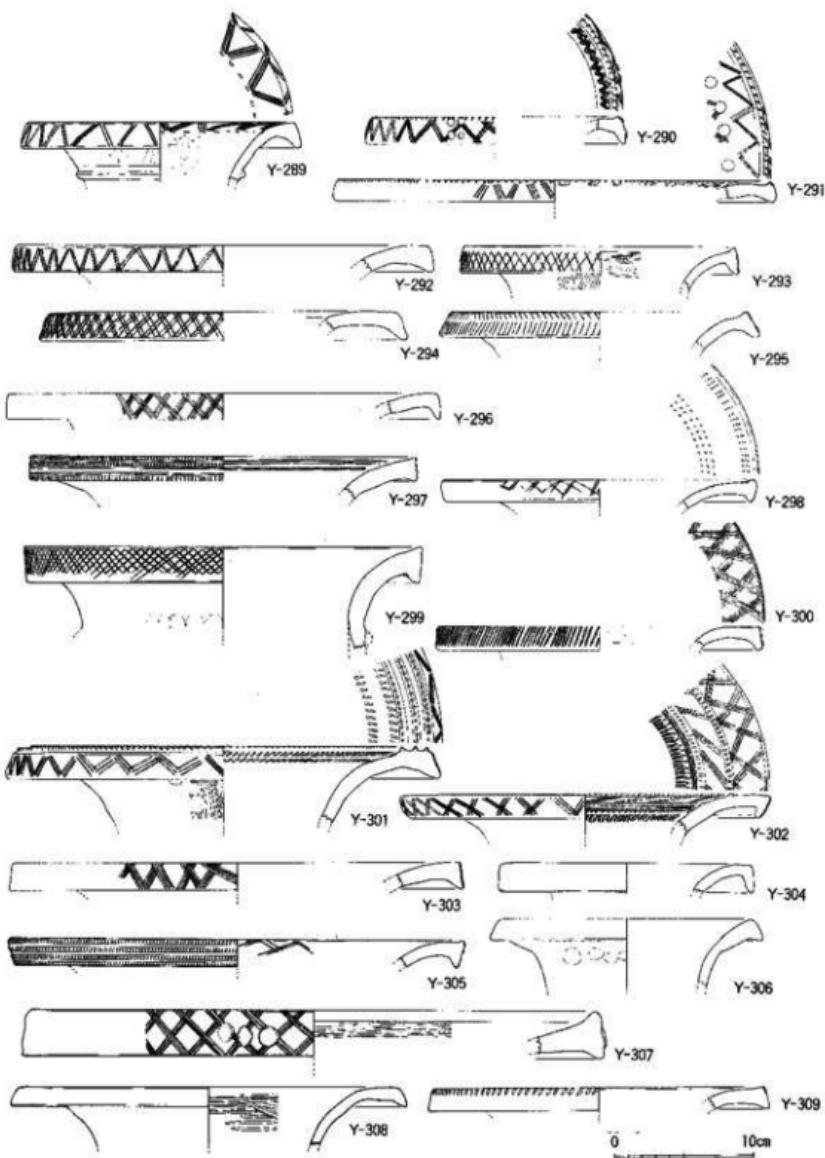
Ⅱ類（Y-444・446～449）は口縁端部を拡張した平坦面をもつものである。杯部は内湾し、器面はヘラミガキとナデにより調整される。

Ⅲ類（Y-452）は口縁部が逆「し」字状を呈し、平坦面をもつものである。平坦部分には縦に直径3～4ミリ大の円孔が穿たれる。

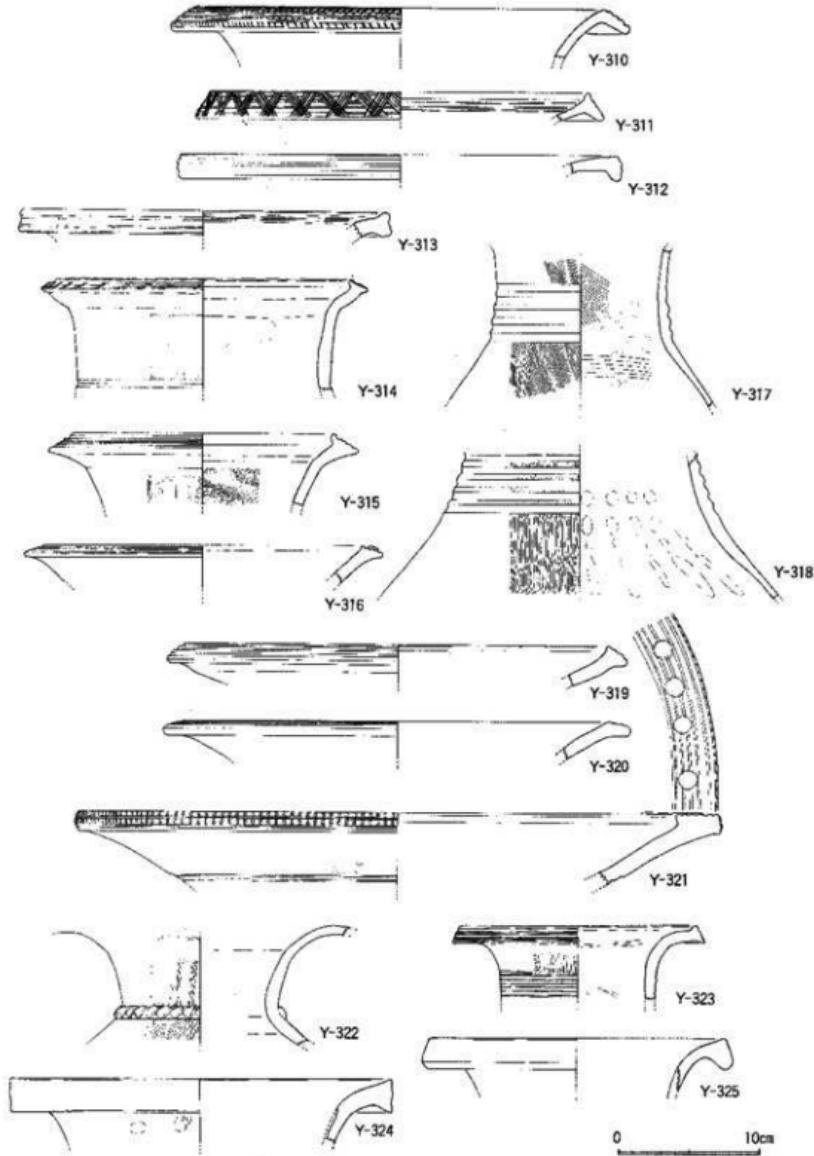
Ⅳ類（Y-453）は口縁部が短く内側に屈曲するものである。杯部の形状は緩やかに内湾する。外面



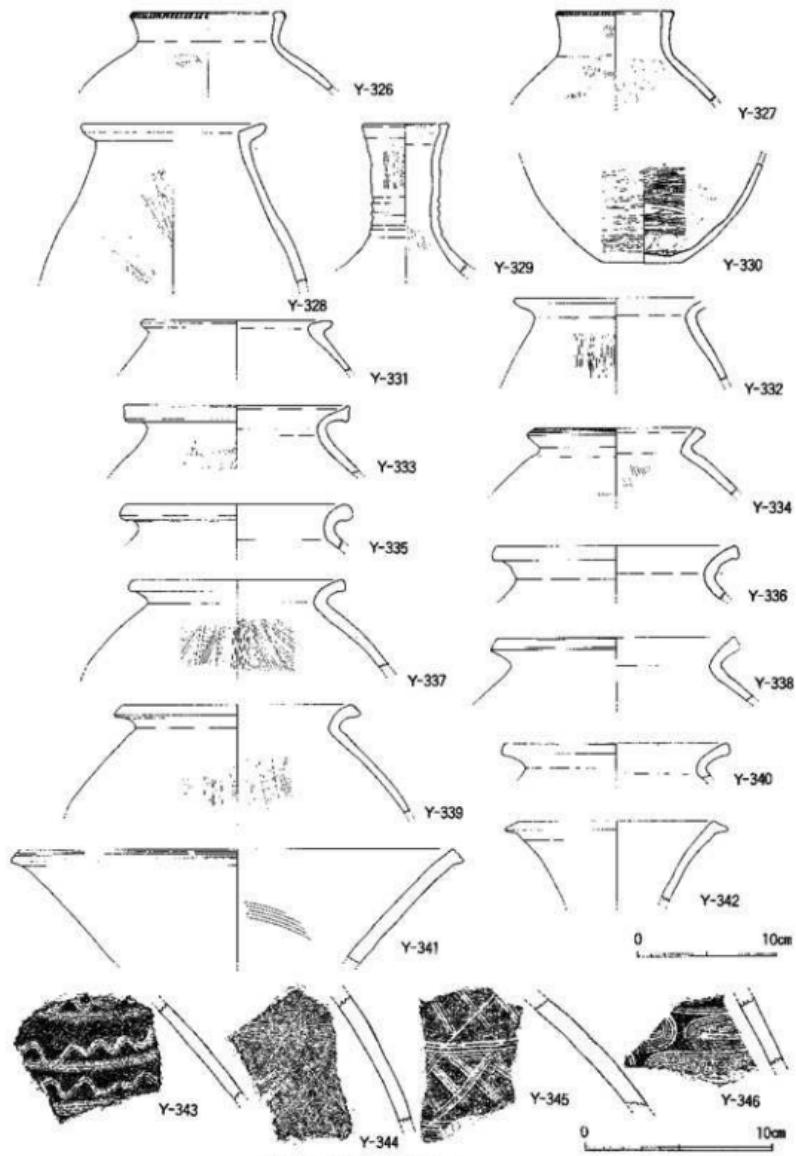
第40図 弥生土器実測図17 (1 : 4)



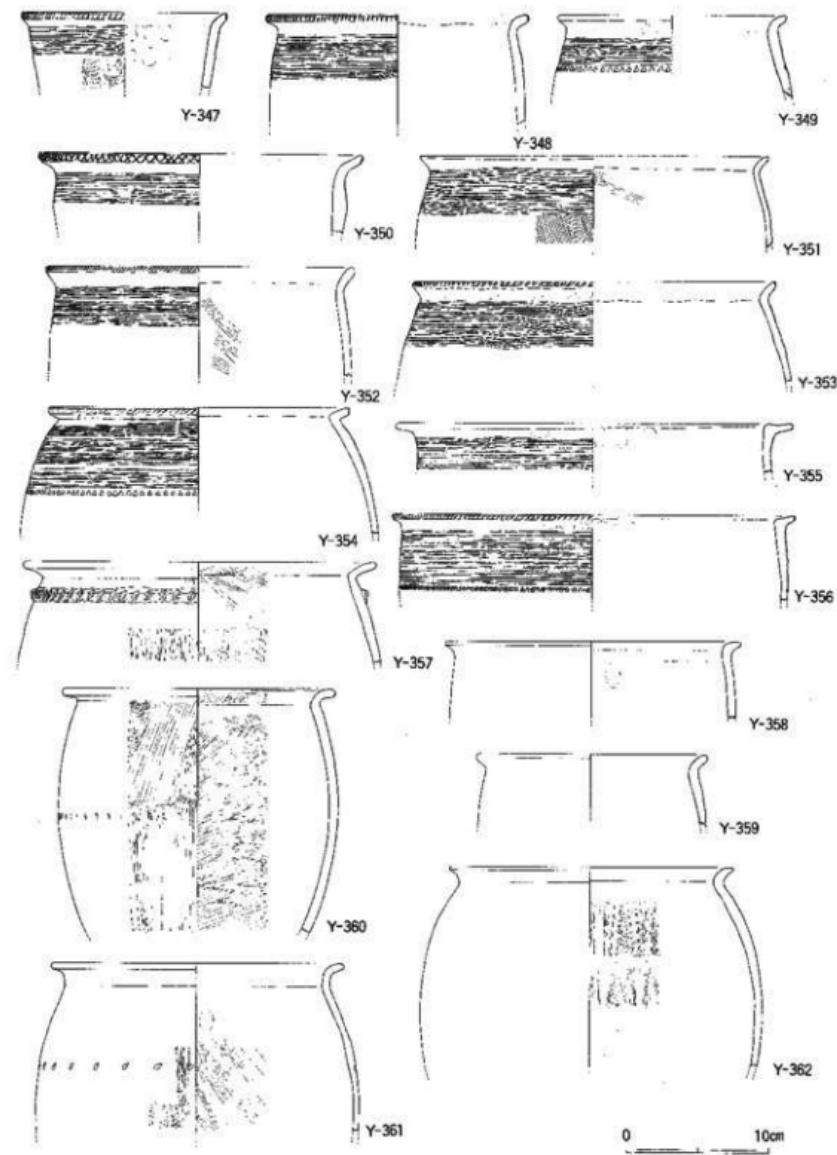
第41図 弥生土器実測図18 (1 : 4)



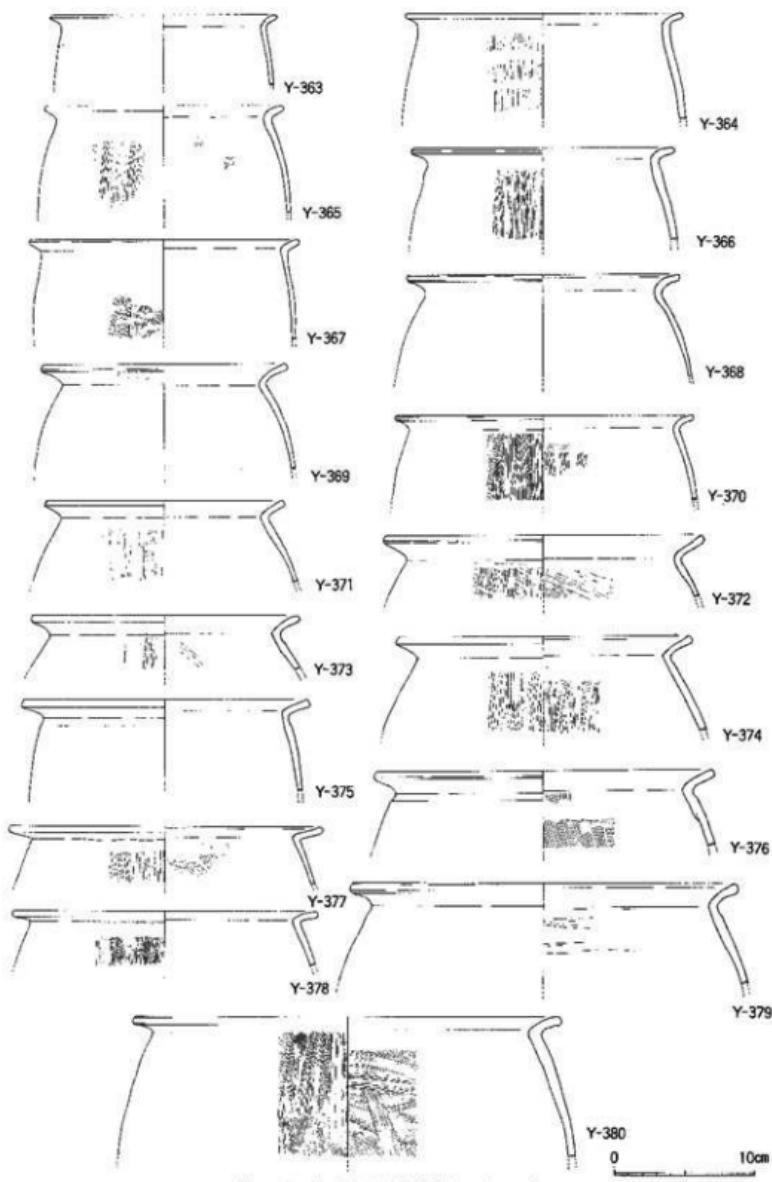
第42図 弥生土器実測図(19) (1 : 4)



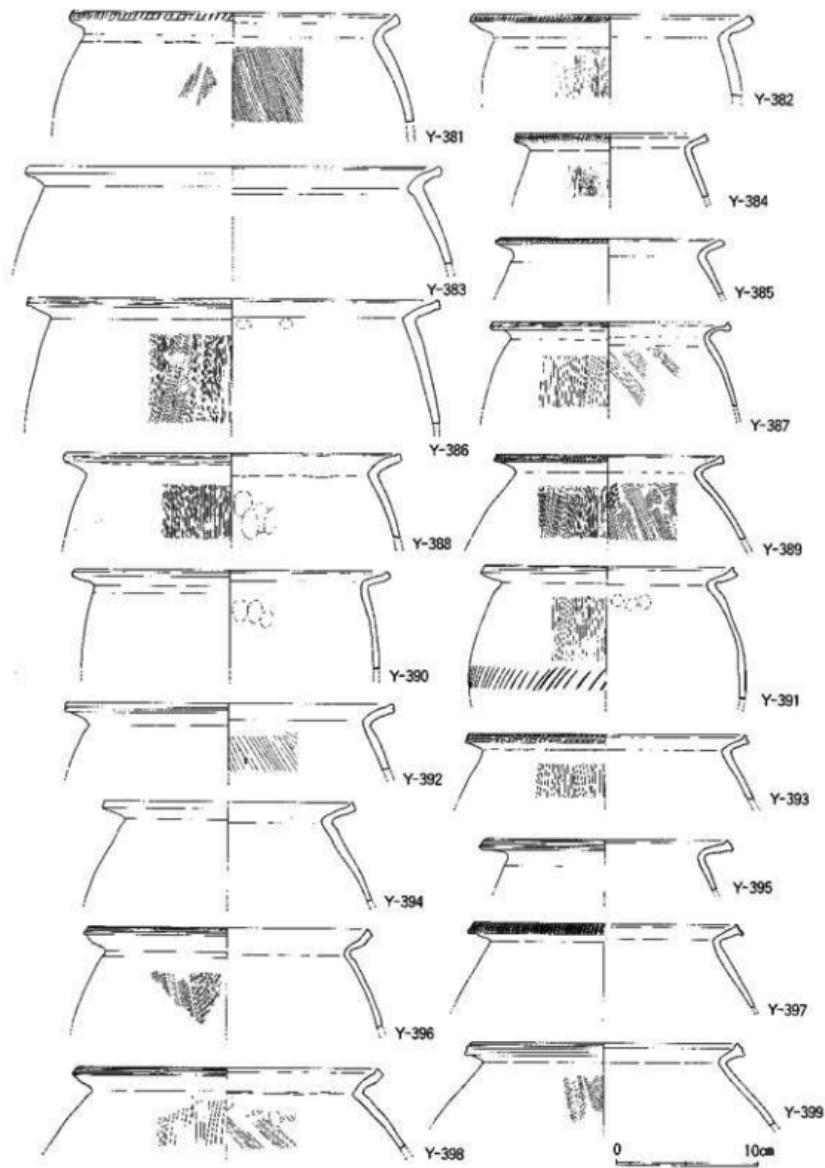
第43図 弥生土器実測図20 (1 : 4)



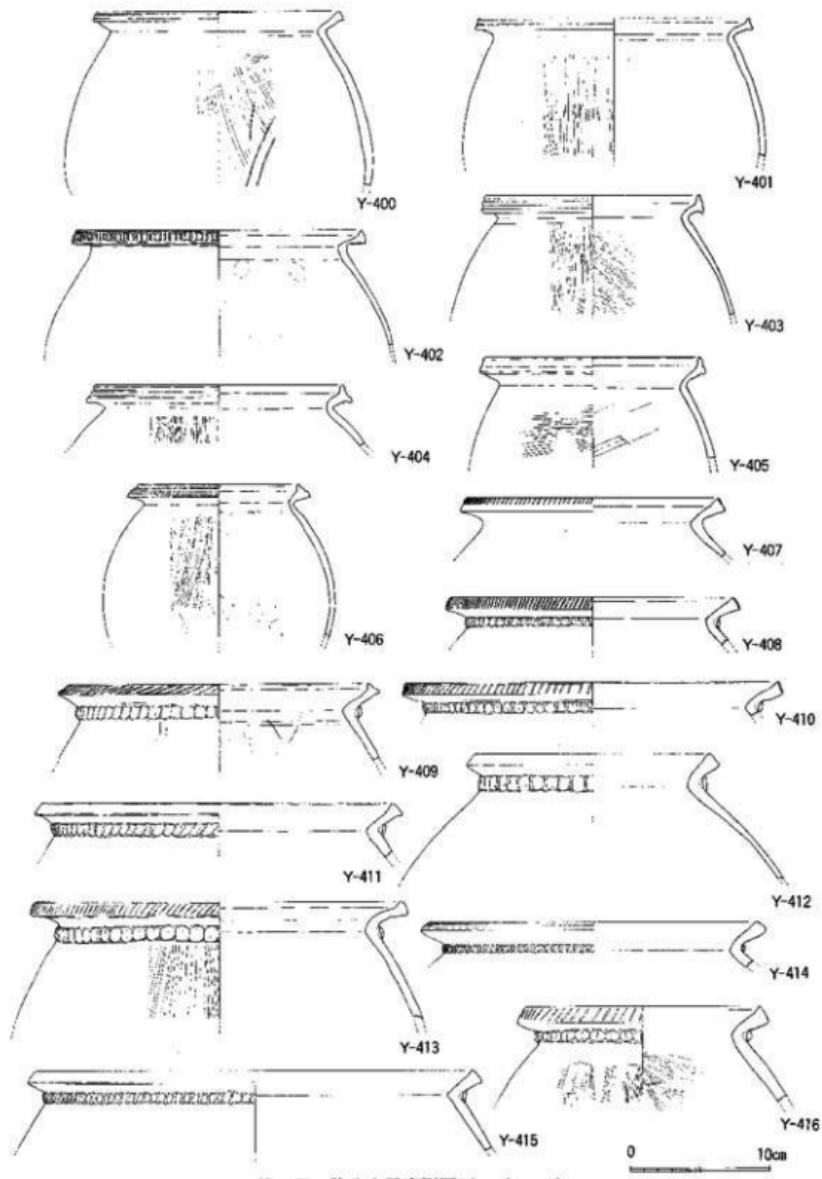
第44図 弥生土器実測図(2) (1 : 4)



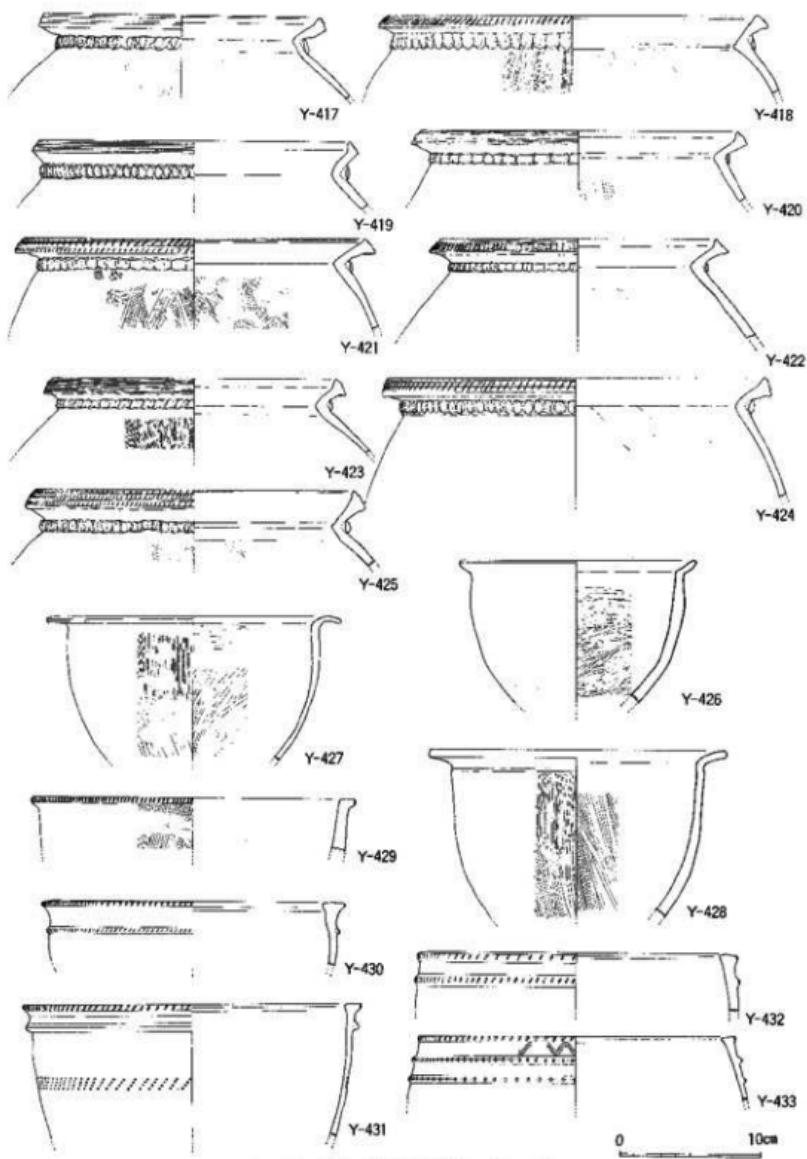
第45図 弥生土器実測図22 (1 : 4)



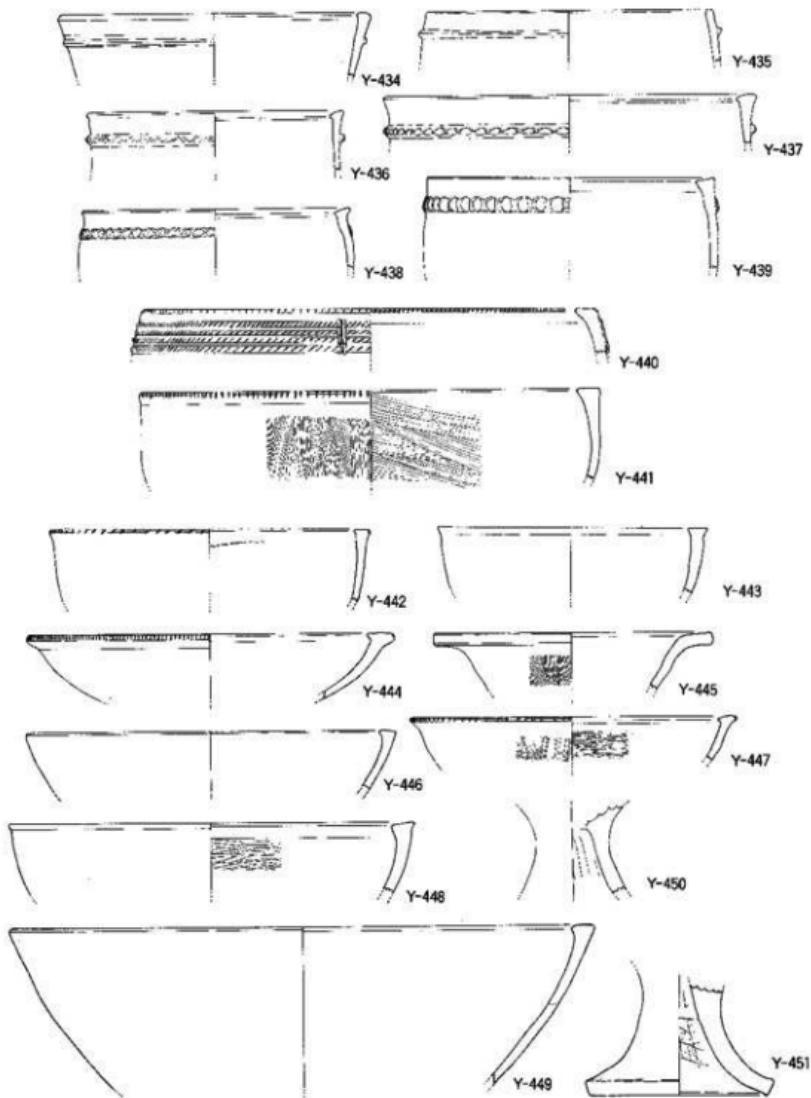
第46図 弥生土器実測図(23) (1 : 4)



第47図 弥生土器実測図24 (1 : 4)

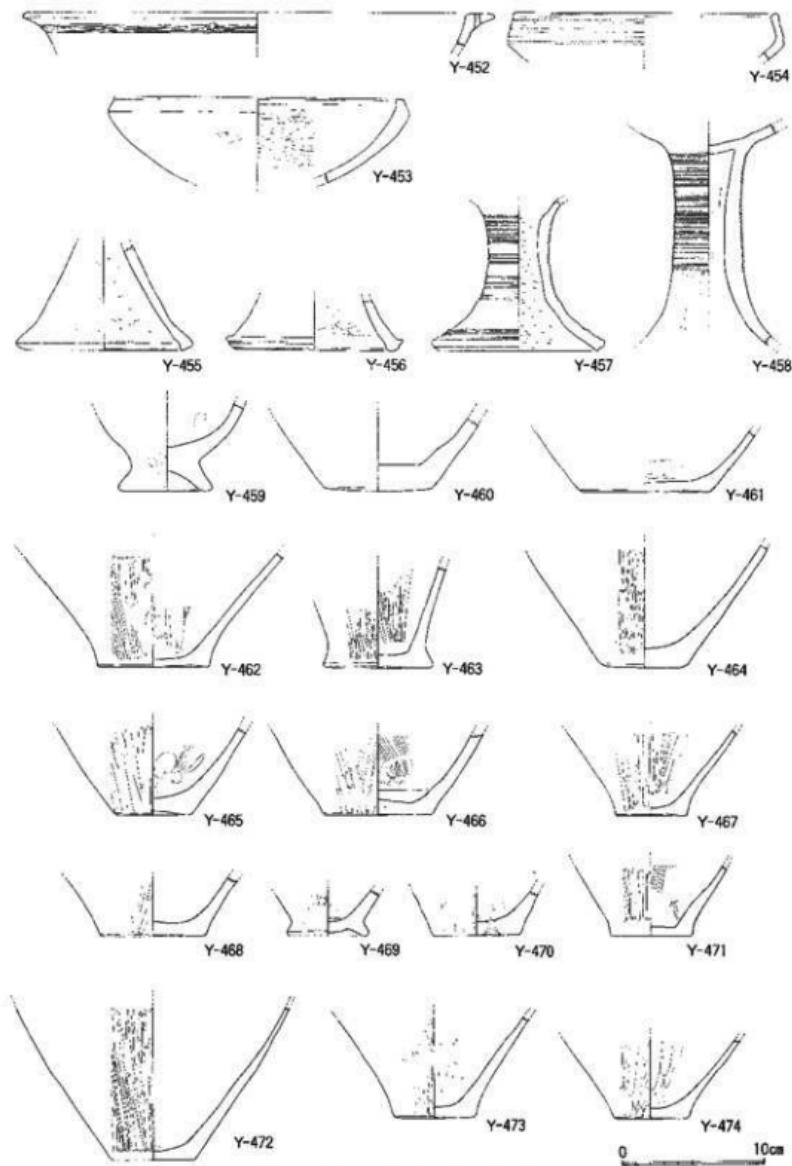


第48図 弥生土器実測図25 (1 : 4)



第49図 弥生土器実測図26 (1 : 4)

0 10cm



第50図 弥生土器実測図27) (1 : 4)

はヘラミガキ、内面はヘラケズリの後ヘラミガキが施される。胎土中には大粒の砂粒を含んでいる。

V類（Y-454）は内傾する口縁部外面に凹線文をもつものである。凹線は4条施される。

Y-455～458は脚部を図示した。

Y-455は「ハ」の字状に開く脚部で、脚端部内面に段状のへこみをもっている。外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリである。

Y-456は「ハ」の字状に開き、脚端部は段をなして外面に凹線2条が施されている。器面調整は摩滅のため外面は不明であるが、内面にはヘラケズリが見える。

Y-457は円筒状の筒部からゆるやかに開く裾部をもつもので、裾部外面には4条、脚端部には1条の凹線文を施す。筒部外面には多条のくし描き直線文が施される。内面は横方向のヘラケズリを施される。

Y-458は細長い円筒状の筒部からゆるやかに広がる裾部をもつものである。筒部外面には多条のくし描き直線文が施される。裾部外面はヘラミガキで調整され、内面にはしづり目が見られる。

底部（Y-459～474）

Y-459は低脚付きのもので、内外面ナデ調整を行う。Y-470は底面にわずかに穿孔の痕跡を残すもので穿孔の位置は中心からやや外れている。Y-473・474は内面ヘラケズリの後、上半部にヘラミガキを施すものである。

前期のものに比べると、中期の底部は全般に薄作りで小さめのものが多い。器面調整は外面ヘラミガキ、内面ハケ目の後ヘラミガキ又はナデを施すものが大半である。

註1 『下山南通遺跡』 島根県教育文化財団 1986年

(3) 後期の土器 (Y-475~558)

壺、甕、高环、器台、蓋等の器種がある。甕の出土量が圧倒的に多い。

壺 (Y-475~485)

複合口縁部の形状により4種類に分類する。

I類 (Y-475~477) としたものは、口縁端部を内傾させ上下にやや拡張する、いわゆるくりあげ口縁となるものである。端部外面には3~4条の凹線文が施されている。Y-475は口頸部が短く外反するもの、Y-476は長く外反するもの、Y-477は円筒状の頸部から緩く外反する口縁部をもつもので、いずれも内面頸部以下にヘラケズリを施す。

II類 (Y-478~480) は口縁端部が上下に拡張し、直立した複合状を呈するものである。端部外面には凹線文が施される。Y-478は口頸部が外傾して端部に至るもの、Y-479・480は円筒状の頸部から強く外反して端部にいたるものである。Y-480の内面ヘラケズリはかなり上部から行われている。

III類 (Y-481) は口縁端部を上方に拡張し、外傾した複合口縁となるものである。端部外面には凹線文が施される。

IV類 (Y-487) は複合口縁部を外反させ、外面にくし書き直線文を施すものである。

I~IV類に入らないもので、くりあげ状の口縁をもつ薄手・小形のもの土器が2点見られる (Y-483・484)。2点とも、口縁部外面に凹ませた面をもつ。Y-483は口頸部を外湾させ、内面にヘラミガキを、Y-484は内面頸部以下にヘラケズリを施す。

Y-485は最大径が上方にある小形壺である。外面下半にヘラミガキを、内面にヘラケズリを施される。

甕 (Y-486~547)

甕は複合口縁の形状により、6種類に分けた。

I類 (Y-486~495) としたものは口縁端部をやや拡張して内傾させ、くりあげ口縁となるものである。端部外面には2~3条の凹線文が施される。胴部に刺突文をもつものもあり、刺突工具にはハケ目原体を使用するもの (Y-487) や、貝殻腹縁を使用するもの (Y-495) 等がある。器面調整は外面上半ハケ目、下半ヘラミガキ、内面ヘラケズリを行っている。ヘラケズリの位置は、Y-491は屈曲部内面から削っているが、それ以外のものは屈曲部よりやや下がった位置から削っている。Y-495の内面ヘラケズリは筋状の痕跡を残す特異なものである。

II類（Y-496～512）としたものは、口縁端部がI類よりも大きく拡張され、内傾し、くりあげ状を呈するものである。端部外面には3～4条の凹線文が施される。Y-511・512は擬凹線文である。内面へラケズリの位置は屈曲部から行うものが圧倒的に多い。

III類（Y-513～520）は、口縁端部を上下に拡張し、直立した複合状を呈するものである。端部外面に凹線文をもつもの（Y-513・517）と擬凹線文をもつもの（Y-514～516・518～520）がある。

IV類（Y-521～541）は、端部上端を厚く作ったもので、複合口縁部を直立させるもの、外傾させるもの、やや外反させるもの等がある。口縁部外面に擬凹線文を施すものが大半であるが、Y-535・536には多条のヘラ描き直線文が施されている。肩部から胴部に斜行刺突文をもつものもあり、刺突工具には棒状工具を使用するもの（Y-523）、ハケ目原体を使用するもの（Y-528・538）、貝殻腹縁を使用するもの（Y-536・539）等が見られる。器面調整は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面へラケズリによるものがほとんどであるが、Y-535・536の外面にはていねいなヘラミガキが施されている。内面へラケズリの位置は屈曲部内面から行うものがほとんどである。

V類（Y-542～545）としたものは、複合口縁部が外反して長く伸びるものである。端部に丸みを帯び、外面には多条の擬凹線文が施されている。Y-545の胴部には、貝殻腹縁による押し引き状の刺突文が施されている。

VI類（Y-546・547）は、複合口縁部が外反もしくは外傾し、無文のものである。胴部の張り出しは少ない。Y-546の肩部には貝殻腹縁による羽状の刺突文が施される。

鉢（Y-548）

鉢は1点を図示した。くりあげ状の口縁をもち、便を押し潰したような形状になっている。内面下半にヘラケズリを残している。

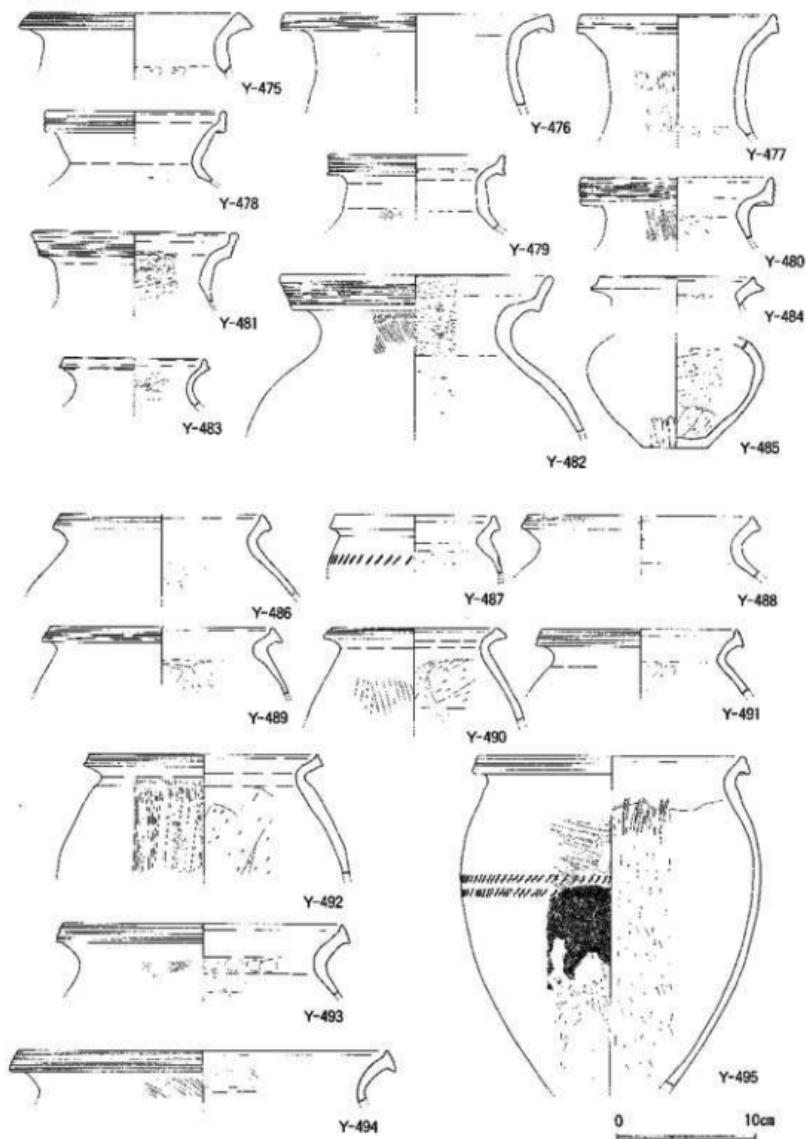
高杯（Y-549～551）

高杯は3点を図示した。Y-549は杯部が複合状を呈し長く外反するもので、外面に多条の平行線文を施している。脚部上方は細くすぼまっているが、欠損しているため下方の形状は判らない。杯部内面の調整はヘラミガキである。

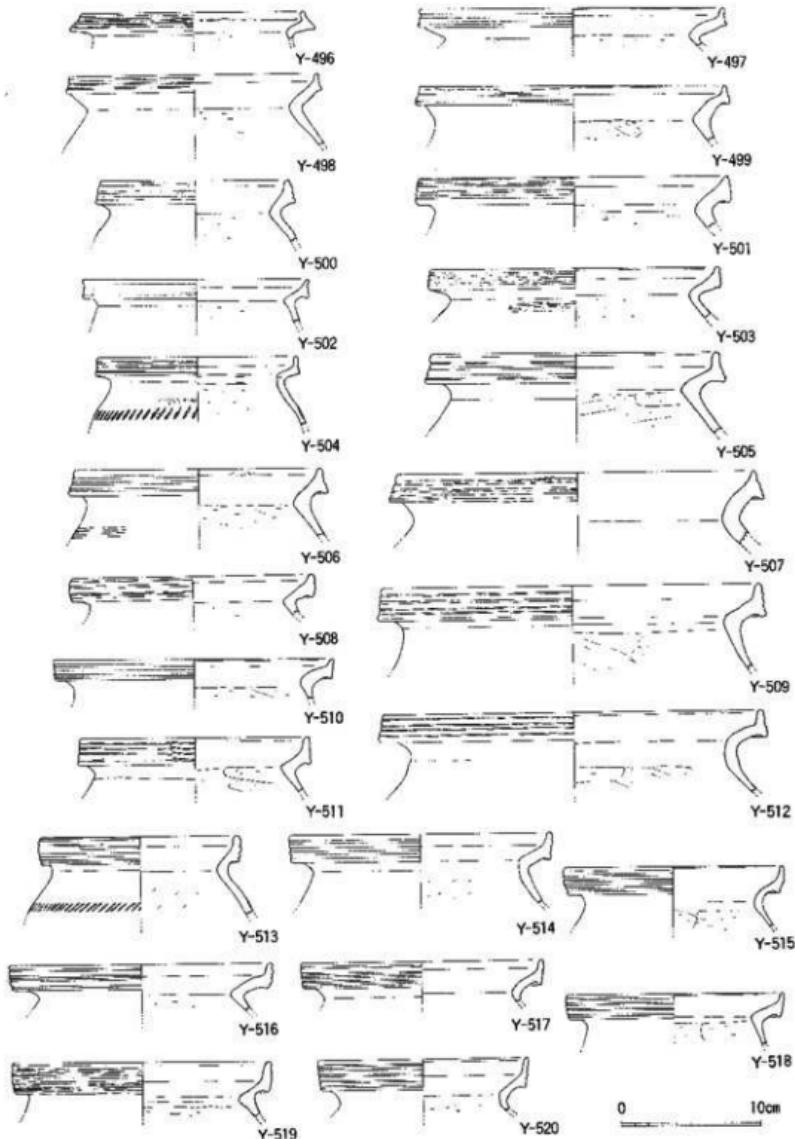
Y-550・551は複合状を呈する脚端部である。Y-550は平行直線文、Y-551は擬凹線文をもち、内面にはいずれもヘラケズリが施される。

器台（Y-552、553）

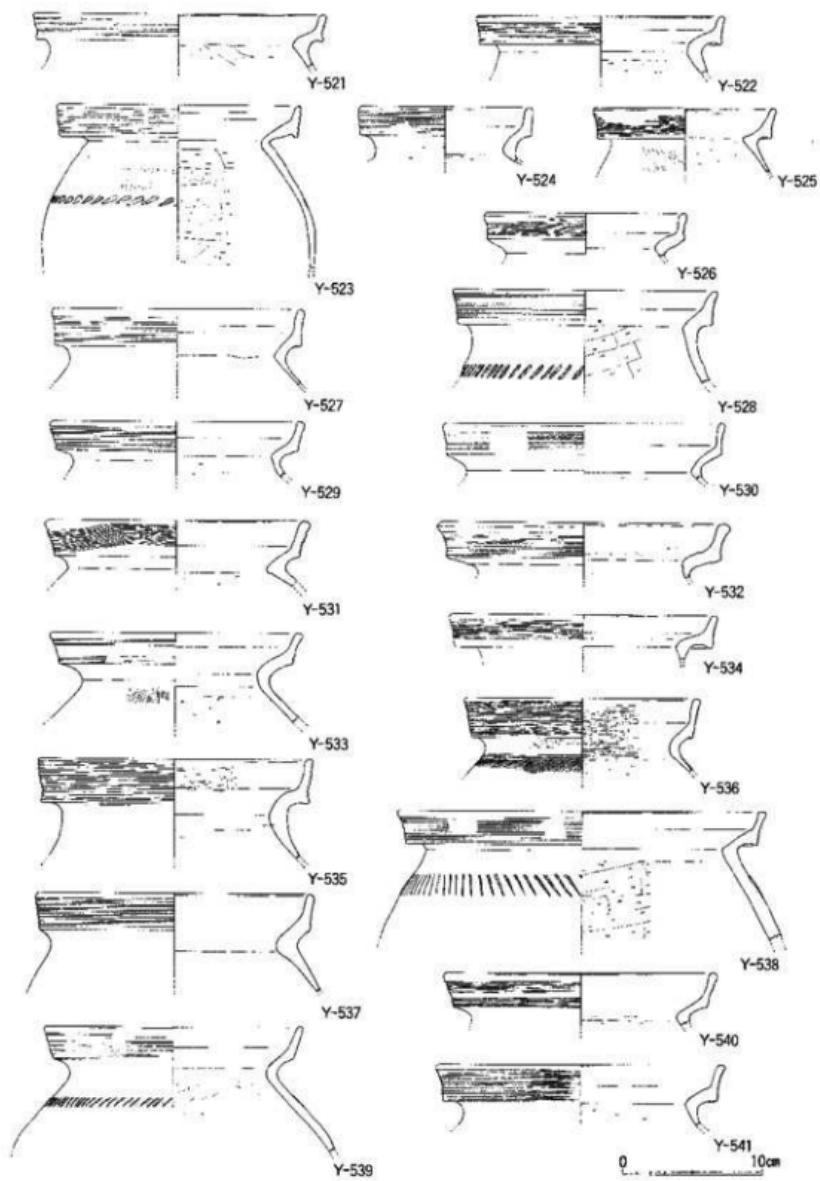
器台と考えられるものは、2点を図示した。Y-552は長く外反する複合状の脚台部である。外面に



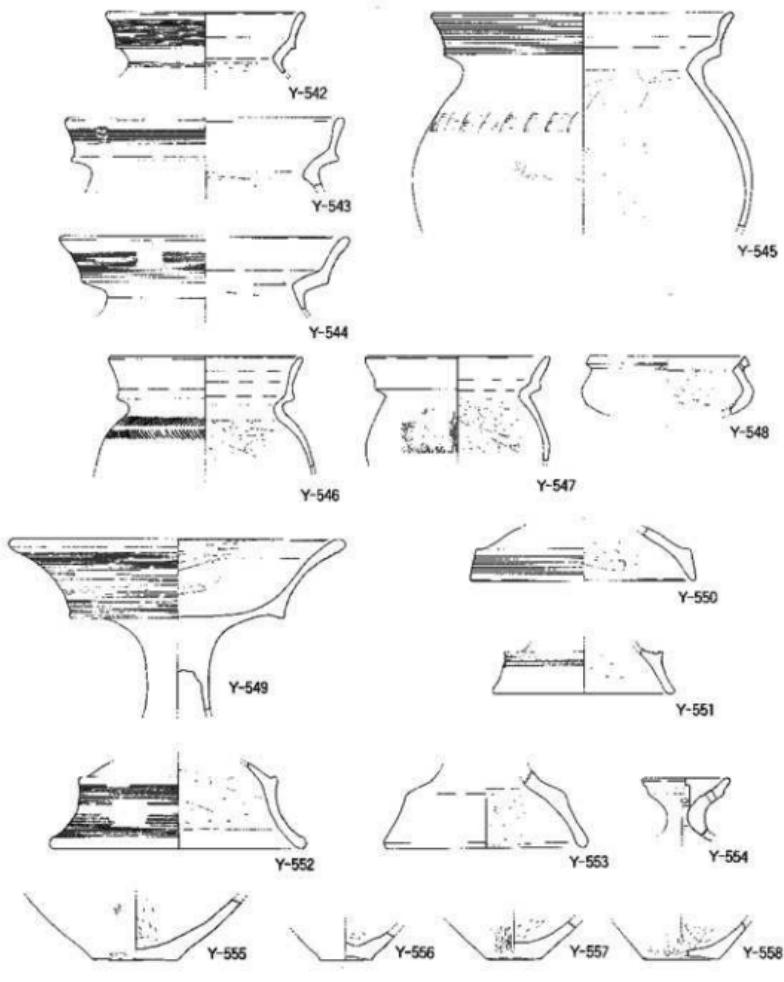
第51図 弥生土器実測図28 (1 : 4)



第52図 弥生土器実測図29 (1 : 4)



第53図 弥生土器実測図30 (1 : 4)



0 10cm

第54図 弥生土器実測図31 (1:4)

は多条のくし書き直線文が施され、一部ナデ消されている。内面はヘラケズリである。Y-553も複合状の脚台部である。この土器には外面の直線文を施されていないようである。摩滅しており外面は調整不明であるが、内面にはヘラケズリを残している。

蓋形土器（Y-554）

蓋形土器は1点のみを確認した。上部はやや外反気味の複合状を呈し、複合部直下に直径6ミリの円孔を2個対称の位置にあける。内部は直径6ミリの中空となる。器面調整は複合部ヨコナデ、屈曲部より上の内面はヘラケズリの後ナデ、屈曲部より下の内面はケズリ放しである。よく似た形態であるが内部が中空とならないものが、勝負遺跡SI14から出土^{註1}している。また、矢野遺跡出土^{註2}のものは中空になっているが、複合部に凹線文をもち、やや占式のものと考えられる。

底部（Y-555～558）

小さい平底、もしくは上げ底気味の平底のものを4点図示した。いずれも胴部に向かって大きく開くもので、外面はハケ目とナデ、又は縦方向のヘラミガキ、内面にはヘラケズリが施される。

註1 『一般国道9号松江道路建設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』 島根県教育委員会 1990年

註2 田中義昭他「出雲市矢野遺跡の発掘調査」『古代出雲文化の展開に関する総合的研究』

島根大学山陰地域研究総合センター 1989年

弥生土器観察表

層度	測量番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
Ⅱ	第24回 Y-1		S6W1	青灰色 砂疊層	口径 15.8	段	段はハケ目原体による。 内外面にヘラミガキ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:やや軟質 色調:乳灰褐色
Ⅱ	第24回 Y-2	15	N2E2	褐色 砂質土	口径 13.0	段	段はハケ目原体による。 縦かいへラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰褐色
Ⅱ	第24回 Y-3	15	N2E2	暗青灰色 砂疊層	口径 13.5	段	段はハケ目原体による。 ハケ目後へラミガキ	胎土:1mm未満の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:明灰褐色
Ⅱ	第24回 Y-4	15	S3E0	暗青灰色 砂疊層	口径 17.2	段	断滅して不明	河岸4
Ⅱ	第24回 Y-5	55年度 調査区	埋土	口径 22.2	段	段はハケ目原体による。 ヘラミガキ	胎土:密 焼成:やや軟質 色調:灰色	
Ⅱ	第24回 Y-6		S3E0	褐色 砂疊層	口径 19.2	段	段はハケ目原体による。 口唇部へラミガキ、頂部以下ハケ目	胎土:2~3mm大の砂粒 焼成:やや軟質 色調:淡褐色
Ⅱ	第24回 Y-7	15	N2E1	暗灰褐色 粘質土	口径 25.3	段	段はヘラによる 内外面にヘラミガキ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色
Ⅱ	第24回 Y-8		S2E0	暗青灰色 砂疊層	口径 20.0	段	断滅著しく不明	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色
Ⅱ	第24回 Y-9	15	S3W1	暗青灰色 砂疊層	口径 25.0	段	断滅著しく不明	胎土:2~3mm大の砂粒を含む
Ⅱ	第24回 Y-10	15	S6W1	青灰色 砂疊層	口径 18.2	段	段はヘラによる。ハケ 目後へラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:やや軟質 色調:明灰色
Ⅱ	第24回 Y-11	15	S2E1	灰褐色 砂疊層	口径 20.4	段	段はハケ目原体による。 ハケ目後へラミガキ	胎土:2~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:黄灰色
Ⅱ	第24回 Y-12	15	トレンチ内	灰褐色 砂疊層	口径 20.0	段	段はハケ目原体による 外面部:ハケ目後へラミ ガキ 内面部:ヘラミガキ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰黄色
Ⅱ	第24回 Y-13	15	N4E2	暗青灰色 砂屑	口径 16.8	段	ハケ目後へラミガキ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色
Ⅱ	第24回 Y-14	トレンチ内	紺土	口径 16.3	段	段はハケ目原体による 内外面にヘラミガキ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
Ⅱ	第24回 Y-15	N2E2	暗灰色 砂疊層		段	段はハケ目原体による 内外面にヘラミガキ	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
Ⅱ	第24回 Y-16	15	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 44.1	段	段はハケ目原体とヘラ による。ハケ目後へラ ミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰色
Ⅱ	第25回 Y-17	15	S3E0	暗青灰色 砂疊層	口径 15.8	沈縫1条(ヘラ)、沈縫の 直上に直縫3mmの円孔	ハケ目後ナデとヘラミ ガキ	胎土:1~2mm大の砂粒(白色, 焼成:良好 色調:暗灰褐色
Ⅱ	第25回 Y-18		S6W1	青灰色 砂疊層	口径 20.5	沈縫1条(ヘラ)	断滅により不明	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:明灰褐色
Ⅱ	第25回 Y-19	15	N1E2	褐色 砂質土	口径 14.5	沈縫1条(ヘラ)	内外面にヘラミガキ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色
Ⅱ	第25回 Y-20	15	S6W1	青灰色 砂疊層	口径 16.2	沈縫2条(ヘラ)	ナデか	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良 色調:暗灰褐色

器種	通番号	頭版番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
壺	第25回 Y-21	15	NIE2	褐色 砂質層	口径 18.5	ハケ目原体とヘラで段々つけて削り出し状の刃先を設け、比縫1条を施す。	外面: ハケ目後ヘラミガキ 内面: ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐褐色	
壺	第25回 Y-22	15	NIE1	褐色 砂質層	口径 10.3	頭部に削り出し状の巾広矢条を設け、その上に沈縫3条	刃先はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐褐色	
壺	第25回 Y-23	16	NIE1	青灰色 砂質土		段縫の上部にヘラによる沈縫1条	頭部にハケ目とヘラによる 外蓋: ハケ目とヘラミガキ 内面: ナデとハケ目	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 青灰色~灰褐色	
壺	第25回 Y-24	15	NIE1	青灰色 砂層		頭部にハケ目原体によく附着する削り出し状の段、その上部にヘラによる沈縫3条	内外面: ハケ目後ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰色	
壺	第25回 Y-25	16	NZE2 トレンチ内	青灰色 砂質土、 暗灰色 砂質層		沈縫1条(ヘラ)	ハケ目とナデ	胎土: 2~3mmの大砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
壺	第25回 Y-26	15	NZE2	青青灰色 砂層		段縫の下部にヘラによる沈縫2条	段はヘラによる 内外面: ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明黄色	
壺	第25回 Y-27	15	トレンチ内	砂質層		段縫の下部に沈縫2条(ヘラ)	段はヘラによる 内外面: ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明黄色	
壺	第25回 Y-28	15	NZE2 NZE1	暗赤褐色 砂層		沈縫3条(ヘラ)	ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 乳灰色	
壺	第25回 Y-29						野滅により不明	胎土: 1mmの大白色砂粒を多量に含む 焼成: 良好 色調: 暗赤褐色	
壺	第25回 Y-30	15	中央ベルト	褐色 砂質層		段縫の下部に具足施旗による沈縫2条と彫文	私はハケ目原体による。 ハケ目後ヘラミガキ		
壺	第26回 Y-31	16	NIE0	青青灰色 砂質層	底径 6.2	当期削 頭部と兩端にヘラによる沈縫5条ずつ	磨滅しているがヘラミガキ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐色	外面下半に黒斑
壺	第26回 Y-32		S200	青青灰色 砂質層		ハケ目原体による段、その上部に3条の沈縫(ヘラ)	外面: ヘラミガキ 内面: ナデ	胎土: 2~3mmの大白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河遺4
壺	第26回 Y-33	17	トレンチ内	青灰色 砂質土		ハケ目原体とヘラによる段、その上部にヘラによる沈縫4条	内外面: ハケ目後ナデ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐色	
壺	第26回 Y-34	17	S3W1 S4W1	灰褐色 砂質層		巾庄の削り出し実際上にヘラによる沈縫4条	刃先はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐色	
壺	第26回 Y-35	17	NZED	青灰色 砂質層		巾庄の削り出し実際上に沈縫5条(ヘラ)	刃先はハケ目原体とヘラによる。ハケ目後ヘラミガキ 内面: ナデ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐褐色	河遺2
壺	第26回 Y-36	17	NZE3	赤褐色 砂質土	口径 17.5	口縫前面は直をなす。 斜板子の刻み(ヘラ)。 頭部に沈縫3条(ヘラ)	ハケ目後ヘラミガキとナデ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐色	
壺	第26回 Y-37		S7E0	青灰色 砂質層	口径 20.1	頭部に沈縫(残存4条)	野滅により不明	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明褐色	
壺	第26回 Y-38	17	NIE0	青青灰色 砂質層	口径 12.6	口縫前面は直をなし。 斜板子の刻み。 頭部に沈縫(残存3条)		胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
壺	第26回 Y-39	17	NZE1	青青灰色 砂層	口径 31.6	口縫前面は直をなし。 羽状の刻み(ヘラ)。 頭部に沈縫1条	外面: ヘラミガキ 内面: ナデ?	胎土: 2mm前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色, 断面赤褐色	
壺	第26回 Y-40	17	NIE0	淡灰色 砂質土	口径 34.7	口縫前面にハケ目原体による斜板子の刻み。 頭部に沈縫2条	外面: ハケ目後ナデ? 内面: ヘラミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰色	河遺2
壺	第26回 Y-41	17	NZE2	暗灰色 砂質層	口径 16.8	頭部に削り出し状の巾広矢条、瓶底にヘラによる沈縫4条	外面: ヘラミガキとナデ 内面: 磨滅により不明	胎土: 2mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	

番号	井戸番号	区画番号	出土地点	層位	深度 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
淀	第26回 Y-42		トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 17.0	口縁周部に斜格子の刻み(貝取繩目)、頭部に内側による沈縫(馬鹿2条)	外面:ハケ日後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第26回 Y-43	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 27.0	口縁周部に斜格子の刻み(ヘラ)	断滅著しく不明	胎土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色		
淀	第26回 Y-44	17	SIEO	暗灰色 砂礫層	口径 23.0	口縁周部に羽状の割目(ハケ目原体)	ハケ日後ヘラミガキ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第26回 Y-45	17	SIEO	暗青灰色 砂礫層	口径 24.7	口縁周部に斜格子の刻み(貝取繩目)、頭部に内側による沈縫(馬鹿2条以上)	外面:ハケ日後ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河岸4
淀	第26回 Y-46		中央ベルト	暗灰色 砂層	口径 20.6	口縁周部に斜格子の刻み(貝取繩目)、頭部にヘラによる沈縫(馬鹿2条以上)	ナデか	胎土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河岸2
亞	第26回 Y-47	17	IIK	耕土	口径 20.2	ハケでによる段階下に又貝取繩目による沈縫文(馬鹿2条)	ヘラミガキ	胎土:2~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第26回 Y-48	17	NIEI	褐色 砂質土		頭部に沈縫文9条とその直下に貼付突堤文	外面:ハケ目	胎土:2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-49	17	SIEO	暗灰色 砂質土	口径 16.0	頭部に斯面三角状の貼付突堤	内外面:ヘラミガキ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第22回 Y-50	17	IIK	耕土		頭部に貼付突堤2条	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:2mmの大白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
淀	第27回 Y-51	17	IIK	青灰色 砂礫層		脇部と頭部に1条ずつ貼付突堤	内外面:ヘラミガキ		
亞	第27回 Y-52		NIEI	褐色 砂礫層		脇部と頭部にヘラ掛け沈縫文はさまれた円形の突堤文	断滅により不明	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-53	18	IIK 西面 トレンチ	青灰色 砂礫層	口径 25.6	耳状器、頭下部には貼付突堤、頭部内面にも突堤	外面:深いタテ方向の ナデ 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-54	18	SIEO	青灰色 砂礫層	底径 7.4	脇部に2条の貼付突堤	一部にハケ目が残る。 内外面:ナデか	胎土:2~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-55	17	IIK トレンチ内	青灰色 砂礫層		頭部に貼付突堤3条	外面:ハケ日後ナデ 内面:ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
淀	第27回 Y-56	17	NIEI	暗青灰色 砂質土	口径 15.3	長く外反する口縁	内外面:ヘラミガキ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	
淀	第27回 Y-57	17	NIEI	暗青灰色 砂礫層	口径 13.2	口縫部に強く外反し、頭部は縮まる	口縫部:横方向のナデ 頭部内外面:ハケ日後ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-58	17	NIEI	褐色 砂質土	口径 17.5	II頭部はゆるく外反し、頭部で面をなす	内外面:細かいヘラミガキ	胎土:密、1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-59	17	IIK トレンチ内	耕土	口径 13.2	ゆるく長く外反する口縫部	内外面:ヘラミガキ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-60	17	NIEI	暗灰色 砂質土	口径 16.8	口縫部は強く外反し、頭張りする	内外面:ナデか	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
淀	第27回 Y-61		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 18.2	口縫部はゆるく強く外反し、頭部で面をなす	外面:ヘラミガキか 内面:ヘラミガキ	胎土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
淀	第27回 Y-62		トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 14.6	口縫部は強く外反し、頭張りか	外面:一部にハケ目が残る。 内面:ヘラミガキ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黃灰色	

形質	番号	固有番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第27回 Y-63	17	NIE3	褐色 砂質土	口径 16.4	口縁部は短く外反、 側張りする	内外面:ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色~暗灰褐色	
甕	第27回 Y-64	18	NIE2	褐色 砂質土	口径 15.2	口縁部はやるく外反、 側張りする	内外面:ヘラミガキ	胎土:3~5mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第28回 Y-65	19	NIE2	褐色 砂質土		段 ヘラによる横移文、平 行線文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第28回 Y-66	19	NOE3	褐色 粘土+ (砂質土)		段 ヘラによる平行線文と 横移文	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目とナデ	胎土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄灰色	
甕	第28回 Y-67	19	NIE2	褐色 砂質土		段 ヘラによる平行線文と 横移文	外面:ヘラミガキ 内面:小明	胎土:1mm前後の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第28回 Y-68	19	SIE3	暗灰褐色 砂層		段 ヘラによる平行線文と 横移文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河通4
甕	第28回 Y-69	19	SIE1	灰褐色 砂質土		段 ヘラによる平行線文と 横移文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデか	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4
甕	第28回 Y-70	19	SIE2	褐色 砂層		ヘラによる平行線文と 横移文	ヘラミガキか	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河通4
甕	第28回 Y-71	19	NIE2	暗灰褐色 砂層		ヘラによる平行線文と 横移文	ナデ	胎土:2~4mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色~暗灰色	
甕	第28回 Y-72	19	NIE1	褐色 砂質土		ヘラによる平行線文と 横移文	ハケ目とナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第28回 Y-73	19	I区 トレンチ内	暗灰褐色 砂層		弱い段 ヘラによる平行線文と 横移文	磨拭により不明	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第28回 Y-74	19	I区 トレンチ内	暗灰褐色 砂層		ヘラによる平行線文、 斜行文、横移文	ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第28回 Y-75	19	NOE1	赤褐色 ~青灰褐色 砂層		貝殻痕跡による平行線 文と横移文		胎土:2~4mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:褐色	河通2
甕	第28回 Y-76	19	SIE3	暗灰褐色 砂層		段 ヘラによる直線文、具 貝殻痕跡による横移文	外面:ヘラミガキ	胎土:1mmの大白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4
甕	第28回 Y-77	19	SIE3	暗灰褐色 砂層		段 貝殻痕跡による平行線 文と横移文	ヘラミガキ	胎土:1~3mmの大白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色~深褐色	河通4
甕	第28回 Y-78	19	NIPE	褐色 砂質土		弱い段 貝殻痕跡による平行線 文と横移文	外面:ヘラミガキ	胎土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第28回 Y-79	19	SIE3	暗灰褐色 砂層		削り出し状の突起 刃溝上に沈縫(ヘリ)、 貝殻痕跡による直線文 と横移文	ハケ目とナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河通4
甕	第28回 Y-80	19		褐色 砂層		削り出し状の突起 刃溝上にヘラによる沈 縫2条、その直下に貝殻 痕跡による横移文	ヘラミガキ?	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第28回 Y-81	19	N4E1	暗褐色 砂質土		ヘラによる沈縫文、 貝殻痕跡による平行線 文と横移文		胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色白色	河通3
甕	第28回 Y-82	19	NIE2	褐色 砂質土		ヘラによる沈縫の間に 貝殻痕跡による平行線 文と横移文			
甕	第28回 Y-83	19	NIE2	褐色 砂層		貼付支撑 支撑上にヘラによる沈 縫、刃溝底に貝殻痕 跡による平行線文、横 移文、横移子文		胎土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	

器種	排 污 号	因版番号	出土地点	層 位	法 番 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第28回 Y-64	19	S200	縁青灰色 砂礫層		柱付壺 外側上に花繩を引き2 重ねて、下へアで 肩部に花繩下に丸孔 2つと横文と模様文		胎土:2mm以上の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊4
甕	第28回 Y-65	19	N4E2	青灰色 砂礫層		貝型腹壁による横彎文 と平行縞文、その直下 にヘラによる沈線	ナデ	胎土:1~4mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河邊2
甕	第28回 Y-66	19	N4E1	青灰色 砂礫層		貝型腹壁による横彎文 と平行縞文	ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黄褐色~暗灰色	河邊2
甕	第28回 Y-67	19	N1E1	暗灰色 砂質土		貝型腹壁による横彎文 と平行縞文	内面:ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:茶褐色	
甕	第28回 Y-68	19	N0E2	暗灰色 河底		貝型腹壁による平行縞 文と横彎文	ヘラミガキか	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊1
甕	第28回 Y-69	19	S300	縁青灰色 砂礫層		貝型腹壁による横彎文 と平行縞文	ヘラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊4
甕	第28回 Y-70	19	N1E1	褐色 砂質土		貝型腹壁による横彎文 と平行縞文		胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第28回 Y-71	19		拂上		貝型腹壁による横彎文	ヘラミガキか	焼成:良好	
甕	第29回 Y-92	20		褐色 砂礫層		ヘラによる平行縞文と 貝型腹壁による木の葉 文	削減して不明	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	
甕	第29回 Y-93	20	S3W1	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行縞文と 木の葉文	ナデか	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河邊4
甕	第29回 Y-94	20	N1E1	暗灰色 砂層		ヘラによる平行縞文と 木の葉文	ヘラミガキか	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第29回 Y-95	20	S32年度 西側区	埋土		ヘラによる木の葉文と 平行縞文	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第29回 Y-96	20	S3W1	縁青灰色 砂礫層		ヘラによる鉛刃行、平 行縞文、重圓文、木の葉 文	ヘラミガキ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊4
甕	第29回 Y-97	20	N1E2	褐色 砂礫層		ヘラによる平行縞文と 木の葉文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1~2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	
甕	第29回 Y-98	20	S3D0	縁青灰色 砂礫層		段 ヘラによる平行縞文と 重圓文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河邊4
甕	第29回 Y-99	20	N3E1	青灰色 砂礫層		貝型腹壁による平行縞 文、横彎文、重圓文	ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河邊2
甕	第29回 Y-100	20	N3E1	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる平行縞文と 重圓文	ナデか?	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 黒色、内 灰褐色	河邊3
甕	第29回 Y-101	20	N3E1	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる平行縞文と 重圓文	内外面:ヘラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊2
甕	第29回 Y-102	20	N4E2	青灰色 砂礫層		段 ヘラによる沈線4条と 貝型腹壁による重圓文	ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色~暗灰色	河邊2
甕	第29回 Y-103	20	N2E0	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる平行縞文と 山形文	ナデか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第29回 Y-104	20	S2E0	暗青灰色 砂礫層		段 ヘラによる平行縞文と 山形文	ヘラミガキとナデか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊4

器種	排 置	因 取 号	出土地点	置 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	岩土・焼成・色調	備 考
壺	第29回 Y-105	20	NIE2	褐色 砂質土		ヘラによる山形文と平行線文	ナデか	砂土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29回 Y-106	20	NIE2	トレンチ内		ヘラによる平行線文と鋸歯文	ハケ目	砂土:1mm未溝の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
壺	第29回 Y-107	20	SIE2	暗青灰色 砂礫層		斜格子文、兵船腹腰による直線文、山形文	磨減して不明	砂土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	同道4
壺	第29回 Y-108	20	NIE1	褐色 砂質土		段 羽状文、斜格子文、平行 線文	磨減して不明	砂土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色～暗褐色	
壺	第29回 Y-109	20	SIE2	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる羽状文?	内面:ハケ目	砂土:1mm前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	同道4
壺	第29回 Y-110	20	NIE3	暗灰色 砂礫層		割り出し状の突帯 突帯上に沈縫1条、ヘラによる平行線文と平行 線文	内面:ヘラミガキ	砂土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外灰褐色、内黒色	
壺	第29回 Y-111	20	NIE2	暗灰色 砂礫層		ヘラによる有輪羽状文 と平行線文	外面:ヘラミガキ、 内面:ナデ	砂土:1mm未溝の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29回 Y-112	20	SIE1	灰褐色 砂質土		割り出し状の突帯 突帯上に沈縫1条(ヘラ)	ヘラミガキ	砂土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	同道4
壺	第29回 Y-113	20	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土		割り出し状の突帯	外面:ハケ目後ヘラミ ガキ 内面:ハケド	砂土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29回 Y-114	20	NIE2	暗灰色 砂礫層		段 段の直下にヘラによる 沈縫1条	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	砂土:1mmの大白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰色	
壺	第29回 Y-115	20	NIE2	暗青灰色 砂質土		割り出し状の突帯 突帯上にヘラによる沈 縫4条以上	外面:ハケ目後ヘラミ ガキ 内面:ナデ、刮削圧痕	砂土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29回 Y-116	20	NIE2	暗灰色 砂礫層		段 段の直下にヘラによる 平行線3条	外面:ハクミガキ 内面:ハケ目後ヘラミ ガキとナデ	焼成:良好	
壺	第29回 Y-117	20	NIE3	褐色 砂質土		段 段の直下に良質堅韌による 平行線文6条	ナデ	砂土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
壺	第29回 Y-118	20	NIE2	褐色 砂質土		貼付突帶上に網み	ハケ目とナデ	砂土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第29回 Y-119	20	SIE2	暗青灰色 砂礫層		貼付突帶上をハケ目堅 體で刺し	外面:ハケ目とナデ 内面:ハケ目	砂土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	同道4
壺	第29回 Y-120	20	NIE2	暗灰色 砂礫層	口径 11.1	貼付突帶2条、ヘラによ る割目	内外面:ハケ目後ヘラ ミガキ	砂土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
無縫壺	第30回 Y-121	21	NIE2	暗青灰色 砂質土	口径 11.1	口縫部は強く内凹、円 孔が少くとも1対	内外面:ヘラミガキ	砂土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
無縫壺	第30回 Y-122	21	NIE2	暗灰色 砂礫層	口径 11.2	塊部外縫に貼付突帶、 ヘラ施き沈縫	外面:ナデか 内面:ヘラミガキ	砂土:1~3mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
無縫壺	第30回 Y-123	21	NIE3	暗青灰色 砂質土	口径 11.8	口縫部は内凹、少なくとも1対の円孔	外面:ハクミガキ 内面:ハケ目	砂土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
壺	第30回 Y-124	21	NIE2	暗灰色 砂礫層	口径 31.8	ヘラによる段	口縫部:ヨコナデ 胴部内外面:ハケ目	砂土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外褐色、内灰褐色	外側と内面の 間に長物付着
壺	第30回 Y-125	21	NIE3	暗青灰色 砂礫層	口径 34.5	ハケ目原体で作り出し た弱い段	外面:ハケ目後ヘラケ マリ 内面:ハケ目後ヘラミ ガキ	砂土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	

番号	井戸番号	層位	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
要	第30回 Y-126	NIE1	赤褐色～青灰色砂礫層	口径 21.2	ハケ目原体による剥い段	口縁部:ヨコナガ 他は内外面:ハケ目	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺2	
要	第30回 Y-127	21	NIE2	青灰色砂礫層	口径 23.7	ハケ目による段	口縁部:ナデ 側面外側:ハケ目(タテ) 側面内面:ナデ	胎土:1mm人の形を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
要	第30回 Y-128	21	NIE2	青灰色砂礫層	口径 21.0	ハケ目原体で作り出した剥い段	外面:ハケ目 内面:ナデ	胎土:12～3mm大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河遺2
要	第30回 Y-129		NIE2	褐色砂質土	口径 22.2	ヘラによる浅い沈線1条	口縁部:ナデ 他はハケ目後ナデ	胎土:1～2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面に炭化物付着
要	第30回 Y-130	21	NIE2	褐色砂質土	口径 32.7	ハケ目原体による段、剥離を厚くするもの網に張り出さない	内外面:ハケ目	胎土:1～2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:外:灰褐色、内:明灰褐色	外面にスス付着
要	第30回 Y-131		NIE2	褐色砂質土	口径 26.6	ヘラによる浅い沈線	口縁部:ナデ 側面外側:ハケ目後ナデ 側面内面:ハラミガキ	胎土:2～3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
要	第30回 Y-132	21	T区 レンチ内		口径 19.2	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頭部以下:ト内外面:ハケ目	胎土:2～3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第30回 Y-133	21	レンチ内	暗灰色砂層	口径 28.0	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頭部内面:ハケ目	胎土:1～2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第30回 Y-134		S3W1	暗青灰色砂礫層	口径 17.6	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:12～3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河遺4
要	第31回 Y-135		NIE2	暗灰色砂礫層	口径 24.1	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1mm大の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-136	21	NIE1	褐色砂質土	口径 19.4	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 側面外側:ハケ目(タテ) 頭部内面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-137		レンチ内	暗灰色砂層	口径 20.6	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナデ	胎土:1～2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-138	21	S6W1	青灰色砂礫層	口径 18.6	ヘラによる沈線1条	ナデか	胎土:1～2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着
要	第31回 Y-139	21	S6E1	暗青灰色砂礫層	口径 21.9	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頭部以下外側:ハケ目 頭部以下内面:ナデ	胎土:2～3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺4
要	第31回 Y-140	21	S6W1	青灰色砂礫層	口径 20.7	ヘラによる沈線1条	内外面:ハケ目後ナデ	胎土:1～2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-141		NIE2	青灰色砂礫層	口径 22.4	ヘラによる沈線1条	外側:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着 河遺2
要	第31回 Y-142		拂土		口径 22.4	ヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 全体外側:ハケ目後ナデ 全体内面:ハケ目	胎土:2mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-143	22	NIE2	暗灰色砂質土	口径 48.4	口縁部は面をなす。 頭部以下:ヘラによる沈線1条	口縁部:ハケ目後ナデ 頭部以下外側:ヘラミガキ	胎土:2～3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-144		レンチ内	暗灰色砂層	口径 24.3	ヘラによる沈線1条	外面:ハケ目 内面:磨滅により不明	胎土:1～2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第31回 Y-145	22	T区 レンチ内		口径 24.4	口縁部に剥日、頭部にヘラによる沈線1条	外面:ハケ目 内面:剥離により不明	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
要	第31回 Y-146	22	S3E1	暗灰色砂礫層	口径 24.1	口縁部に剥日原体による剥日、頭部にはヘラによる沈線1条	口縁部:ナデ 頭部以外内外面:ハケ目	胎土:1～3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面の一部にスス付着 河遺4

基盤	探査番号	箇所区分	出上地点	層位	径量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
要	第31回 Y-147	N2E1	褐色 砂礫層	口径 20.1	口縁部にヘラによる 削り。頭部にはヘラによ る沈跡1条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色		
要	第31回 Y-148	22	N2E2	暗青灰色 砂礫層	口径 26.8	口縁部にヘラによる 削り。頭部にヘラによ る沈跡1条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ	胎土:2mm前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付黄 河通2
要	第31回 Y-149	22	N1E1	褐色 砂礫層	口径 21.8	口縁部に波状工具に よる刮り。頭部にヘラによ る沈跡1条	外面:ハケ目 内面:ナゲ	胎土:2mm前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付黄
要	第32回 Y-150	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 26.3	ヘラ括き沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面上半と内面 下に灰化物等 く行窓	
要	第32回 Y-151	N2E2	透灰色 砂礫層	口径 32.7	ヘラ括き沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ 頭部以下内面:ナゲ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外面にスス付黄	
要	第32回 Y-152	S3P0	暗青灰色 砂礫層	口径 24.0	ヘラ括き沈跡2条	ナゲか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良 色調:灰褐色	河通4	
要	第32回 Y-153	22	S3P0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.5	ヘラ括き沈跡2条	外面:ハケ目後ナゲ 内面:ナゲ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4
要	第32回 Y-154	22	N1E1	褐色 砂質土	口径 22.0	ヘラ括き沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 (ヨコ) 頭部以下内面:ナゲか	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第32回 Y-155	N2E2		口径 19.6	ヘラ括き沈跡2条	口縁部:ナゲ 内外面:ハケ目	胎土:2~3mm大の砂粒を少量 含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付黄	
要	第32回 Y-156	22	拂土	口径 21.7	口縁部にヘラによる 削り。頭部にヘラ括き 沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:やや暗褐色		
要	第32回 Y-157	22	N1E2	暗青灰色 砂質土上	口径 13.8	口縁部にヘラによる 削り。頭部にヘラ括き 沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	
要	第32回 Y-158	22	IK	青灰色 砂質土上	口径 24.8	口縁部にヘラによる 削り。頭部にヘラ括き 沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ	胎土:2~4mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色 色調:暗褐色	外面にスス付黄
要	第32回 Y-159	S6W1 高瀬区	拂土	口径 24.4	ヘラ括き沈跡2条	口縁部:ナゲ 頭部以下ハケ目	胎土:1~3mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良 色調:外:明褐色, 内:深褐色	口縫外面にスス 付黄	
要	第32回 Y-160	22	N1E0	褐色 砂質土	口径 25.3	口縁部に剥落(真か)	口縁部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目	胎土:1mmの砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
要	第32回 Y-161	22	N4E1	暗青灰色 砂礫層	口径 25.4	ヘラ括き沈跡2条	口縫部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ 頭部以下内面:ナゲ	胎土:1mmの砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色~暗褐色	外面:灰化物 付黄 河通2
要	第32回 Y-162	22	N4E1	青灰色 砂礫層	口径 36.4	ヘラ括き沈跡2条	口縫部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通2
要	第32回 Y-163	22	N0R2	青灰色 砂質土	口径 16.4	口縫部はごく短く外反 ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
要	第32回 Y-164	22	N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.0	口縫部は短く外反し 頭部は張り出さない	外面:ハケ目 内面:ナゲか	胎土:2~4mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河通2
要	第32回 Y-165	22	S2P0	暗青灰色 砂礫層	口径 19.0	口縫部はごく短く外反	口縫部:ナゲ 頭部以下ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河通4
要	第32回 Y-166	22	N1E1	暗青灰色 砂質土	口径 16.9	口縫部は短く外反	ハケ目のちナゲ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
要	第33回 Y-167	22	S2E0	灰褐色 砂礫層	口径 20.1	ヘラ括き沈跡3条	口縫部:ナゲ 頭部以下外面:ハケ目 頭部以下内面:ナゲ	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4

番号	標本 図版 番号	図版 番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考	
東	第33回 Y-168	S250	暗青灰色 砂礫層	口径 29.6	口縁部にヘラによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	内外面:ハケ日後ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色		河岸4	
東	第33回 Y-169	22	トレンチ	口径 27.4	ヘラ搔き沈線3条	唐誠により不明	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色			
東	第33回 Y-170	23	NIE1	褐色 砂礫層	口径 22.0	口縁端部にハケ日厚体 による割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下内外面:ハケ 日後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:褐色	外間にスス付着	
東	第33回 Y-171		NIE1	褐色 砂質土	口径 29.0	口縁端部にヘクによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下内外面:ハケ 日後ナデ より不明	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-172	22	NIE1	褐色 砂質土	口径 23.0	ヘラ搔き沈線4条	口縁部:ナデ 頭部以下内外面:ハケ 日	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-173	22	地上	口径 24.8	口縁端部にヘラによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下内外面:ハケ日 後ナデ より不明	胎土:1~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色			
東	第33回 Y-174	22	NIE1	褐色 砂礫層	口径 23.7	口縁端部に貝による 割目。頭部にヘラ搔き 沈線	内外面共ハケ日後ナデ	胎土:2mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-175	22	S360	暗青灰色 砂礫層	口径 25.8	口縁端部に脱工工具 による割目。頭部にヘラ 搔き沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:唐誠に より不明 頭部以下内面:ハケ日	胎土:2~3mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色	河岸4	
東	第33回 Y-176		トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 30.6	ヘラ搔き沈線4条	内外面:ハケ日後ナデ	胎土:2~3mmの白色砂粒を 含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-177	23	S370	暗青灰色 砂層	口径 22.8	ヘラ搔き沈線5条	内外面:ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-178	23	NIE2	暗灰色 砂質土	口径 33.8	口縁端部にハク目厚体 による割目。頭部にヘラ 搔き沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ日 後ナデ 以下内面:ナデ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第33回 Y-179		NIE2	暗青灰色 砂質土	口径 19.2	口縁端部にヘラによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	ナダ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色		
東	第33回 Y-180	23	S221	暗青灰色 砂礫層	口径 34.0	口縁端部にヘラによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線3条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ日 後ナデ 以下内面:唐誠に より不明		表面外面にスス 付着 河岸4	
東	第33回 Y-181	23	S360	暗灰褐色 砂層	口径 16.1	ヘラ搔き沈線5条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ日 頭部以下内面:唐誠に より不明	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着 河岸4	
東	第34回 Y-182	23	NIE1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 20.6	口縁端部にヘラによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線2条	内外面:ナデ	胎土:2~4mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	河岸4	
東	第34回 Y-183	23	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 32.0	ヘラ搔き沈線4条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ 日後ナデ	胎土:2~3mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第34回 Y-184	23	トレンチ	青灰色 砂質土	口径 21.8	ヘラ搔き沈線7条	ナデ	胎土:2~3mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:深褐色		
東	第34回 Y-185	23	NIE2	褐色 砂礫層	口径 29.0	口縁端部にヘクによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線4条	口縁部:ナデ 頭部以下内外面:ハケ 日	胎土:2mm人の砂粒を 含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面の一部にス ス付着	
東	第34回 Y-186	23	NIE2	暗褐色 砂質土	口径 22.4	口縁端部にヘクによる 割目。頭部にヘラ搔き 沈線4条	内外面:ナデか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着	
東	第34回 Y-187	23	NIE1	褐色 砂礫層	口径 26.9	ヘラ搔き沈線6条	口縁部:ナデ 頭部以下外面:ハケ日 後ナデ 以下内面:ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色		
東	第34回 Y-188	23			口径 30.8	口縁端部にハク目厚体 による割目。頭部にヘラ 搔き沈線6条	外面:ハケ日 内面:ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色		

器種	排 置	國 号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第34國 Y-195	NIE1	青灰色 砂層	口径 25.0	口縁端部にへらによる 割目。腹部にへら捺き 沈模6条	内外面:ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 燒成:赤紅 色調:褐色	外間にスス付着 河岸2	
甕	第34國 Y-196	23	NIE1	青灰色 砂質土	口径 24.0	口縁端部に崩落した割 目(へら)。腹部にへら捺 き沈模6条	口縫部:ハイ目模ナデ 腹部以下外面:ヘラミ ガキ 腹部以下内面:ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	外間にスス付着 河岸2
甕	第34國 Y-197	23	NIE1	褐色 砂層	口径 36.0	口縁端部にへらによる 割目。腹部にへら捺き 沈模6条	ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	
甕	第34國 Y-198	24	NIE1	青灰色 砂層	口径 40.0	口縁端部にハイ目原体 による割目。腹部にへ ら捺き沈模6条	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ 目	胎土:12mm人の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	河岸2
甕	第35國 Y-199	23	トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 34.5	口縁端部にへらによる 割目。腹部にへら捺き 沈模6条	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ 目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	外間にスス少量 付着
甕	第35國 Y-200	23	NIE2 河底	青灰色 砂層	口径 28.2	口縁端部にへらによる 割目。腹部にへら捺き 沈模7条と崩円形割 文	内外面:ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	河岸1
甕	第35國 Y-201	23	トレンチ内	造灰色 砂層	口径 22.4	6条のへら捺き沈模と 崩円形の割裂文	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ヘラミ ガキ 腹部以下内面:ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	外間にスス付着
甕	第35國 Y-202	23	NIE2	青灰色 砂層	口径 35.2	口縁端部にへらによる 割目。腹部にへら捺き 沈模10条と三角形の割 裂文	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:ヘラミ ガキ	胎土:12mm人の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	河岸4
甕	第35國 Y-203	NIE2	青灰色 砂層	口径 10.1	口縫部はごく短く外反、 口径の小さなも	ナデ	胎土:1~2mm人の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:褐色	河岸2	
甕	第35國 Y-204	23	トレンチ内		口径 13.4	逆し字状口縫。腹部に へら捺き沈模にはさまれた円形割文が2段	磨滅により不明	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:褐色	
甕	第35國 Y-205	23	SSED	青灰色 砂層	口径 34.4	逆し字状口縫。	内外面:磨滅により不明	胎土:1~5mm大の砂粒を含む 燒成:良 色調:灰赤色	河岸4
甕	第35國 Y-206	23		青灰色 砂質土	口径 16.8	逆し字状口縫。腹部に へら捺き沈模(残存?)	内外面:ナデか	胎土:2mmの大砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	
甕	第35國 Y-207	23	NIE2	青灰色 砂層	口径 23.4	逆し字状口縫。腹部に へらによる割目。腹部 へら捺き沈模3条	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:細かい 凹凸	胎土:2mmの大砂粒を多く含む 燒成:良紅 色調:褐色	外間にスス付着
甕	第35國 Y-208	23	NIE2	青灰色 砂質土	口径 22.4	逆し字状口縫。腹部に へらによる割目。腹部 へら捺き沈模6条	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:ナデ	胎土:2mm人の砂粒を多く含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	外間に炭化物付着
甕	第35國 Y-209	23	拂土		口径 29.7	口縫端部に崩落した割 目(へら)。腹部にへら捺 き沈模4条と円形割裂文(管 状)	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:ハイ目 後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	
甕	第35國 Y-210	23	NIE2	青灰色 砂質土	口径 30.1	口縫端部に崩落した割 目(へら)。腹部にへら捺 き沈模5条と円形割裂文(管 状)	口縫部:ナデ 腹部以下内面:ハイ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	
甕	第35國 Y-211	23	NIE1	赤褐色 砂層	口径 26.0	口縫端部外面にへらによ る割目。腹部にへら捺 き沈模3条、円形の割 裂文	口縫部:ナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:ハイ目 後ナデ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	河岸2
甕	第35國 Y-212	25	NIE2	青灰色 砂層	口径 19.8	口縫部は外反	ハイ目後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:褐色	外間にスス付着
甕	第35國 Y-213	25	NIE3	青灰色 砂層	口径 21.7	口縫部は短く外反	口縫部:ヨコナデ 腹部以下外面:ハイ目 腹部以下内面:ハイ目 後ナデ	胎土:2~3mm大の砂粒を多く 含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	外間にスス 内間に炭化物付 着
甕	第36國 Y-208	24	拂土		口径 13.6	口縫端部に崩落した 割目(へら)。円形割文(4枚)	ナデ	胎土:1~2mm人の砂粒を多く 含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	
甕	第36國 Y-209	24	NIE2	青灰色 砂質土		へらによる平行沈模、 竹管状工具による円形 割裂文	外面:ハイ目 内面:ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を含む 燒成:良紅 色調:灰褐色	

番号	地名	測定番号	出上地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
便	第36回 Y-210	24	NIE1	暗青灰色 砂礫層		ヘラによる平行波線の間に円形刺突文(竹筋状工具)	ハケ目	胎土:1~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	河道2
便	第36回 Y-211	24	NIE2	暗青灰色 砂質土		ヘラによる平行波線の間に円形刺突文	ナデか	胎土:2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
便	第36回 Y-212	24	SIE2	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行波線の間に橢円形の刺突文	ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4
便	第36回 Y-213	24	NIE1	暗灰褐色 粘質土		ヘラによる平行波線の間に橢円形の刺突文	外側:ハケ目 内面:ナデか	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深色	河道3
便	第36回 Y-214	24	NIE2	褐色 砂礫層		ヘラによる平行波線3条の間に橢円形の刺突文	ハケ目とナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色	
便	第36回 Y-215	24	NIE2	灰褐色 砂礫層		ヘラによる平行波線と長楕円形の刺突文	ヘラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
便	第36回 Y-216	24	NIE1	暗褐色 砂層		ヘラによる平行波線に楕円形の刺突文2段	ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着 河道2
便	第37回 Y-217	25	NIE2	暗灰色 砂礫層		口縁部はごく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道1
便	第37回 Y-218	25	NIE2	暗灰色 砂礫層 粘土上	口径 15.2	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	
便	第37回 Y-219	25	NIE1	赤褐色 一帯灰色 砂礫層	口径 15.1	口縁部は短くわずかに外反	口縁部:ナデ 他は内外面:ハケ目	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外表面に炭化物付着 河道2
便	第37回 Y-220	25	NIE1	褐色 砂質土	口径 25.3	口縁部はゆるく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深灰褐色	
便	第37回 Y-221	25	NIE2	褐色 砂礫層	口径 24.0	口縁周囲にヘラによる 刈目	口縁部:ハケ目後ナデ 頭部以下:ハケ目	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面スス付着
便	第37回 Y-222	25	NIE2	暗灰色 砂質土	口径 23.4	口縁部は外反	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色	
便	第37回 Y-223	25	SIE2 黄斑	埋土	口径 22.4	口縁端部外間にヘラによる 刈目	ハケ目後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色	外面にスス付着
便	第37回 Y-224	25	NIE2	暗灰色 砂礫層	口径 26.4	口縁端部外間にヘラによる 刈目	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:深褐色→暗褐色	外面にスス付着
便	第37回 Y-225	25	NIE2	暗灰色 砂質土	口径 21.0	口縁部は短く外反、頭 部はやや膨張する	口縁部:ナデ 頭部以下:ナデ 内面:ハケ目後ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外表面全体と内面 の半分に炭化物付着
便	第37回 Y-226		SIE2	暗青灰色 砂礫層	口径 28.9	口縁部短く外反	ナデ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:深灰褐色	外表面に炭化物付着 河道4
便	第37回 Y-227	25	NIE2	褐色 砂質土	口径 21.4	口縁部はごく短く外反	ナデか	胎土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
便	第37回 Y-228		NIE2	青灰色 砂礫層	口径 30.8	口縁部は外反	ナデか	胎土:1~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2
便	第37回 Y-229		拂土		口径 23.0	口縁端部にヘラによる 刈目	ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
便	第37回 Y-230		NIE2	淡褐色 砂質土	口径 31.2	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:1~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河道2

番号	器種	器 種 名 号	固 定 番 号	出土点	層位	比 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
彌	第37彌Y-231	25	1区 トント内	青灰色 砂質土	口径 18.6	口縁部はゆるく短く外反し、胴部はやや張り出す	ハケ目後ナデ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
彌	第37彌Y-232		N2E1	褐色 砂質土	口径 35.6	口縁部は短く外反	外面:ハケ目後ナデ 内面:ハケ目	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡褐色, 内 黒褐色		
彌	第37彌Y-233	25	N0E2 河通内	褐色 砂質土	口径 15.5	口縁部はごく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通1	
彌	第38彌Y-234	25	S3E0	暗青灰色 砂質土	口径 27.1	口縁部は外反し、胴部はやや張り出す	口縁部以下外面:ハケ目 胴部以下内面:ハケ目 後ナデ	焼成:良好		河通4
彌	第38彌Y-235	25	N2E1	淡褐色 砂質土	口径 29.4	口縁部外周にへたりとく刺さり出す	ハケ目後ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
彌	第39彌Y-236	25	N0E2 河通内	深褐色 砂質土	口径 33.6	口縁部は短く外反、胴部はやや張り出す	ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
彌	第38彌Y-237	25	N0E2 河通内		口径 34.4	口縁部は短く外反	外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通1	
鉢	第38鉢Y-238	26	N1E1	褐色 砂質土	口径 13.6	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		外間に黒斑
鉢	第38鉢Y-239	26	N1E1	褐色 砂質土	口径 17.4	口縁部はゆるく短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
鉢	第38鉢Y-240	26	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 19.2	口縁部は短く強く外反	ヘラミガキ	胎上:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 淡褐色, 内 黑褐色	河通2	
鉢	第38鉢Y-241	26	S3E0	暗青灰色 砂質土	口径 18.8	口縁部は屈曲して短い	ハケ目後ナデ	胎上:2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4	
鉢	第38鉢Y-242	26	N4E1	青灰色 砂質土		ヘラ撒き沈縫2条	ヘラミガキ	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		内面に加添 河通2
鉢	第38鉢Y-243	26	N0E0	暗褐色 砂質粘土	口径 20.0	口縁部は短く屈曲	外面:ナデ 内面:ナデとヘラミガキ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
鉢	第38鉢Y-244	26	N1E1	褐色 砂質土	口径 26.0	口縁部は短く外反	ハケ目後ナデ	胎土:1~3mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色		
鉢	第38鉢Y-245	26	N0E2	茶褐色 砂質土	口径 34.4	口縁部は短く強く外反し、底部が細くて浅い 沈縫1条	口縁部:ハケ目後ナデ 全体:ハケ目 底部以下内面:ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:外 黑褐色, 内 淡褐色	外間にスミ付若	
鉢	第38鉢Y-246	26	N1E1	暗褐色 砂質土	口径 22.6	直口の口縁, 把手付	ハケ目後ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を少々含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
鉢	第38鉢Y-247	26	N1E2	褐色 砂質土		把手付, 口縁部は外反して伸びるか	外面:ハケ目後ナデ 内面:ナデ	胎土:2~3mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
蓋	第39蓋Y-248	26	拂士			大井部に突起(2つ), 天井部の直下にへたりとく刺さり1条	ナデ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
蓋	第39蓋Y-249	26	N2E2	暗灰色 砂質土	天井径 5.2	天井部は平底	指頭付底 外外面:ヘラミガキ	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
蓋	第39蓋Y-250	26	N2E1	暗褐色 砂質土	天井径 6.0	天井部は平坦	内外面:ヘラミガキ	胎土:2mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	内面黒斑	
蓋	第39蓋Y-251	26	N0E2 河通	暗褐色 砂質土	天井径 6.7	天井部は平坦	内外面:ナデ, 指頭底	胎土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通1	

器種	持 瓶 号	國 種番号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
盃	第39回 Y-252	26	NIE2	暗灰色 砂礫層	天井径 6.2	天井部は平坦	内外面: ハラミガキ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
盃	第39回 Y-253		NIE2	暗青灰色 砂質土	底径 11.3	しっかりした平底	外表面: ハケ目 内面: ハラミガキ 底部外面: ヘラケズリ	胎土: 2~4mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗白色	
盃	第39回 Y-254	27	トレンチ内	暗灰色 砂質土	底径 10.6	しっかりした大きな平底	外表面: ナデか 内面: ハラミガキとナ デ	胎土: 2~3mmの大砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 外: 暗色, 内: 淡褐色	外面に黒斑
盃	第39回 Y-255	27	NIE1	褐色 砂質土	底径 11.4		ナデか	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 暗灰褐色	
盃	第39回 Y-256	27	NIE2	暗灰色 砂礫層	底径 9.2	しっかりした平底, 底 外側にヨミやわらの压 痕	外表面: ハケ目後ヘラミ ナデ 内面: ハケ目後ナデ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 外: 暗褐色~墨褐色, 内: 暗褐色	
盃	第39回 Y-257	27	NIE2	暗青灰色 砂礫層	底径 9.8	しっかりした平底	外表面: ハケ目 内面: ナデ	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外間に炭化物付 着
盃	第39回 Y-258	27	トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 5.4	小さめの早い平底	内外面: ヘラミガキ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面の1/3程度
盃	第39回 Y-259		中央ベルト ~青灰色 砂礫層	底径 9.4	しっかりした平底	内外面: ハラミガキ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 黄灰色		
盃	第39回 Y-260		NIE3	墨灰色 砂質土	底径 7.3	しっかりした平底	内外面: ハラミガキ	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 黄褐色, 内面灰褐色	底外面黒斑
盃	第39回 Y-261	27	SSED	暗青灰色 砂礫層	底径 7.6	円錐状の平底	外表面: ハケ目後ヘラミ ナデ 内面: ハラミガキとナ デ	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
盃	第39回 Y-262	27	NIE1	褐色 砂質土	底径 9.9	しっかりした平底	外表面: ナデ 内面: ハラミガキ	胎土: 2~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
盃	第39回 Y-263	27	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	底径 6.6	しっかりした平底	外表面: ナデか 内面: ハケ目後ナデ, 接 觸汗垢が着しい	胎土: 1~3mmの大砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 暗褐灰褐色	河道2
盃	第39回 Y-264	27	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 8.1	しっかりした平底	内外面: ハケ目後ナデ	胎土: 1~3mmの大砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
盃	第39回 Y-265	27	トレンチ内	暗灰色 砂層		底面に直径1.8cmの孔	外表面: ハラミガキ 内面: ナデ 穿孔は焼成跡か	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
盃	第39回 Y-266	27	NZW1	暗青灰色 砂礫層	底径 7.7	底面に直径1.3cmの孔	外表面: ハケ目後ナデ 内面: ナデ 穿孔は焼成跡	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
盃	第40回 Y-267	28	SSE1	暗青灰色 砂礫層	口径 16.8	口縁部はゆるく外反し, 青灰色の底面に4条のく し推き状文様が3周以上	ナデ	胎土: 2~3mmの大砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
盃	第40回 Y-268	28	トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 10.8	口縁部は緩く外反し, 青灰色の底面に4条のく し推き状文様が3周以上	ナデ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
盃	第40回 Y-269	28	SSE1	赤褐色 砂質土	口径 11.0	逆L字口縁, 滑擦にへ りによる剥落の跡目。 筒状の底面にくし推き 状文	ハケ目とナデ	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
盃	第40回 Y-270	28	NIE1	暗灰色 粘質土	口径 10.6	口縁部は平底面をも つて、側面に直徑1.5cm の横状文が少なくとも 3周	ハケ目後ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
盃	第40回 Y-271	28	SZW1	暗青灰色 砂層	口径 18.2	L字縁部は軽度外反し, 底面にへりによる剥落をもつ て沈縫1条	ハケ目後ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
盃	第40回 Y-272	28	SZS10	暗青灰色 砂層	口径 16.2	L字縁部は大きく開き, 底面にへりによる剥落と 沈縫1条	ナデか	胎土: 白色散砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4

番号	場所	国名	開拓番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
表	第40回 Y-273	28	NIE2	河道		口径 21.0	口縁部は星曲文様に開き、端部で圭をなす	ハケ目とナデ	胎土: 1~2mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	河道1
表	第40回 Y-274	28	NIE1	褐色 砂質土	口径 19.5	口縁部は下方に試張し、ハケ目窓体による窓口	磨滅して不明		胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-275	28	NIE2	暗灰色 砂質土	口径 15.2	口縁部は大きく開き、窓部はやや内凹、端部に刻みをもつ貼付突起	ハケ目後ナデ		胎土: 白色微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-276	28	NIE1	灰褐色 粘質土	口径 19.2	口縁部は肥厚、窓部外側に指揮突起文書	ナゲ		胎土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-277	552年度 調査区		埴土			窓部貼付突起3条	ハケ目後ナデ	胎土: 小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-278		NIE2	竹灰色 砂礫層			窓部貼付突起3条	外底: ハケ目後ナデ 内底: ナデ	胎土: 灰 焼成: 良好 色調: 灰褐色	河道2
表	第40回 Y-279	28	NIE3	褐色 砂礫層			窓部貼付突起3条、窓部にくし押き施文と被状文	外底: ハケ目 内底: ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-280	28	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 24.3	口縁部は大きく開き、窓部は下方に試張	外底: ハケ目後ナデ 内底: ナゲ		胎土: 微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	
表	第40回 Y-281	28	S3W1	暗青灰色 砂礫層			窓部に指揮突起文書(残存2枚)	外底: ハケ目 内底: ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 黄茶褐色	河道4
表	第40回 Y-282	28	NIE3	暗灰色 砂礫層	口径 20.0	口縁部は直線的に外傾し、端部は平坦、外面にによる試縫と継ぎ文	磨滅して不明		胎土: 灰 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	
表	第40回 Y-283	28	NIE1	暗灰褐色 粘質土	口径 21.8	直線的に外傾してたちあがる口縁部、端部は上置で平坦、粘付突起部	ナゲ		胎土: 白色微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道3
表	第40回 Y-284	28			口径 22.9	直線的に外傾してたちあがる口縁部、端部は平面面をなし、粘付突起3条	ハケ目後ナデ		胎土: 微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-285	28	NIE1	褐色 砂礫層	口径 23.9	外傾する口縁部、外側に凹窓	磨滅			
表	第40回 Y-286	28	NIE1	褐色 砂礫層			直線的に開く口縁部、直線・L字型の貼付突起とたて方向に粘りひも貼付による指揮正規文書	磨滅して不明	胎土: 小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-287	28	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 21.5	外傾する口縁部、窓部はL字型の貼付突起とたて方向に粘りひも貼付による指揮正規文書	内底: ハケ目		胎土: 白色微砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第40回 Y-288	28	NIE2	暗灰色 粘質土	口径 24.0	直線的に外傾する口縁部、窓部はL字型の貼付突起とたて方向に粘りひも貼付による指揮正規文書			胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第41回 Y-289	29	552年度 調査区	埴土	口径 19.0	口縁部は下方に試張し、くし押きの施文文と円形浮子文、内底にはくし押き施文	外底: ハケ目 内底: ヘラミガキ		胎土: 灰 焼成: 良好 色調: 淡黄褐色	
表	第41回 Y-290	29	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 17.6	口縁部は下方に試張し、くし押きの施文文と円形浮子文、内底にはくし押き施文	外底: ナデ		胎土: 白色微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	河道4
表	第41回 Y-291	29	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 31.1	口縁部は下方に試張し、くし押きの施文文	ナゲ		胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	河道4
表	第41回 Y-292		NIE2	暗灰色 粘質土	口径 29.5	口縁部は下方に試張し、くし押きの施文文	ナゲ		胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	
表	第41回 Y-293	30	拂土		口径 19.2	口縁部は上下に試張し、へらによる斜格子文	ハケ目		胎土: 1mm未満の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰褐色	

器種	種 子	固 定 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・施成・色調	備 考
甕	第41回 Y-294	30	NIE1	暗青灰色 砂層	口径 25.0	口縁端部は下方に施張 し、くし書きの刺繡子文	ナデか	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深青灰色	河運2
甕	第41回 Y-295	30	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂層層	口径 21.0	口縁端部は上下に施張 し、ハケ目原体による 刺繡文	ナデか	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深青灰色	
甕	第41回 Y-296	30	NIE1	褐色 砂層層	口径 30.6	口縁端部は下方に施張 し、くし書きの刺繡子文	ナデ	胎土: 粗砂粒を含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第41回 Y-297	29	NIE1	青灰色 砂層層	口径 27.5	口縁端部は下にやや 施張し、同様3条とヘラ による刺繡。内面には 凹凸5条	ナデ	胎土: 小砂粒を含む 施成: 良好 色調: 淡褐色	
甕	第41回 Y-298		NIE1	褐色 砂質土	口径 22.1	口縁端部は上にやや 施張し、刺繡子文。内面 はくし状工具による刺 繡文	ナデか	胎土: 白色小砂粒を含む 施成: 良好 色調: 淡褐色	内面の一帯黒変
甕	第41回 Y-299	30	NIE1	青灰色 砂層層	口径 28.4	口縁端部は大きめに施張 し、ハケ目原体による刺 繡文	ナデ	胎土: 1~2mmの大白色砂粒を 含む 施成: 良好 色調: 鮮灰色	河運2
甕	第41回 Y-300	29	NIE1	淡灰色 砂質土	口径 23.0	口縁端部は下方に施張 し、ハケ目原体による刺 繡文。内面には3條 の刺繡子文。	外面: ナデ 内面: ヘタミガキ	胎土: 1mm未満の砂粒を含む 施成: 良好 色調: 淡青灰色	
甕	第41回 Y-301	28	NIE1	褐色 砂層層	口径 30.2	口縁端部は下方に大き く施張し、くし上に施 張し、内面は刺 繡文。内面には3 条の刺繡文。	外面: ハケ目後ナデ	胎土: 砂砂粒を含む 施成: 良好 色調: 淡褐色	
甕	第41回 Y-302	29	NIE1	赤褐色 砂質土	口径 26.5	口縁端部は下に施張 し、ハケ目原体による刺 繡文。内面には3 条の刺繡文。内面には くし状工具による刺 繡文。	外面: ハケ目後ナデ	胎土: 粗砂粒を含む 施成: 良好 色調: 鮮灰色	河運2
甕	第41回 Y-303		NIE2	赤褐色 砂質土	口径 32.0	口縁端部は下方に施張 し、くし書きの刺繡文	ナデか	胎土: 1mm未満の砂粒を含む 施成: 良好 色調: 淡褐色	
甕	第41回 Y-304	30	NIE2		口径 18.0	口縁端部は下垂する	ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を含む 施成: 良好 色調: 灰色	河運1
甕	第41回 Y-305	29	SJW1	暗青灰色 砂層層	口径 32.6	口縁端部は下方に施張 し、刺繡3条とヘラによ る刺繡4条。内面くし による刺繡子文	ナデとハケ目	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	河運4
甕	第41回 Y-306		NIE2	赤褐色 砂質土	口径 17.8	ロート状に割く(縫部、 縫部は斜下方に施張)	ナデか	胎土: 小砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	河運2
甕	第41回 Y-307	30	SJW2	暗灰褐色 砂層層	口径 40.3	口縁端部は下に施張 し、くしによる刺繡子 文と内面津波が施され る	外面: ナデ 内面: ヘタミガキ	胎土: 1~2mmの大砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第41回 Y-308	30	KIE1	暗灰褐色 砂質土	口径 27.2	口縁端部は斜下方に下 垂	外面: ハケ目後ナデ 内面: ヘタミガキ	胎土: 小砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第41回 Y-309		SJW2	暗灰褐色 砂層層	口径 23.6	口縁端部は下方に施張 し、上端にヘラによる 刺繡3条	外面: ハケ目後ナデ 内面: ナデ	胎土: 白色粗砂粒を含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第42回 Y-310	30		褐色 砂質土	口径 29.0	口縁端部は斜下方に施 張し、周囲に施繡4条 と羽根の跡跡	ナデ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第42回 Y-311	30	トレンチ内	暗灰褐色 砂質土	口径 27.0	口縁端部は上下に大き く施張し、刺繡2条回繡 3条、くしによる刺繡子 文、内面に回繡3条	ナデ	胎土: 粗砂粒を多く含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第42回 Y-312		抹土		口径 31.2	口縁端部は下方に施張 し、市広の回繡、内面に は回繡	ナデ	胎土: 粗砂粒を含む 施成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第42回 Y-313	30	NIE2	暗青灰色 砂層層	口径 26.0	口縁端部は上方に施張 し、市広の回繡、内面に は回繡	ナデ	胎土: 粗砂粒を含む 施成: 良好 色調: 明褐色	
甕	第42回 Y-314		抹土		口径 21.0	円錐底の腹面、口縁端 部は施張し、不明瞭な2 回繡2条と板目による刺 繡。内面に凹凸	外面: ハケ目 内面: ハケ目とナデ	胎土: 1~2mmの大砂粒を 含む 施成: 良好 色調: 深褐色	

番号	通 番 号	出 取 號	出 土 地 点	層 位	法 庫 (cm)	形態・文様の特徴	手 法 の 特 徴	胎 土・施成・色調	備 考
炭	第42回 Y-315	30			口径 18.5	口縁端部は内傾して拡張し、凹線4条	口縁部:ヨコナデ 腹部以下ハケ日	胎土:否、散砂粒を含む 施成:良好 色調:外 淡褐色、内 灰色	
亞	第42回 Y-316	30	S2年度 調査区	埋土	口径 25.7	口縁端部上面に平凹、凹線4条と円形浮文	ナデ	胎土:少砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色	
春	第42回 Y-317	30	耕上			腹部に凹線文(残存3条)	内外面:ハケ日		
夏	第42回 Y-318	30	N2E1	暗赤褐色 砂質土		腹部に凹線文(残存5条)	外面:ハケ日 内面:ナデ	胎土:1mm前後の白色砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色	河道2
秋	第42回 Y-319	30	N1E1	褐色 砂質土	口径 30.2	口縁端部は内傾して拡張し、凹線3条	ナデか	胎土:白色小砂粒を多く含む 施成:良好 色調:褐色	
冬	第42回 Y-320		S3P0	灰褐色 砂質土	口径 33.6	口縁端部上面に平凹、凹線3条	ナデか	胎土:1mm前後の白色砂粒を多く含む 施成:良好 色調:褐色	河道4
春	第42回 Y-321	30	I1区 トレンチ内		口径 46.2	口縁端部上面に平凹、凹線5条と円形浮文、腹部外側には斜目と凹線2条	ナデか	胎土:1~2mmの大さの白色砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	
夏	第42回 Y-322	30	N2E3	墨灰色 砂質土		大きき開く間に棘部、腹部にへりによる江戸文 帯貼付	外面:ハケ日 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色	
秋	第42回 Y-323	30	トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 16.8	口縁端部は拡張し、凹線3条、腹部にも凹線	外面:ハケ日 内面:ハケ日後ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 施成:良好 色調:暗褐色	
冬	第42回 Y-324		N2E3	墨灰色 砂質土	口径 27.1	口縁端部は上下に拡張	ハケ日後ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 施成:良好 色調:灰褐色	
春	第42回 Y-325		S4E0	灰褐色 砂質土	口径 21.0	口縁端部は斜下方に拡張し、肥大	口縁端部:ヨコナデ 外側:ハケ日後ナデ 内面:ナデ	胎土:少砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	
夏	第43回 Y-326	31	N1E0	暗青灰色 砂質土	口径 10.6	直口の壺、口縁端部は平弧面をなし、斜目をもつ(へり) ²	外面:ハケ日後ナデ 内面:ナデ	胎土:散砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	
秋	第43回 Y-327	31	S3W1	暗青灰色 砂質土	口径 8.0	直口の壺、端部は凹面をなし、斜目をもつ(へり) ²	外面:ハケ日 内面:ナデ	胎土:散砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	河道4
冬	第43回 Y-328	31	S3E0	赤褐色 砂質土	口径 13.1	やや内傾する逆S字状の口縁。制部にむかってゆるやかに張り出す	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	河道4
春	第43回 Y-329	31	S3E0	暗青灰色 砂質土	口径 6.2	長頸の直口壺、腹部に凹線5条、口縁端部は平弧面	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ日 腹部内側:ヘラケメリ 發見ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	河道4
夏	第43回 Y-330	31	S3E0	暗青灰色 砂質土	底径 5.5	内面にうるしが厚く付着	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ日後ヘラミ ガキ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色	河道4
秋	第43回 Y-331	31	N2E2	褐色 砂質土	口径 13.6	口縁端部はやや内傾する平弧面をもつ	素誠して不明	胎土:散砂粒を含む 施成:良好 色調:褐色	
冬	第43回 Y-332	31	N1E1	赤褐色 砂質土	口径 14.1	口縁端部が「く」の字状にゆるく屈曲する ¹ 、端部は上下にやや肥厚	口縁端部:ヨコナデ 外側:ハケ日後ナデ 内面:ナデ	胎土:少砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色	
春	第43回 Y-333	31	S3P0	赤褐色 砂質土	口径 16.0	「く」の字状にゆるく屈曲する ¹ 、端部は上下にやや肥厚	口縁端部:ヨコナデ 外側:ハケ日 内面:ナデ	胎土:1mmの大さの砂粒を多く含む 施成:良好 色調:褐色	河道4
夏	第43回 Y-334		N2E1	褐色 砂質土	口径 11.4	「く」の字状にゆるく屈曲する ¹ 、端部はやや肥厚し、面をなす	口縁端部:ヨコナデ 外側:ハケ日後ナデ	胎土:散砂粒を含む 施成:良好 色調:淡褐色	
秋	第43回 Y-335		N2P2	褐色 砂質土	口径 15.4	口縁端部は肥厚	ナデか	胎土:1mm前後の白色砂粒を含む 施成:良好 色調:灰褐色	

基層	横断面	調査番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
表	第43回 Y-336		NED	深灰色 砂質土	口径 16.8	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部、端部はやや膨張し、面をなす	口縁部:ヨコナデか 脚部:ハケ日	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰色	河運2
表	第43回 Y-337	31	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 14.8	「く」の字状に屈曲する口縁部、端部は下方にやや膨張	口縁部:ヨコナデ 脚部:ハケ日	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河運4
表	第43回 Y-338		トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 16.8	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部、端部はやや膨張し、面をなす	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
表	第43回 Y-339		トレンチ内	暗灰色 粘質土	口径 16.2	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部、端部は下方に膨大	口縁部ヨコナデ 脚部:ハケ日	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰黄色	
表	第43回 Y-340	31	NED	深褐色 砂層	口径 15.2	「く」の字状にゆるく屈曲する口縁部、端部はやや膨張し、面をなす	口縁部ヨコナデ 脚部:ハケ日後ナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	
表	第43回 Y-341	31	NED	赤褐色 砂質土	口径 30.8	外板として伸びる口縁部片、端部は平底底をなす、壁厚2条	ハケ日後ナデ	胎土:~4mm人の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡赤褐色	河運2
表	第43回 Y-342	31	NED	褐色 砂礫層	口径 13.8	やや外傾して伸びる口縁部片、端部は下方に膨張	素鍼により不明	胎土:白色鐵砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第43回 Y-343	31	NED	褐色 粘質土		くし書き被状文、平行 線文	内面:ヘタミガキ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第43回 Y-344	31	NED	赤褐色 砂質土		くし書き沈線文、平行 格子文	ナデか	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河運2
表	第43回 Y-345	31	NED	褐色 砂質土		くし書き沈線文、平行 格子文	内面:ハケ目	胎土:~1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河運2
表	第43回 Y-346	31	NED	褐色 泥質土		くし書き泥本文	内面:磨減して不明	胎土:~1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第44回 Y-347	32	NED	褐色 砂質土	口径 14.8	口縁部外側にへたり る約4段、4条単位のくし書き沈線(2回)	口縁部:ナデ 壁部以下外側:ハケ目 壁部以下内側:ナデ	胎土:~1~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第44回 Y-348	32	NED	深灰色 砂質土	口径 18.4	口縁部外側にへたり る約4段、5条単位のくし書き沈線(3回)	ハケ日後ナデ	胎土:~2~5mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河運2
表	第44回 Y-349	32	トレンチ内	暗灰色 砂礫層	口径 16.2	3条単位のくし書き沈 線(3回)と三角形の刺 突文	外側:ハケ目とナデ 内面:ナデ	胎土:~1~2mm人の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第44回 Y-350	32	NED	暗灰色 砂質土	口径 23.2	上縁部外側に數段に 亘る刺突子の刺突。胎 部はくし書き沈線文(2回)	ナデ	胎土:~2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外:灰白色、内:淡褐色	
表	第44回 Y-351		中央ベルト	褐色~ 暗青灰色 砂礫層	口径 24.7	5条単位のくし書き沈 線(3回)	口縁部:ヨコナデ 内面:ハケ目後ナデ	胎土:~2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第44回 Y-352	32	S3E0	暗青灰色 砂層	口径 22.0	口縁部にへたり る約4段、頭部以下5条 単位のくし書き沈線文(3 回)	ハケ日後ナデ	胎土:~2~3mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河運4
表	第44回 Y-353		トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 25.6	口縁部にへたり る約4段、頭部以下5条 単位のくし書き沈線文(3 回)	ナデ	胎土:~2~5mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
表	第44回 Y-354	32	T区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 21.5	口縁部にへたり る約4段、頭部以下5条 単位のくし書き沈線文(3 回)	ナデ	胎土:~1~5mm人の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
表	第44回 Y-355		NED	淡褐色 砂層	口径 28.2	逆さ子状口縁、5条単位 のくし書き沈線文(3回)	ナデ	胎土:~1mm前後の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
表	第44回 Y-356	32	NED	天褐色 砂礫層	口径 28.6	逆さ子状口縁、端部に へたりる刺突、5条単 位のくし書き沈線文(3 回)	外側:ハケ日 内面:ナデ	胎土:~1mmの砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスリット有

器種	形 状 名 称	出 土 場 所 番 号	層 位	深 度 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第4488 Y-357	32	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 24.7 「く」の字状に屈曲する 口縁部、底部底面には 刻目(板目による)をも つ。胎付突起。	ハケ目後ナデ	胎土: I~II前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4489 Y-358		NIE20	褐色 砂質土	口径 21.0 短く屈曲する口縁	ハケ目後ナデ	胎土: I~II前後の白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4490 Y-359	32	NIE20	暗青灰色 砂質土	口径 16.0 口縁部はゆるく外反	ナデか	胎土: I~II前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4491 Y-360	32	NIE22	赤褐色 砂質土	口径 19.0 口縁部は強く屈曲、胸 腹部はどんぐり状工具 による刻文	口縁部: ヨコナダ 腹部外側: 上手 ハケ目, 下手 ハラミガキ 底部内面: ハケ目後へ	リミガキ	
甕	第4492 Y-361		NIE21	褐色 砂質土	口径 20.4 口縁部は強く屈く外反 し、胸部は張り出す。胸 部に刻文突起	ハケ目後ナデ	胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4493 Y-362		NIE22	褐色 砂質土	口径 19.9 口縁部はごく強く外反 し、胸部に張り出す	ハケ目とナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4500 Y-363		NIE20	褐色 砂質土	口径 15.2 口縁部は強く外反	ナデか	胎土: 白色散砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4504 Y-364		I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 19.8 口縁部は強く外反、胸 部はやや張り出す	外面: ハケ目 内面: ナデか	胎土: I~II前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4505 Y-365	32	NIE1	褐色 砂質土	口径 17.0 口縁部は短く外反、胸 部はやや張り出す	外面: ハケ目 内面: ハケ目後ナデ	胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	頭部外面にスス 付着
甕	第4506 Y-366	32	トレンチ内	暗灰褐色 砂質土	口径 18.5 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部外側: ハケ目 頭部内面: ハケ目	胎土: ガラス質の小砂粒を多 く含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	外面にスス付着
甕	第4507 Y-367		トレンチ内	暗褐色 砂質土	口径 19.2 口縁部は屈曲して強く 伸びる	外面: ハケ目 内面: 焼成して不明	胎土: I~II前後の砂粒を含む 焼成: やや軟質 色調: 深褐色	
甕	第4508 Y-368		NIE1	褐色 砂質土	口径 19.2 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲し、頸部は 張り出す	ナデか	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
甕	第4509 Y-369	32	SIE20	暗青灰色 砂質土	口径 17.0 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲	ナデか	胎土: 白色散砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰色	河邊4
甕	第4510 Y-370	32	NIE22	赤褐色 砂質土	口径 23.0 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部以下外側: ハケ目 頭部以下内面: ハケ目 後ナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 深褐色	スス付着 河邊2
甕	第4511 Y-371	32	NIE22	褐色 砂質土	口径 16.7 口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部以下: ハケ目 頭部内面: ナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 深褐色	外面にスス付着
甕	第4512 Y-372		SIE20	暗青灰色 砂質土	口径 22.4 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部以下: ハケ目	胎土: 白色小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	河邊4
甕	第4513 Y-373		I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 19.1 「く」の字状に屈曲する 口縁部	口縁部: ヨコナダ 頭部以下: ハケ目	焼成: 良好	
甕	第4514 Y-374	32	NIE20	暗青灰色 砂質土	口径 20.5 口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部~頸部: ヨコナ ダ 頸部: ハケ目	胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	外面にスス付着
甕	第4515 Y-375	32	NIE21	灰色 砂質土	口径 19.0 口縁部は「く」の字状に ゆるく屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部以下: ハケ目	胎土: ガラス質の散砂粒を多 く含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	
甕	第4516 Y-376	32	SIE20	青灰褐色 砂質土	口径 23.8 口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部~頸部: ヨコナ ダ 頸部: ハケ目後ナデ	胎土: 白色散砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	河邊4
甕	第4517 Y-377	32	トレンチ内	暗灰褐色 砂質土	口径 22.0 口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部: ヨコナダ 頭部: ハケ目	胎土: 散砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 深褐色	外面にスス付着

器種	器 種 名 字	出土地点	層位	性 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第45回 Y-378	NZE1 トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 21.8	口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部:ヨコナデ 胴部以下内面:ハケ目 頭部以下内面:ハケ目 底部:ナデ		外面にスス付着
甕	第45回 Y-379	NZE1	赤褐色 砂質土	口径 27.0	口縁部は「く」の字状に 屈曲,底部はやや肥厚	口縁部:ヨコナデ 胴部外側:ナデか 胴部内面:ヘラ吹き具に よる擦り跡のナデがある	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45回 Y-380	NZE2	褐色 砂質土	口径 30.2	口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部:ヨコナデ 頭部以下内面:ハケ目	胎土:褐色 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-381	NIE1	褐色 砂質土	口径 23.2	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部にはヘラ による刻目	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハケ目	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45回 Y-382	NIE1	灰色 粘質土	口径 19.6	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部にはヘラ による刻目	口縁部:ヨコナデ 頭部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:白色 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-383	NIE1	褐色 砂質土	口径 29.4	口縁部は「く」の字状に 屈曲	口縁部:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-384	NZE1	暗褐色 粘質土	口径 17.5	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部に突起を 2つ	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:ガラス質の小砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-385	NZE3	赤褐色 砂質土	口径 15.6	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部に突起をな ど、ヘラによる刻目と 凹凸1条	ヨコナデとナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45回 Y-386	NZE1	褐色 砂質土	口径 29.0	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部に凹凸1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-387	NZE3	暗灰色 砂質土 (焼青)	口径 16.9	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部は上方に つまみあげられた外側に 凹凸1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ハケ目とナ デ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-388	NZE2	褐色 砂質土	口径 23.8	「く」の字状に屈曲する 口縁部,端部に凹凸1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳褐色	
甕	第45回 Y-389	NIE1	暗灰色 砂質土	口径 16.0	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部にはヘラ による刻目と凹凸1条	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハケ目	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着
甕	第45回 Y-390	TII トレンチ		口径 22.3	口縁部は「く」の字状に 屈曲	ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-391	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 17.7	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部は上方に やや弧状(凹凸1条)	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第45回 Y-392	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 23.2	「く」の字状に屈曲する 口縁部,端部には凹凸1 条	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハケ目後ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
甕	第45回 Y-393	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂質土	口径 19.6	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部は上方に わざわざした外側に 凹凸1条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ハケ目後ナ デ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
甕	第45回 Y-394	NIE1	褐色 砂質土	口径 17.8	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部は上方に やや弧状し,凹凸をな ど	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm未満の白色砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第45回 Y-395	NDE2 河道内		口径 17.2	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部はやや弧 状し,凹凸2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着 河道1
甕	第45回 Y-396	NIE2	暗灰色 砂質土	口径 20.0	「く」の字状に屈曲する 口縁部,端部には凹凸2 条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 頭部内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第45回 Y-397	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 18.8	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部はやや弧 状し,凹凸2条	口縁部:ヨコナデ 胴部ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:褐色	外面にスス付着
甕	第45回 Y-398	NDE2 河道内		口径 21.2	「く」の字状に屈曲する 口縁部,底部には凹凸2 条	口縁部:ナデ 胴部:ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:褐色	河道1

器種	種類	固有番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第46回 Y-399		II区	耕土	口径 18.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部にはやや膨張し、凹線2条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目 腹部内面:ナデか	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-400		トレンチ内	青灰色 砂質層	口径 17.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部にはやや膨張し、凹線2条	口縁部:ナガ 腹部:ハケ目	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-401	33	NOR2 河通1	青灰色 砂質層	口径 19.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部にはやや膨張し、凹線2条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:青いハケ目 腹部内面:ナデ	胎土:砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通1
甕	第47回 Y-402	33	トレンチ内	青灰色 砂質層	口径 20.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部にはやや膨張し、ハケによる刻印と凹線2条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:青いハケ目 腹部内面:ナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-403	33	NE1	青灰色 粘質土	口径 12.8	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部は上に下に膨張し、凹線2条	口縁部:ヨコナデ 腹部:ハケ目	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-404	33	S300	赤褐色 砂質層	口径 13.4	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部はやや膨張し、ハケとヘラによる刻印	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目 腹部内面:ハケ目後ナダ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:赤褐色	外周にスス付着 河通4
甕	第47回 Y-405		N221	淡褐色 砂質層	口径 15.2	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部はやや膨張し、凹線1条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目後ナダ	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:火白色	外周朱塗
甕	第47回 Y-406	33	II区 トレンチ	暗青灰色 砂質層	口径 13.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部は上に下に膨張し凹線4条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:上にハケ目 腹部内面:ナダ 刻印外側:ナダ	胎土:下部 ハリケメリ	
甕	第47回 Y-407	33	N430	深灰褐色 粘質土	口径 17.8	「く」の字状に屈曲する口縁部、腹部はやや膨張し、腹底による刻印	ナダか	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通3
甕	第47回 Y-408		N222	褐色 砂質層	口径 19.8	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハラによる刻印	ナダか	胎土:砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-409	33	トレンチ内	暗青灰色 砂質層	口径 21.2	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハラによる刻印	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目	胎土:砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-410		NE1	褐色 粘質土	口径 26.2	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハラによる刻印	口縁部:ヨコナデ	胎土:砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外周にスス付着
甕	第47回 Y-411		NE1	褐色 砂質土	口径 24.6	「く」の字状口縁部、腹部外側に指頭圧痕文帯	ヨコナデ、ナダ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:赤褐色	
甕	第47回 Y-412	33	N152	赤褐色 粘質土	口径 36.2	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハケ目原本体による刻印	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目 腹部内面:ナダ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰白色	
甕	第47回 Y-413	33	N222	褐色 砂質層	口径 25.8	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハラによる刻印	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目 腹部内面:ナダ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第47回 Y-414	33	II区 トレンチ		口径 23.2	口縁部は「く」の字状に凸出し、くし状ノミで削削したような最初の窓開口部、口縁端部に凹線4条	試験により調査不明	胎土:1~2mmの大白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
甕	第47回 Y-415		S2W1	暗青灰色 砂層	口径 31.0	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部はやや膨張し凹線2条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ナダ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河通4
甕	第47回 Y-416		NE1	褐色 砂質土	口径 16.1	「く」の字状口縁部、腹部外側に指頭圧痕文帯、口縁端部に刻印による刻印	口縁部:ヨコナデ 腹部:ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48回 Y-417	33	S200	暗青灰色 砂層	口径 18.7	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部に凹線3条	口縁部:ヨコナデ 腹部外側:ハケ目後ナダ 腹部内面:ナダ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:やや軟質 色調:灰褐色	河通4
甕	第48回 Y-418	33	II区 トレンチ	青灰色 砂質土	口径 16.5	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部にハケ目原本体による刻印	セメントをしくは調整不明	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:やや軟質 色調:灰褐色	
甕	第48回 Y-419		NE10	淡褐色 粘質土	口径 22.2	口縁部は「く」の字状に凸出し、指頭圧痕文帯、口縁端部に凹線3条	ナダか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	河通2

器種	種類	種類	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
甕	第48回 Y-420	NIE1	褐色 砂質土	口径 22.7	「く」の字状に屈曲する口縁部、落葉状模文文部、口縁端部に2条の凹痕	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハケ日後ナデ	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
甕	第48回 Y-421	33	NZE1	赤褐色 砂質土	口径 24.4	「く」の字状に屈曲する口縁部、落葉状模文文部、口縁端部に2条の凹痕	口縁部:ヨコナデ 胴部:ハケ日後ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48回 Y-422	33	NZE1	暗褐色 砂質土	口径 19.6	口縁部は「く」の字状に屈曲し、落葉状模文文部、口縁端部に2条の凹痕	口縁部:ヨコナデ 胴部:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48回 Y-423	33	NZP3	褐色 砂質土	口径 20.2	口縁部は「く」の字状に屈曲し、落葉状模文文部、口縁端部に凹痕3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ日後ナデ 胴部内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
甕	第48回 Y-424	1区 トレンチ	暗褐色 砂質土	口径 27.0	「く」の字状に屈曲する口縁部、落葉状模文文部、口縁端部に凹痕3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ日後ナデ 胴部内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
甕	第48回 Y-425	33	NZE2 河原		口径 22.8	「く」の字状に屈曲する口縁部、落葉状模文文部、口縁端部に凹痕3条	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目後ナデ 胴部内面:ハケ目後ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	河遺1
鉢	第48回 Y-426	34	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 16.7	二重唇部は屈曲して粗く伸びる	外面:ナデか 内面:ヘラミガキ	胎土:密、白色無砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第48回 Y-427	34	NZP1	青灰色 砂質土	口径 21.0	「く」底部は悪縫	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上平、ハケ目、下平、ヘラミガキ 胴部内面:ハクミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外箱にスス付萬 河遺2
鉢	第48回 Y-428	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 20.9	口縁部は「く」の字状に屈曲	口縁部:ヨコナデ 胴部外面:上平、ハケ目、下平、ヘラミガキ 胴部内面:ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
鉢	第48回 Y-429	34	NZE1	赤褐色 砂質土	口径 21.0	消し字状口縁、端部に花びら状凹痕による刻目	外底:ハケ日後ナデ 内面:ナデ		
鉢	第48回 Y-430	34	SZD9	暗褐色 砂質土	口径 21.8	口縁端部が平坦、端部外側にへたりによる刻目、外側に斜貼付突起、胴部に刻目裏文	ナデ	胎土:白色無砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺4
鉢	第48回 Y-431		NZE2	褐色 砂質土	口径 24.2	口縁端部が平坦、端部外側にへたりによる刻目、外側に斜貼付突起、胴部に刻目裏文	外底:滑感 内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第48回 Y-432	34	1区 トレンチ		口径 22.7	口縁端部は平坦、端部外側にへたりによる刻目、外側に斜貼付突起	ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第48回 Y-433	34	NZP2	褐色 砂質土	口径 22.6	内面する口縁部、端部は外側に刻目(ヘア)、外側にはくし括き状文、周目突起が2条	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49回 Y-434	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 22.4	外面に貼付突起	ナデ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
鉢	第49回 Y-435	34	NIE1	褐色 砂質土	口径 20.4	内底する口縁部、端部は平坦、外側に貼付突起	ナデか	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49回 Y-436	34	NZE1	暗灰色 砂質土	口径 18.4	外面に落葉状模文文部	ナデか	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49回 Y-437	34	NZE1	暗灰色 砂質土	口径 25.8	口縁端部は平坦、外面に落葉状模文文部	ナデか	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰色	河遺2
鉢	第49回 Y-438	34	1区 トレンチ		口径 19.0	内部突起に伸びる口縁部、端部はやや内傾する口縁部、外面に落葉状模文文部	表面:ナデ 内底:滑感	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49回 Y-439	34	1区 トレンチ		口径 20.6	やや内側する口縁部、端部は内傾する口縁部、外面に落葉状模文文部	外底:ナデ 内底:滑感	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
鉢	第49回 Y-440	34	SZD2厚 河原区		口径 32.6	口縁端部が内側に凹陥し、上平、外側に斜貼付突起、端部は内傾する口縁部、外面に落葉状模文文部	内底:ナデ	胎土:密 焼成:良好 色調:明灰色	

器種	番号	国 名 考古 番号	出土地点	層 位	径 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・施紋・色調	備 考
鉢	第49回 Y-441	34	NDE2 河道	暗灰色 砂礫層	口径 33.2	口縁端部は平坦、外側に削り(ヘラ)	内外面:ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:深灰褐色	河道1
鉢	第49回 Y-442	トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 23.2	口縁端部は平坦をなし、外側にヘラによる削り	磨滅して調整不明		胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:深灰褐色	
鉢	第49回 Y-443	34	I区 トレンチ		口径 19.2	口縁端部は平坦をなす	ナゲ	胎土:白色微砂粒を含む 施皮:良好 色調:褐色	
高 环	第49回 Y-444	34	NDE2 河底	褐色 砂礫層	口径 25.8	口縁端部は内外に膨張し、外側に削りによる削り ナラヒコ(内側)と内側に於て外側に於て天井色のうらしが一 際残存		胎土:褐色 施皮:良好 色調:深褐色	
高 环	第49回 Y-445	34	NDE2 河底	暗灰色 砂礫層	口径 20.0	口縁端部は扁平として平坦に伸びる	口縁端部:ヨコナデ 外面:ハケ目 内面:ハケ目後ナゲ	胎土:小砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	河道1
高 环	第49回 Y-446	トレンチ	暗灰色 砂礫層	口径 26.0	口縁端部は拡張して、半屈曲をなす	ナゲ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:深褐色		
高 环	第49回 Y-447	34	SDE1	灰褐色 砂質土	口径 23.4	口縁端部は内外に膨張し、外側に削りによる削り	口縁端部:ヨコナゲ 外面:ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:褐色 施皮:良好 色調:深褐色	
高 环	第49回 Y-448	34	SDE1	暗灰色 砂質土	口径 29.2	口縁端部は拡張し、やや内傾気味の半屈曲	ヘラミガキ	胎土:小砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	河道4
高 环	第49回 Y-449	NDE1	赤褐色 砂礫層	口径 42.2	口縁端部は内側に膨張し、平坦面をなす	ナゲ	胎土:小砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:深褐色	河道2	
高 环	第49回 Y-450	SDE1	暗灰色 砂礫層		「ハ」の字に開く脚部片		胎土:1~2mm大の砂粒を少量含む 施皮:良好 色調:深褐色	河道4	
高 环	第49回 Y-451	35	NDE1	褐色 砂質土	底径 12.6	ロート状に開く脚部、早子	外面:磨滅 内面:ヘラケズリとナ ゲ	胎土:小砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	
高 环	第50回 Y-452	34	SDE1	暗灰色 砂礫層	口径 33.5	口縁端部は内側を削し、やや内傾気味の半屈曲の外側に於て削りあり、内側に於て削り無きもの	ナゲ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:灰褐色	河道4
高 环	第50回 Y-453	34	I区	暗灰色 砂礫層	口径 20.5	内側する所跡、口縁端部はやや内傾	外面:一部ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ後ヘ ラミガキ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 施皮:良好 色調:深褐色	
高 环	第50回 Y-454	34	NDE1	青褐色 砂質土	口径 18.5	口縁端部は内傾し、外 面に四線4条	磨滅して調整不明	胎土:小砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:灰褐色	河道2
高 环	第50回 Y-455	34	NDE1	水褐色 砂層	底径 12.6	「ハ」の字形に開く脚部 片	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:灰褐色	河道2
高 环	第50回 Y-456	34	NDE1	赤褐色 砂質土	底径 11.0	「ハ」の字形に開く脚部 片、脚端に四線2条	外面:磨滅 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	
高 环	第50回 Y-457	35	SDE1	暗褐色 砂層	底径 11.4	脚性部・脚端部に多量の凹縞文	外面:ナゲ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 施皮:良好 色調:灰褐色	
高 环	第50回 Y-458	34	SDE1	暗褐色 砂質土		多条のくし痕と沈文	外面:ヘラミガキ 内面:しづり目	胎土:褐色 施皮:良好 色調:灰褐色	河道4
底部	第50回 Y-459	35	NDE1	赤褐色 砂質土	底径 6.7	「ハ」の字形に開く低脚 附きの巻か跡?	ヘラケズリ後ナゲ	胎土:小砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	
底部	第50回 Y-460		SDE1	暗灰色 砂礫層	底径 7.6	厚手の平底	磨滅により調整不明	胎土:1mm未満の砂粒を含む 施皮:良好 色調:灰褐色	
底部	第50回 Y-461	35	NDE1	褐色 砂質土	底径 9.0	平底、うす手	外面:磨滅して不明 内面:ハケ目後ヘラ ミガキ	胎土:白色小砂粒を多く含む	

器種	標番	採取場所	出上地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
直筒	第50回 Y-462	NIE1	暗灰色 砂質土	底径 8.0	平底、周部にむかって 大きくなっている	内外面:ヘラミガキ			
直筒	第50回 Y-463	35	トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 7.8	平底	内外面:ヘラミガキ	胎土:帶 焼成:良好 色調:暗灰色	
直筒	第50回 Y-464	35	NIE0	暗青灰色 砂層	底径 6.2	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ模子 テ	胎土:2~3mmの大砂粒を少量 と小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-465			底径 5.2	やや上部底、外面にう るし状のもの付着	外面:ヘラミガキ 内面:ナゲ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色		
直筒	第50回 Y-466		トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 7.8	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ナゲ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-467	35	NIE0	褐色 砂質土	底径 5.0	小さめの平底、うす手	内外面:ヘラミガキ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:褐色	
直筒	第50回 Y-468		NIE2	赤褐色 砂質土	底径 7.6	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ナゲ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-469	35	S250	暗青灰色 砂層	底径 5.5	上げ底の小さい底部	外面:深張底、ヘラミ ガキ 内面:ナゲ	胎土:卷曲線を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-470	35	S250	暗青灰色 砂層	底径 6.0	底部に燒成前の穿孔あ り、中心から離れてい る	外面:ナゲ日後ヘラミ ガキ 内面:ナゲ	胎土:帶 焼成:良好 色調:暗褐色	河運4
直筒	第50回 Y-471	35	JX	拂土	底径 5.6	小さめの平底	外面:ヘラミガキ 内面:ナゲ日後ナゲ	胎土:卷曲線を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-472	35	NIE1	赤褐色 砂質土	底径 5.8	平底、外表面に暗褐色の 網目状のもののかたまり が付着して、内側には化 合物のかたまりが 点々と付着	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-473		T区 トレンチ	暗青灰色 砂質土	底径 5.8	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ナゲ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第50回 Y-474		S250	暗青灰色 砂層	底径 5.4	平底	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ模子 テ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河運4
直筒	第51回 Y-475	36	NIE1	赤褐色 砂質土	口径 14.6	口縁端部は肥厚し内底 凹線4条	外面:ヨコナゲ 内面:ナゲ。底部以下ヘ ラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第51回 Y-476	36	JX	赤褐色 砂質土	口径 18.8	腹部は直立端部に矢印 あり、口縁部は内側に凹 り、輪郭部は強張し て凹線3条	外面:ナゲ 内面:遮蔽して不明	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第51回 Y-477	36	S250	赤褐色 砂層	口径 13.7	腹部は直立端部に矢印 あり、口縁部は内側に凹 り、輪郭部は強張して 凹線3条	外面:ナゲ日後ナゲ 内面:ナゲ。底部以下ヘ ラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳白色	河運4
直筒	第51回 Y-478	36	NIE1	褐色 砂層	口径 12.5	口縁端部は上下に弧張 して複合口縁となり、凹 線3条	腹部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
直筒	第51回 Y-479		NIE2	褐色 砂層	口径 12.4	口縁端部は上下に弧張 して複合口縁となり、凹 線4条	外面:ナゲ日後ナゲ 内面:ナゲ。腹部以下ヘラ ケズリ	胎土:1mmの砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第51回 Y-480	36	NIE2	褐色 砂層	口径 13.6	複合口縁、凹線4条	外面:ナゲ日 内面:ナゲ。腹部以下ヘ ラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第51回 Y-481	36	S250	暗青灰色 砂層	口径 14.0	複合口縁、凹線4条	外面:ヨコナゲ 内面:ナゲ。腹部以下ヘ ラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
直筒	第51回 Y-482	36	トレンチ内	暗青灰色 砂層	口径 19.1	複合口縁部は外反気味 で、くし磨き洗顎が施 される	外面:ハケ日 内面:口縁一部、腹部 以下ヘラミガキ 内面:ナゲ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:暗褐色	

器種	規 格 番 号	試 験 番 号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
壺	第51回 Y-483	36	S3ED	暗青灰色 砂礫層	口径 10.1	口縁部は内傾して凹 面をなす	口縁部:ヨコナデ 胴部下内面:ヘラ+ガキ	胎土:金色の微砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色	河遺4
壺	第51回 Y-484		S3ED	暗青灰色 砂礫層	口径 11.0	口縁部は内傾して凹 面をなす	口縁部:ヨコナデ 茎部はト内面:ヘラ+ケ ズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色	河遺4
壺	第51回 Y-485	37	S2ED	暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	平底の小壺	外面:上半 磨滅して不 均、下半 ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 燒度:良好 色調:灰褐色	河遺4
壺	第51回 Y-486	36	NIE1	褐色 砂質土	口径 14.2	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、浅い凹縫3条	口縁部:ヨコナデ 端部以下外面:磨滅 内曲下内面:ヘラミ ガキ+ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第51回 Y-487	36	トレンチ内	暗赤色 砂礫層	口径 11.2	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、浅い凹縫3条	口縁部:ヨコナデ 端部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第51回 Y-488	36	S2D年度 調査区		口径 16.0	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、浅い凹縫3条	口縁部:ヨコナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第51回 Y-489	36	S3ED	暗青灰色 砂層	口径 15.6	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧 張り内傾、凹縫3条	端部外垂:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:白色の小砂粒を含む 燒度:良好 色調:褐色	河遺4
壺	第51回 Y-490	36	S3ED	暗青灰色 砂礫層	口径 11.8	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧 張り内傾、凹縫2条	口縁部:ヨコナデ 端部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色	河遺4
壺	第51回 Y-491	36	NIE1	褐色 砂質土	口径 13.8	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧 張り内傾、凹縫2条	口縁部:ヨコナデ 端部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:褐色、小砂粒を含む 燒度:良好 色調:褐色	外間にスス付着
壺	第51回 Y-492	36	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 16.2	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧 張り内傾、凹縫2条	口縁部:ヨコナデ 端部外面:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1~3mmの大砂粒を多く 含む 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第51回 Y-493	36	NIE1	赤褐色 +青灰色 砂礫層	口径 19.8	口縁部部は弧張して内 傾、凹縫2条	口縁部:ヨコナデか 弱然外垂:ハケ日 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:褐色	河遺2
壺	第51回 Y-494	36	トレンチ内	灰褐色 砂層	径 26.0	「く」の字形にゆるく折 曲し、口縁部片上部、腹部 に弧張し内傾、凹縫4条	ヨコナデ、ハケ日	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:乳灰色	
壺	第51回 Y-495	37	NIR2	暗赤色 砂質土 (複合)	口径 18.5	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、凹縫2条	口縁部:ヨコナデ 端部外面:ハケ日 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 燒度:良好 色調:灰褐色	外間にスス付着
壺	第52回 Y-496	37	S3ED	暗赤褐色 砂層	口径 15.7	口縁部は斜上方に弧張 し内傾、凹縫4条	ヨコナデ、ヨコナデ 端部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:暗褐色	外間にスス付着 河遺4
壺	第52回 Y-497	37	NIE1	褐色 砂礫層	口径 21.5	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、凹縫2条	ヨコナデ、頸部以下内 面:ヘラケズリ	胎土:褐色 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第52回 Y-498	37	NIE1	褐色 砂質土	口径 17.6	「く」の字形に屈曲する 口縁部、端部は弧張り 内傾、凹縫2条	口縁部:磨滅して不明 端部以下外面:磨滅 胴部下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mmの大白色砂粒を多く 含む 燒度:良好 色調:灰褐色	
壺	第52回 Y-499	15K トレンチ	砂質土	口径 21.6	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、凹縫2条	ヨコナデ:ヨコナデ 内面:端部以下ヘラケ ズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色		
壺	第52回 Y-500	37	S3ED	暗赤褐色 砂層	口径 13.2	口縁部は「く」の字形で 内曲し、端部は弧張り 内傾、凹縫3条	ヨコナデ:ヨコナデ 端部外垂:ナデ 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:褐色	河遺4
壺	第52回 Y-501	37	S3ED	暗赤褐色 砂礫層	口径 28.2	「く」の字形に屈曲する 口縁部、端部は弧張り やや内傾、凹縫4条	ヨコナデ:ヨコナデ 端部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 燒度:良好 色調:灰褐色	河遺4
壺	第52回 Y-502	NIE1	褐色 砂質土	口径 15.9	「く」の字形に屈曲する 口縁部、端部は弧張り 内傾、凹縫3条	ヨコナデ:ヨコナデ 端部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く 含む 燒度:良好 色調:暗褐色		
壺	第52回 Y-503	37	トレンチ内	暗青灰色 砂層	口径 20.3	「く」の字形に屈曲する 口縁部、端部は弧張り 内傾、凹縫4条	ヨコナデ:頸部以下内 面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 燒度:良好 色調:灰褐色	外間にスス付着

基盤	標高 標 高 度	固 定 地 点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考	
要	第52回 Y-504	37	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 14.0	「く」の字状に下るに凹曲する 口縁部、輪底は上下に 凹曲し内側、凹線3条 が施される	口縁部:ヨコナデ 輪底外周:ハケ足とナ 鉄部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-505		N4E1	暗灰褐色 粘質土	口径 20.2	口縁部は上方に凹張 しやや内傾、凹線3条	口縁部:ヨコナデ 輪底内面:以下ヘラケ ズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道3
要	第52回 Y-506	37	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 17.4	「く」の字状に凹曲する 口縁部、輪底は上下に 凹張し内傾、凹線3条が 施される	口縁部内面:ヘラミガ キとナデ 輪底外周:くし推き枕鉄 鉄部内面:ヨコナデ	胎土:白砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着 河道4
要	第52回 Y-507		N2E2	褐色 砂層	口径 25.4	「く」の字状に凹曲する 口縁部、輪底は上下に 凹張し内傾、凹線3条が 施される	ヨコナデ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
要	第52回 Y-508		S3D1	暗青灰色 砂層 —砂層	口径 17.0	「く」の字状に凹曲する 口縁部、輪底は上下に 凹張し内傾、凹線3条が 施される	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-509	37	S3W1	暗青灰色 砂層	口径 26.8	口縁部は上下に凹張 しやや内傾、凹線4条	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-510		N2E2	褐色 砂層	口径 19.8	口縁部は上下に凹張 し、凹線3条	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外歯S付着
要	第52回 Y-511		S3E1	暗青灰色 砂層 —砂層	口径 16.0	口縁部は上下に凹張 し、外周にくし推き枕 鉄が施され後ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-512	37	S3D1	暗青灰色 砂層	口径 26.8	輪底一部がゆるく凹 曲、口縁部は上下に 凹張してやや内傾、外 周に4条の凹線(鉄文)	口縁部:ヨコナデ 輪底以下外周:ナデ 輪底以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:2mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-513	38	S1E1	暗灰褐色 砂層	口径 13.8	口縁部は複合状を呈し、 外周に凹線6条、脚部外 面に斜削鉄突起(矢か)	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
要	第52回 Y-514	38	S3D1	暗灰褐色 粘質土	口径 18.6	口縁部は複合状を呈し、 外周に複凹線3条	口縁部:ヨコナデ 脚部:ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着 河道4
要	第52回 Y-515	38	S3D1	暗青灰色 砂層	口径 15.4	口縁部は複合状を呈し、 外周に複凹線4条	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-516	38	N2E1	褐色 砂層	口径 18.4	口縁部は複合状を呈し、 外周に葉筋鉄文	口縁部:ヨコナデ 脚部:トドラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
要	第52回 Y-517	38	S3D1	暗青灰色 砂層	口径 17.2	口縁部は複合状を呈し、 外周に凹線5条	脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
要	第52回 Y-518	38	N1F1D	褐色 砂質土	口径 15.4	口縁部は複合状を呈し、 外周に複凹線4条	脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
要	第52回 Y-519	38	N2E1	褐色 砂層	口径 18.0	口縁部は複合状を呈し、 外周に複凹線6条	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
要	第52回 Y-520	38	S2D1	暗青灰色 砂層	口径 14.8	口縁部は複合状を呈し、 外周に複凹線6条	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着 河道4
要	第53回 Y-521		N1E1	褐色 砂質土	口径 20.5	複合口縁部は近く外傾 し、外周に複凹線4条	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着
要	第53回 Y-522		N1E1	赤褐色 —青灰色 砂層	口径 17.4	複合口縁部は近く直立 し、外周に複凹線4条	口縁部:ヨコナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道2
要	第53回 Y-523	38	N1E1	褐色 砂質土	口径 17.1	複合口縁部は直立し、 脚部外周に は鉄工工具による斜削 鉄突起	口縁部:ヨコナデ 脚部外周:ナデ 脚部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着
要	第53回 Y-524		N2E2	褐色 砂層	口径 12.2	複合口縁部は近く直立 し、外周に複凹線4条	口縁部:ヨコナデ 脚部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm大の白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	

器種	通 告 号	出 古 品 記	出 地 点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手 法 の 特 徴	胎 土・燒 成・色 調	備 考
甕	第53回 Y-525	38	I区 トレンチ	青灰褐色 砂礫層	口径 12.8	複合口縫部はやや外反し、外側にくし縫き沈籠施文後、ヨコナズメリ	口縫部内面: ハラミガキヨコナズメリ 頭部外側: ハケ日 頭部内面以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
甕	第53回 Y-526		S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.0	複合口縫部は短く直立し、外面に彌四綱文	ヨコナズメリ	胎土: I段の大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	河運4
甕	第53回 Y-527		T区 トレンチ	暗青灰色 砂礫層	口径 17.4	複合口縫部は直立し、外面に彌四綱文5条	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗灰褐色	外面にスス付着
甕	第53回 Y-528	38	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 18.6	複合口縫部は外反し、外面に彌四綱文6条、頭部内面ハケ日原体による斜行刺繡文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段前の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河運4
甕	第53回 Y-529		N1E1	褐色 砂質土	口径 17.8	複合口縫部はやや外反し、外面に彌四綱文6条	ヨコナズメリ: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I段の大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第53回 Y-530		N2E2	褐色 砂礫層	口径 19.6	複合口縫部は直立気味で、外面に彌四綱文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段前の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第53回 Y-531	38	N2E3	暗青灰色 砂質土	口径 18.2	複合口縫部は外反し、外面にくし縫き沈籠	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段前の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第53回 Y-532		N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 20.0	複合口縫部は外反し、外面に彌四綱文7条	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段前の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第53回 Y-533	38	S2W1	青灰褐色 砂礫層	口径 17.8	複合口縫部はやや外反し、外面に彌四綱文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~3mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面に炭化物厚く付着
甕	第53回 Y-534		N0E1	褐色 砂質土	口径 18.5	複合口縫部はやや外反し、外面に彌四綱文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~3mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着
甕	第53回 Y-535	38	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 19.6	複合口縫部は直立気味で、外面に「う」縫き沈籠9条	口縫部内面: ハラミガキ 内面のハラケスメリは粗面より下に下がらず	胎土: I段の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡黄灰色	
甕	第53回 Y-536	38	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 16.4	複合口縫部はやや外反し、外面に彌四綱文3條と斜行刺繡文(支文)2條	口縫部: ハラミガキ 頭部内面: ハラミガキ 内面のハラケスメリは粗面部より下に下がらず	胎土: I段の大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第53回 Y-537		トレンチ内	暗青灰色 砂質土～砂礫層	口径 19.4	複合口縫部は直立気味で、外面に9条の彌四綱文	頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: I~II段後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰色	
甕	第53回 Y-538	38	I1S	暗青灰色 砂質土	口径 25.3	複合三縫部はやや外反し、外面に彌四綱文6条、頭部外側にハケ日原体による神引状の斜行刺繡文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部外側: ハケ日 頭部内面: ハラケスメリ	胎土: I~2mmの大砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	口縫部外側にスス付着
甕	第53回 Y-539	38	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 18.2	複合口縫部は外反し、外面に彌四綱文、頭部外側には貝殻度極によく斜行刺繡文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部外側: ハケ日 頭部内面: ハラケスメリ	胎土: I~3mm大の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着 河運4
甕	第53回 Y-540		N2F1	暗青灰色 砂質土	口径 19.6	複合口縫部は外反し、外面に彌四綱文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部内面: ハラケスメリ	胎土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着
甕	第53回 Y-541	38	N1E1	褐色 砂礫層	口径 20.0	複合口縫部は外反し、外面に9条以上の彌四綱文	口縫部: ヨコナズメリ 頭部内面以下内面: ハラケスメリ	胎土: 萤 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着
甕	第54回 Y-542	39	I区 トレンチ	青灰褐色 砂質土	口径 13.8	複合口縫部は外反し、外面にくし縫き沈籠、頭部外側にも沈籠	口縫部: ヨコナズメリ 頭部内面以下内面: ハラケスメリ	胎土: I段の大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第54回 Y-543	39	N2E1	褐色 砂質土	口径 19.4	複合口縫部は長く外反し、外面に平行沈籠	口縫部: ヨコナズメリ 頭部内面以下内面: ハラケスメリ	胎土: 敷砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着
甕	第54回 Y-544	39	N2E2	褐色 砂質土	口径 20.3	複合口縫部は外反し、早く、外面に彌四綱文	頭部以下内面: ハラケスメリ	胎土: 敷砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
甕	第54回 Y-545	39	I区 トレンチ	暗青灰色 砂礫層	口径 21.6	複合口縫部は外反し、外面に斜行刺繡文、頭部外側に横筋と斜行刺繡文(支文)	口縫部: ヨコナズメリ 頭部外側: ハケ日後ナメ 頭部内面: ハラケスメリ	胎土: I~3mm大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着

器種	神 番 号	因 度 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第54回 Y-545	39	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 13.8	複合口縫部は外反し、 肩部はなだらか 貝紋模様による羽状の 斜文。	口縫部内外面:ヨコナ デ 肩部以下内面:ヘラケ ズリ	胎土:否 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外面にスス付着。 河道4
甕	第54回 Y-547	39	N2E3	黒灰色 砂質土	口径 12.8	複合口縫部は外傾し、 端部は丸い。突堤部の 後は鋸い。	口縫部:ヨコナデ 全体外縫:織かいハケ 内部内面:ヘラケズリ	胎土:白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	一高點突
鉢	第54回 Y-548	39	N2E2	褐色 砂質土	口径 11.2	口縫部は肥厚して内 傾、径2mmの円孔。肩部 は縁をおしつしたよ うな形狀。	口縫部:ヨコナデ 肩部外縫:ナデ 肩部内面:上半 指調:ナ 底:下半 ヘラケズリ	胎土:1mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯	第54回 Y-549	39	N2E2	褐色 砂礫層	口径 24.0	杯部は複合口縫状を呈し、 外縫に多条の平行 縦文が施される。底部 はよくしまる。	杯部内面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
高 杯 側脚部	第54回 Y-550	39	N2E2	褐色 砂礫層	底径 16.2	開端部は複合状を呈し、 外縫に沈縫4条が施され る。	内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯 側脚部	第54回 Y-551	39		褐色 砂礫層	底径 12.8	複合状を呈する開端部 片、外縫に擬凹縫文。	内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
器 台	第54回 Y-552	39	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 18.4	開端部片、互い複合状 不規則に施され、 一部ナゲ済し。	内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
器 台	第54回 Y-553	39	N1E0	暗青灰色 砂礫層	底径 14.0	開端部片、複合状を呈 し、無文。	外縫:齊滅により調査 不明 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
瓶 等 ?	第54回 Y-554	39	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 6.3	複合状、円孔(2個)、内 部は直徑6mmの中空	複合部:ヨコナデ 上半 内面:ヘラケズリ 後ナデ 下半 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	河道4
底 部	第54回 Y-555	39		褐色 砂礫層	底径 6.2	平底、開端にむかって 大きく開く	外縫:ハケ目とナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの大砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底 部	第54回 Y-556	39	トレンチ内	暗青灰色 砂層	底径 3.6	上げ底気株の小さな平 底	外縫:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底 部	第54回 Y-557	39	S2E0	暗青灰色 砂層	底径 4.0	平底、開端にむかって 大きく開く	外縫:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	河道4
底 部	第54回 Y-558	39	N2E0	暗灰色 粘土 (砂礫層)	底径 5.3	上げ底気株の平底、開 端にむかって大きく開 く	外縫:ハケ目後ヘラミ ガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの大砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	

3. 土 師 器

土師器は90年、91年あわせてコンテナ約20箱分が出土したが、小片が多く、全形のわかるものは少なかった。310点について実測を行い、うち274点を図示した。古墳時代初頭から前期に属すると考えられるものは90年の遺物包含層、91年I区の遺物包含層、河道4から主に出土しており、河道2や上層の粘質土にも含まれていた。また古墳時代中期以降奈良時代頃までに属すると考えられるものは、大半が河道2からの出土品であった。

(I) 古墳時代初頭から前期の土器 (第55~65図 II-1~199)

壺、小形丸底壺、直口壺、甕、注口土器、高环、鼓形器台、低脚环、瓶形土器など多くの器種が見られる。この時期の壺甕類のうち、いわゆる山陰型と言われるものは複合口縁の上器である。今回出土量の多かった甕の複合口縁部の形状からその特徴を分類してみると4類に分けられる。

I類は口縁部が外反しヨコナデ仕上げ、端部を薄く引き出したものと丸みをもつものがある。屈曲部は引き出され、肩部はなだらかである。

II類は口縁部が外反して長く伸び、強いヨコナデが施され、端部を薄く引き出したものである。屈曲部は鋭く突出し、肩部は張り気味である。小さな平底もしくは平底気味の丸底をもつ。

III類は口縁部が外反、又は外傾してやや短いもので、端部にわずかに平坦面をもつものである。屈曲部は鋭く突出し、肩部が張る。

IV類としたものは外傾、又は直立気味でやや短い口縁部をもつものである。端部ははっきりした平坦面をもっており、内外に肥厚するものもある。屈曲部は強く引き出されるが、丸みをおびて鈍い稜をもつものが多い。

I類・II類は庄内式併行期の土器と考えられ、弥生土器とすべきものかもしれない。IV類が布留式併行期の小谷式にあたるもの、III類はその中間的な特徴をもつものと考えられる。

壺 (H-1~23)

H-1は上記III類の特徴をもつもので、屈曲部が鋭く突出している。頸部にはハケ目原体による有輪の羽状文が施され、肩部には横方向のハケ目が入る。

H-2は口縁部が外反し、突出部の引き出されたI類の特徴をもつものである。

H-3はII類の特徴を有し、外面ハケ目、内面ヘラケズリが施されている。

H-4は口縁部を欠くが、複合口縁になると思われるものである。なで肩でうす作りの胴部をもっている。

H-5～7はⅢ類の特徴をもつもので、H-5の頸部には、ハケ目原体による有輪の羽状文が施されている。

H-8・10・12はⅣ類の特徴をもつものである。

H-9はやや厚手の土器ではあるが、Ⅲ類に含まれるものであろうか。

H-13は複合口縁部が、急傾斜をもって外反する土器である。

H-14は複合口縁をもつ小形丸底壺である。胴上部にハケ目原体による斜行刺突文が施される。

H-15・16も同様のものであろうか。

H-17は口縁部が短く外反する半球状の鉢である。内外面とも細かいハケ目が施されており、内面底部付近には漆が厚く付着している。

H-18・19は短く外傾する口縁をもつ小形丸底壺である。

H-20は複合口縁の直口壺、H-21は単純口縁の直口壺である。

H-22は瓶形の肩部をもつものである。外面はナデ、内面頸部以下はヘラケズリが行われている。

H-23は、ほとんど無頸で、胴部の張り出すものである。把手がついていたと考えられる痕跡を残す。

注口土器（H-24～26）

H-24は複合口縁Ⅲ類の特徴をもつが、肩部はなで肩になり、胴部上半に注口を差し込んで付けるものである。肩から胴部にはくし描き直線文が3帯と、貝殻腹縁による斜行刺突文が施される。器面の調整は口頸部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヘラケズリを施し、ごく薄手に作られている。

H-25は注口部分の破片で、ていねいなヘラミガキが施される。

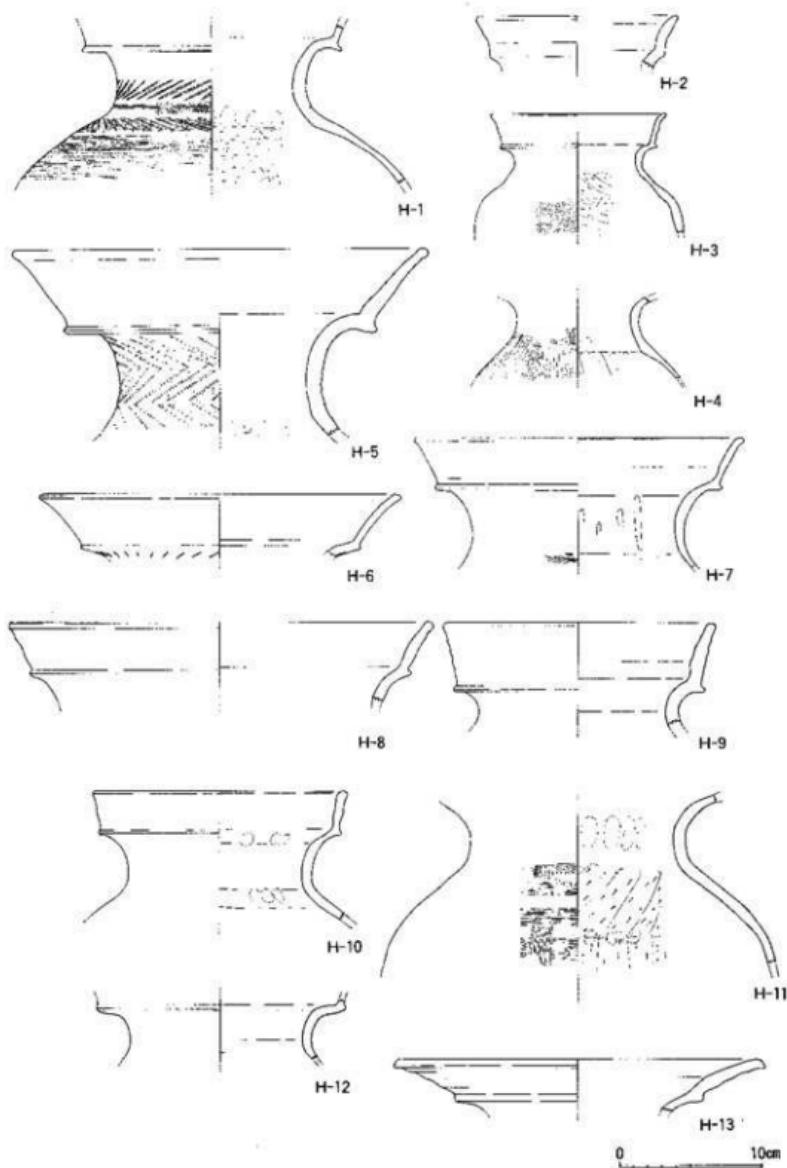
H-26は注口取り付け部分の胴部片である。外面は摩滅のため調整不明、内面はヘラケズリが施され、薄手に作られる。

甕（H-27～124）

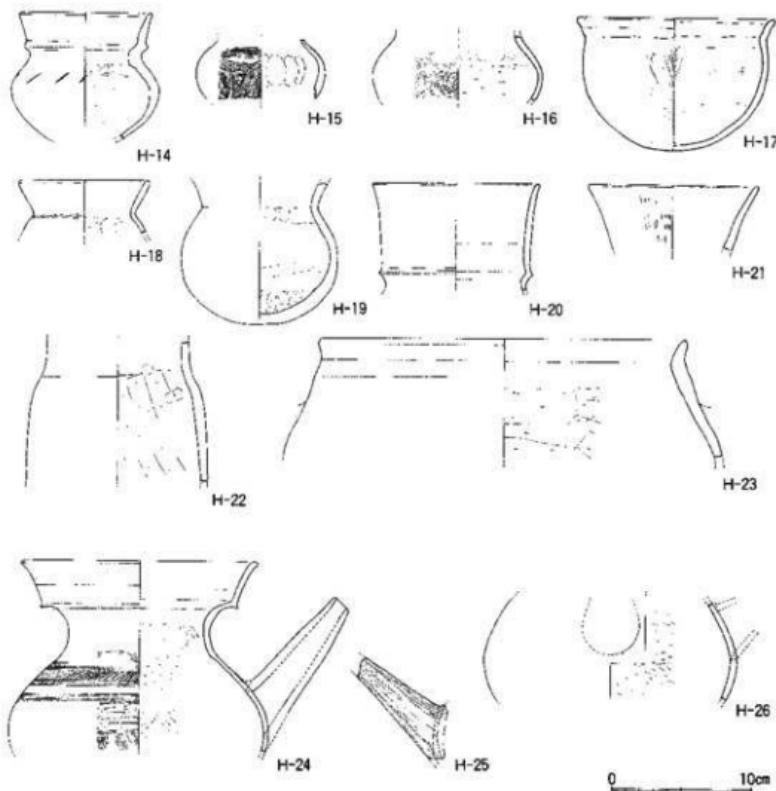
前述の類別に従って掲載した上器を見ていく。

I類の特徴をもつものはH-27～30である。H-28・30は内面のヘラケズリ位置が頸屈曲部内面からであり、弥生後期からの手法を色濃く残すものと言える。また、H-29は肩部にくし描き直線文と波状文が、H-30は斜行刺突文が施されている。

H-31～71はⅡ類の特徴をもつものである。肩部に施文されるものが多く、貝殻腹縁による斜行刺突文とくし描き直線文（H-31・32・56）、ハケ目原体による斜行刺突文とくし描き直線文（H-43・58）、ヘラによる斜行文（H-61）、くし描き直線文や波状文（H-33・34・36・37・44～46・47・49



第55図 SK-03出土遺物実測図(2)



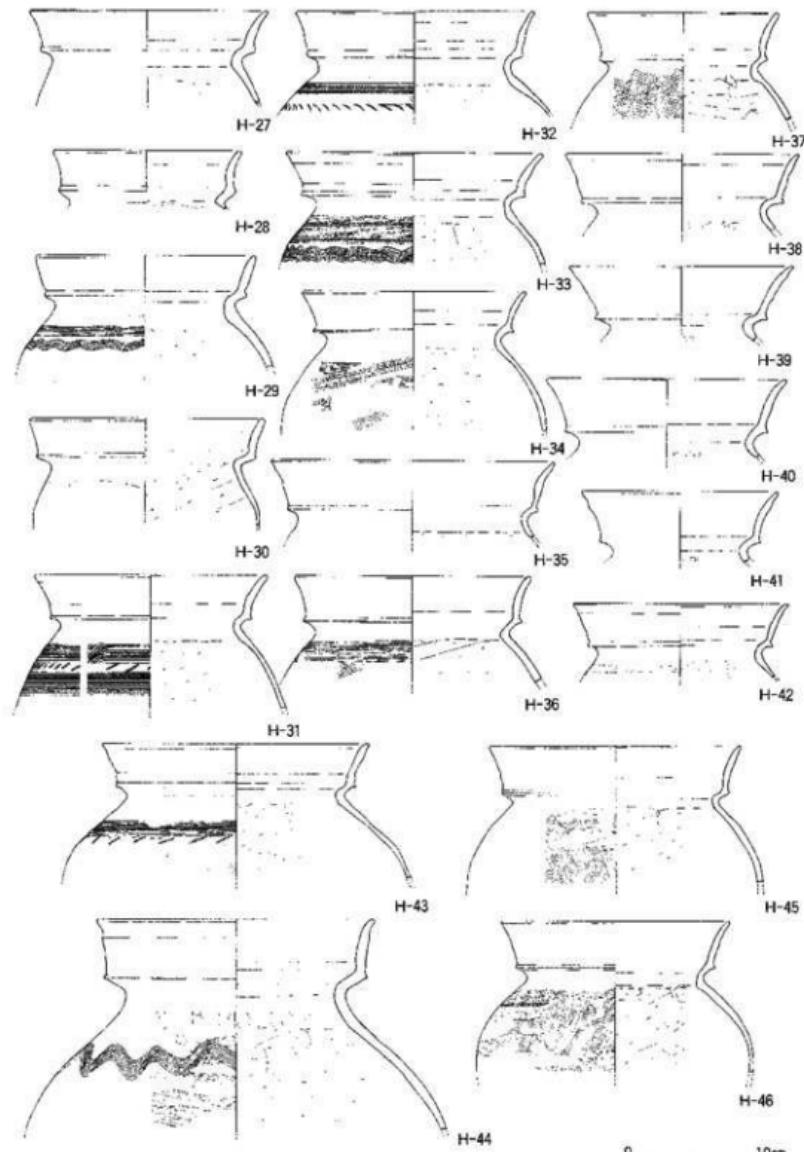
第56図 土器実測図(2) (1 : 4)

・51～53) 等が見られる。

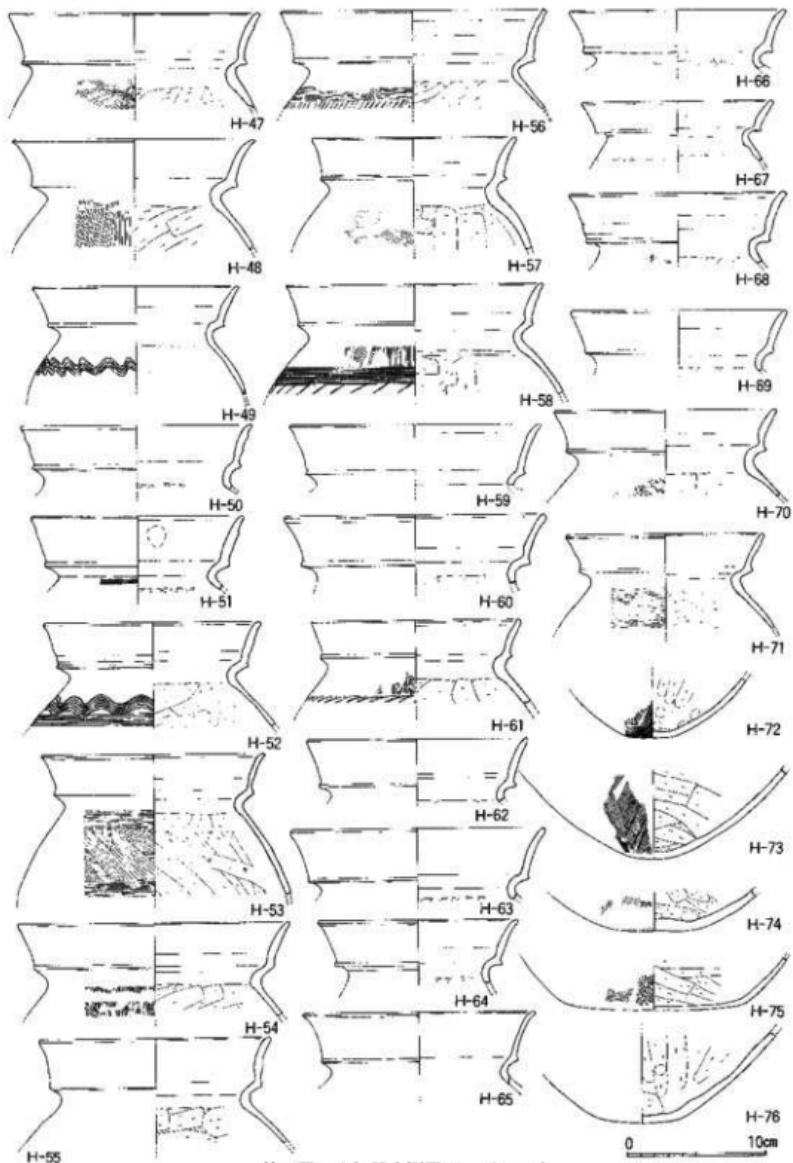
H-73～76はI類・II類の底部と考えられるものである。小さな平底もしくは平底気味の小さな丸底をもつが、H-75のように大きな平底をもつものも見られる。外面にはハケ目、内面にはヘラケズリと指頭圧痕が見られ、薄手に仕上げられている。

III類の特徴をもつものはH-77～95である。肩部に施される文様には、ヘラによる斜行刺突文(H-85)、くし描き直線文(H-86・87)、くし描き波状文(H-79・90・93)等があるが、貝によって施されるものは見られない。

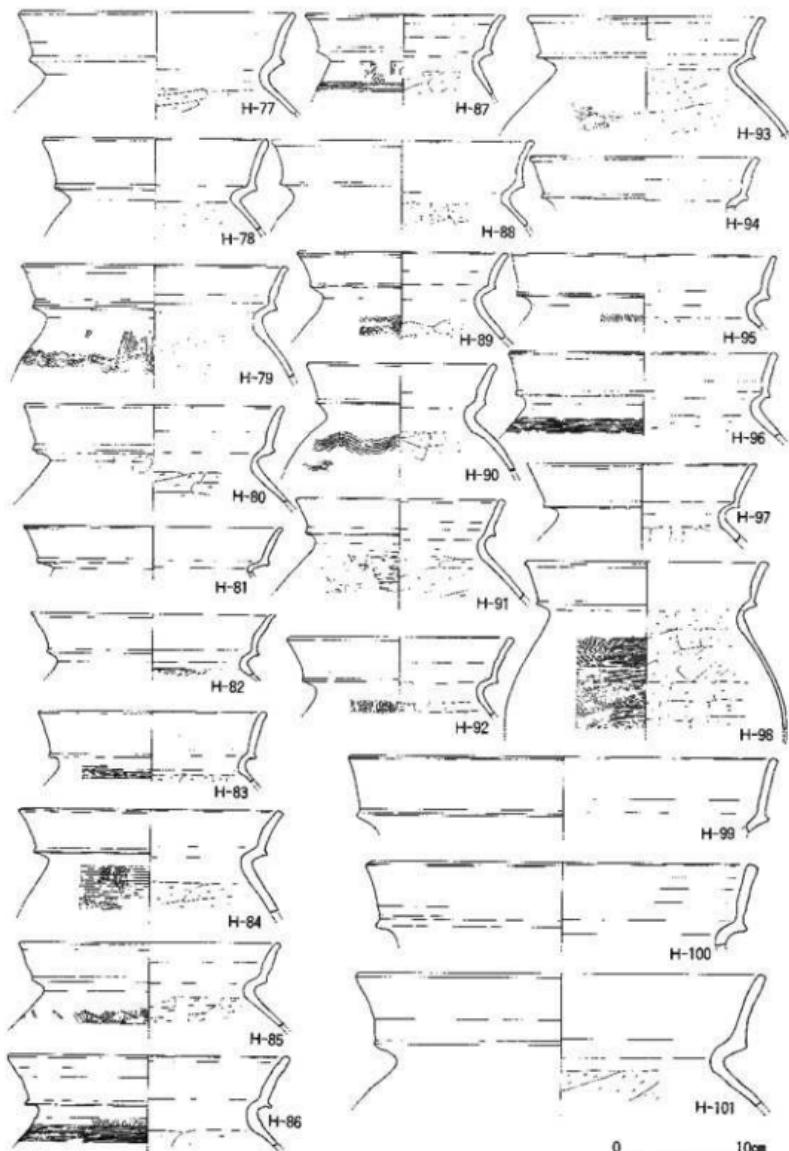
IV類の特徴をもつものとしてはH-96～123がある。布留式の影響によると言われる口縁端部を内側に肥厚させるものは、H-116～118・123がある。肩部に施される文様には、くし状工具による斜



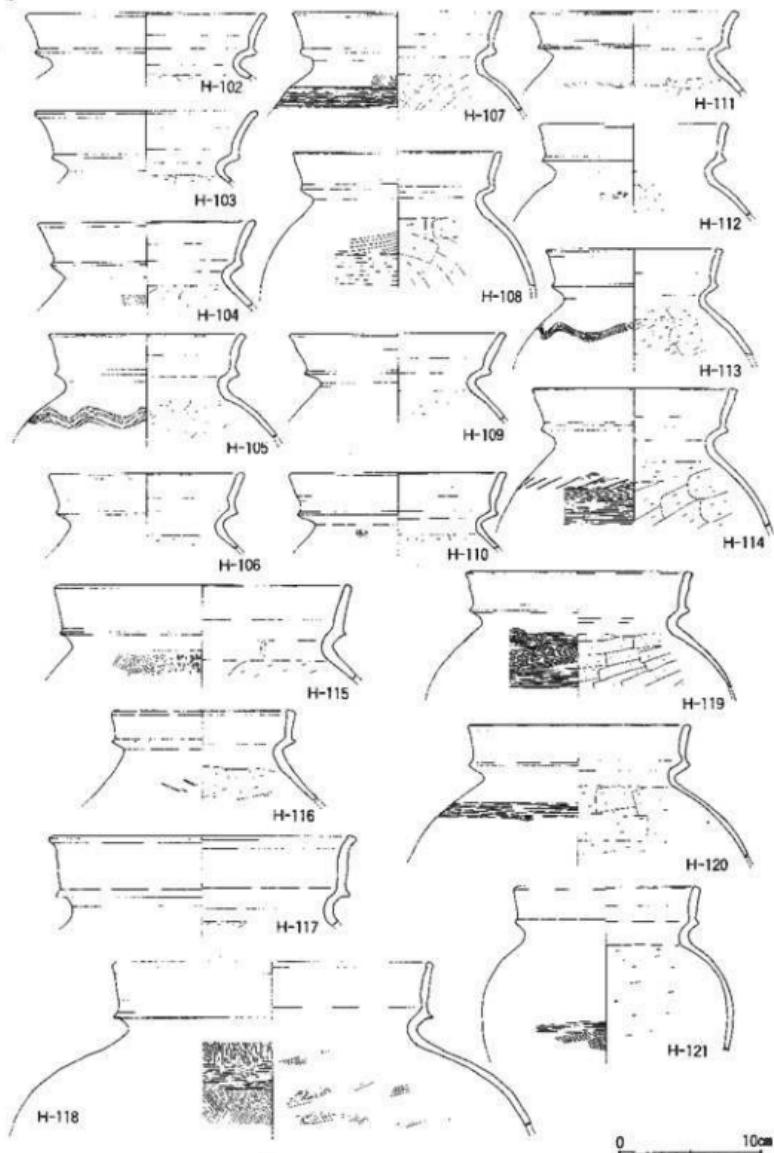
第57図 土師器実測図(3) (1 : 4)



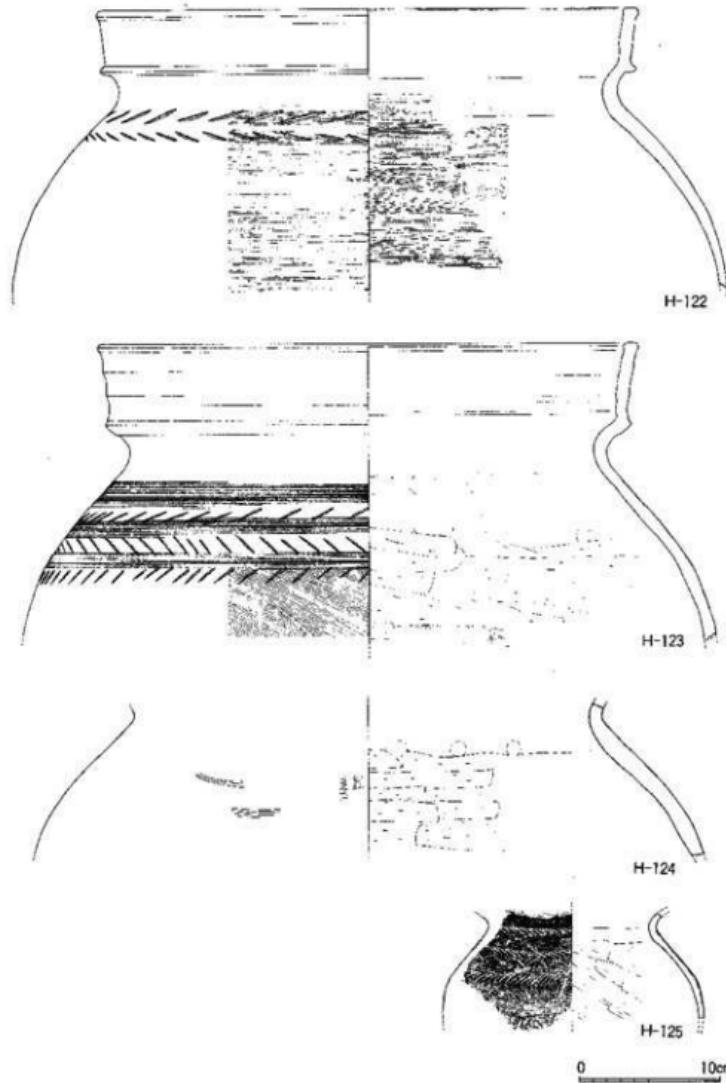
第58図 土器実測図(4) (1 : 4)



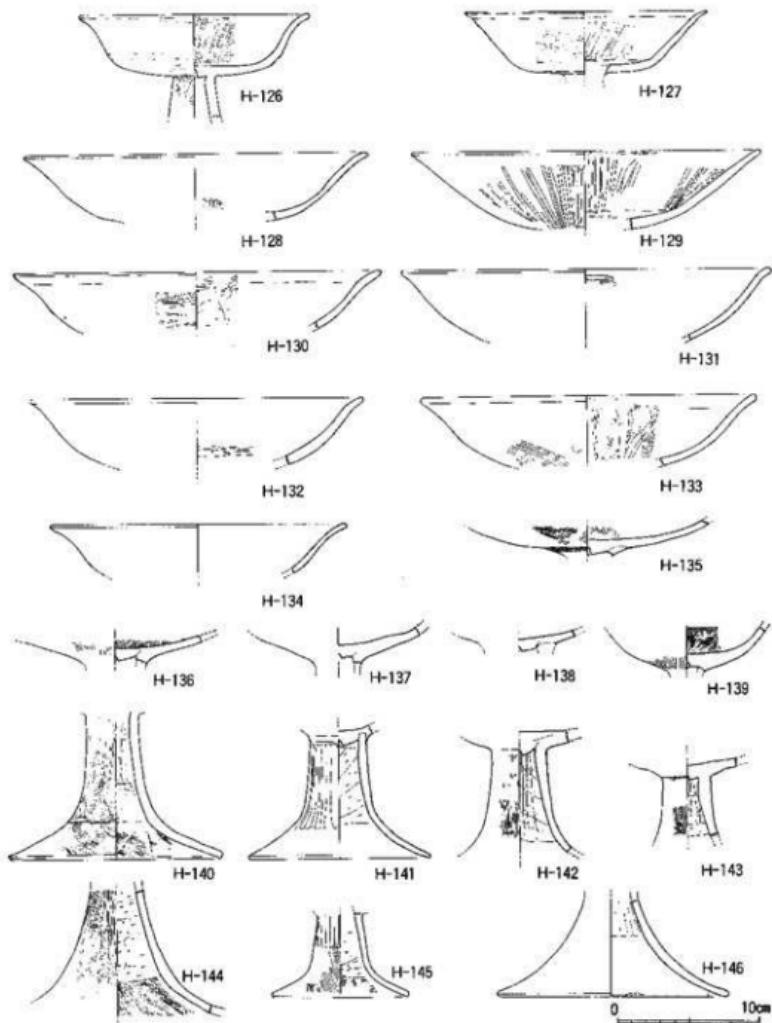
第59図 土師器実測図(5) (1 : 4)



第60図 土師器実測図(6) (1 : 4)



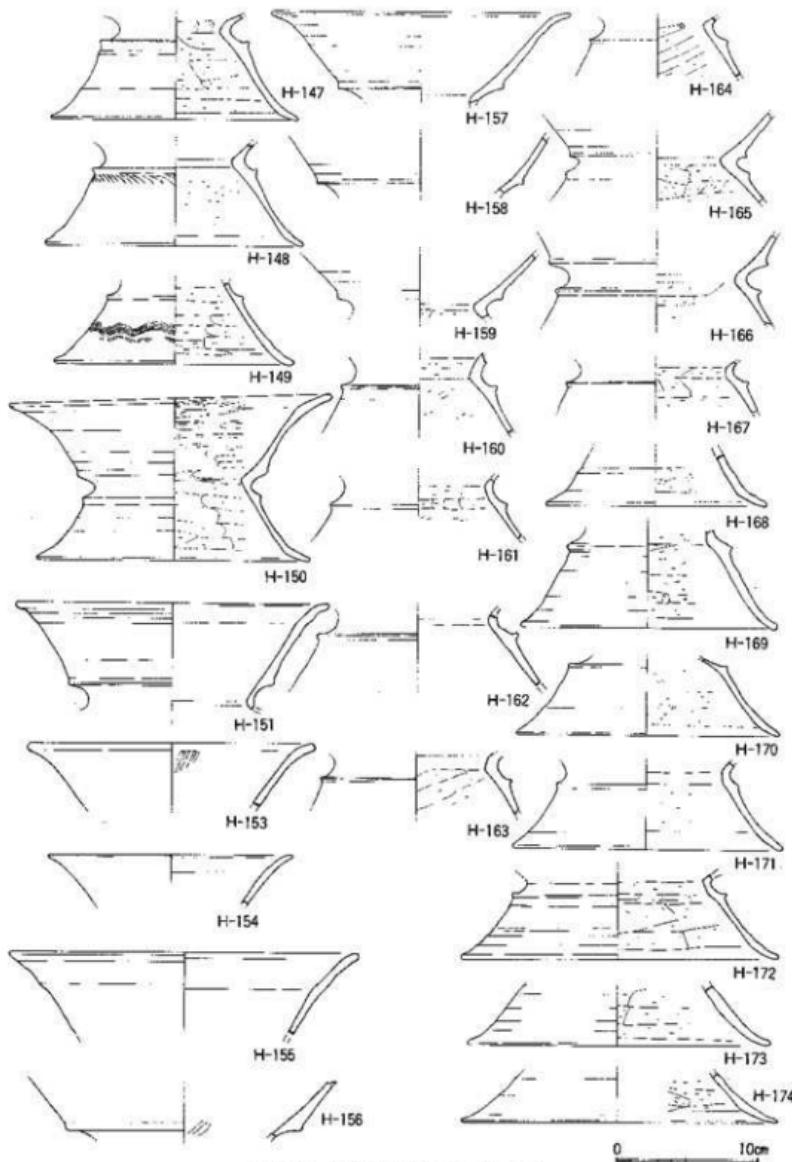
第61図 土師器実測図(7) (1 : 4)



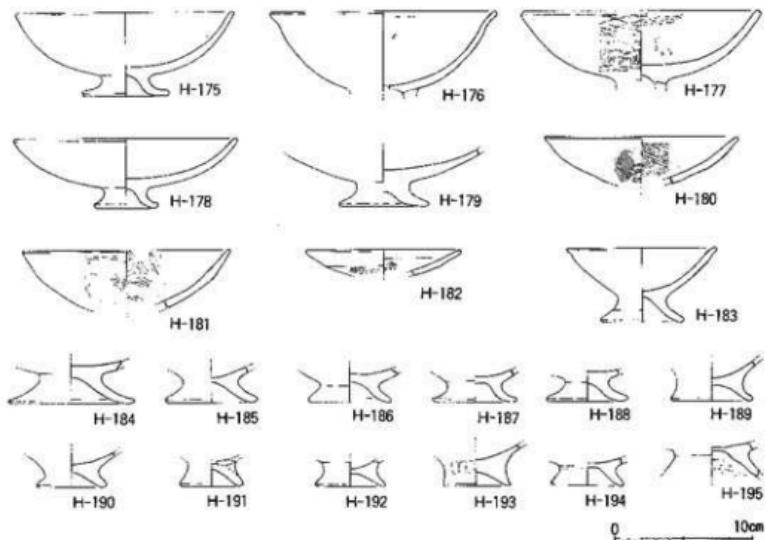
第62図 土器実測図(8) (1 : 4)

行刺突文 (H-114), くし描き波状文 (H-111・113), くし描き直線文 (H-120) 等が見られるが、大形品を除いて、施文される割合は低くなるようである。

H-122・123は口径38cmをこえる大形品である。H-122は肩部にハケ目原体による羽状の施文を



第63図 土師器実測図(9) (1 : 4)



第64図 土師器実測図(10) (1 : 4)

施文される。器面の調整は口縁部ヨコナデ、胸部外面ヨコハケ、内面ヘラケズリの後ヨコハケにより行われる。H-123は肩部にハケ目原体による羽状文と直線文が施されている。器面調整は口頭部ヨコナデ、胸部外面ハケ目、内面上半ナデ、下半ハケ日の後ヘラケズリにより行われる。

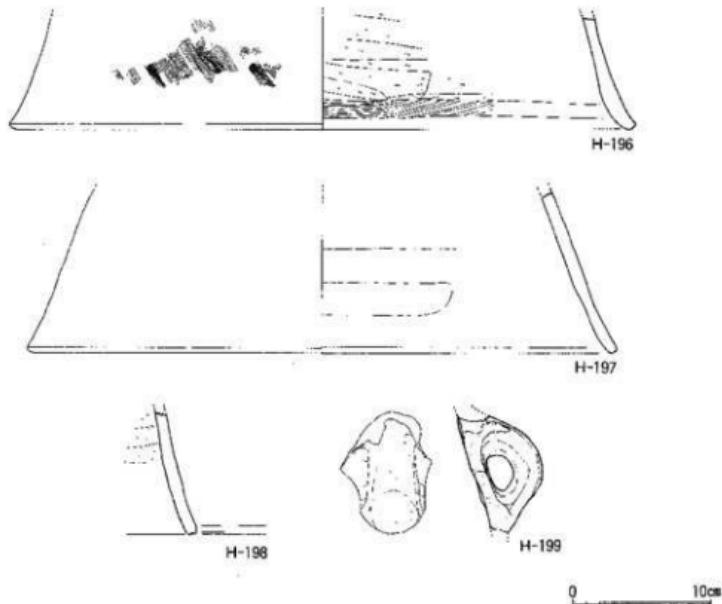
H-125は口縁部を欠くもので、全体の器形は判らないが、肩部から胸部にかけて斜行刺突文、くし書き直線文、山形文等が交互に施されている。鍵尾A-5号墓出土の直口台付壺の文様に酷似しており、弥生土器の可能性も考えられる。

高坏 (H-126~146)

全形のわかるものは一点も見られず坏部片、脚部片がほとんどであるが、それぞれの特徴をつなぎ合わせて全形を想像する。坏部は丸みを帯びた体部から、ゆるやかに外反して口縁端部に達し、脚部は円筒状の箇部から、やはりゆるやかに広がって端部に至るものであろう。内部には円盤が充填され、中央に刺突痕をもつ、といった形状になる。

鼓形器台 (H-147~174)

H-150が、全形のわかる唯一のものである。器受部径23.1cm、脚台部径19.6cm、器高11.5cmを測



第65図 土師器実測図(II) (1:4)

る。筒部は著しく縮約が進み、受部径に比して器高の低いものとなっている。小谷式併行のものと考えられる。

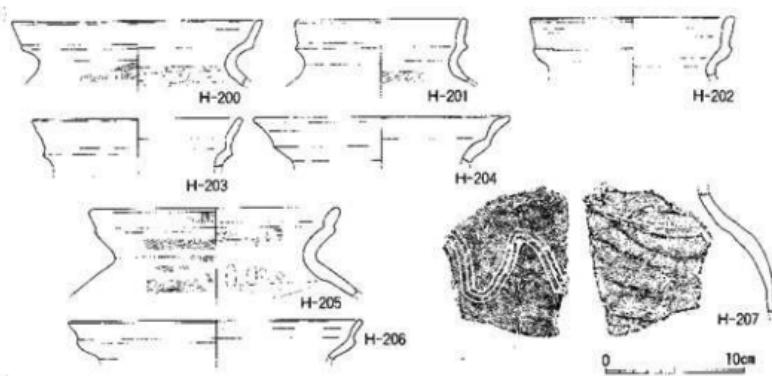
他の個体もおむね似た形状をもつが、特徴的なものも何点かは見られる。

H-148は脚台部外面の上部に斜行刺突文、H-149は脚台部外面中程にくし插き波状文が施される。後者の類例として、出雲山持川川岸²²遺跡出土のものが上げられる。またH-147は脚台上端の突出部が鋭く出るもので、底径に対する脚台高の高さを見るとH-150よりはずっと高く、筒部の径も小さい。これらH-147～149の土器はH-150よりもやや古い要素を持つと言えるかもしれない。

低脚环 (H-175～195)

全形のわかるものはH-175・178・183である。

H-175・177～180は口径の大きさ、坏部の深さ等の違いはあるが、ごく一般的に見られるものである。H-176は坏部が深く口縁端部が外反するもの、H-181・182は外面にかすかな稜を持つもの、H-182は口径が小さく浅い坏部のもの、H-183は口径が小さく坏部の深いものである。



第66図 土器実測図12 (1 : 4)

H-184～195は脚部片である。H-184のように大きく開くもの、H-189・191のように小さく開くもの、H-193のように直立気味となるものなどさまざまある。H-194・195は杯底部が薄く作られている。

これらの低脚杯の器面調整は大半のものが杯部内外面にハケ目とヘラミガキ、脚部内外面にヨコナデを施すが、H-195のみは、脚部内面にヘラケズリを施され、異色のものとなっている。同様の手法を用いるものは、大数遺跡第Ⅳ調査区下層の遺物中に見ることができる。^{註3}

瓶形土器 (H-196～199)

瓶形土器については、近年の発掘成果である勝負遺跡SI-14の例もあり、「垂下して使用する土器」との考え方^{註4}に従って実測を行った。^{註5}

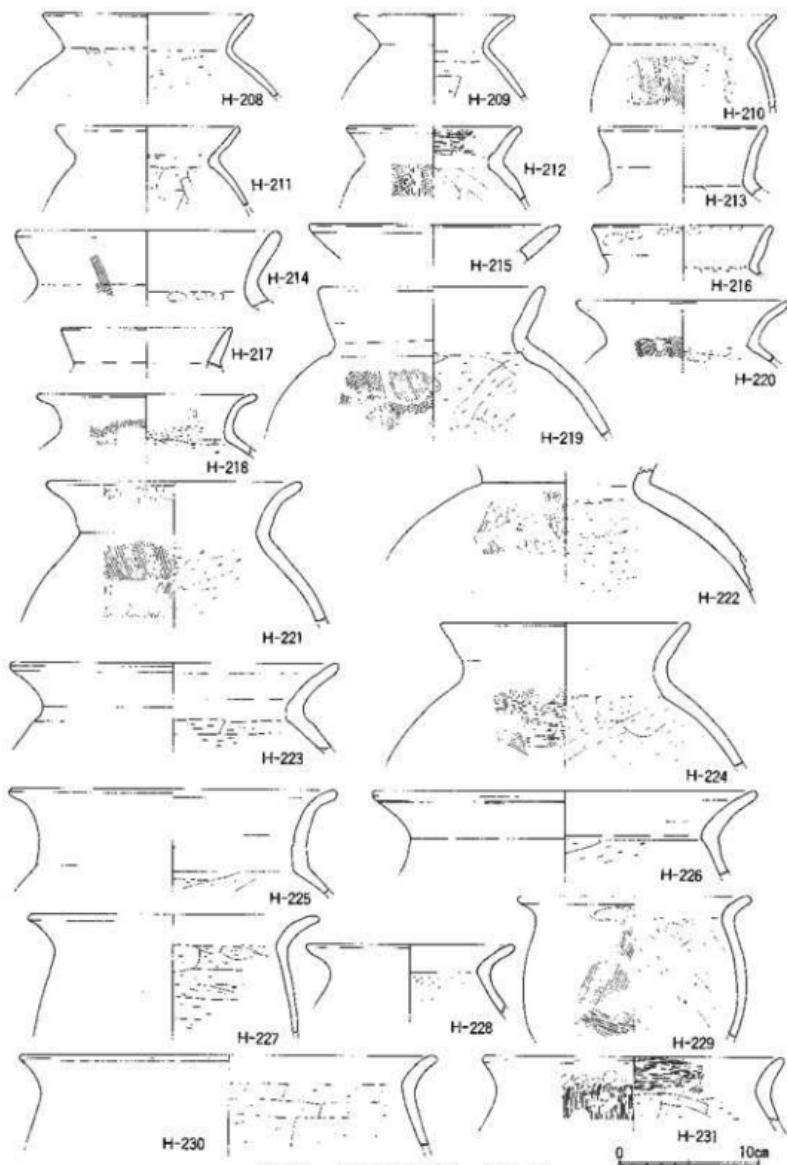
H-196・197はいずれも裾部径40cmをこえる大形品で、ゆるやかに聞く裾部付近の破片である。外面にはハケ目とナデ、内面にはヘラケズリ、端部にはヨコナデを施している。H-198も同様のものであろうか。H-199は、縦に付く把手で、差し込んで付けられる。^{註6}

(2) 古墳時代中期～奈良時代の土器 (第66～70図 H-200～274)

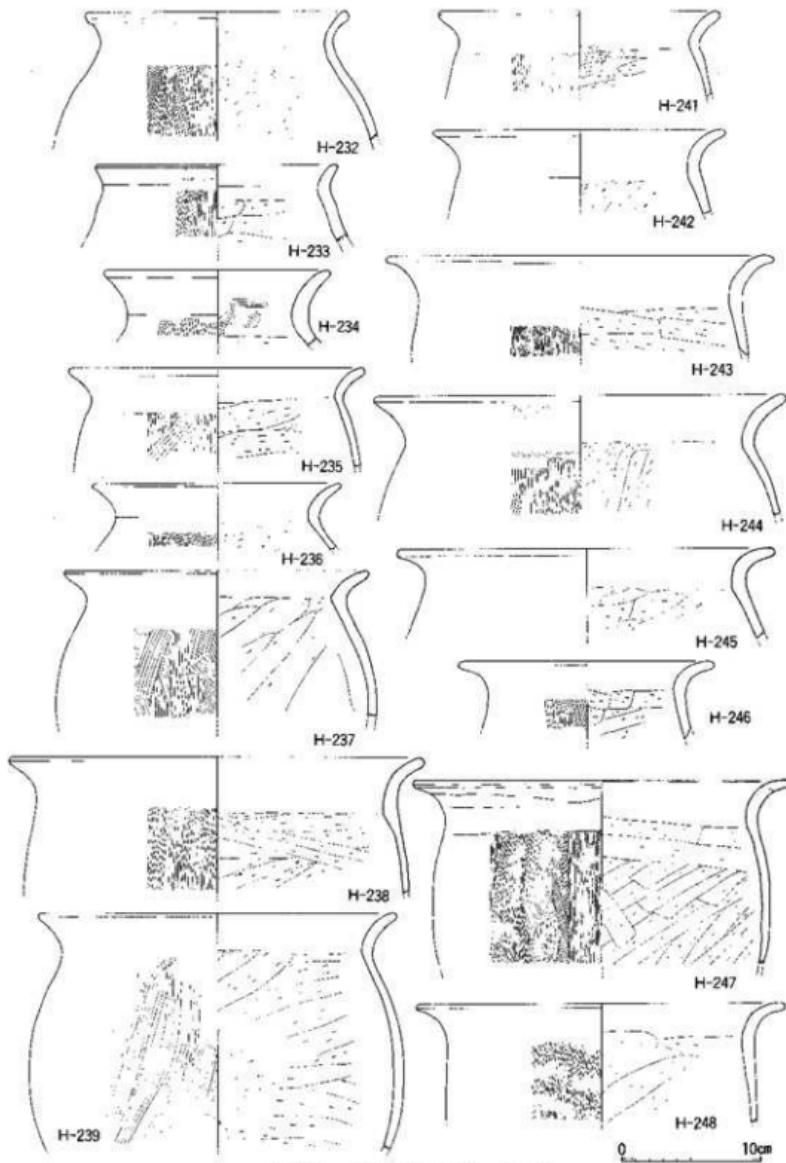
壺、甕、高杯、杯、瓶、甕等の器種がある。壺と甕の区別は難しい。

退化した複合口縁をもつ壺・甕 (H-200～207)

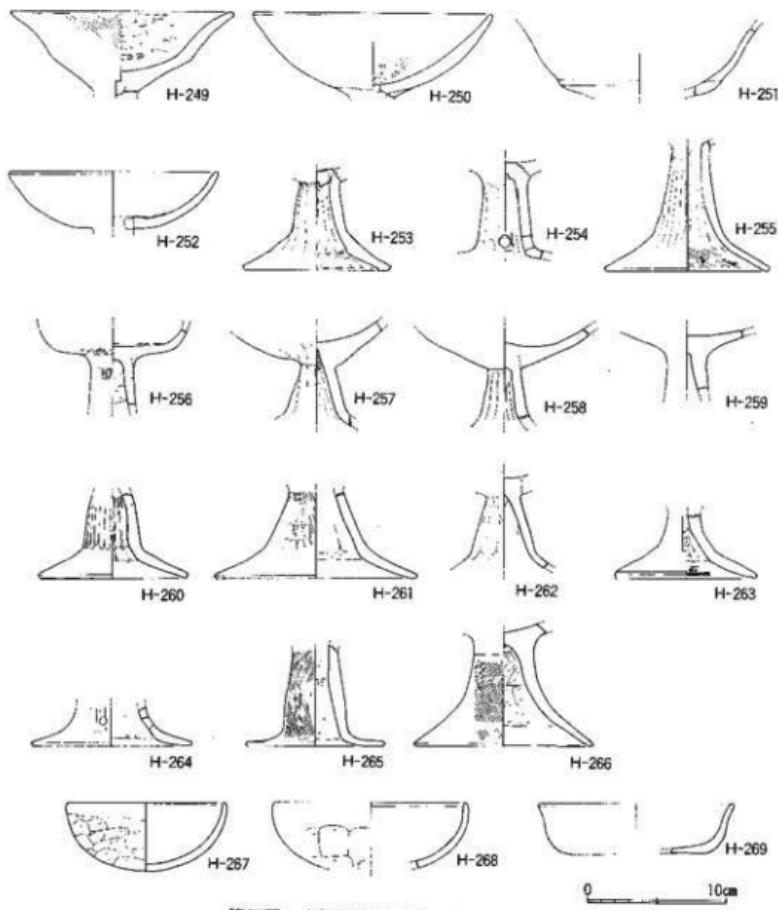
複合口縁部は短く外傾し、突出部はだれて下ぶくらみするものも見られる。従来の、いわゆる大束式にあたるもので、大角山遺跡・大数遺跡第Ⅳ調査区中層^{註7}などで見られるものである。



第67図 土器実測図(3) (1 : 4)

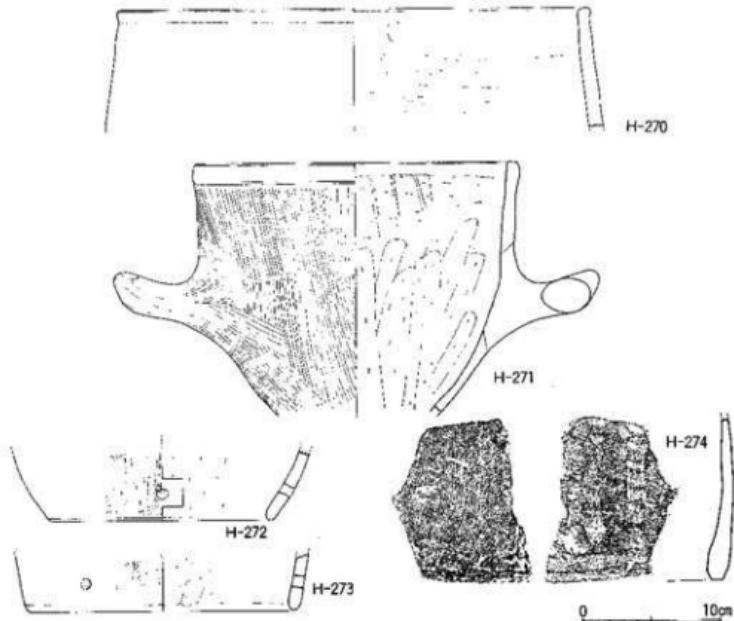


第68図 土器実測図(14) (1 : 4)



第69図 土器実測図15 (1:4)

H-207は胸部に荒いくし状工具を使用した波状文が施されるもので、口縁部は失われている。外面はナデ、内面はヘラケズリを施すが、そのヘラケズリは非常に凹凸の激しいものである。ヘラケズリの荒さ、器壁の厚み、肩の張り具合等から見ると大東式併行あたりのものではないかと思われる。



第70図 土器実測図(16) (1 : 4)

単純口縁をもつ壺・甌 (H-208~248)

口縁部の形状から4種に分類した。

I類 (H-208~212・223) は「く」の字状に屈曲する口頸部をもち、胴部が張り出るものである。口縁外面にかすかな稜を持つものと持たないものがある。

II類 (H-213~217・219・224) は口頸部が外傾して伸びるもので、外面に不明瞭な稜線を持つものが多い。内面ヘラケズリは屈曲部よりも下がった位置から行われる。

III類 (H-218・220・221・225) は口頸部が外反して伸び、端部近くでさらに強く反るものである。胴部は強く張り出している。

IV類 (H-226・227・229~231・234~248) は口頸部が緩く外反し、胴部の張り出しが口縁以上にならないもの又はやや張り出す程度に止まるものである。屈曲部内面からヘラケズリされ、明瞭な稜線をもつ。

I~IVの分類に入らないものにH-232・233がある。短頸の壺形とでもいべきもので、なで肩、胴張りの形状を呈す。

I～III類は大角山遺跡・夫敷遺跡中層～上層等で見られるものであり、古墳時代中期頃の土器と考えられる。IV類は古墳時代後期以降のものであろう。

高杯 (H-249～266)

H-249は杯底部が内湾し、口縁部との境から外反するため、外面に稜を持つものである。内部には肥厚した粘土が充填されるが、刺突痕は見られない。

H-250・252は、杯部がゆるやかに内湾しつつそのまま口縁端部に至るものである。H-250は底外面の形状からすると、低脚杯の可能性もあるが器壁の厚さから高杯と考えた。

H-251は底体部界に段をもつものである。

H-253～255は脚部である。内部に刺突痕をもつ肥厚した粘土を充填するもので、その痕跡が見えないものであっても、充填するであろうと考えられるものを含めた。内面には絞り目が見られ、H-249～252のような杯部をもつものに組み合うと考えられる。H-254の筒部下端には円孔が穿たれている。

H-256は平たい底から内湾して立ち上がる杯部をもち、円筒状の脚筒部が付くものである。筒部内面にはヘラケズリが施される。

H-257～259は腕形の杯部をもつもので、杯部と脚部を別に作り接合部外面を粘土で補強している。杯部は摩滅が進んでいるが、脚部外面にはわずかにヘラミガキが残り、内面には絞り目が見られる。H-260～262も同様のものであろうか。

H-263は細い筒部から連続的に大きく開く脚部で脚高は低い。

H-264は筒部下端に円孔をもつもの、H-265は裾部が水平に開くもの、H-266は太い筒部からゆるやかに開くものである。

杯 (H-267～269)

H-267は半球状の杯で、外面には手持ちのヘラケズリとナデが、内面には多方向のナデが施される。H-268はH-267よりも偏平な形をしており、やはり外面に手持ちのヘラケズリが見られる。これらの杯の類例は大角山遺跡中層出土遺物中に多くみられる。

H-269は平たい底部と外反する口縁部をもつ杯で、内面には赤色顔料が塗られている。

盃 (H-270～273)

H-270は筒の口縁部と考えられるもので、やや内傾する。端部は平坦に作られ、外面に沈線状のへこみをもつ。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラケズリを施す。

H-271は胴部に牛角状の把手を、差し込んでつけられるものである。外面には荒いハケ目、内面にはヘラケズリを施している。

H-272・273は瓶底部の小破片と見られ、端部近くに円孔がみられる。同様の例は、薺沢A遺跡^{註4}の遺物中に多く見られ、古墳時代後期頃のものと考えられる。

竈 (H-274)

H-274は移動式の竈の底部から胴部にかけての破片と見られる。端部は厚く作られ、ヘラで面取りされている。外面はハケ目、内面はヘラケズリが施される。

註1 山本清「山陰の土師器」『山陰古墳文化の研究』 1971年

註2 『島根県埋蔵文化財発掘調査報告 第四集』 島根県教育委員会 1981年

註3 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VI(夫敷遺跡)』 島根県教育委員会 1989年

註4 『一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』 島根県教育委員会 1990年

註5 谷若倫郎「山陰系コシキ形土器の重下使用法」『愛媛考古学 第9号』 1986年

註6 『大角山遺跡発掘調査報告書』 島根県教育委員会 1988年

註7 註3と同じ

註8 『薺沢A遺跡・萬代B遺跡・別所遺跡』 松江市教育委員会 1988年

土 師 器 觀 察 表

器種	博 号	國 府 号	出土地点	層位	深 底 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・被皮・色調	備 考
壺	第554号 H-1	40		表鉢		複合口縁 張底～肩部にハケ目原 体による羽状文、ヘラ による沈縞文	頸部～肩部外面:ヨコ ハケ 頸部～肩部内面:ヘラ ケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
壺	第554号 H-2	40	NIE1	褐色 砂質土	口径 14.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土:密 燒成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第554号 H-3	40	NIE1	灰色 砂質土	口径 12.6	複合口縁	口縁部外面:ヨコナデ 胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:密 燒成:良好 色調:灰褐色	
壺	第554号 H-4	40	NIE2	暗青灰色 砂質土		肩はあまり段らない	胴部外面:ハケ目(タダ) 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
壺	第554号 H-5	40	NIE1	赤褐色 砂質土	口径 29.2	複合口縁 頸部にハケ目原体によ る羽状文、沈縞文	口縁部外面:ヨコナデ 頸部外面:ハケ目(タダ) 外文:ヘラケズリ 頸部内面:ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰白色	赤身
壺	第554号 H-6	40	NIE2	暗灰褐色 砂質土	口径 24.8	複合口縁 頸部にハケ目原体によ る斜行文	ヨコナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	暗色
壺	第554号 H-7		S260	灰褐色 砂質土	口径 23.2	複合口縁	口縁部:ヨコナデ	胎土:白色小砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	河道4
壺	第554号 H-8		NIE3	赤褐色 砂質土	口径 30.3	複合口縁	ヨコナデ	胎土:密 燒成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第554号 H-9	40	SIEO	暗灰色 砂質土	口径 19.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土:密 燒成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第554号 H-10	40	NIE1	暗灰色 砂質土	口径 17.4	複合口縁	ヨコナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 燒成:良好 色調:灰褐色	河道3
壺	第554号 H-11	40	NIE1	暗灰色 砂質土			胴部外面:ハケ目 胴部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
壺	第554号 H-12	40	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土		複合口縁の下端から腰 部にかけての鋸片	ナデ	胎土:密 燒成:良好 色調:明灰褐色	
壺	第554号 H-13	40	NIE2	褐色 砂質土	口径 25.6	複合口縁。非常に大き く開く	ヨコナデ	胎土:小砂粒を多く含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
小形 瓶	第554号 H-14	41	I区	青灰色 砂質土	口径 9.6	複合口縁 ハケ目原体による斜行 文	口縁部:ヨコナデ 頸部外面:焼成 頸部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
壺	第554号 H-15	41	NIE1	褐色 砂質土		小形壺の胴部片 くし崩れ沈縞文と波状 文	外文:ハケ目 内面:指窓压痕、ナデ	胎土:密砂粒を含む 燒成:良好 色調:暗褐色	
壺	第554号 H-16	41	SIEO	暗青灰色 砂質土		小形吸の胴部	外文:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 燒成:良好 色調:褐色	河道4
小形 瓶	第554号 H-17	40	NIE1	褐色 砂質土	口径 14.0 高さ 9.4	半球状の体部に軽く外 傾する短い立脚がついて 内面に厚くうるしが残 る	口縁部内外面:ヨコナ デ 体部内外面:ハケ目	胎土:1mm前後の白色砂粒を含 む 燒成:良好 色調:暗褐色	
小形 瓶	第554号 H-18	41	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 9.0	口縁は外傾し、腹はあ まり段らない 腹部にヘラ状工具によ る斜行文	口縁部内外面:ヨコナ デ 胴部内面:ナデ ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 燒成:良好 色調:灰褐色	
小形 瓶	第554号 H-19	41	NIE1	青灰色 砂質土		環形、丸底	外文:ナデか 内面:強いナデ	胎土:2mm未満の砂粒を多く含 む 燒成:良好 色調:淡灰褐色	河道2

器種	押 固 号	固 定番号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
直口壺	第56回 H-20	41	埴土		口径 11.7	複合口縁	調整不明	胎土: ■■本筋の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
壺	第56回 H-21	41	NIE1 ～NED1	褐色 砂質土	口径 12.0	直口壺の口縁部か	外縁: ハケ日後ヨコナ 内縁: ヨコナデか	胎土: ■■本筋の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 白乳褐色, 内灰褐色	
壺	第56回 H-22	41	NED2	暗赤色 粘土質土		ずん刺で胴長の意か	外縁: ヨコナデ 内縁: 頭部以下ヘラケ メリ	胎土: ■■本筋の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 乳灰白色	
壺	第56回 H-23	41	埴土		口径 25.8	無限に近い粗面の変形 で、とってがつくと思われる	口縁部内外面: ヨコナ デ 頭部外面: ナデ 頭部内面: ヘラケズリ	胎土: 1～3mmの砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
注口十 字水差	第56回 H-24	41	トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 16.9	複合口縁。非常に薄手 周縁に内凹口 肩部にくし書き沈 文3段と斜行刻文	口縁部へ張部: ヨコナ デ 頭部外面: ハケ目 頭部内面: ヘラケズリ	胎土: 小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 白灰白色	
注口	第56回 H-25	41	S250	暗赤色 砂質土			外縁: ヘラミガキ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	外縁下部にスス 付着。河道4
注口	第56回 H-26	41	NIE1	灰褐色 粘土質土		肩部の破片	外縁: 調整不明 内縁: ヘラケズリ	胎土: ■■本筋の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	
壺	第57回 H-27	42	NIE2	淡青灰色 砂質土	口径 16.9	複合口縁部は外反し。 肩部の腹は細い。ナ ド目で施づくりの体部	肩部により調整不明	胎土: ■■前後の砂粒を多く含む (含金鑑定) 焼成: やや不良 色調: 淡色	河道2
壺	第57回 H-28	42	NIE1	褐色 砂質土	口径 13.2	複合口縁部に外反する	唐突著しいが一部ヨコ ナデが残る	胎土: ■■本筋の砂粒を多く含む 焼成: やや軟 色調: 淡褐色	
壺	第57回 H-29	42	S260	暗青灰色 砂質土	口径 15.7	複合口縁部は外彎して 伸びる 肩部にくし書き沈文線 と波状文	口縁部: ヨコナデ 頭部外面: ハケ日後ナ デ 体部内面: ヘラケズリ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道4
壺	第57回 H-30	42	NED3	黒褐色 砂質土	口径 16.8	複合口縁部は外反気味。 ナド肩で施づくり 肩部に斜行刻文(文 具跡)か	口縁部: ヨコナデ ナド肩で施づくり 肩部に斜行刻文(文 具跡)か	胎土: ■■前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面にスス付着
壺	第57回 H-31	42	S261	暗青灰色 砂質土	口径 16.4	肩部: 斜めに外反し。 腹は細く、肩部に施 されている刻文(文 具跡)か	口縁部: ヨコナデ 肩部外面: ハケ目後ナ デ 体部内面: ヘラケズリ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: やや暗灰色	体部外面に炭化 物付着。河道4
壺	第57回 H-32	42	S260	暗青灰色 砂質土	口径 16.9	複合口縁部に外反する。 体部は薄く、肩部にく し書き沈文線と波状文 (文具跡)か	口縁部: ヨコナデ 頭部外面: ハケ目後ナ デ 体部内面: ヘラケズリ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道4
壺	第57回 H-33	42	S260	赤褐色 砂質土	口径 18.4	複合口縁部は外反し。 シャープなつくり 肩部にくし書き沈文線 と波状文	口縁部: 深いヨコナデ 肩部以下凹面: ついでい ないヘラケズリ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道4
壺	第57回 H-34	42	トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 15.8	複合口縁部は外反し。 シャープなつくり 肩部にくし書き沈文線 と波状文	口縁部: ヨコナデ 肩部内面: ヨコナデ 体部内面: ヘラケズリ	胎土: ■■前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面にスス付着
壺	第57回 H-35		NIE1	暗青灰色 砂質土	口径 19.8	複合口縁部は外反し。 シャープなつくり	外縁: ヨコナデ 肩部内面: ヘラケズリ	胎土: ガラス質の砂質を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面に炭化物付 着
壺	第57回 H-36	42	S261	暗青灰色 砂質土	口径 16.5	複合口縁部は外反し。 肩部は細い。 肩部にくし書き沈文線 と波状文	口縁部: ヨコナデ 肩部以下凹面: ヘラ ケズリ	胎土: ■■前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道4
壺	第57回 H-37	42	NED2 NED1	暗赤褐色 砂質土	口径 13.4	複合口縁部は外反し。 ナド肩で施づくり 肩部にくし書き波状文	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	胎土: ■■砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面にスス付着。 河道2
壺	第57回 H-38	42	NED1	暗青灰色 砂質土	口径 16.6	複合口縁部は外反し。 シャープなつくり	ヨコナデ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面にスス付着
壺	第57回 H-39	42	トレンチ内	暗赤褐色 砂質土	口径 16.0	複合口縁部は強く外反 する。安川部は鋸い	ヨコナデ	胎土: 老 焼成: 良好 色調: 淡褐色	

番号	井戸番号	断面番号	出土地点	層位	法量(cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	土質・焼成・色調	備考
要	第57回 H-40	42	S2ED	暗青灰色 砂礫層	口径 17.1	複合口縁部は長く外反する。突出部は低い。	ヨコナデ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着。 河道4
要	第57回 H-41	42	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 14.0	複合口縁部は長く外反し、突出部の後は低い。	ヨコナデ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
要	第57回 H-42	42	N2E1	褐色 砂礫層	口径 15.3	複合口縁部は外反し、シャープなつくり	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着
要	第57回 H-43	42	S2ED	暗灰褐色 砂礫層	口径 18.9	複合口縁部は外反し、シャープなつくり 肩部にくし縫き状文様(全体には長い)。	口縁部: ヨコナデ 胸部外面: ハケ目 胸部内面: ヘラケズリ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
要	第57回 H-44	42	S2ED	暗灰褐色 砂礫層	口径 19.6	複合口縁部は外反し、肩部にくし縫き状文様(全体には長い)。	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 1mm溝の白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
要	第57回 H-45	42	S2ED	暗青灰色 砂礫層	口径 17.9	複合口縁部は外反し、シャープなつくり 肩部にくし縫き状文様(全体には長い)。	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 1~3mmの砂粒を少し含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
要	第57回 H-46	42	S2E1	暗褐色 砂礫層	口径 15.2	複合口縁部は外反し、シャープなつくり 肩部にくし縫き状文様	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 鮫砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外面にスス付着。 河道4
要	第58回 H-47	43	N2E1	水灰色 砂礫層	口径 17.8	複合口縁部は外反し、シャープなつくり 肩部にくし縫き状文様	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: ガラス質の小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 乳灰色	口縁部外面に炭化物付着。河道2
要	第58回 H-48	N2E1	暗灰色 粘土質	口径 16.8	複合口縁部は長く外反し、ナメ崩で薄づくり	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 白色小砂粒を少量含む 焼成: 良好 色調: 乳灰色	河道3	
要	第58回 H-49	43	N2E2	褐色 砂礫層	口径 14.4	複合口縁部は外反し、ナメ崩で薄づくり 肩部にくし縫き状文様	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	
要	第58回 H-50	N2E1	褐色 砂質土	口径 16.3	複合口縁部は外反せず	口縁部: ヨコナデ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 暗褐色		
要	第58回 H-51	N1E2	褐色 砂質土	口径 15.1	複合口縁部は長く外反	口縁部: ヨコナデ	粘土: 1mm前後の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色		
要	第58回 H-52	43	N2E2	暗灰色 砂礫層	口径 15.4	複合口縁部はやや外反し、ナメ崩で薄づくり 肩部にくし縫き状文様	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ナデ 体部内面: ヘラケズリ		河道2
要	第58回 H-53	43	N2E2	褐色 砂質土	口径 15.6	複合口縁部は外反	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: ガラス質の小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	外側の一部にスス付着
要	第58回 H-54	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 19.5	複合口縁部は外反	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 1mmの砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4	
要	第58回 H-55	N2E2	暗灰色 粘土質	口径 16.4	複合口縁部は外反、体部は薄づくり	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 1mm以下の白色小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色		
要	第58回 H-56	43	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 19.0	複合口縁部は長く外反する(文様(貝か)くし縫き状文様)	口縁部: ヨコナデ 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 暗褐色	河道4
要	第58回 H-57	43	S2E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.6	複合口縁部は外反、やや厚手	1: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 1mmの砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 乳灰色~淡褐色	河道4
要	第58回 H-58	43	S2E0	暗青灰色 砂層	口径 18.3	複合口縁部は外反、棒ぐりからタグ工芸による装飾と斜行割れ文様	口縁部: ヨコナデ 体部外面: ハケ目 体部内面: ヘラケズリ	粘土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 乳褐色~淡褐色	外面にスス付着。 河道4
要	第58回 H-59	N1D0	褐色 砂質土	口径 18.0	複合口縁部は外反、突出部は誤い。	ヨコナデ	粘土: 密 焼成: 良好 色調: 乳褐色	外面にスス付着	

器種	井番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考	
甕	第56回 H-60	43	NIEI	淡灰色 砂質土	口径 18.6 複合口縁部は外反、突 出部は鋸い。	口縁部:ヨコナゲ	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道2	
甕	第56回 H-61	43	NIEI	暗灰色 砂質土	口径 14.8 複合口縁部は外反気味 肩部にへらによる削行 文	口縁部:ヨコナゲ	胎土:白色微砂粒 焼成:良好 色調:灰褐色	外面に炭化物付着	
甕	第56回 H-62	43	NIEI	褐色 砂質土	口径 15.7 複合口縁部は長く外反 し、突出部は鋸い。	ヨコナゲ	胎土:1mm以下の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色~淡褐色		
甕	第56回 H-63		NIEI	褐色 砂質土	口径 18.2 複合口縁部は長く外反	ヨコナゲ	胎土:褐色 焼成:良好 色調:灰褐色		
甕	第56回 H-64	43	NIEI	褐色 砂質土	口径 14.2 複合口縁部は外反し、 端部でさらに施く反る。 突出部は非常に鋸い。	口縁部:ヨコナゲ	胎土:ガラス質の小砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着	
甕	第56回 H-65	43			口径 16.6 複合口縁部は長く外反 し、突出部は鋸い。	口縁部:ヨコナゲ	胎土:ガラス質の小砂粒を含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着	
甕	第56回 H-66			褐色 砂礫層	口径 15.4 複合口縁部は外反	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ハケ日後ナ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色		
甕	第56回 H-67	43	NIEI	褐色 砂質土	口径 13.8 複合口縁部は外反氣味 肩部にくし抜き洗練文	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ヨコナゲ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:明白茶色		
甕	第56回 H-68	43	S2W1	暗青灰色 砂礫層	口径 15.4 複合口縁部は外反	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ハケ日ナ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着 河道4	
甕	第56回 H-69	43		褐色 砂礫層	口径 15.4 複合口縁部は外反	ヨコナゲ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面にスス付着	
甕	第56回 H-70		S2D	暗灰褐色 砂層	口径 15.0 複合口縁部はやや外反	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ハケ日ナ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:褐色 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4	
甕	第56回 H-71	43	NIEI	淡灰色 砂質土	口径 14.2 複合口縁部はやや外反	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ヨコナゲ 体部内面:ハラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着 河道2	
丘 部	第58回 H-72	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 3.7~4.0	小さな平底	外面:ハケ日 内面:ヘラケズリ、指痕 压痕	胎土:褐色 焼成:良好 色調:褐色~灰褐色	外面にスス付着 河道2	
底 部	第58回 H-73	43	NIEI	褐色 砂礫層		平底気味の小さな丸底	外面:ハケ日ナ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
底 部	第58回 H-74		NIEI	褐色 砂礫層		平底気味の丸底	外面:ハケ日ナ 内面:ヘラケズリと指 压痕	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色	
底 部	第58回 H-75	43	NIEI	褐色 砂質土	底径 12.6	大きな平底、薄づくり	外面:ハケ日ナ 内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	
底 部	第58回 H-76	43	S2D	暗青灰色 砂層		平底気味の丸底	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
甕	第59回 H-77	44	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 15.6	複合口縁部は外反、端 部は圓をなす	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ハケ日ナ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:褐色、1mm未満の白色砂粒 を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	外面にスス付着
甕	第59回 H-78		NIEI	暗灰色 砂質土	口径 15.4	複合口縁部は外反氣味、 端部でわざかに面をな す	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明白茶色	
甕	第59回 H-79	45	S2R1	褐色 砂層	口径 19.0	複合口縁部は外反して 伸び、端部でわざかに 底をなす 肩部くし抜き波状文	口縁部:ヨコナゲ 体部外面:ハケ日後ナ デ、裏文 体部内面:ヘラケズリ	胎土:褐色 焼成:良好 色調:明灰茶色	

器種	採集 場所 番号	出土地点	層位	法 長 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考	
甕	第59回 H-80	トレンチ内	暗灰色 砂層	口径 18.2	複合口縁部は外反し、 端部で面をなす	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ日後ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	外面に炭化物付 着	
甕	第59回 H-81	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂層	口径 18.5	複合口縁部は外傾し、 端部で外反	ヨコナダ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色~暗灰色	同道2	
甕	第59回 H-82	NIE1	褐色 砂質土	口径 17.5	複合口縁部は外反し、 突出部が底に張り、 肩部で外反	口縁部:強いヨコナダ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:淡褐色		
甕	第59回 H-83	44	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 16.0	複合口縁部は外反して 伸び、端部で平坦面を なす。 肩部くし抜き沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ日後ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:明灰白色	
甕	第59回 H-84	44	NIE2	深灰色 砂質土	口径 16.2	複合口縁部は外反し、 肩部は平底 肩部くし抜き沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ目(ヨコ) ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含 む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	同道2
甕	第59回 H-85	NIE2	茶色 砂層	口径 18.2	複合口縁部は外反気味、 底部で面をなす 肩部くし抜き沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ日 ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色		
甕	第59回 H-86	44	中央ベルト	褐色~ 青灰色 砂層	口径 19.8	複合口縁部は外反し、 突出部が底に張り、 肩部くし抜き沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ日後ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	同道2
甕	第59回 H-87	44	SIE2	暗青灰色 砂層	口径 14.2	複合口縁部は外反し、 端部で面をなす 肩部くし抜き沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ目とナ デ ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの大白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	同道4
甕	第59回 H-88	44	トレンチ内	暗褐色 砂層	口径 18.6	複合口縁部は外反して 伸び、端部で平坦面を なす	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ナ デ ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:暗茶褐色	外側の一部にス ス付着
甕	第59回 H-89	44	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂質土	口径 15.1	複合口縁部は外反、端 部で面をなす	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ日 ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:暗 焼成:良好 色調:灰色	
甕	第59回 H-90	44	トレンチ内	暗青灰色 砂層	口径 13.6	複合口縁部は外反して 伸び、端部で面をなす 肩部くし抜き波状文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ目とナ デ ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mmの砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰褐色	外側にスス付着
甕	第59回 H-91	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 14.2	複合口縁部は外傾、端 部で平坦面をなす	ヨコナダ ナ デ ナ デ ヘラケズリ	胎土:ヨコナダ質の小砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:暗灰白色		
甕	第59回 H-92	I区 トレンチ内	青灰色 砂層	口径 15.7	複合口縁部は外反し、 端部で平坦面をなす	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ナ デ ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	外側にスス付着	
甕	第59回 H-93	45	SIE2	暗青灰色 砂層	口径 16.7	複合口縁部は外反気味、 端部で平坦面をなす 肩部くし抜き波状文と 沈線文	口縁部:ヨコナダ 体部外面:ハケ目とナ デ ナ デ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:黑褐色	同道4
甕	第59回 H-94	NIE2	暗褐色 砂層	口径 15.8	複合口縁部は外反し、 端部で平坦面をなす	ヨコナダ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色		
甕	第59回 H-95	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 18.6	複合口縁部は外反気味 伸び、端部で面をなす 肩部くし抜き沈線文	ヨコナダ ナ デ ナ デ ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:暗褐色	外側に炭化物付 着	
甕	第59回 H-96	44	NIE1	褐色 砂質土	口径 18.4	複合口縁部は外反気味、 端部で平坦面をなす 肩部くし抜き沈線文	ヨコナダ ナ デ ナ デ ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含 む 焼成:良好 色調:暗褐色	外側に炭化物少 量付着
甕	第59回 H-97	44	NIE2	暗褐色 砂質土	口径 16.4	複合口縁部は外傾、端 部でわずかに面を持つ	ヨコナダ ナ デ ナ デ ヘラケズリ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	同道2
甕	第59回 H-98	44	NIE1	褐色 砂層	口径 17.0	複合口縁部は外反、端 部で平出張をなす。ナ ゲ酒で磨づけ	ヨコナダ ナ デ ナ デ ヘラケズリ	胎土:ガラス質の小砂粒を含 む 焼成:良好 色調:暗褐色	
甕	第59回 H-99	44	I区 トレンチ内	拂土	口径 30.2	複合口縁部は外傾、端 部は平坦	ヨコナダ	胎土:1mmの大白色砂を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	

番号	探査番号	出土地点	層位	注量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
底	第59回 H-100	44	N262	褐色 砂礫層	口徑 27.0 複合口縁部はやや外反、 端部で平坦面	ヨコナダ	胎土: 1mm大の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第59回 H-101	45	トレンチ内	青灰褐色 砂礫層	II径 29.4 複合口縁部は外反して 伸び、端部で少し面を なす	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ヨコナダ 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm木製の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-102		N161	灰褐色 粘質土	口徑 16.9 複合口縁部は知く外反 し、端部で面をなす	ヨコナダ、ハラケズリ	胎土: 砂砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-103		S381	暗青灰色 砂礫層	口徑 15.5 複合口縁部は外反して 伸び、端部近くでさら に反る	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハラケズリ	胎土: 小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外観にスス付着。 両道4
底	第60回 H-104	44	S160	淡褐色 砂礫層	II径 15.4 複合口縁部は外反気味、 端部で平坦面、突起部 は無い	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目とナ ゲ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-105	44	N161	灰色 粘質土	口徑 13.4 複合口縁部は外反、端 部で半平坦、突出部 はなく出るが、 肩部にくし掛け波状文	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目後ナ カ 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm以上の白色砂粒を含 む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-106	44	トレンチ内	暗褐色 砂質土	口徑 13.2 複合口縁部は外反、端 部で平坦面	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ヨコナダ 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm以下の白色砂粒を含 む 焼成: 良好 色調: 淡白色	
底	第60回 H-107	44			II径 15.4 複合口縁部は外反、端 部で半平坦、突出部 はなく出るが、 肩部にくし掛け波状文	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目とナ ゲ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 砂砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 明灰白色	
底	第60回 H-108		N262	褐色 砂礫層	口徑 14.7 複合口縁部は知く外反、 端部で平坦面、突出部 の後は無い	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目とナ ゲ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 塗 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
底	第60回 H-109	44	拂上巾		口徑 15.6 複合口縁部は外反して 伸び、端部で半平坦面 をなす	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ヨコナダ 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-110	44	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	II径 15.6 複合口縁部は外反、 端部で半平坦面、突出部 の後は無い	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ヨコナダ 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外観にスス付着。 両道4
底	第60回 H-111	44	トレンチ内		口徑 14.2 複合口縁部は外反、端 部で半平坦面、 肩部にくし掛け波状文	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm木製の砂粒を多く含 む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外観にスス付着
底	第60回 H-112		N261	褐色 砂礫層	口徑 13.0 複合口縁部は知く外反、 端部で半平坦面、突出部 は強く出る	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 塗 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
底	第60回 H-113	44	N161	灰色 粘質土	II径 11.6 複合口縁部は外反、端 部で半平坦面、突出部 は下ぶくらみ 肩部にくし掛け波状文	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目とナ ゲ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 白色微細砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
底	第60回 H-114		NDE1	褐色 砂質土	口徑 13.8 複合口縁部は外反、端 部は平坦 肩部にくし掛け波状文	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目(ヨコ) 体部内面: ハラケズリ	胎土: ガラス質の微細砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-115	44	NDE1	赤褐色 砂質土	口徑 21.3 複合口縁部は外反し、 端部で平坦面をなす	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目とナ ゲ目 体部内面: ハラケズリ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	両道2
底	第60回 H-116		NDE1	褐色 砂礫層	口徑 12.6 複合口縁部は直立して 伸び、端部で半平坦 面にへり缺け風に ある斜削削文	II縁部: ヨコナダ 体部外面: ナゲ目、瓶文 体部内面: ハラケズリ	胎土: 塗 焼成: 良好 色調: 明灰褐色	
底	第60回 H-117		S160	暗灰色 砂質土	II径 22.0 複合口縁部は直立外 反し、端部は半平坦面を なし、内側に肥厚する	ヨコナダ	胎土: 1mm木製の砂粒を多く含む (金色の雲母多) 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
底	第60回 H-118		NDE1	暗灰色 粘質土	口徑 22.6 複合口縁部はやや直立 し、端部で面をなす。端 部内面は肥厚	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目 体部内面: ハケ目後ナ カ	胎土: ガラス質の微細砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡黃褐色	
底	第60回 H-119	44	NDE1	褐色 砂質土	複合口縁部は外傾、端 部に平坦面	口縁部: ヨコナダ 体部外面: ハケ目(ヨコ) 体部内面: ハラケズリ	胎土: 白色小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	

器種	種類	器 種 番 号	器 種 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第60回 H-129	44	NIE0	褐色 砂質土	口径 15.4	直口縁部はやや外反、 腹底は平坦部をなす。 肩部に底突起	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケとナデ, 内面: 全体:直	胎土:1mmの大白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰茶色		
甕	第61回 H-121	44	NIE0		口径 12.4	直口縁部は直立気味、 底端は平坦部をなす。 肩部は丸みを帯び、 側面は球状	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ていねいな 輪刃型のハラケズリ	胎土:白色小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺1	
甕	第61回 H-122	45	S2W1	暗青灰色 砂質層	口径 38.0	肩部口縁部に直立気味、 底端は平坦。 肩部に敗因による羽状 の刻出文	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ハラケズリ 後コロハケ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺4	
甕	第61回 H-123	45	S2E0	青灰色 砂層	口径 38.6	肩部口縁部はやや外反気味、 底端は平坦。底部内面には 輪刃型のハラケズリと 側面に敗因による羽状文と底 部に底突起	口縁部:ヨコナデ 体部外面:ハク目 内面: 全体:ハケ目機へ ラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(金色の 空穴を含む)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色~褐色	河遺4	
甕	第61回 H-124	45	NIE1	褐色 砂質土	頸部径 33.6	肩~側部の剥片	外面部:ハケ目とナデ 内面:ハラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色		
豆か甕	第61回 H-125	45	S2W1	暗青灰色 砂層		外面に斜行刻突文、く し痕と底突起文、川筋文 等の交方に施されている	内面:ハラケズリ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河遺4	
高环	第62回 H-126	46	NIE0	褐色 砂質土	口径 16.6	半逆氣味の底部、外周 に底突起も口縁部は外 反、側腹部内面に刻突 痕	外部外面:ハケ目の上 からヨコナデ 内面:ハラケズリ 底部:ハラケズリ	胎土:褐 焼成:良好 色調:灰褐色		
高环	第62回 H-127	46	I区 トレンチ内	赤灰色 砂質層	口径 17.1	半逆氣味の底部、口縫 端部外反	底部外面と口縫部内 面:ナデ 体部外面:ヘラミガキ	胎土:1mm程度の白色砂粒を少 量含む 焼成:良好		
高环	第62回 H-128	46	I区 トレンチ内	青灰色 砂質層	口径 24.8	口縫やや外反	内外共磨滅著しいが、 内面の一帯にヘラミガ キが残る	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳灰色		
高环	第62回 H-129	46	NIE2	褐色 砂質土	口径 24.7	大きく聞く跡部分	内外面:ヘラミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色(内面は培塿褐色)		
高环	第62回 H-130	46	NIE0	淡褐色 砂質土	口径 26.1	やや外反して大きく開 く杯形	口縫部近くの内外面:ヨコ ナデ 内面:ヘラミガキ 側面:ヨコナデ	胎土:1mm未満の白色砂粒を含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺2	
高环	第62回 H-131	NIE0	褐色 砂質土	口径 26.5	体部は丸味をもち、口 縫部近くで外反	内外共磨滅著しいが、 内面の一帯にヘラミガ キ(ヨコ)が残る	胎土:透明な微砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色~暗褐色			
高环	第62回 H-132	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂質層	口径 23.7	口縫部外反気味に火 さき跡	内面の一帯にヘラミガ キが残る	胎土:褐 焼成:良好 色調:明灰褐色	河遺2		
高环	第62回 H-133	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂質層	口径 23.6	口縫部外反気味	外面部:上半 ヨコナデ, 下半 ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺2		
高环	第62回 H-134	S2E0	暗青灰色 砂質層	口径 20.9	口縫部外反	磨滅して不明	胎土:褐 焼成:良好 色調:無灰色	河遺4		
高环	第62回 H-135	46	I区 トレンチ内			側腹部内面に刻突痕	外面部:ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色		
高环	第62回 H-136	46	NIE1	褐色 砂質土		側腹部内面に刻突痕	側腹部外面:ハケ目 側腹部内面:ヘラミガキ	胎土:褐 焼成:良好 色調:灰褐色		
高环	第62回 H-137	46	NIE1	褐色 砂質土		側腹部内面に刻突痕	内外共磨滅	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:火色		
高环	第62回 H-138	46	I区 トレンチ内	青灰色 砂質層		側腹部内面に刻突痕	外面部:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:褐 焼成:良好 色調:灰褐色		
高环	第62回 H-139	46	NIE1	赤褐色 ~青灰色 砂質層		丸柱を併せる外部、側 腹部内面に刻突痕	外面部:ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:明灰褐色	河遺2	

器種	標本 番号	岡坂番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
高 杯	第62回 H-140	47	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 15.0	円錐状の長い脚部から大きく開いて脚部に生る	外面:ハケ目 内面:質面へラケズリ, 以下ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯	第62回 H-141	47	トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 12.8	長い円錐状の脚部より 脚部にむかってゆるやかに大きく開く。 脚部内面に刻実線	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯	第62回 H-142	47	NIEO	淡灰色 砂質土		ゆるやかに開く脚部、 内面に刻実線	外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺2
高 杯	第62回 H-143	47	トレンチ内	青灰色 砂礫層		円錐状の脚部、裏内 面中央斜実線	外面:ハケ目とナデ 内面:ハケケズリ	胎土:1mm未満の砂粒をわずかに含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯	第62回 H-144	47	NIEO			ゆるやかに広がる脚部 の壁	外面:ヘラミガキ 内面:上半へラケズリ, 下半ハケ目	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺1
高 杯	第62回 H-145	47	NIEO	褐色 砂礫層	底径 9.7	円錐状の脚部よりゆるやかに広がって脚部 に生る	外面:上半へラミガキ, 下半ハケ目 内面:上半へラケズリ, 下半ハケ目	胎土:1mm未満の砂粒を若干含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
高 杯	第62回 H-146	47	トレンチ内	暗灰色 粘質土	底径 16.6	ノット状に大きく開く 脚部	外面:ハケ日(タケ) でないかなナダ 内面:しづり模	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰色	
錢形 盤合	第63回 H-147	48	I区 トレンチ内	灰土	底径 17.5	脚部から脚部の破片	外面:ヨコナダ 内面:脚部以下ハラケ ズリ	胎土:1~2mmの大砂粒(白色、 半透明)を多く含む 焼成:良好 色調:暗灰色	
錢形 盤合	第63回 H-148	48	トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 18.5	脚部から脚部の破片 脚部上端に斜行刻実 文	外面:ヨコナダ 内面:脚部上端へラケズ リ後ナダ	胎土:1mm未満の砂粒(白色、透 明)を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
錢形 盤合	第63回 H-149	48	S2W1 S3W1	暗青灰色 砂礫層	底径 17.2	脚部外表面にくし捺波 状文	外面:ヨコナダ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色~暗褐色	河遺4
錢形 盤合	第63回 H-150	47	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 23.1 底径 19.6	ほど光沢、腹高低く質 部は傾斜のすんだもの	外面:ヨコナダ 内面:上台部へラミガ キ、黄部以下へハケズリ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河遺1
錢形 盤合	第63回 H-151	48	IIE トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 22.2	脚部から上台部の破片	内外面共磨滅	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
錢形 盤合	第63回 H-152	48	NIEI	褐色 砂礫層	口径 20.0	上台基の破片	外面:ヨコナダ 内面:ヘラミガキ	胎土:白色微砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗褐色	
錢形 盤合	第63回 H-154		NIEI	赤褐色 砂礫層	口径 17.2	上台部の破片	ヨコナダ、ナダ	胎土:1mmの砂粒(白色、透明) を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色~肌色	河遺2
錢形 盤合	第63回 H-155		S1E0	暗灰色 砂礫層	口径 24.5	上台部の破片	内外面共磨滅	胎土:微砂粒(白色、透明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
錢形 盤合	第63回 H-156	48	NIEO	暗灰色 粘質土		脚部から上台部	外面:ヨコナダ 内面:質滅しているが 一部ヘラミガキが残る	胎土:白色微砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
錢形 盤合	第63回 H-157	48	NIEI	褐色 砂礫層	口径 20.8	脚部から上台部の破片	外面:ヨコナダ 内面:磨滅	胎土:1mm未満の砂粒(白色、透 明)を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色	
錢形 盤合	第63回 H-158	48	NIEI	暗青灰色 粘質土		脚部から上台部の破片	外面:ヨコナダ 内面:ナダ	胎土:極小な白色粒 焼成:良好 色調:灰白色	河遺2
錢形 盤合	第63回 H-159		NIEO			脚部から上台部の破片		胎土:1mm未満の砂粒(白色、透 明)を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色	河遺2
錢形 盤合	第63回 H-160	48	NIEO	暗青灰色 砂礫層		脚部から上台部の破片	外面:ヨコナダ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の白色粒を多く含む 焼成:良好 色調:深褐色~褐色	

番号	通 用 番 号	器 種 名 称 記 号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
載形器台 H-161	46	S3E0	暗青灰色 砂礫層 ～砂層			筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 上台部内面:ヘラミガ かく 内部は下内面:ヘラケ ズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:やや暗褐色	河道4
載形器台 H-162		I区 トレンチ内	耕土			筒部から脚台部の破片	内外面共崩滅	胎土:重 焼成:良好 色調:やや暗褐色	
載形器台 H-163		I区	耕土	筒部径 11.6		筒部から脚台部の破片	外側:一帯ヨコナデが 残る 内部:脚台部:ヘラケズ リ	胎土:1mm前後の砂粒(白色,透 明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-164		NIE1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層			筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,半 透明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河道2
載形器台 H-165	48	I区 トレンチ内	耕土	筒部径 11.2		縮約のすんだ筒部	外側:ヨコナデ 内部:上台部:ヘラケズ リ後ナデ,脚台部:ヘラ ケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色～灰褐色	
載形器台 H-166	48	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土	筒部径 12.6		筒部付近の破片	外側:崩滅 内部:上台部:ミガキメ リナデ,筒部:カザ,脚 台部:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-167		I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層			筒部から脚台部にかけ ての破片	外側:ヨコナデ 内部:筒部以下:ヘラケズ リ	胎土:1mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-168		I区	耕土	底径 15.5		脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:微砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-169	48	トレンチ内	暗褐色 砂層	底径 17.7		筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:小砂粒(白色,透明)を多 く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-170	48	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 18.8		筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,透 明,墨色)を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
載形器台 H-171	48	NIE1	灰色 粘土質土	底径 21.0		筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-172	48	I区 トレンチ内	砂質土	底径 22.4		筒部から脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部は下内面:ヘラケ ズリ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-173		トレンチ内	暗灰色 砂層	底径 21.2		脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の透明砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
載形器台 H-174	48	NIE1	暗青灰色 砂層	底径 22.2		脚台部の破片	外側:ヨコナデ 内部:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒(白色,透 明)を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色(外面の一帯に黒斑)	河道2
低脚环 H-175	48	NIE2	褐色 砂礫層	口径 15.4 深さ 6.9 底径 5.9		不規は内面,脚部は圓 筒部:ヨコナデ 外側内面:底部:ナデ 他は調査不詳	脚部:ヨコナデ 外側内面:底部:ナデ 他は調査不詳	胎土:1mm前後の砂粒を多量に 含む 焼成:良好 色調:灰褐色～墨灰色	
低脚环 H-176	49	NIE0	褐色 砂質土	口径 16.3		底部から体部は内側ゆ り縦端部に外反	外側:ナデか 内面:崩滅しているが 一部:ヘラミガラ	胎土:小砂粒(白色,透明)を含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
低脚环 H-177	49	トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 17径 16.6		丸柱のある底部よりゆ るやかに内湾	外側:カケ日後:ヘラミ ガリ 内部:ハケ月の上から ナデ,一部:ヘラミガリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含 む 焼成:良好 色調:灰褐色	
低脚环 H-178	48	NIE0	暗青灰色 砂礫層	口径 15.6 深さ 5.0 底径 4.1		杯部は内湾して伸び, 曳	調整不明	胎土:1mm前後の砂粒を多く含 む 焼成:良 色調:外:灰褐色,内:暗褐色	
低脚环 H-179	48	NIE1	褐色 砂質土	底径 6.0		杯部にゆるやかに内湾, 脚部は広がる	脚部外側:ヨコナデ 他は調査不明	胎土:微砂粒を多く含む 焼成:良 色調:灰褐色	
低脚环 H-180	49	S2E1	暗青灰色 砂層	口径 13.9		体部はゆるやかに内湾 し,そのままで縦端部 に至る	上縫隙部内面:横方 角のナデ 外側:ハケ具とヘラミ ガリ 内部:ヘラミガリ	胎土:青 焼成:良好 色調:灰褐色	河道4

番号	井戸番号	区画番号	出上地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
低窓环 外	第64号 H-182	49	S3E0	暗青灰色 砂礫層	口径 14.8	ゆるやかに内側で伸び、そのまま端部に至る	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	河道4
低窓环 外	第64号 H-182	49	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	口径 11.0	小形の浅い环部	口盤・端部内外面:ヨコナデ 体部外面:ハケ目 体部内面:ヘラミガキ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
低窓环 外	第64号 H-183	48		褐色 砂質土	口径 10.8 底径 5.3 高さ 6.1	口徑の小さい製に、外部が深く、脚窓も深い	ナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色	
低窓环 外	第64号 H-184	48	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 9.0	大きく開く脚部片、比較的高い	脚部:ヨコナデ	胎土:1mm未満の砂粒を多量に含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
低窓环 外	第64号 H-185	48	S3E0	暗青灰色 砂礫層	底径 6.5	脚部片	調査不明	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
低窓环 外	第64号 H-186	NIE2		褐色 砂礫層	底径 5.8	脚部片	ヨコナデか	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
低窓环 外	第64号 H-187	48	中央ベルト トレンチ内	赤褐色 砂礫層	底径 6.0		ヨコナデ	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
低窓环 外	第64号 H-188	48	NIE2	褐色 砂質土	底径 5.9	脚部片	ヨコナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
低窓环 外	第64号 H-189	48	S3W1	暗青灰色 砂礫層	底径 5.7	脚部片	环部内面:ヘラケメリ 脚窓内面:ナデ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
低窓环 外	第64号 H-190	48	S2E0	暗青灰色 砂礫層	底径 5.0	脚部片	脚部内外面:ヨコナデ 环部内面:ナデ	胎土:小砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道4
低窓环 外	第64号 H-191	S3W1		暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	底付の小さな脚部片	内外面:ヨコナデ	胎土:白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	河道4
低窓环 外	第64号 H-192	48	拂土		底径 5.1	脚部片	ヨコナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
低窓环 外	第64号 H-193	I区 トレンチ内	暗青灰色 砂礫層	底径 4.6	脚窓はあまり開かず直立丸み	ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色		
低窓环 外	第64号 H-194	48	拂土		底径 5.0	「ハ」の字に開く脚部片	环部内面:ナデ 他は調査不明	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:褐色	
低窓环 外	第64号 H-195	拂土				「ハ」の字に開く脚部片	脚部内面:ヘラケメリ 环部外面:ヨコナデ 环部内面:ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:乳白色	
重窓土器	第65号 H-196	50	I区 トレンチ内	青灰色 砂礫層	底径 44.0	ゆるやかに開く底部片	外面:ハケ目とナデ 内面:ヘラケメリ・脚部 窓はなく、丸いハケ目が複数ある 窓部内面:ヨコナデ	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
重窓土器	第65号 H-197	50	NIE1	赤褐色 砂礫層	口径 41.2	「ハ」の字に開く端部片	外面:調査不明 内面:ヘラケメリとナデ	胎土:1mm以上の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2
重窓土器	第65号 H-198	50	NIE1	褐色 砂質土		ゆるやかに開く底部片	窓部内面:ヨコナデ 窓部内面:ヘラケメリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
重窓土器	第65号 H-199	50	拂土			とつて	ナデ	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
重窓土器	第66号 H-200	51	NIE1	暗青灰色 砂礫層	口径 17.8	複合口縁部は短く外板と端部で平型、突山部は無い	口盤部:ヨコナデ 体部内面:ハケ目 体部内面:ヘラケメリ	胎土:1mm未満の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河道2

器種	番 号	区 分 番 号	出土地点	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第66回 H-201	51	N4P2	青灰褐色 砂礫層	口径 12.2	複合口縁部は直立丸柱 に短く、端部で平底。後 に無い。	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土: 1mm 大の砂粒を少量含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-202	51	N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 14.4	複合口縁部は短く外傾 し、突出部は大きく下 ぶくらみ、器底無い。	ヨコナデ	胎土: 1mm 大の白色砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-203	51	N4E1	青灰褐色 砂礫層	口径 15.0	複合口縁部は外傾し、 窓型で頭をなす。突出 部の後はだれて無い。	ヨコナデ	胎土: 青 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-204	51	N3P1	赤褐色 砂層	口径 18.3	複合口縁部は退化して、 後に無い。	ヨコナデ	胎土: 1mm 前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-205	51	N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 17.4	複合口縁部は退化し、 後に無く、頭 張りする。	口縁部: ヨコナデ 器部: 体外外面: ハケ 口一部: ヨコナデ 体部内面: ヘラケズリ	胎土: 1mm 未満の砂粒を多量に 含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-206	51	N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 21.8	複合口縁部は短く外傾 し、突出部の後はなく 下ぶくらみ。	ヨコナデ	胎土: 1~2mm 大 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第66回 H-207	51	S2E0	青灰褐色 砂礫層		厚手の体部片、開張り くし状工具による波状 文	外表面: ナデ、輪文 内面: 重いヘラケズリ	胎土: 1mm 大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺4
甕	第67回 II-208	51	N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 14.8	「く」の字に屈曲する口 縁	肩部外表面: ハケ目わざ かん青色 肩部内面: ヘリ ケズリ	胎土: 1~5mm 大の砂粒を多く 含む 焼成: やや不良 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-209		N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 11.3	「く」の字に屈曲する口 縁	口縁部外表面: ナデ 内面: ナデ 肩部内面: ヘラケズリ	胎土: 1~3mm 大の白色砂粒を 多く含む 焼成: よつう 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-210	51	N1B0	青灰褐色 砂礫層	口径 13.2	口縁部「く」の字に屈曲	口縁部外表面: ヨコナ デ	胎土: 1mm 未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-211	51	N2E3	赤褐色 砂質土	口径 12.8	口縁部「く」の字に屈曲	口縁部外表面: ヨコナ デ	胎土: 白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰茶色	河遺2
甕	第67回 H-212	51	N4E2	青灰褐色 砂礫層	口径 12.1	「く」の字に屈曲する口 縁	口縁部外表面: ヨコナデ 内面: ナデ 肩部内面: ハケ目 ケズリ	胎土: 白色の微砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-213		N4E1	青灰褐色 砂礫層	口径 11.9	口縁部軽く外傾	内外面: ヨコナデ	胎土: 微砂粒(白色・透明)を 多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-214		N1B0	青灰褐色 砂質土	口径 18.2	單純口縁。外傾する	ハケ目とナデ	胎土: 1mm 未満の白色・透明、 金色等の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河遺2
甕	第67回 H-215	51	N4E1	青灰褐色 砂礫層	口径 17.7	外傾する口縁。端部内 面が浅くくぼむ	ヨコナデヒナデ	胎土: 1~6mm 大の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色(外表面炭化物)	河遺2
甕	第67回 H-216		N3E1	赤褐色 ~青灰褐色 砂礫層	口径 12.8	口縁部外傾	ヨコナデ、ヘラケズリ	胎土: 1mm 前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 乳灰色	河遺2
甕	第67回 H-217		N4E2	青灰褐色 砂礫層	口径 12.0	口縁部外傾	内外面: ヨコナデ	胎土: 砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2
甕	第67回 H-218	51	N2E1	青灰褐色 砂層	口径 15.2	口縁部は外傾後、端部 近くで外反	口縁部: ヨコナデ 外面: ナタハケ 内面: ヘラケズリ	胎土: 砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 外 黑褐色(ヌメ)、内 黄 茶褐色	河遺2
甕	第67回 H-219	52	N3E1	青灰褐色 砂礫層	口径 16.3	單純口縁。外傾	口縁部: ヨコナデ、外面: ハケ目とナデ 内面: ヘラケズリ	胎土: 1~3mm 大の砂粒を多く 含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色(一部黒灰色)	河遺2
甕	第67回 H-220	51	N2E1	赤褐色 砂層	口径 15.1	單純口縁	口縁部: ヨコナデ、外面: ハケ目とナデ 内面: ヘラケズリ	胎土: 1mm 大の白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色(外側の一辺黒度)	河遺2

基種	番号	図版番号	出土地点	解説	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
黒	第67回 H-221	51	N2E1 初期		口径 17.6 単純口縁。端部近くで外反	ヨコナゲ、ハケ目、ヘラケズリ	胎土: 2mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道2	
黒	第67回 H-222		N1E0	暗青灰色 砂礫層	口径 12.0 口縁部を欠く。網はよく張る	外腹: ハケ目(タテ) 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1mm前後の白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色(内面に黒斑)		
黒	第67回 H-223		N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 23.2 単純口縁。外反気味	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ナデ 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~2mmの大の白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道2	
黒	第67回 H-224		N3E0	暗灰褐色 砂質土	口径 17.4 単純口縁。外傾	口縁部: ヨコナゲ 外腹: タテハケ後ヨコ 内腹: ハケ 内面: ヘラケズリ	胎土: 1~2mmの大の砂粒を多量に含む 焼成: 良好 色調: 白灰褐色	河道2	
黒	第67回 H-225	51	N3E1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	口径 22.8 口縁部に輕く外反し、端部近くでより強く反る	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ナデ 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1mm未満の小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 茶灰色(外腹にスス)	河道2	
黒	第67回 H-226	51			口径 27.2 口縁部外反	口縁部: ヨコナゲ 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1mm未満の小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道2	
黒	第67回 H-227	51	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 20.1 口縁部外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: タテハケ後ナデ 内腹: ヘラケズリ	胎土: 黃砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道2	
黒	第67回 H-228		N3E1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	口径 14.6 口縁部外反	ナデ、ヘラケズリ	胎土: 白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道2	
黒	第67回 H-229	52	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 16.8 単純口縁。外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: タテハケ 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~3mmの大の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河道2	
黒	第67回 H-230	51	N3E1	赤褐色 砂質土	口径 29.2 口縁部軽く外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ナデ 内腹: 頭部以下ヘラケズリ	胎土: 白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 明灰褐色(外腹の一部黒変)	河道2	
黒	第67回 H-231		N2E2		口径 21.2 口縁部軽く外反	口縁部: ハケ目とナデ 外腹: ハケ目 内腹: ヘラケズリ	胎土: 白色小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色		
黒	第68回 H-232	52	N2E1	青灰褐色 砂礫層	口径 18.4 口縁部短く外反	口縁部: ナデ 外腹: ハケ目 内腹: ヘラケズリ	胎土: 白色の微砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色, 内面灰褐色	河道2	
黒	第68回 H-233		N3E1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	口径 16.9 口縁部短く外反, ナデ肩で網張り	口縁部: ハケ目後ナデ 外腹: ハケ目(タテ) 内腹: ヘラケズリ	胎土: 白 焼成: 良好 色調: 淡灰色	河道2	
黒	第68回 H-234	52	N2E0	暗褐色 粘質土	口径 15.7 単純口縁。外反	口縁部: ハケ日(タテ)の上からヨコナゲ	胎土: 小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 乳白色		
黒	第68回 H-235	52	N3E1	青灰色 砂礫層	口径 20.8 口縁部外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ハケ目 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~2mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河道2	
黒	第68回 H-236		N2E1	暗褐色 粘質土	口径 17.4 単純口縁。外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ハケ目(タテ) 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~2mmの大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色(一部赤色)		
黒	第68回 H-237		N3E1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	口径 21.6 単純口縁。外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ハケ目 内腹: ヘラケズリ		河道2	
黒	第68回 H-238		N4E1	暗灰色 粘質土	口径 29.1 単純口縁。外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ハケ目(タテ) 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~4mmの大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色(外腹スス)	河道3	
黒	第68回 H-239	52	N3E3	暗褐色 粘質土	口径 25.4 単純口縁。外反	口縁部: ヨコナゲ 外腹: ハケ目(タテ) 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1~2mmの大の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色~褐色		
黒	第68回 H-241		N3E1	赤褐色 ~青灰色 砂礫層	口径 19.7 口縁部外反	口縁部: ナデ 外腹: ハケ目 内腹: ヘラケズリ	胎土: 1mm未満の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色一部橙色	河道2	

基盤	番号	回収品番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
東	第69回 H-242	N2E0	暗灰色 粘質土	I:径 20.4	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナゲ	胎土:1mm未満の透明砂粒を多 く含む 焼成:良好 色調:淡褐色		
東	第69回 H-243	S2	N2E0	暗灰色 粘質土		單純口縁。外反	口縁部:ヨコナゲ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:鐵砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	
東	第69回 H-244	S2	N2E0	暗灰色 粘質土	口径 28.4	單純口縁。外反	口縁部:ハク目(タテ) ヨコナゲ 外面:ハケ目(タケ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未満の砂粒を鐵砂粒 を多めに含む 焼成:良好 色調:淡褐色(断面、底面)	
東	第69回 H-245	S2	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 26.4	単純口縁。強く外反	口縁部:ヨコナゲ 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:外面スヌ	
東	第69回 H-246	S2	N2E1	暗褐色 砂層	口径 17.4	口縁部強く外反	口縁部:ナデ 外面:ハケ目 内面:ヘラケズリ	胎土:1mm人の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河邊2
東	第69回 H-247	S2	N2E1	暗褐色 粘質土	口径 26.8	単純口縁。外反	口縁部:ヨコナゲ 外面:ハケ目(タテ) 内面:ヘラケズリ	胎土:ガラス質の微砂粒を多 く含む 焼成:やや渋む 色調:明黄褐色、側部内面黒変	
東	第69回 H-248	S2	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 26.0	口縁部強く外反	外面:ハケ目(タケ) 内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
高 坏	第69回 H-249	S3	IJK トレシチ内	暗灰色 砂層	口径 15.7	外面に段落をもつ、口縁 部は外反する	外面:上半 ハケ目とナ デ 下半 ハケ目 内面:ヘラミガキ	胎土:1mm以下の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色	
高 坏	第69回 H-250	N2F3	赤褐色 砂質土	口径 16.9	ゆるやかに内湾する环 部	外面:磨滅 内面:ヘラミガキ	胎土:1~3mm大の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:淡灰褐色		
高 坏	第69回 H-251	S3	N3E1	赤褐色 砂層		环底部は丸底状を呈し、 外周に段	外面:磨滅 内面:ヘラミガキか	胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色	河邊2
高 坏	第69回 H-252	N3E1	青灰色 砂層	口径 14.7	端部の不整	内外面共磨滅	胎土:1~3mm大の白色砂粒を 多く含む 焼成:良 色調:淡褐色	河邊2	
高 坏	第69回 H-253	S3	N3E1	青灰色 砂層	底径 10.6	脚部内面に剥離痕	外面:ヘラミガキとナ デ 内面:しづり底、指おさ え痕	胎土:密 焼成:良好 色調:淡黃灰色	河邊2
高 坏	第69回 H-254	S3	拂土中		脚部から屈曲して大 きく聞く。底部に円形 の窪み。剥離痕をも つ	外面:軽いヘラミガキ 内面:しづり目	胎土:密 焼成:良好 色調:淡褐色		
高 坏	第69回 H-255	S3	N1E0	暗灰色 砂質土	底径 11.5	長い剥離部よりゆるや かに大きく聞く	外面:ハケ目、ヘラミガキ ナデ 内面:しづり底、ハケ目	胎土:1mm前後の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:白味を帯びた淡褐色	河邊2
高 坏	第69回 H-256	S3	N3E1	暗 (南)色 粘質土		平坦な底部の不整部、脚 部部内面時状	环底部内面:ハケ目 环底部外側:ナデ 脚部外側:ヘラミガキ 脚部内面:ヘラケズリ	胎土:密 焼成:良好 色調:乳灰色	河邊3
高 坏	第69回 H-257	S3	N4E1	青灰色 砂層			外面:ヘラミガキ	胎土:1mm未満の砂粒を多く 含む 焼成:良好 色調:淡褐色	河邊2
高 坏	第69回 H-258	N2E1	暗褐色 砂層		丸穴をもつ不整部、脚 部部はやや開き加減	环底部内面:磨滅 脚部外側:ヘラミガキ 内面:しづり底	胎土:1mm未満の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊2	
高 坏	第69回 H-259	N4E2	青灰色 砂層			内外面:磨滅	胎土:密 焼成:良好 色調:灰褐色	河邊2	
高 坏	第69回 H-260	N3E1	赤褐色 砂層	底径 10.2	円筒形の剥離部から大 きく聞く	外面:ヘラミガキ 内面:しづり底	胎土:1~5mm大の白色砂粒を 多く含む 焼成:良好 色調:淡褐色(断面茶色)	河邊2	
高 坏	第69回 H-261	拂土中		底径 14.6	「ハ」の字に聞く剥離部 からさらに大きく聞く	環底部外側:上半 ハ ク 下半 ナデ 环底部外側:ナ ナ 脚部内面:一部ヘラ ケズリと残す	胎土:白色小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:肌灰色		

器種	播磨 番号	出土地点 （都道府県 ・市町村 ・地番等）	層位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
高 环	第69回 H-262	53	N2E1	暗赤褐色 砂礫層	やや開き気味の脚部 から、脚底部にかけて さらに大きく聞く	外面: ヘラミガキ 内面: しほり真	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 水ぬれ色	河運2
高 环	第69回 H-263	53	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	底径 10.0 やや開いた低い脚部 よりさらに大きくなっている	外面: 風化 内面: 脚底部ヘラケズ リ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 灰色	河運2
高 环	第69回 H-264	53	N2E2	赤褐色 砂質土	底径 11.2 脚底部に円形の通かし	外面: 脚底部: ヘラミガ キ 内面: 脚底部: ヘラケズ リ 脚底部内面: ナデ	胎土: 密、小砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡黄褐色	河運2
高 环	第69回 H-265	53	N2E1	暗灰色 粘質土	底径 10.0 円錐形の長い脚部より 水平に彎曲して脚部 部に至る	脚底部外面: ハケ目 脚底部内面: ヘラケズリ 脚底部外面: ヨコナデ 脚底部内面: ナデ	胎土: 1mm水滴の白色砂粒を少 量含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河運2
高 环	第69回 H-266	53	I区 トレンチ内	青灰色 粘質土	底径 12.8 ゆるやかに聞く脚部	外面: ハケ目 内面: ヘラケズリ	胎土: 1mm前後の白色砂粒を多 く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	
环	第69回 H-267	53	N3E1	赤褐色 砂質土	口徑 11.0 半球形の体、口縁端部 は内側 底径 4.9	口縁部: ヨコナデ 体表面外面: ヘラケズリ 体表面内面: 粗毛状工具 による多方向のナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河運2
环	第69回 H-268	53	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	口径 13.5 底面～口縁部内側	体表面: ヘラケズリ 後ナデ 口縁部: ヨコナデ	胎土: 1mmの砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河運2
环	第69回 H-269	53	表層		底部は平、口縁部は外 反張形、内面に赤色顔 料垂れ	ナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
瓶	第70回 H-270	54	トレンチ内	暗灰色 砂質土	口径 33.6 口縁部や外縁	外面: ナデ 内面: 上半 ナデ、下半 ヘラケズリ	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
瓶	第70回 H-271	54	N3E1	赤褐色 ～青灰色 砂礫層	牛角状の把手、口縁部 に反張、底部は平 坦につくる	外面: ハケ目 内面: ヘラミガキ	胎土: 2mm前後の砂粒を多量に 含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河運2
瓶	第70回 H-272	54	耕土		底径 15.5 底面の破片、直径9mmの 円孔	外面: ハケ目(タケ) 内面: ヘラケズリ	胎土: 1～2mm大の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰色	
瓶	第70回 H-273	54	N2E2	暗灰色 粘質土	底径 18.8 底部の破片、直径8mmの 円孔	外面: ハケ目 内面: ヘラケズリ		
か ら き	第70回 H-274	54	N2E3	赤褐色 砂質土	底部破片	外面: ハケ目 内面: ヘラケズリ 断面は面取り	胎土: 1mm前後の砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	

4. 近畿系土器・瓦質土器

近畿系上器としたものは、近畿地方からの搬入品と考えられるものと、近畿地方の上器製作技法を使って当地で作ったと思われるものの両者を含んでいる。タタキをもつ直口壺、甕、小形丸底壺、布留式甕、器台等の器種が見られる。

直口壺 (E-1~3)

E-1は口径13.2cm、器高31.2cmを測る直口壺である。軽く外傾する口縁部をもち、胴部は張り出している。底部は丸みを帯びた小さな台状を呈し、正立させることはできない。胴部は荒い平行タタキにより成形される。胴部下半5分の1位まではタタキが螺旋状に回り、その上部で一旦水平方向に変わる。その後、斜め右上がりの不連続なタタキが何回か施され、頸部に至る。分割成形されていると考えられる。器面の調整は口縁部ヨコナデ。外面は肩の一部に乱雑なヘラミガキ、胴部最大径から下半の一部にヘラケズリが施され、内面上半はナデ、下半は放射状のハケ目が施される。最大径下寄りに焼成後あけたと思われる縦6cm、横6cm以上の円孔がある。外面下半には、一面にススが付着している。

E-2は形態的にはE-1とはほぼ同様のもので、胴部下半を欠いている。口径は13.2cmを測る。胴部はやはり右上がりのタタキで成形されているが、縦方向の2種類のハケ目で調整され一部にタタキの痕跡を残すのみとなっている。内面は指頭圧痕が顕著でありやや下がった位置からはハケ目が見られる。口縁部には細いヘラミガキが乱雑に施されている。

E-3は口径約15cmと、やや大形になる。頸部の屈曲部分がなんだらかに作られているため、E-1・2と違い、頸の縋まらない印象を受ける。胴部下半を欠くが、残存する胴部上半にはタタキは認められない。肩部に横方向のハケ目が施され、内面は頸部よりやや下がった位置からヘラケズリが施される。口縁部はヨコナデとナデで調整され、一部にハケ目が残る。

甕 (E-4~10)

E-4は頸部から胴部外面にタタキ目の見られるもので、口頭部が「く」の字状に屈曲し、胴部を張り出させたものである。口縁部はヨコナデされ、端部は丸く終わる。内面は工具によるナデが行われ、ヘラケズリは見られない。

E-5は口頭部が「く」の字状に屈曲したもので、端部は内側に肥厚気味になっている。内面の頸部以下には荒いハケ目が施される。

E-6・7は口縁部が直線的に開いた後、わずかに内湾し、端部内面が肥厚気味になるものである。

頸部以下の内面はヘラケズリが施される。

E-8は口縁部が内湾気味に開くもので、端部は内外に肥厚して平坦面をもつ。胴部は細かいタタキによって成形されたものとみられ、一部にその痕跡が残る。全体の形状は長胴形である。口縁部は横方向のハケの後ヨコナデ、胴部外面は細かい縱方向のハケの後、肩部に横方向のハケ、内面は指頭圧痕状のくぼみが顕著で肩部以下にヘラケズリが施される。

E-9は口縁部が内湾して開くもので、端部は丸みを帯びて内側に肥厚する。肩部はよく張り、球形の胴部となる。口縁部はヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ヘラケズリが施され、器壁は薄い。

E-10は内湾気味に開く口縁部の小片で、端部は内傾し段をなす。

小形丸底壺（E-11）

E-11は外傾する口縁部と球形の胴部をもつほぼ完形のものである。口径9.4cm、器高10.7cmを測る。胴部外面上半には水平方向の荒いタタキ目がみられ、ハケによって部分的に消されている。内面は底部から放射状に強くナデ上げられる。肩部には粘土の接合痕とみられる亀裂が走り、全体に調整の難さが目につく。

器台形土器（E-12）

器受部は逆「ハ」字状に開くもので、端部は複合状を呈する。内部は中空で円筒状の筒部からゆるやかに開くが、裾部以下を欠き全形は判らない。受部外面はナデ、内面は細かいヘラミガキ、脚部外面は縱方向のヘラミガキ、内面はヘラケズリが施される。

瓦質土器（E-13）

外面には日の詰まった細かい平行タタキが交差して施され、内面にはナデが施される瓦質の焼きの土器である。粘土紐のつなぎ目を水平におくと、炭化物の付着した部分が内面の中心に位置し、底部付近のかなり大きな丸底の破片であることが判る。

以上、E-1～13の土器の形態と手法について簡単に述べたが、それぞれの土器について若干の検討をしておく。

E-1は近畿地方からの搬入品とみられるものである。タタキによって分割成形する技法は近畿地方において第V様式期に盛行し、庄内式併行期にもV様式系の手法として、主に甕に残るといわれている。^{註1} E-2もE-1と同様の形態をもつものであるが、外面のタタキをハケ目で消しており、やや後出的な要素をもつものかも知れない。

E-3の直口壺に似たものは、九重遺跡・神原神社古墳・松本1号墳の出土品の中に見られ、かな

りの時期幅をもつ。九重遺跡のものはタタキで成形した後、外面は入念なヘラミガキが行われ、内面はヘラケズリされる。この上器は、器壁の厚い平底になっている。神原神社古墳出土のものは口縁端部が内外に肥厚し、はっきりした平坦面をもっていることから、E-3の壺よりも後出的なものと考えられる。神原神社古墳出土土器の胴部下半にはタタキの痕跡が一面に残っているが、E-3は胴部下半を欠損しており、タタキの存在を確認できない点が残念である。E-3は直口口縁の土器であること、E-3の前後に置けると考えられる十器が、タタキ成形であることをもって近畿系土器の扱いとしたが、壺の内面をヘラケズリする技法や、肩部に施された横方向のハケ目は近畿ではほとんど見られないといわれており、山陰の土器の系譜の中でとらえるべきものかもしれない。

E-4の壺もE-1の壺と同様の胎土をもち、第V様式系統の技法によって作られたもので、撒入品と考えられる。器腹の張る形態になり、E-1の壺も併せて庄内式早葉併行と考えられる。

E-5～10は布留系の壺である。E-5の内面頸部以下に施される荒いハケ目は庄内式から布留式への過渡期的なものの模倣と考えられ、最も古相を示すものである。E-8は撒入品と目される唯一の布留壺で、布留式中段階のものと考えられる。E-9はE-8よりもやや後出的なもの、E-10は布留式新段階併行のものと考えられる。

E-11の小形丸底壺は、荒い水平方向のタタキをもつ庄内大和型の特徴をふまえて作られている。器形は布留式期にも見られるものである。

E-12の器台形土器は器形・手法と言ふ点においては近畿地方のものであるが、胎土は在地のものかもしれない。

E-13は瓦質の丸底広口壺と考えられ、朝鮮半島で作られた可能性の高いものである。出土地点は河道4の堆積土中であるが、この流路から出土している他の遺物の下限は古墳時代前期と考えられるので、この土器も布留式併行期の内にあるものと考えたい。上限は韓國の出土例からすると弥生時代終末期と考えられる。もし半島製のものとすればどういう経路をたどってこの地まで運ばれて来たのか非常に興味のもてる所である。^{註5}

E-1～13の上器群は庄内式早葉併行から布留式新段階までの幅をもつものである。撒入品と考えられるものも数点あり、物と技術の交流がこの間に湖跡川周辺地域で連続して行われていたということができよう。

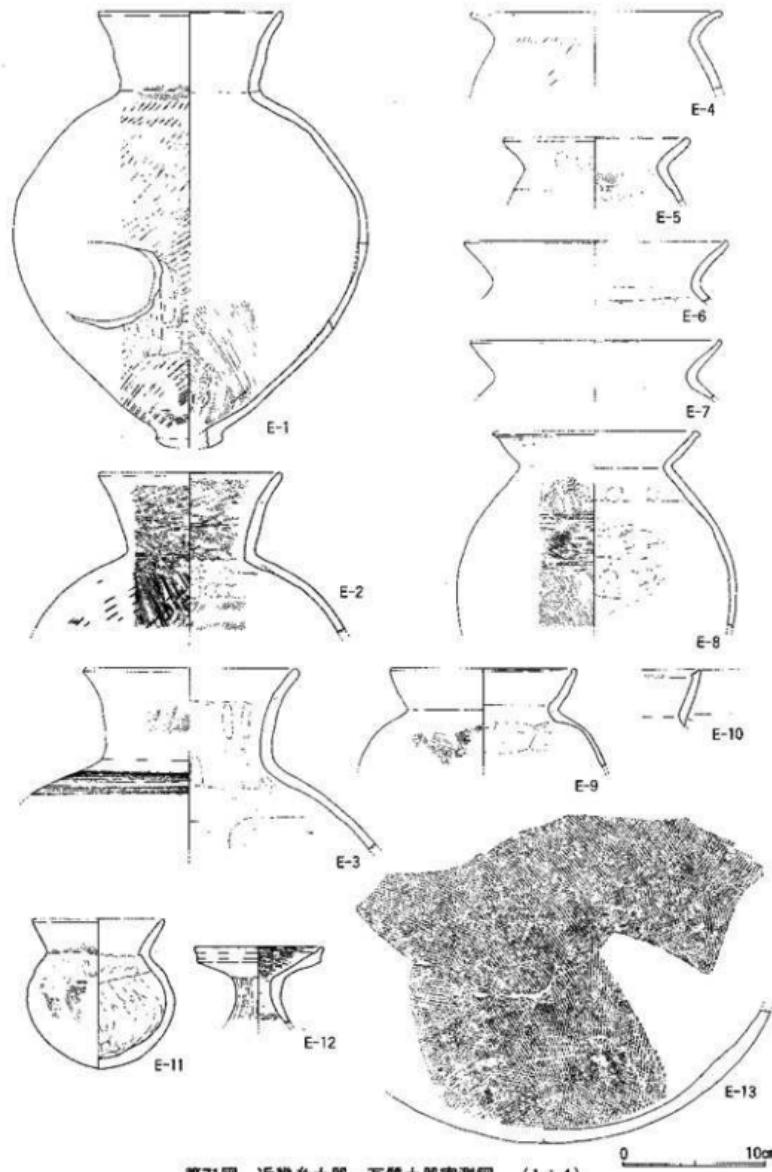
註1 豊中の柳本照男氏のご好意により、E-1と同様の形態と技法をもつ壺を整理中の龍窪遺跡出土品の中に実見することができた。第V様式末期のものとのことであった。

註2 内田才・東森市良・近藤正「鳥取県安来平野における土墳墓」『上代文化』36 1996年

註3 前島己樹・松本岩雄「鳥取県神原神社古墳出土の土器」『考古学雑誌』62-3 1976年

註4 山本清『松本古墳調査報告』鳥取県教育委員会 1963年

註5 西谷正氏より韓國中部忠清北道の清州に出土例があるとの御教示を受けた。



第71図 近畿糸土器、瓦質土器実測図 (1 : 4)

近畿系瓦質土器観察表

器種	番号	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
直口壺	第71回 E-1	55	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 13.2 器高 31.2	直口の口縁、頸部は弧状、小さな底部、頸部に焼成後の穿孔	口縁部:ヨコナデ 体部外側:ハラケズリ 体部内側:ヘラケズリ 底部:直射状のハケ目	胎土:密、1mm未溝の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰黑色、内 黑灰色
直口壺	第71回 E-2	55	IJK トレンチ内	青灰色 砂質土	口径 13.2	わざかに外反する直口の口縁、頸部によく張る	口縁部:ハケ直射状かハラケ 体部内側:ヨコナデ、直射状 底部:直射状のハケ目	胎土:小砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰黑色
直口壺	第71回 E-3	55	SZW1	灰褐色 砂質土	口径 15.5	直口の口縁、腹部近くにはわざかに外反、頸部には張る	口縁部:ヨコナデ 体部内側:トヨヨコナデ 底部:ヨコナデ、直射状のハケ目	胎土:1mm未溝の白色砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-4	56	中央ベルト	暗青灰色 砂質土	口径 18.0	口縁部は「く」の字状に屈曲して外反、ナギ筋	口縁部:ヨコナデ 体部内側:直射状の仰角 体部外側:ハラケ状工具によるナゲ	胎土:1~2mm大の砂粒を白色砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-5	56	SII2年廃 窯跡区	埋土	口径 12.8	「く」の字に屈曲する口縁部、腹部内面にはわざかに記録	口縁部:ヨコナデ 体部内面:直射状で強いくハケ目	胎土:1~3mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-6	56	NSE1	暗青灰色 砂質土	口径 18.6	「く」の字に屈曲する口縁部、腹部内面にはわざかに記録	口縁部:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm前後の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-7	56	NSE1	赤褐色 砂質土	口径 17.8	「く」の字に屈曲する口縁部、端部内面にはわざかに記録	口縁部:ヨコナデ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1mm未溝の白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-8	56	NIE2	暗青灰色 砂質土	口径 13.8	「く」の字に屈曲する口縁部、端部は平坦面をなし、外側に記録	口縁部:ヨコナデ 体部外側:ハラケズリ	胎土:1~2mm大の砂粒を多く含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-9	56	NSE1	暗青灰色 砂質土	口径 13.4	口縁部内面はわざかに記録、腹部は薄いの外側	口縁部:ヨコナデ 体部外側:ハケ日 体部内面:ヘラケズリ	胎土:1~2mm大の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色
甕	第71回 E-10	56	NSE1	青灰色 砂質土		口縁部の小片、腹部内面は厚く、他の面をなす	ヨコナデ	胎土:1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗灰色
小火鉢	第71回 E-11	55	NZE1	暗灰色 砂質土上蓋	口径 9.4 器高 10.7	外縁する口縁、蝶形の体部、丸底	外縁:木手半拘の叩き 内縁:直射状のハケ目 内面:放射状に強くナゲあがれ	胎土:1mm前後の砂粒を多量に含む 焼成:良 色調:灰褐色
器台	第71回 E-12	56	NIE2	淡灰色 砂質土	口径 9.0	複合状を見る上台盤	上台部内面:紅かいへうきガキ 体部外側:ヘラミガキ 体部内面:ヘラケズリ	胎土:密、小砂粒を含む 焼成:良好 色調:乳灰色
火鉢	第71回 E-13	55	I区 トレンチ内	青灰色 砂質土		丸底、火鉢、外縁は斜かに平行凹凸がある内側に施される。内面は少しつぶれており、内面に炭化物付着		胎土:密、1mm前後の砂粒を含む 焼成:良好 色調:灰褐色

5. 須 恵 器

須恵器は河道2の堆積土と、河道2が最後に埋まったとき周辺に同時に堆積した赤褐色砂質土、その上層の暗褐色粘質土、および河道3の堆積土から出土しており、完形を保つものが多数を占めた。出土総点数は86点あり、すべてを実測し、うち81点を掲載した。第74図(SU-42~57)が河道3の出土須恵器のすべてであり、それ以外のものは河道2、赤褐色砂質土、暗褐色粘質土から出土したものである。

(I) 古墳時代の須恵器 (第72図 SU-1~14, 第75図 SU-65)

山本編年Ⅰ期に属すると考えられるものはSU-1・2・3・6である。

坏蓋 (SU-1・2)

SU-1は口縁部が直立し、天井部との境に鋸い稜をもつものである。口唇内面は段をなす。口径11.8cm、器高4.5cmを測る。天井部にはていねいな回転ヘラケズリを、ほぼ全面に施す。SU-2は小破片あるがSU-1と同様のものであろう。

坏身 (SU-3・6)

SU-3は立ち上がり部が内傾から、直立して高く伸び、口唇内面に段をもつものである。受部は水平方向に延びる。SU-6も同様のもの的小破片である。

山本編年Ⅲ期に属すると考えられるものはSU-4・5・7~11・12・65である。

坏蓋 (SU-4・5)

SU-5は口縁部と天井部との境に2条の沈線を巡らし、その間に不明瞭な稜を作り出すものである。口唇内面には沈線が巡り、天井部外面にはていねいな回転ヘラケズリを施す。

SU-4は、やはり2条の沈線による不明瞭な稜をもつものである。SU-5との相違点は、口縁部が開き気味になり、口唇内面の沈線もくぼみ状に浅い点である。

坏身 (SU-7~11)

SU-8・9は内傾する比較的高い立ち上がりをもち、受部は水平方向に出るものである。底部外面に回転ヘラケズリを施し、全体に丸みを帯びる。SU-7・10・11も同様のものである。

蓋 (SU-12)

口縁部と天井部の境に浅い1条の沈線が巡るものである。壺と組み合わされる蓋と考えられる。内外面とも回転ナデ調整である。

高坏 (SU-65)

脚部の小破片である。透かしと2条の沈線をもつ。内外面とも回転ナデ調整である。

山本編年Ⅳ期に属すると考えられるものはSU-13・14である。

坏蓋 (SU-13) と坏身 (SU-14) があるが、両者とも口縁部を欠く。SU-13の天井部は回転ヘラ切りの後ナデ、SU-14の底部は回転ヘラ切りの後ナデ調整が施される。

(2) 奈良～平安時代の須恵器

(第72～75図 SU-15～59, 第75図 SU-61～63, 第75～77図 SU-66～81)

坏蓋 (SU-15～18)

SU-16・18は輪状つまみの付くものである。口縁端部は下垂する。天井部外面には回転ヘラケズリが施された後、低いつまみが貼り付けられる。SU-15・17も同じ作りのものであるが、やや器高が高くなる。

高台付坏 (SU-19～25)

SU-21は内湾する坏部に「ハ」の字に開く比較的高い高台を付けるもの、SU-19は同様の坏部に直立気味の高台を付けるものである。また、SU-20・23・25は口縁部が内湾せずにそのままのびるものである。底部はSU-21・23が静止糸きりの後回転ナデ、SU-19は回転糸きりの後回転ナデ調査を行なう。

SU-24は直線的に開く口縁部をもち、平坦な底部端に低い高台を付けるものである。底部は回転糸きりを行い、切り放し後の調整は行わない。

無高台の坏 (SU-26～55)

無高台の坏は口縁部の形状から3種に分類した。即ち、口縁部にくびれをもつものをI類、体部は内湾するが口縁部が内湾せずにそのまま伸びるものをII類、口縁部が直線的に開くものをIII類とする。

I類は、さらに3種に細分できる。

I-1類 (SU-26~34) は、体部が内湾し、口縁部をくびれさせ、内面に稜をもった、底部の平らな坏である。切り離しはいずれも回転糸きりによって行われ未調整のままである。

I-2類 (SU-35~38) は体部の内湾度が低く、口縁部外面をくびれさせるが、内面には明瞭な稜をもたないものである。底部外面は回転糸きりを行うが、切り放し後の調整は行わず、平らになっている。

I-3類 (SU-39・40) としたものは、くびれ部内面を肥厚させ段をなすものである。小形ながら厚手の土器である。

SU-46も全形はこの類に似るが、端部内面の形状は肥厚するのみであいまいである。

II類 (SU-41) は口縁部が内湾せず、そのまま延びるものである。SU-41の1点のみが出土している。体部は浅く、底部は糸きりされて平らである。

III類は口縁部が直線的に開くもので、2種に細分できる。

III-1類 (SU-43・46) は底部から丸みをもって口縁部へ連し、底体部界に稜線をもたないものである。口径と底径の差はさほど大きくない。底部外面は回転糸きりで、外縁がナデ調整される。

III-2類 (SU-47~55) は底径が縮小し口縁部が大きく開くものである。底体部界ははっきりした稜線をもって屈曲する。器壁は薄く、成形時の回転による器面の凹凸が顕著である。底部は回転糸きりされる。

高台付きの碗 (SU-56)

器壁は薄く、成形時の回転による器面の凹凸が顕著である。底部は回転糸きりされ、高台が付く。端部を欠くが「ハ」の字に開く、高い高台のようである。

皿 (SU-57~59)

口縁部が短く外反するもの (SU-58・59) と、直線的に大きく開くもの (SU-57) の2種類が見られる。

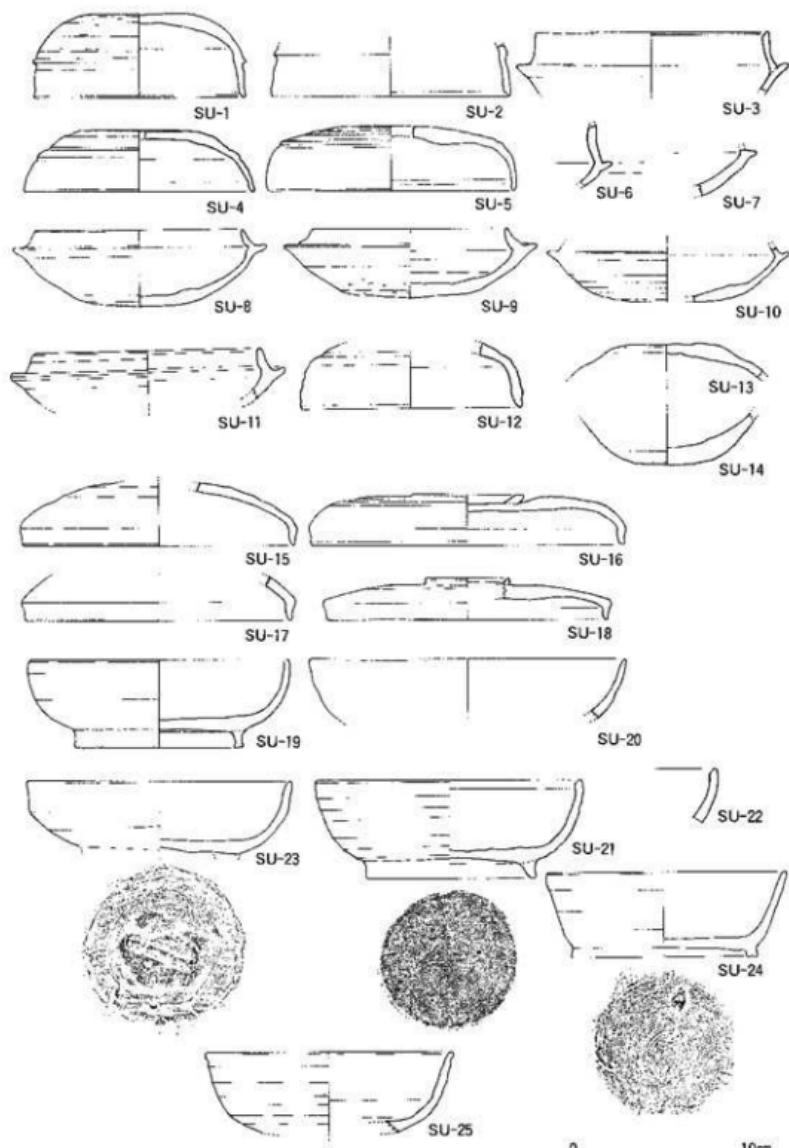
盤 (SU-61~63)

SU-61は底部外縁よりかなり内側に高台の付くもので、底部外面は回転ナデ調整される。

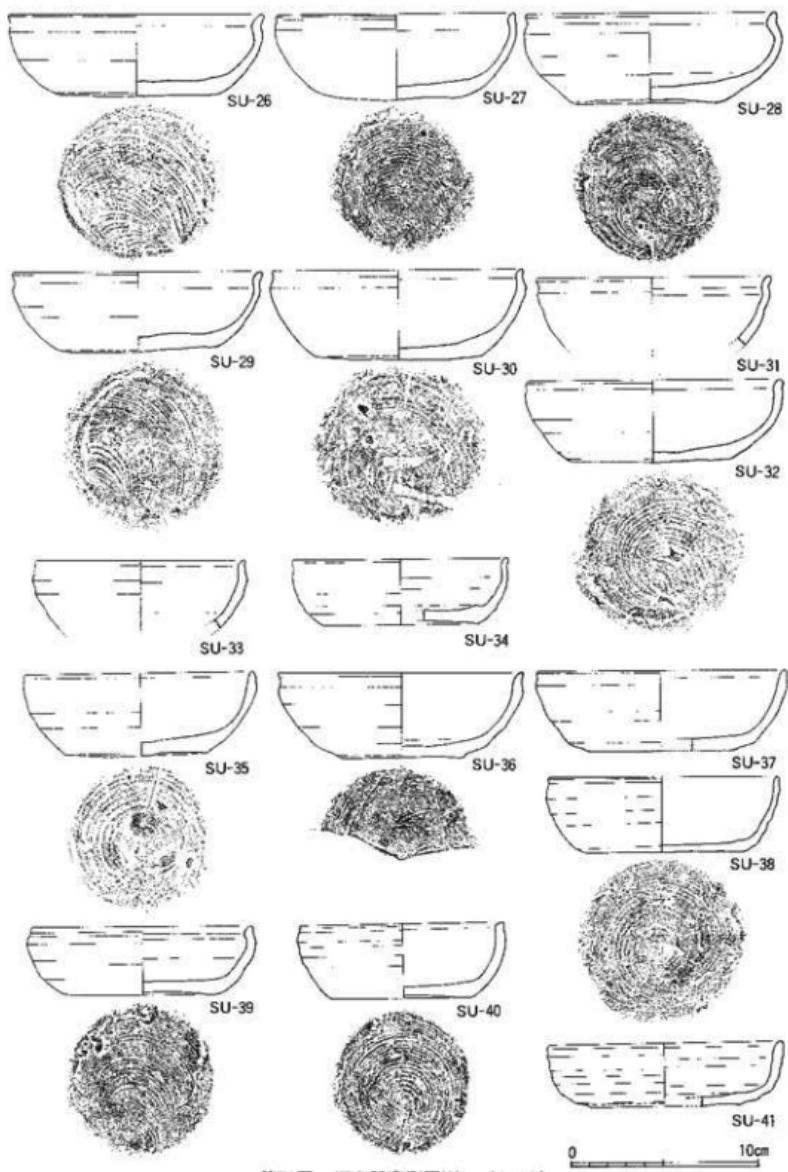
SU-62・63は底部外縁に高台の付くもので、底部外面は回転糸きりの後調整を行っていない。

長頸壺 (SU-68~75)

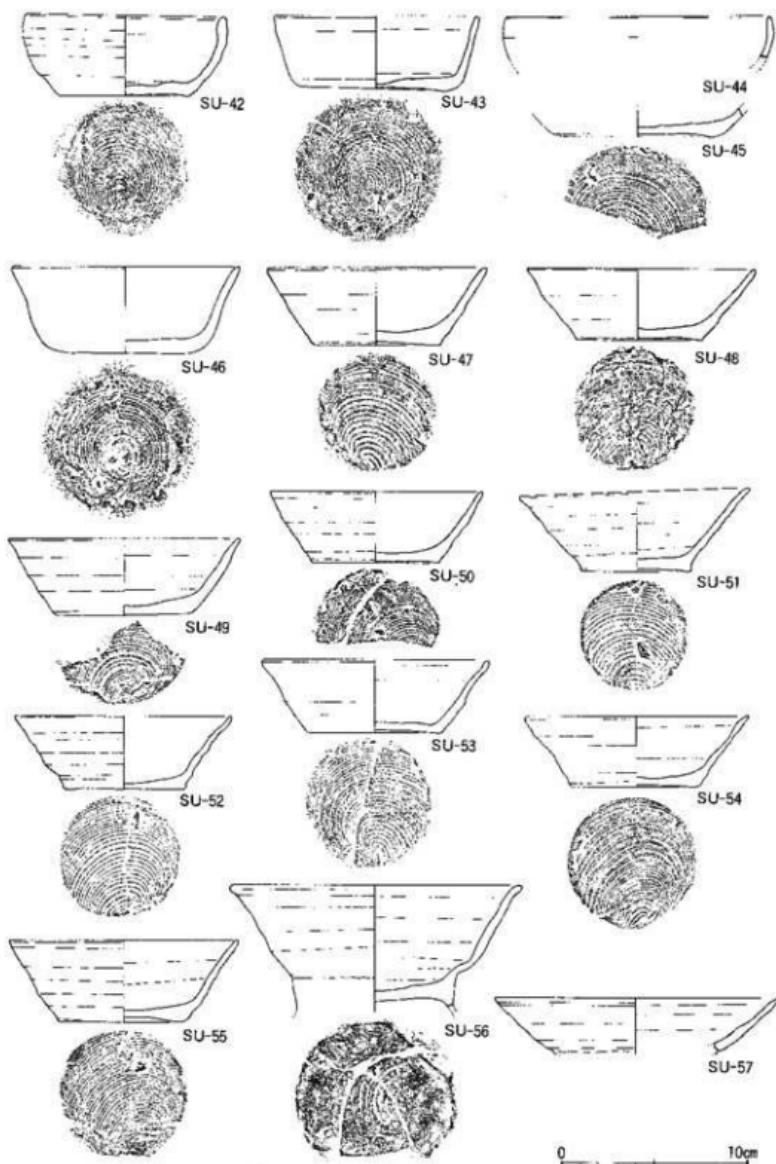
SU-68は肩部が強く張り、胴部との境が丸く作られるものである。「ハ」の字に開くしっかりし



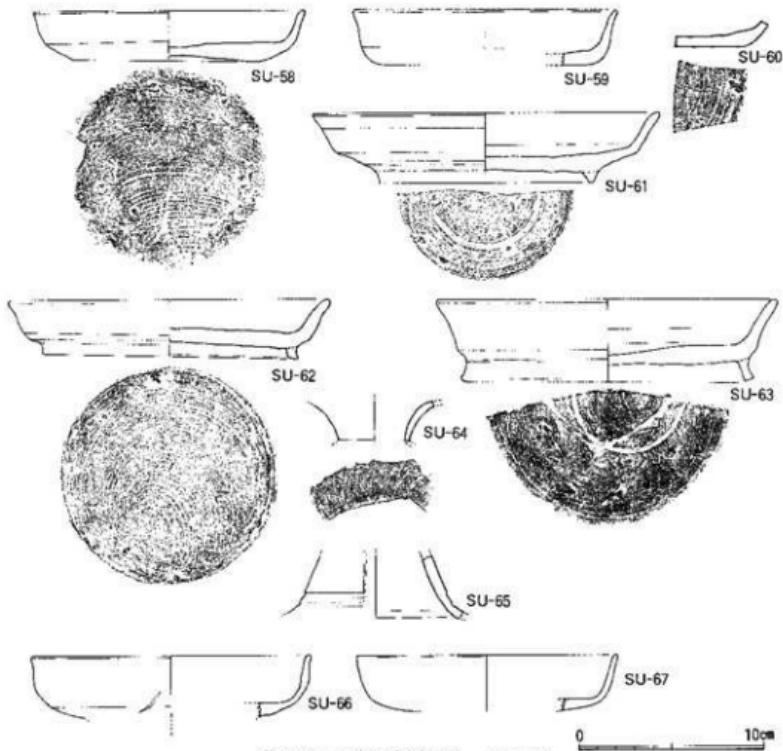
第72図 須恵器実測図(1) (1 : 3)



第73図 痘瘍器実測図(2) (1 : 3)



第74図 須恵器実測図(3) (1 : 3)



第75図 須恵器実測図(4) (1:3)

た高台が付けられる。底部外面は静止糸きりの後回転ナデが施される。

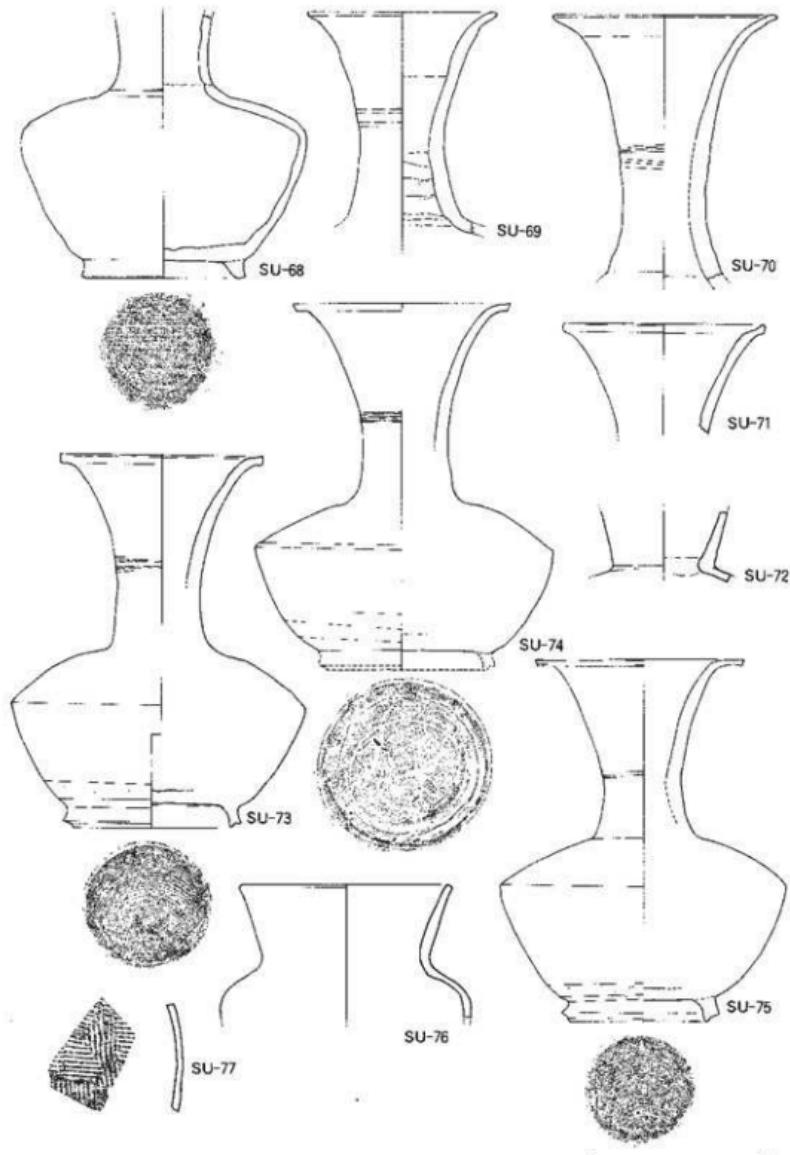
SU-69・70は口頸部のみ残存するもので、端部は面をなさず、丸みをもって終わるものである。SU-68のようなタイプに付くものと考えられる。

SU-73～75は肩部が強く張り、胴部との境に明瞭な稜線をもって屈曲するものである。口縁端部は直立又は外傾する平坦面をもっている。高台は「ハ」の字を開き、内端が接地する。底部はSU-11が糸きりの後回転ナデ調整、SU-10・12が回転糸きり未調整である。

広口壺 (SU-76)

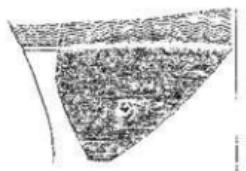
肩の張る土器で白黄色の自然釉がかかっている。口縁部は回転ナデ、胴部はナデ調整である。

SU-77は壺胴部の破片と考えられる。薄手で外面平行タタキ、内面ナデのもの。



第76図 須恵器実測図(5) (1 : 3)

0 10cm



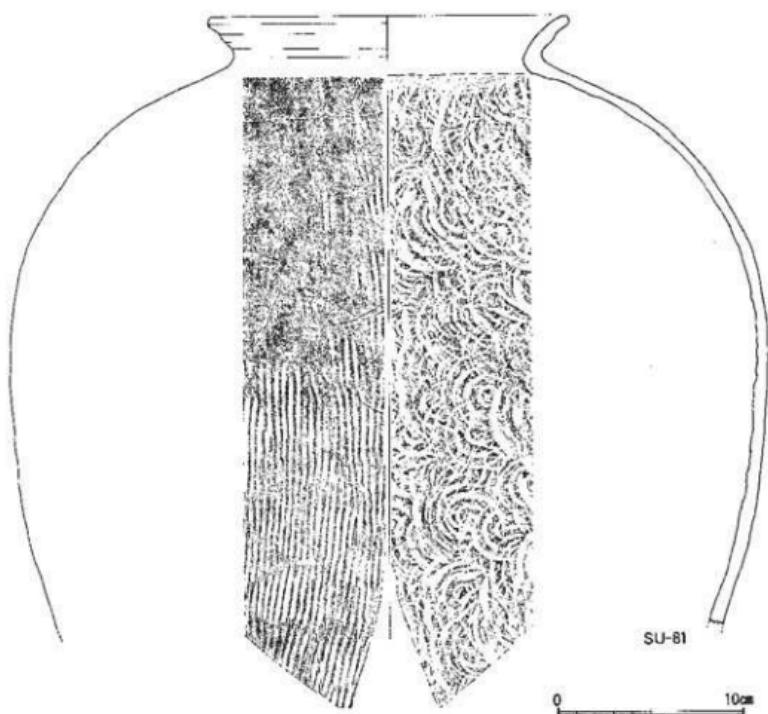
SU-78



SU-79



SU-80



SU-81

0 10cm

第77図 須恵器実測図(6) (1 : 3)

甕 (SU-78~81)

SU-78は長頸の甕の頭部に波状文と沈線を施すものである。

SU-79は肩部の破片で、外面には緑色の自然釉が一面にかかり、内面には円弧の押し当て具痕が残る。

SU-80は胴部片であろう。

SU-81は口径19.6cm、胴部最大径40.8cmを測る大甕である。口頸部が「く」の字状に屈曲し、胴部が張り出するものである。口頸部回転ナデ、胴部外面平行タタキ、内面同心円タタキが施される。

以上見てきたように、今回出土の須恵器のうち古墳時代に属するものは15点と少なく、しかも小片のものが多いが、奈良時代以降のものは完形の土器が多数を占め、調査区の周辺に遺構が存在する可能性が考えられる。

余良時代以降の須恵器のうち、8世紀代と考えられるものは河道2とその上層から多く出土し、10世紀にかかるかと考えられるものは河道3から出土している。後者にあたるものは無高台の坏¹—2類(SU-47~55)、高台付きの碗(SU-56)、皿(SU-57)等である。これらと同様の形態を示すものは神田遺跡Ⅰ区SK01、長峯遺跡等から出土しており、その時期は10世紀前葉と考えられている。

註1 山本清「山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』1971年

註2 『北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』鳥取県教育委員会
1987年

註3 『中竹欠1号墳・長峯遺跡』松江市教育委員会 1987年

須 恵 器 觀 察 表

器種	通番	國号	採取場所	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
灰 壺	第72回 SU-1	57	NED1	赤褐色 砂質土	口径 11.3 器高 4.5	器底は高く、天井部は 口徑に直立する口縁部 とその間に低い段、口唇 内面に段	天井外縁のほんとどを ていしないなへラケズリ、 その他の回転ナゲ	胎土: 緩和、1~4mmの大白色砂粒 燒成: 良好、堅密 色調: 青灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-2	57	NED1	赤褐色 砂質土	口径 12.7	口縁部は直立気味に高 く伸び、天井部との境 に縫をもつ。口唇部内 面に段	回転ナゲ	胎土: 緩和、1mm以下の白色砂粒 燒成: 良好、堅密 色調: 青灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-3	57	NED1	暗青灰色 砂層	口径 12.4 受部径 14.6	たちあがりは高く内縫 後直立、口唇内面に段	回転ナゲ	胎土: 緩和、白色小砂粒を少量含 む 燒成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-4	57	NED1	淡灰色 砂質土	口径 12.2 器高 3.3	大口部と口縁部の境に 沈縫2条	天井部外面: ていねい なへラケズリ 天井部内面: 多方向ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和、白色小砂粒を少量含 む 燒成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-5	57	NED1	暗灰色 粘質土	口径 13.0	天井部と口縫部の境に 沈縫2条、口唇内面に沈 縫	天井部外面: ていねい なへラケズリ 天井部内面: ナゲ それ以外は回転ナゲ	胎土: 緩和、1mm前後の白色砂 粒を若干含む 燒成: 良好 色調: 淡青灰色		
灰 壺	第72回 SU-6	57	NED1	暗灰色 粘質土		受部は水平、たちあが りは半球状気味に高く伸 びる	回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 淡青灰色		
灰 壺	第72回 SU-7	57	NED1	暗青灰色 砂層	受部径 15.0	受部は水平、たちあが りを欠く	回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 深灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-8	57	NED1	青灰色 砂層	口径 11.0 受部径 13.6	たちあがりは内縫し比 較的高い	天井外縁: 回転ヘラケ ズリ 底窓内面: ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和、1mm前後の白色砂粒 を若干含む 燒成: 良好 色調: 深灰色~淡灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-9		NED1	青灰色 砂層	口径 10.3 器高 3.7 受部径 13.5	たちあがりは内縫して 伸び比較的高い	底窓外縁: 回転ヘラケ ズリ 底窓内面: ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 深灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-10	57	拂土		受部径 13.0	たちあがりは内縫して 伸びる	底窓外縁: 回転ヘラケ ズリ 底窓内面: ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 外 黑灰色、内 青黑色		
灰 壺	第72回 SU-11	57	NED1	赤褐色 ~青灰色 砂層	口径 12.0 受部径 14.6	たちあがりは内縫して 比較的高い	回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: やや良好 色調: 淡灰色	河遺2	
壺	第72回 SU-12	57	NED1	青灰色 砂層	口径 13.6	天井部と口縫部の境に 不規則な沈縫、蓋の蓋 か	回転ナゲ	胎土: 1mm未満の白色砂粒を少 量含む 燒成: 良好 色調: 淡灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-13	57	拂土	暗灰色 粘質土			天井部回転ヘラ切り後 多方向ナゲ	胎土: 緩和、微小な白色砂粒を含 む 燒成: 良好 色調: 淡灰褐色		
灰 壺	第72回 SU-14	57	NED1	赤褐色 ~青灰色 砂層		丸栓を帯びた直部	底窓回転ヘラ切り一部 ナゲ	胎土: 1mm前後の砂粒を若干含 む 燒成: 良好 色調: 淡灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-15	57	中央ベルト	暗青灰色 砂層	口径 14.4	天井中央部は残ってい ないが、つまみが付く であろう。器高はかなり 高い。口縫部は下垂	天井部回転ヘラケズリ 後回転ナゲ 天井内面: ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 1mm前後の砂粒を若干含 む 燒成: 良好 色調: 深灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-16	57	NED1 しがらみ状 遺構		口径 16.6 器高 2.7	天井部に低めの輪突つ きみ、口縫部は下垂	天井部外縁: 回転ヘラ ケズリ 天井部内面: 多方向ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和、良好、堅密 燒成: 良好 色調: 外 深黒灰色、内 淡灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-17	57	NED1	暗赤褐色 砂層	口径 14.2	壺形は下垂し、断面半 角形状	回転ナゲ	胎土: 緩和、1mm前後の白色砂 粒を含む 燒成: 良好 色調: 淡青灰色	河遺2	
灰 壺	第72回 SU-18	57	NED1	暗青灰色 砂層	口径 15.0 器高 2.25	天井部に低い輪突つ きみ、口縫部は下垂	天井部外縁: 回転ヘラ ケズリ 天井部内面: ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 青灰色	河遺2	
角 口 扇	第72回 SU-19	58	NED1	暗灰色 砂質土	口径 13.7 器高 4.75 受部径 9.0	体部はやわらかに内縫、 組みの比較的高い。口唇 内面に段	底窓外縁: 回転系切り 底窓内面: 多方向ナゲ その他の回転ナゲ	胎土: 緩和、1mm前後の白色砂 粒をかなり含む 燒成: 良好、堅密 色調: 外 深黒灰色、内 淡灰色	河遺2	
环	第72回 SU-20	57	NED1	暗赤褐色 砂層	口径 18.6	口縫部の小破片、高台 の付くタイプのものか	回転ナゲ	胎土: 緩和 燒成: 良好 色調: 深灰色	河遺2	

器種	揮番	國号	國	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
高台付环	第72回 SU-21	58	中央ベルト	暗灰色 砂層	口径14.1 基高 5.25	体部は内湾、上げ底の 底部端に高台を付ける	底部静止糸切り後回転 ナデ	胎土: 密、1mm前後の白色砂粒 を少量含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第72回 SU-22	57	S22竹塹 調査区	埋土		口縁部の小裏片	回転ナデ	胎土: 密、微小な白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡青灰褐色		
高台付环	第72回 SU-23	58	N4E2	暗灰色 砂層	口径 14.0	体部は内湾、高台は削 取	底部外側: 静止糸切り、 高台付糸切り後回転ナデ	胎土: 1~7mm大の砂粒をかな り多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
高台付环	第72回 SU-24	58	N2E1	暗褐色 粘質土	口径 12.8 基高 4.6 底径 10.0	口縁部は外傾して伸び る、上げ底気味の底部 端に低い高台	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~4mmの白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色		
环	第72回 SU-25	57	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 13.2	口縁部は外傾し、上縁部 外面は弦状線に深くくび れ込む	回転ナデ	胎土: 白色微砂粒をわずかに 含む 焼成: 良好 色調: 淡青灰褐色		
环	第73回 SU-26	58	N2E1	暗褐色 砂層	口径 13.8 基高 4.4	口縁部がくびれ、内面 にかすかなか底、底部は 平	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~3mm大の白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色~淡青灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-27	58	N2E1	水褐色~ 砂層	口径 12.6 基高 4.5	体部は内湾し、口縁部 でくびれて、内面にか すかなか底	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~2mmの砂粒を若 干含む 焼成: 良好 色調: 淡青灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-28	58	N2E1	暗褐色 砂層	口径 13.2 基高 4.8	体部は内湾し、口縁部 でくびれて、内面にか すかなか底、やや上げ底	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~3mm大の白色砂粒 を若干含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色~淡青灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-29	58	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 13.4 基高 4.3	体部は内湾し、上縁部 でくびれる、底部は平	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~3mm大の白色砂粒 を若干含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-30	58	N2E1	暗褐色 砂層	口径 13.2 基高 4.8	口縁部はくびれて、内 面にかすかなか底、底部 は平	底部外側: 回転糸切り 底部内面: 多方向ナデ	胎土: 密、1mm未満の白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-31		N2E1	暗褐色 砂層	口径 12.3	口縁部のくびれるタイ ブ	回転ナデ	胎土: 密、1~2mm未満の白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-32	58	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 13.1 基高 4.4	口縁部はわずかにくび れて内面にかすかなか底、 底部は平	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密 焼成: やや軟質 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-33				口径 11.2	口縁部はわずかにくび れて内面でかすかなか底	回転ナデ	胎土: 密 焼成: やや軟質 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-34		N2E1	暗灰色 砂質土	口径 11.4 基高 8.2	口縁部のくびれるタイ ブ。やや上げ底	底部外側: 回転糸切り 底部内面: 多方向ナデ、 それ以外は回転ナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色		
环	第73回 SU-35	58	N2E1	暗赤褐色 砂層	口径 12.2 基高 7.6	平坦な底面。口縁部外 面はくびれるが内 面は底面をもたない。	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1mm未満の白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡青灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-36	58	N2E1	赤褐色 砂層	口径 13.0 基高 4.5	体部は内湾し、口縁部 でくびれて、内面は平	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1~5mm大の砂粒を少 量含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-37				口径 13.2	口縁部はわずかにくび れる	底部回転糸切り	胎土: 密、1mm未満の白色砂粒 を若干含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-38	58	N2E1	赤褐色 砂層	口径 12.2 基高 4.1	体部は内湾気味に伸び る。口縁部近くでくわ くわとくびれる。器壁 はうすい。	底部回転糸切り	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河遺2	
环	第73回 SU-39	58	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 11.8 基高 3.7 底径 7.8	口縁部はくびれ、内面 に縫を持つ。やや上げ 底	底部外側: 回転糸切り	胎土: 密、1mm前後の白色砂粒 を含む 焼成: 良好 色調: 淡青色~淡褐色		
环	第73回 SU-40	58	N2E1	暗灰色 粘質土	口径 9.8 基高 4.0 底径 7.6	口縁部内面に縫、や や上げ底	底部回転糸切り	胎土: 1~3mm大の白色砂粒を 多く含む 焼成: 良好 色調: 淡青灰褐色~淡褐色		
环	第73回 SU-41	58	N4E2	暗灰色 砂層	口径 12.2	浅めの环、底部は平	底部外側: 回転糸切り	胎土: 白色小砂粒を少量含む 焼成: 良好 色調: 青灰褐色	河遺2	

器種	種類	国分	出土点	層位	径 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
环	第74回 SU-42	59	NSEI	暗灰色 砂質土	口径 10.5 壁高 4.4 底径 6.9	平坦な底盤、口縁内面にかすかな模	底部外面: 回転糸切り	胎土: 1~2mmの大粒(白色、灰色) 焼成: 良好 色調: 青灰色	河岸3
环	第74回 SU-43	59	NSEI	淡褐色 砂質土	口径 11.0 壁高 4.6 底径 7.6	平坦な底盤よりやや丸味をもつてたらあがり、外縁して伸びる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 0.5~3mmの大粒の白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡灰色	河岸3
环	第74回 SU-44	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 14.0	内側する口縁部の小破片	回転ナデ	胎土: 密 焼成: 良好 色調: エビ茶色~灰色	河岸3
环	第74回 SU-45	59	NSEI	暗灰色 粘質土	底径 7.8	上げ底気味の底盤より内側してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密 焼成: やや軟 色調: 淡灰色	河岸3
环	第74回 SU-46	59	NSEI	淡褐色 砂質土	口径 12.2 壁高 4.6 底径 7.4	平坦な底盤より丸味をもつてたらあがり、やや外反して口縁端部に黒點	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、1mm未満の白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰色	河岸3
环	第74回 SU-47	59	NSEI NSEI	暗褐色 粘質土	口径 11.6 壁高 4.1 底径 6.6	やや上げ底の底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 1mm未満の砂粒を若干含む 焼成: やや軟 色調: 淡褐色、淡褐色	河岸3
环	第74回 SU-48		NSEI	暗褐色 粘質土	口径 12.3 壁高 3.9 底径 6.8	平坦な底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、小砂粒を若干含む 焼成: やや軟 色調: 淡褐色	河岸3
环	第74回 SU-49		NSEI	暗灰色 粘質土	口径 12.4 壁高 4.1 底径 7.2	平坦な底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、1mm未満の白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 灰色	河岸3
环	第74回 SU-50		NSEI	暗褐色 粘質土	口径 11.3 壁高 3.8 底径 6.8	平坦な底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密 焼成: やや軟 色調: 淡褐色~淡褐色	河岸3
环	第74回 SU-51	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 12.4 壁高 4.2 底径 5.9	上げ底気味の底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 乳灰白色	河岸3
环	第74回 SU-52	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 11.6 壁高 3.9 底径 5.4	平坦な底盤より外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 1mm以下以下の白色砂粒を少々含む 焼成: やや軟 色調: 淡灰色	河岸3
环	第74回 SU-53	59	NSEI	暗褐色 粘質土	口径 12.2 壁高 3.9 底径 7.0	上げ底気味の底盤より直線的に外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、1mm以下以下の白色砂粒を少々含む 焼成: やや軟 色調: 淡褐色	河岸3
环	第74回 SU-54	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 11.8 壁高 3.5 底径 7.0	平坦な底盤より外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、白色小砂粒を少量含む 焼成: やや軟 色調: 淡褐色	河岸3
环	第74回 SU-55	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 12.2 壁高 3.9 底径 6.8	上げ底、口縁部は外縁してたらあがる	底部外面: 回転糸切り	胎土: 密、白色敷砂粒を少量含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河岸3
高台付环	第74回 SU-56	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 15.6	外縁して伸びた後、端部で外反、高台付	底部外面: 回転糸切り	胎土: 1~2mmの大粒の砂粒をかなり多く含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色~淡灰褐色	河岸3
?	第74回 SU-57	59	NSEI	暗灰色 粘質土	口径 15.1	杯と皿の中間に深さをもつ	内外面: 回転ナデ	胎土: 小砂粒を若干含む 焼成: 良好 色調: 淡灰褐色	河岸3
皿	第75回 SU-58	61	NSEI	赤褐色 砂質	口径 14.6 壁高 2.7	上げ底	底部に糸切り痕	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 灰色~暗灰色、底部は茶褐色	河岸2
皿	第75回 SU-59	61	NSEI	暗褐色 粘質土	口径 14.5	口縁部外反気味	底部回転糸切り	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 灰色	
环	第75回 SU-60	61				底部の小破片	回転糸切り	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
盤	第75回 SU-61	61	NSEI	暗褐色 粘質土	口径 18.6 壁高 3.5 底径 11.3	口縁部は体部より屈曲して伸びる。高台付だけ位置は内寄り	底部内面: 多方向ナデ 他は回転ナデ	胎土: 多くの白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	河岸2
盤	第75回 SU-62	61	NSEI	暗褐色 粘質土	口径 17.4 壁高 3.0 底径 13.8	底部外縁近くに低い高台	底部外面: 糸切り	胎土: 密 焼成: 良好 色調: 淡褐色	

器種	排番	國名 考古學名	出土地點	層位	径 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
盤	第75回 SU-63	61	NED	暗灰色 粘質土	口径 18.2 器高 4.4 底径 14.8	口縁部外反気味、底部 外縁に高めの高台	底部外面:回転糸切り	胎土:土、1~2mmの大白色砂粒 を若干含む 焼成:やや軟質 色調:灰色~暗灰色	
盤	第75回 SU-64	61	耕土中	頸部径 3.8		頸部から口縁部にかけての小破片 波状文	回転ナデ	胎土:土、1mmの大白色砂粒 を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色~暗灰色	
高 环	第75回 SU-65	61	NED	暗青灰色 砂質土		透かしをもつ 沈模2条	回転ナデ	胎土:土、1~2mmの大砂粒 を含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	河遺2
高台 付 环	第75回 SU-66	61	耕土中	口径 15.1	浅い環部		回転ナデ	胎土:土、1mmの大黒色砂粒をわ ざかに含む 焼成:良好 色調:青灰色	
高台 付 环?	第75回 SU-67	61	NED	口径 14.0	浅い全体		回転ナデ	胎土:土、1~2mmの大白色砂粒 を少量含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	
長 颈 瓶	第76回 SU-68	60	NED	赤褐色 ~青灰色 砂質土	底径 8.7	肩はよく、腹部が腰をな す。口縁部に高台を有す り、外に張り出す高台 肩部と頸部の頂に沈模 を含む	底部静止糸切り後回転 ナデ	胎土:土、1~2mmの大白色砂粒 をかなり含む 焼成:良好 色調:灰色~青灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-69	60	NED	赤褐色 砂質土	口径 10.1	口縁部外反気味で深く て外氣、頸部は少し さめる 頸部に不規則な洗練を 含みます	頸部内面に粘土をラセ ン状に巻き上げた痕跡。 内外面とも回転ナデ	胎土:土、1mm未満の砂粒をわ ざかに含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-70	60	NED	暗灰色 砂質土	口径 12.0	口縁部は外反して伸び、 頸部は丸くさめる 頸部に沈模2条	回転ナデ	胎土:土、1mm未満の砂粒をわ ざかに含む 焼成:良好 色調:灰色~暗灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-71	60	NED	赤褐色 ~青灰色 砂質土	口径 10.6	口縁部は外反気味に伸び り、頸部で直進的な腹を なす	回転ナデ	胎土:土、1mm前後の白色砂粒 を若干含む 焼成:良好 色調:灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-72	60	耕土	頸部径 5.4			回転ナデ	胎土:土、白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:暗青灰色	
長颈瓶	第76回 SU-73	60	NED	暗青灰色 砂質土	口径 10.9 器高 20.0 底径 8.4	口縁部は外反して伸び、 頸部は直進的な腹をなす。 肩部が張り腰をもつ。英 台をつくり、頸部で直進的な腹を なす	底部に回転糸切り痕	胎土:土、2mm未満の白色砂粒 を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-74	60	NED	暗青灰色 砂質土	口径 11.6	口縁部は外反して伸び、 頸部は直進的な腹をなす。 肩部が張り腰をもつ。英 台をつくり、頸部で直進的な腹を なす(?)	底部回転糸切り	胎土:土、1~2mmの大白色砂粒 を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河遺2
長颈瓶	第76回 SU-75	60	NED Lからみ状 遺物	暗灰色 砂質土	口径 11.1 器高 19.35 底径 7.2	口縁部はよく外反し、頸部 は直進的な腹をなす。 肩部が張り腰をもつ。 英台をつくり、頸部で直進的な腹を なす(?)	底部に糸切り痕	胎土:土、1~2mmの大白色砂粒 を含む 焼成:良好 色調:淡青灰色	河遺2
広 口 瓶	第76回 SU-76	60	耕土中	口径 11.0	広口の壺		回転ナデ	胎土:土、1mm前後の砂粒を含 む 焼成:良好 色調:暗青灰色	
壺	第76回 SU-77	62	NED	暗青灰色 砂質土		壺胴部の小破片	外面:平行印き 内面:ナデ	胎土:土、 焼成:良好 色調:青黒色	河遺2
壺	第77回 SU-78	62	NED	暗灰色 砂質土		長颈の壺の頸部 波状文	回転ナデ	胎土:土、 焼成:良好 色調:青黒色	河遺2
壺	第77回 SU-79	62	NED	赤褐色 砂質土		壺頸部の破片、自然釉	外面:平行印きか 内面:円弧押出具痕	胎土:土、 白色小砂粒を少量含 む 焼成:良好 色調:青色	河遺2
壺	第77回 SU-80	62	NED NED	暗赤褐色 砂質土		壺胴部の小破片	外面:平行印き 内面:円弧押出具痕の 上をナデ	胎土:土、白色小砂粒を含む 焼成:良好 色調:青灰色	河遺2
壺	第77回 SU-81	61	NED NED	青灰褐色 砂質土 暗赤褐色 砂質土	口径 19.4	口縁部は外反、肩から 頸部にかけては丸太を 寄せてなだらかに下る	口縁部内外面:回転ナ デ 外面:平行印き 内面:同心円押出具痕	胎土:土、1mm未満の白色砂粒 を含む 焼成:良好、堅緻 色調:外:暗青灰色、内:灰青色	河遺2

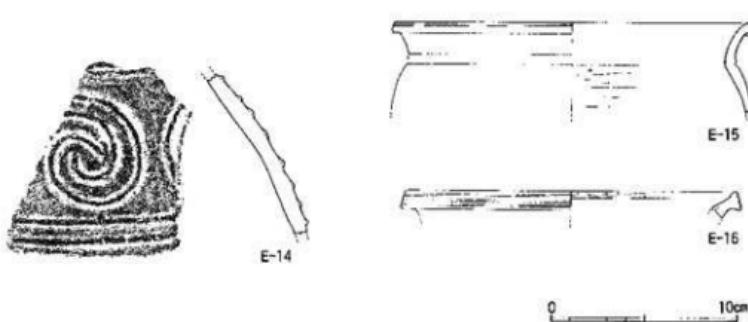
6. その他の土器

その他の土器としたものは、時期について言及できなかったものである。以下特徴のみを述べる。E-14は外面に渦巻き状、又は藤手状の文帯と、直線状の突帯を貼り付けるものである。壺の肩部に当たるものであろうか。器面調整はナデを行っている。胎土には1~5ミリ大の人粒の砂粒を含んでおり、弥生前期から中期初頭の土器の胎土に似ている。

E-15は壺、又は鉢と考えられるものである。ゆるく外反する口縁部は、端部付近で下垂し、頸部には稜線が入るものである。口頸部はヨコナデ、胴部外面にナデ、内面にはヘラケズリを施している。

E-16は頸部が「く」の字状に屈曲し、口縁端部外面に直線文をもつものである。弥生中期後葉から後期前半にある壺に非常によく似た形状を呈しているが、胎土と焼成は、タテチョウ遺跡でみられるその時期の弥生土器とは全く異なる印象を受ける。非常に精選された細かい胎土をもち、硬質に焼かれた灰白色の土器となっている。タテチョウ遺跡の前回の調査で報告されているものに、胴部に格子目のタタキをもつ韓式系土器があるが、それと同様のものであろうか。

註1 「タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ」 烏根県教育委員会 1990年



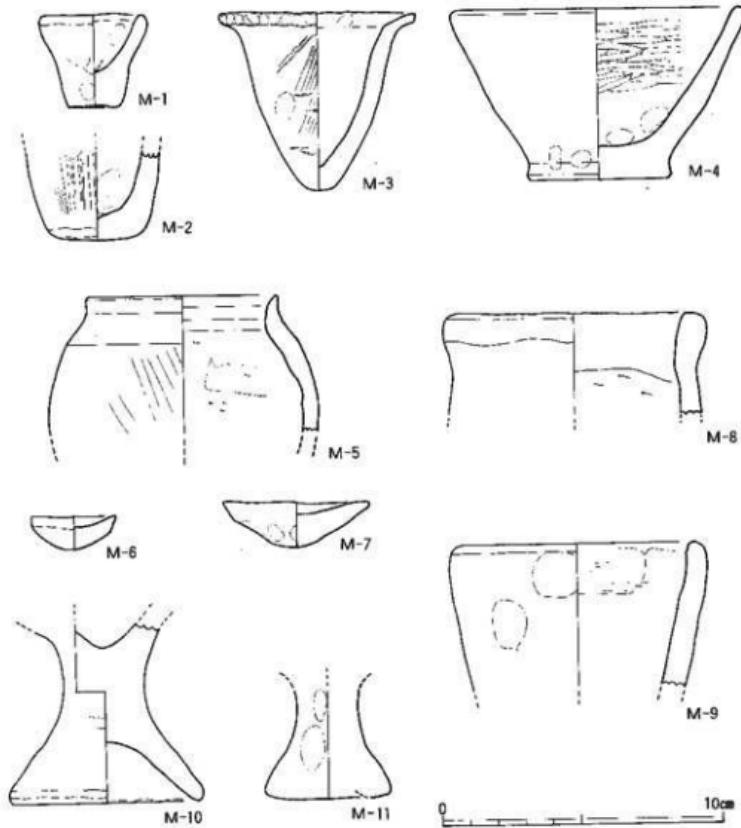
第78図 土器実測図 (1:3)

その他の土器観察表

器種	標 番 号	出 土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備 考
甕	第78回 E-14	62	II区 トレンチ内	暗灰褐色 砂礫層	外面に彌漫もしくは、わらび手法の更帯、その下に平行実唇を施り付けら	ナデか	胎土:1~5mm人の筋粒を多く含む 焼成:良好 色調:褐色	
鉢	第78回 E-15	62	NEI	青灰褐色 砂礫層	口縁部は外反し、窓部は斜め下方に下垂、外縁に浅く凹缺1本	口縁部へ凹凸ミコナデ 窓部外縁:ナデか 窓部内面:ヘラケメリ	胎土:小砂粒を少量含む 焼成:良好 色調:明灰色	河岸2
盤	第78回 E-16	62	SEI	暗青灰褐色 砂礫層	口縁・端部は払拭し、疣状3条	外底:ナデ 内面:ヘラミガキ	胎土:精選されている 焼成:良好 色調:明灰色	河岸4

7. ミニチュア土器

ミニチュア土器（第79図 図版63）としては鉢形・壺形等9点を図示した。この中には、仮器としてのミニチュア土器以外の実用的な小型土器が含まれている可能性もあるが、出土状況等から判別できないので、ここではミニチュア土器として扱いたい。



第79図 ミニチュア土器実測図 (1:2)

鉢形（第79図 M-1・3・4）

器高が低く、口縁部が開くものを鉢形とした。手捏ねによる粗製のもの（M-1・3）とヘラミガキを施していわいな作りのもの（M-5）がある。

M-1は、手捏ねによる粗製土器で器壁の厚い平底の底部から直線的に立ち上がる体部をもつ。調整は、内外面とも指頭圧痕を残しており、特に内面にはハケ状工具によって搔き取ったような痕跡を残している。M-3は、尖底気味の丸底からやや厚手の体部が内湾気味に立ち上がるもので、「く」の字形に大きく屈曲する口縁部をもつものである。口縁端部は指で押えながら成型したと考えられ、指頭圧痕による小さな面を連続的に配したような形状になっている。内面はナデ、外面はハケメの後ナデによりていわいに調整されている。

M-4は、弥生時代前期に見られる鉢形土器と同様の形状を呈すもので、外面は摩滅しているものの、内面には丁寧なヘラミガキが見られる。径の大きな平底の底部をもち、外傾する体部は口縁部まで直線的に立ち上がる。口縁端部はナデ調整が行われており、わずかに面をもつ。弥生時代前期の鉢形土器にはこうした器形をもつものがあり、その中には、口径10cmをわずかに超える程度の小品もある。そうしたことから、この土器は実用的な小型土器である可能性が高い。

壺形（第79図 M-2・8・9）

口縁部が開き、器高の高いものを壺形とした。M-2は底部近くの破片で、平底の底部から直立気味に体部が立ち上がる。内面には指頭圧痕が残り手捏ねの痕跡を残しているが、外面はハケによってていわいに整形されている。土器そのものが小さいせいか、ハケメの単位は3本程度しか見えない。M-8は口縁部付近の小片で、肥厚した口縁部をもつ壺形であろう。体部はほぼ直立するようである。体部の器壁は厚く作られているが、口縁部近くでは更に肥厚する。外面と口縁部内面はナデ、体部内面にはケズリの痕跡を残している。M-9も口縁部付近の小片である。器壁が厚く、やや開き気味に立ち上がる体部をもつ。口縁部付近は強くつまみ出したのか、内面がわずかにくびれ、断面では内傾するように見える。口縁部内面にわずかにハケメ状の痕跡を残すほかはナデによって整形され、外面には指頭圧痕を残している。

壺形（第79図 M-5）

短頸壺の口縁部から体部にかけての破片と考えられる。体部は緩やかに内湾し口縁部直下で上方に向かって折れ曲がる。頸部内面に強いナデによるくびれや、尖がった口縁部はつまみ出して成型したように思われる。器壁は、他のミニチュア土器に比べると薄手に作られている印象を受ける。体部内面はケズリ、外面には粗いハケメを残している。短い頸部はナデによってていわいに整形さ

れている。

高杯形（第79図 M-10・11）

高杯形のミニチュア土器は脚部の破片が2片出土している。M-10は摩滅のため、調整が見えないものの、ていねいに成型された脚部の破片である。器壁は厚手で、特に杯底部から脚内上部の間は非常に厚く作られている。脚は直線的に伸び、杯部中央は深くくぼんでいる。M-11も、脚部の小片である。手捏ねによる粗製のもので、外面には指頭圧痕が多く残している。脚部は高く作られているのに比べ、底径は小さい。器壁は非常に厚く、脚部内面には絞り痕が見られる。

M-6・7は、高杯の杯底部中央を埋めた円盤状の粘土が剥離したものであろう。M-7は外面に指頭圧痕のくぼみが見られる。両者とも摩滅しており調整痕や接合痕が残らず、皿状に見える。

ミニチュア土器観察表

器種	種類	品番号	説明	出土地点	層位	法 径 (cm)	重 量 (g)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
鉢	第79回 M-1	63	S6W1	青灰色 砂礫層	口径 3.3 最大径 3.3 底径 1.9			手捏による平底の表面から口縁部へ直線的に立ち上がる	内面はハケ状工具によりかき取ったような痕跡が見える	胎土：1～2mmの大砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
盤？	第79回 M-2	63	S3E2	青灰色 砂礫層	底径 2.8			丸底気味の底面から直線的に体部が伸びる	内面は指頭圧痕、外面はハケ目	胎土：1～2mmの大砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
鉢	第79回 M-3	63	N3E1	灰色 砂質土	口径 6.9 底径 6.3			平底気味の片底、口縁部外側には直線的に立上がり、内面には指頭圧痕が見られる、面を削っている	外側はハケ目の後ナデ、内面はナデ	胎土：1～2mmの大白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
鉢	第79回 M-4	63	Tレンチ内	暗青灰色 砂礫層	口径 10.0 底径 6.0 底径 4.9			平底の底面から口縁部にかけて直線的に伸びる	内面はミガキとナデ、外側は磨滅	胎土：1mm程度の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
盤	第79回 M-5	63	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 6.7			ゆるやかに内側する体部から、小さな口縁部が直線的に立ち上がる	体部外側に粗いハケ目	胎土：1mm以下ガラス質の無機物を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
不明	第79回 M-6	63	I区 Tレンチ内		口径 3.0 底径 1.2			浅い皿状	磨滅により不明	胎土：白色無機物を含む 焼成：良好 色調：墨褐色	
不明	第79回 M-7	63	N4E1	褐色 砂礫層	口径 5.2 底径 1.6			浅い皿状。外側には指頭により押さえられたような痕跡が多く残る	磨滅により不明	胎土：1mm程度の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：黄白色	
盤か か	第79回 M-8	63	N4E2	青灰色 砂礫層	口径 9.2			削楽した口縁から下ずかに屈曲し、体部へ続く	体部内面は削られていく。世はナデ	胎土：1mm人の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
盤か か	第79回 M-9	63	N2E0	暗赤褐色 砂礫層	口径 8.8			口縁から直角にかけて、ほぼ直行する	内面上部はハケ目の後ナデ、他の部分にナデ調整	胎土：1～3mmの大白色砂粒を多く含む 焼成：良好 色調：灰褐色	
高杯	第79回 M-10	63	実探					底部は中央がくぼみ、大きく開く。脚部は直線的	磨滅により不明	胎土：1mm程度の白色砂粒を含む 焼成：良好 色調：明白茶色	
高杯	第79回 M-11	63	N3E2	褐色 砂礫層	底径 4.4			手捏により厚手に作られる	一部に指頭圧痕が残る	胎土：白色小砂粒を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	

8. 土 製 品

土器以外の土製品（第80図 図版63）の出土はきわめて少ないが、土笛、土製円盤、土鍤等の12点を図示することができた。図示した以外の土製品としては、埴輪片が何点か出土している。

土笛（第80図 CL-1）

完形品が1点出土している。器高5.9cm、立面形は卵形を呈し、吹口が胴部最大径よりも小さく作られている。1面に4カ所、他面に2カ所の貫通孔が穿たれている。この形態は、1988年度までにタテチョウ遺跡多数出土しているものの中でも一般的に見られるものである。西川津遺跡で出土しているもの多くはヘラミガキを施されており、1988年度までにタテチョウ遺跡で出土したものも何らかの文様をもつものが多いが、この土笛は全面をナデによって調整されており、文様は見られない。

今回の出土により、タテチョウ遺跡出土の土笛の総数は20例となった。西川津遺跡で出土した18例と合わせると、朝酌川流域では38例が出土したことになる。土笛は、小片で出土した場合、無頭壺と区別しにくいほか、1988年度調査では特殊な器形のものも出土しており、今後の注意次第では更に資料が増加する可能性ももっている。全国では約50例が知られているが、朝酌川流域で全国出土総数の半数以上が出土していることは注意される。

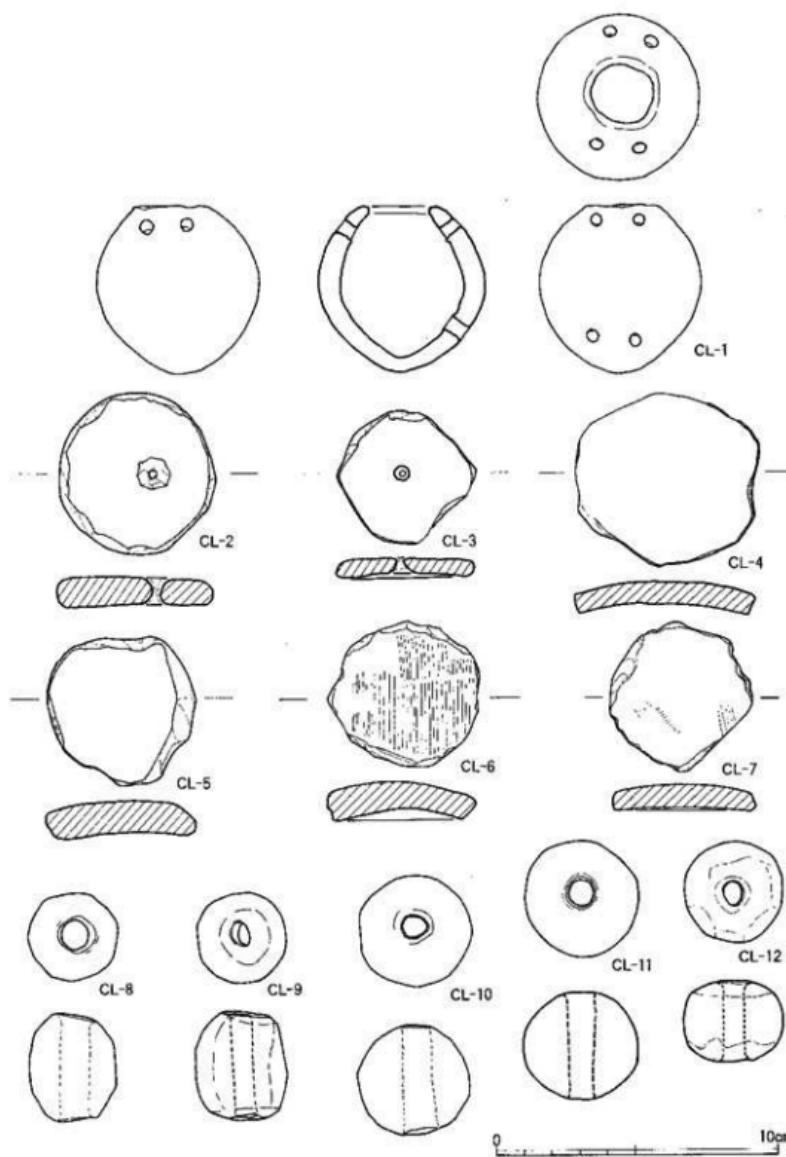
この土笛は、河道4の底面近くから出土している。河道4は完形を保つ鼓形器台の出土により古墳時代前半頃に埋没したと考えているが、その埋土中には弥生土器片が多く含んでおり、付近の弥生時代住居跡を削って流入したものと思われる。^{註1}

有孔円盤（第80図 CL-2・3）

有孔円盤と呼ばれるものには、粘土を成型して作られたものと、土器を転用したものがあるが、今回出土した2点はいずれも土器を転用して作られたものであった。

CL-2は壺の体部を転用して作られたものと考えられ、1面にはススが付着している。周縁は難に打ち欠かれているが、ほぼ整円になっている。貫通孔は両面からいねいに穿たれているが、有孔円盤の中心からはわずかに偏っている。摩滅のため、土器器面の調整は見えない。CL-3も土器を転用した有孔円盤であるが、周縁の打ち欠きが難で、整円をなしていない。ほぼ中心に穿たれた貫通孔は両面から開けられている。

CL-3はトレンチ内の出土の為、出土層位が判らないが、CL-2は旧河道に作わない遺物包含層からの出土である。この遺物包含層からは須恵器は出土しておらず、転用された土器も弥生土器と推



第80図 土製品実測図 (1 : 2)

定される。この有孔円盤の時期は、出土位置等からも、少なくとも古墳時代前半をさかのぼるものと推定される。

土製円盤（第80図 CL-4～7）

土製円盤としたものは、土器片を転用し、周縁を打ち欠き円盤状にしたものであるが、いわゆる「有孔円盤」に穿孔する前の未完成の状態とは区別がつかない。そのため今回は、貫通孔の穿たれていない円盤状を呈する土製品を一括して、土製円盤として扱うことにする。土製円盤としたものは4点を図示した。

CL-4は土器を転用し、周縁を雑に打ち欠いたものである。外形は稍円形に近い。長軸の両端にはわずかにくぼみが見られ、土器転用鉢としての使用も考えられる。全面が摩滅しており、土器器面の調整は見えない。

CL-5も周縁を雑に打ち欠いた土製円盤で、外形は円形に近い。摩滅のため、土器器面の調整は不明である。

CL-6はほぼ整円を呈すものである。器壁の厚い土器を転用しており、土器器面外面側には細かいハケメが多く残っている。また、土器器面内面側にもハケメの痕跡をわずかに残している他、炭化物の付着が見られる。

CL-7も土器を転用し、周縁を雑に打ち欠いたものである。平面形は円形をなさない。土器器面外面側にはわずかにハケメの痕跡を、内面側にはナデによる指頭厚痕を残している。

土錘（土玉 第80図 CL-8～12）

5点を図示したが、この中にはほぼ球形を呈し、土玉と呼称すべきものも含まれているが、厳密には区別できないため、一括して扱う。

CL-8・9は立面梢円形のものである。ほぼ中央に穿たれた貫通孔は最大径に対してかなり大きい。手捏ねによって成型され、指頭厚痕を多く残す。表面は摩滅しており、調整は見えない。

ほぼ球形を呈し、土玉の可能性があるものは2点を確認した(CL-10・11)。いずれも最大径に対して、比較的小さな貫通孔を穿たれ、外面はナデによってていねいに成型されるものである。ていねいな調整によって手捏ねの痕跡は残していない。

CL-12は、ややいびつな球形を呈するものである。表面は摩滅しているが手捏ねの痕跡を多く残している。中央に穿たれた貫通孔は最大径に対してかなり小さい。手捏ねの痕跡を残しているが、外形や穿孔方法等から考えると、CL-10・11と同様のものであろう。

これらの土錘（土玉）は遺物包含層の暗青灰色砂質土・青灰色砂礫層か、河道1付近から出土し

ており、河道2・3からは出土しなかった。このことより、少なくとも古墳時代前半よりさかのぼる時期のものであろう。

埴輪

埴輪片は4点が出土したが、いずれも体部の小片の為、図示しなかった。調整は、内外面共に斜め方向のハケメを施すものが多く、内面の一部にナデの痕跡を残すものも見られた。タテチョウ遺跡では1988年度調査でも多くの埴輪片が出土しており、遺物包含層の中には付近の古墳から流入してきたものも含まれていることが考えられる。

註1 タテチョウ遺跡は河川堆積層なので層位的に時期を求めるることは難しいが、西川津遺跡では弥生時代前期の層から出土したとされている。

『西川津遺跡発掘調査報告書V 海崎地区3』島根県教育委員会 1989年

註2 『タテチョウ遺跡発掘調査報告書III』島根県教育委員会 1990年

土 製 品 観 察 表

器種	押番号	國立番号	出土地点	層位	直 縄 (cm)	重 量 (g)	形態・文様の特徴	手法の特徴	胎土・焼成・色調	備考
上蓋	第80回 CL-1	63	SW1	暗赤色 砂質土	口径 2.6 底径 5.9 厚さ 5.8		正面形は腹形を呈し、吹口は鶴頭長大径より小さい。無文	全面ナブによりていねいに調整される	胎土: 1~3mmの白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
有孔円筒板	第80回 CL-2	63	NIE1	褐色 砂質土	直径 5.5~5.7 厚さ 9.0	39.05	十唇を転用したものの、裏の体部、裏面にはススが付着している。	不明	胎土: 1~3mmの大砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
有孔円筒板	第80回 CL-3	63	トレンチ内		直径 4.6~4.9 厚さ 6.0	15.5	土器転用。周縁を棒に打ち欠く	磨滅のため調整不明	胎土: 1~2mm程度の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
上蓋	第80回 CL-4	63	NIE1	暗灰色 砂質土	直径 6.2~6.4 厚さ 8.0	38.65	上器を転用したものの、縫合での使用も考えられる	磨滅のため調整不明	胎土: 1~3mmの大白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
上蓋	第80回 CL-5	63	NIE2	暗赤褐色 砂質土 粘質土	口径 5.2 厚さ 11.0	39.75	十唇を転用したものの、周縁を棒に打ち欠く	磨滅のため調整不明	胎土: 2mm前後の白色の砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
上蓋	第80回 CL-6	63	NIE1	自然 埋蔵中	直径 5.2~5.4 厚さ 11.0	32.8	十唇を転用したものの、裏面側には黒化物が付着している	表面にはハケ目が残る	胎土: 1~2mmの大白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
上蓋	第80回 CL-7	63	NIE2	赤褐色 砂質土	直径 4.9~5.2 厚さ 8.0	23.5	土器を転用したものの、周縁を棒に打ち欠く	表面にはハケ目、裏面にはナブにより指痕が残る	胎土: 1~2mmの大白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
土器	第80回 CL-8	63	NIE2	赤褐色 砂質土	口径 1.4 最大径3.2 器高 3.9	33.25	管状の土器	手捏により、わずかに凹凸を残す	胎土: 1~2mmの大白色砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
上蓋	第80回 CL-9	63	NIE2	灰色 粘質土	口径 0.8 最大径3.2 器高 3.9	38.73	管状、円筒形の上蓋	手捏により、凹凸を残していら	胎土: 白色の小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
土器	第80回 CL-10	63	NIE2	褐色 砂質土	口径 1.1 最大径3.9 器高 3.9	53.05	骨状、球形	ていねいなナブにより手捏の痕跡は残さない。 上部か	胎土: 白色の小砂粒を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
土器	第80回 CL-11	63	NIE2	青灰色 砂質土	口径 1.1 最大径3.6 器高 3.8	55.74	管状、球形	ていねいなナブにより手捏の痕跡は残さない。 下部か	胎土: 1mm程の白色砂粒を少しあげ 焼成: 良好 色調: 淡褐色	
土器	第80回 CL-12	63	II区 トレンチ内 耕土中		口径 0.8 最大径3.6 器高 2.9	33.3	管状、球形	手捏による凹凸をわずかに残す	胎土: 1mm程の白色砂粒を多く含む 焼成: 良好 色調: 褐色	

9. 石 器

石器（第81～87図 図版64～66）は遺物包含層の暗青灰色砂質土・青灰色砂疊層を中心に出上した。剝片や用途不明の石器を含め84点を図示したが、遺物包含層は縄文上器から上崩器までを内包するため、各石器の所属時期を特定できなかった。また、石材の鑑定は島根大学教育学部の三浦清先生に依頼した。

尖頭器（第81図 ST-1）

尖頭器と考えられるものは1点出土した。不定形な尖頭器の先端部の破片で、基部が失われているため、基部整形は不明である。調整は尖端を意識して行われているが、両面とも刃部付近に止どまり第1次剝離面を多く残している。全面に水磨を受けており、表面が白くなっている。黒曜石を使用している。西川津遺跡等でも尖頭状石器と呼ばれる石器が出土しているが、それらの調整は刃部付近のみに止どまっており、第1次剝離面を多く残している。第1次剝離面をわずかしか残さないST-1とは、調整が異なる印象を受ける。

石鏃（第81図 ST-2～8）

石鏃は未成品と考えられるものも含め、7点が出土している。

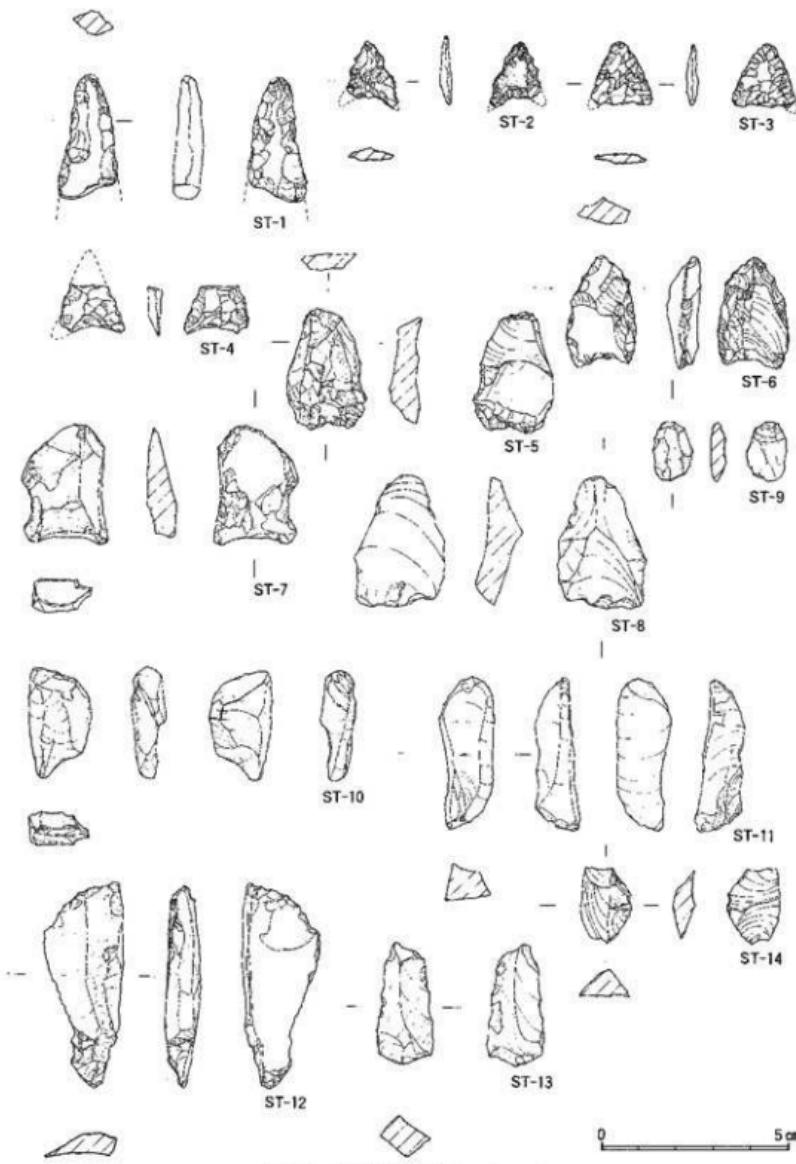
完成品は3点あり、ST-2・4は凹基式三角形鏃、ST-3は平基式三角形鏃である。ST-2・3は黒曜石製、ST-4は安山岩製である。いずれも両面調整を行っているが、ST-2・3は一部に第1次剝離面を残している。

石鏃未成品と思われるものは、4点が出土した。すべて凹基式三角形鏃もしくは平基式三角形鏃の未完成品と考えられる。ST-5～7は調整段階の未完成品である。厚さ9mm～7mmを測るもので、素材段階の厚みが残っている。ST-5・6には凹基部分を作り出そうとする剝離が見られる。ST-6～7は黒曜石製である。また、ST-5は瑪瑙で作られているが、その形状から石鏃未完成品と判断した。

ST-8の剝片は素材段階に近い石鏃未完成品と考えられるもので、第1次剝離面を大きく残している。厚さ9mmを測る。

楔形石器（第81図 ST-9～14）

ST-9～13の石器には、上下両端に階段状の細かい剝離が見られ、楔形石器と考えられる。石材は、ST-9を除き、総て黒曜石製であった。ST-9は、玉髓質石英製の楔形石器で、使用が進み、かなり小型化している。ST-12は主要剝離面に横方向にリングが見られ、横長の剝片を使用した可能



第81図 石器実測図(1) (2 : 3)

性がある。ST-14は小型化しているが、小さな階段状の剥離は見られず、上下からの強い加熱による大きな剥離が見られる。

スクレーパー（第82図 ST-15～23）

剥片の一側辺をわずかに加工した、不定形のスクレーパーが何点か出土しているが、定形化した石匙は見られなかった。刃部の加工は概ね粗く、部分的にしか調整を施さないものや、剥片のエッジ部をそのままスクレーパーとして使用したと考えられるものがほとんどであった。

ST-15は、黒曜石製のスクレーパーで、両端を欠いているが、縦長の剥片の側辺に刃部を付けたものである。上端の三角形の突起部分にも剥離が見られることから、スクレーパー以外の使用も考えられる。他に黒曜石製のスクレーパーにはST-22がある。ST-22は、石核を使用したスクレーパーと考えられる。石核段階での剥離には規則性は見られない。剥離が進み、薄くなったり石材的一面から調整を行い、刃部を成型している。

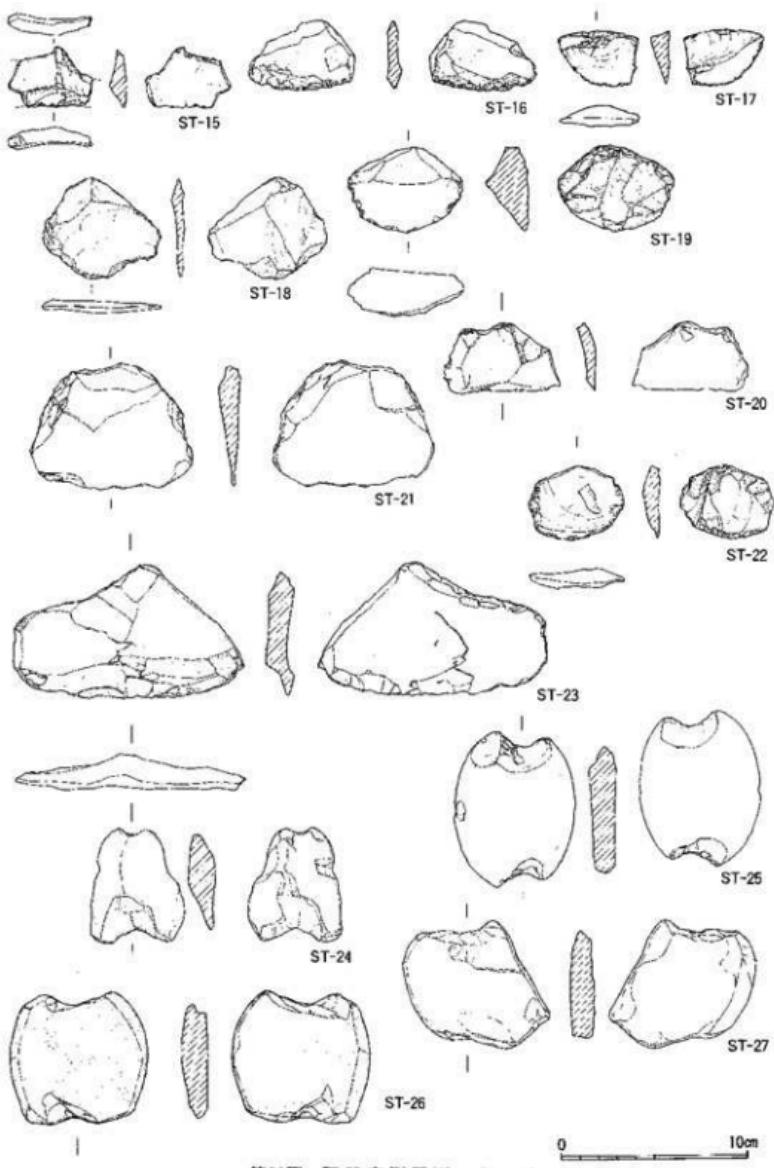
ST-16は玉髓質石英を使用したスクレーパーである。縦長の剥片の側辺を両側から打ち欠いて刃部としている。

ST-18～21・23は直岩製のスクレーパーである。ST-18・21は、板状剥離した石材の下端エッジ部を刃部として使用したもので、刃部近くには使用によると思われる擦痕が見られる。ST-19は、石核に二次加工を施してスクレーパーとしたもので、刃部は縦辺部から片面を簡単に打ち欠いたもので、細かい調整は見られない。ST-20・23は横長の剥片の長側辺を使用したもので、エッジ部に摩滅が見られる。ST-17は断面三角形の剥片で自然面を残すものである。刃部の加工は見られないが、エッジ部に小さな剥離が見られ、スクレーパーとしての使用が考えられる。

石錐（第82図 ST-24～27）

4点が出土し、その重量は49gから113gまでと幅広く、石材の形も特に意識しているとは思えない。いずれも自然石の長軸を両面から簡単に打ち欠いて抉りを入れたもので、他の調整は見られない。また、磨石の転用品や研磨したものは見られなかった。

最も軽いものはST-24である。不定形の河原石の長軸を簡単に打ち欠いて抉りを入れたもので、石材はアブライトを使用している。ST-25は最も重量の重かったもので、偏平で平面橢円形の安山岩を使用している。ST-26・27は全面に摩滅が進み、抉りも浅いものである。ST-26は砂質頁岩をST-27はアブライトを石材に使用している。



第82図 石器実測図(2) (2 : 3)

石斧（第83図 ST-28～30）

偏平片刃石斧は、完形品が2点出土している。2点とも平面長方形のもので、バチ形のものは見られなかった。ていねいに研磨されており、剝離面は残していない。刃部付近には使用によると思われる擦痕をわずかに残し、ST-29は刃部が摩滅している。ST-29は流紋岩を、ST-28は流紋岩と考えられる火山岩を使用している。1988年度の調査では擦切技法を用いたものが出土しているが、そうした痕跡は見られない。

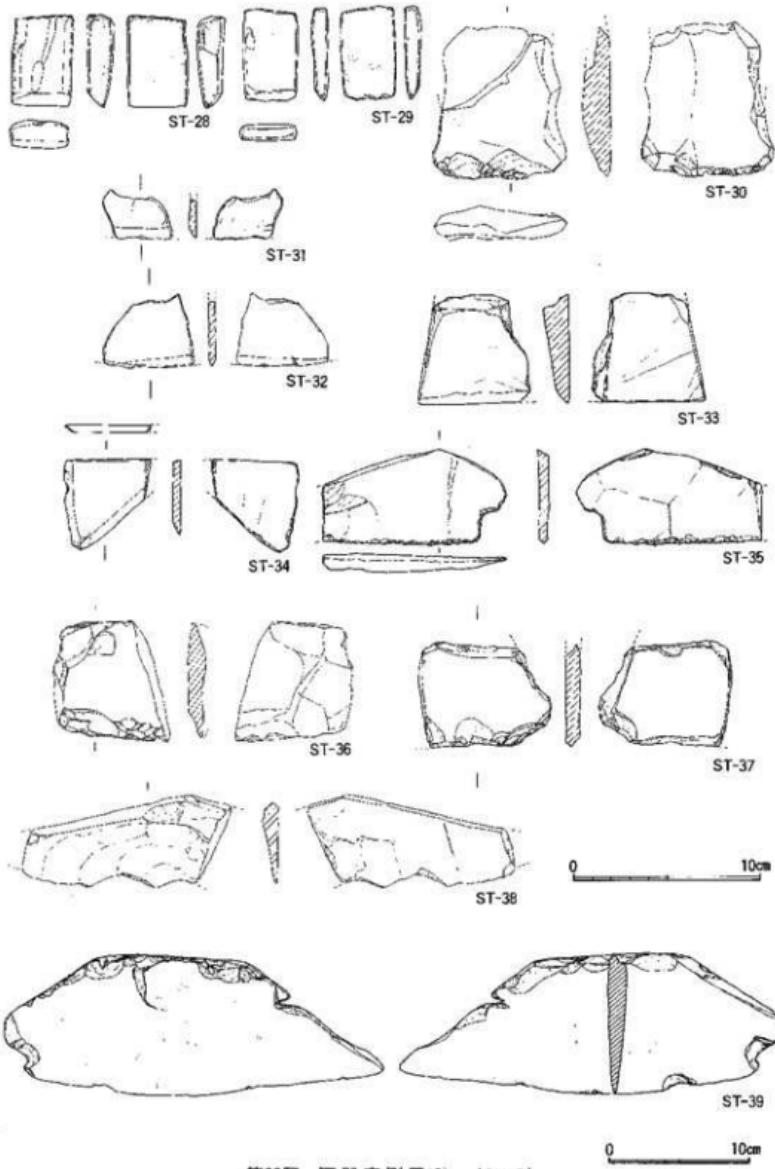
ST-30は偏平な石材の一端に刃部を付けた打製石斧と考えられるものである。いわゆる石鎌と呼ばれるものと考えられるが、一端を欠いており上部の形状は判らない。刃部、側部とも両面から雜に打ち欠かれている。水磨のため使用痕等は見えない。石材は流紋岩を使用している。

石包丁（第83図 ST-31～39）

石包丁と考えられるものは破片も含め、9点を図示した。磨製・打製の両者が見られる。

ST-31～34・39は磨製の石包丁である。ST-31・32は小片のため、全体の形が推定できない。ST-31は頁岩を使用した片刃、ST-32は流紋岩を使用した両刃のものである。穿孔や抉りは見られない。ST-33は頁岩を使用した片刃の大型石包丁と思われる。板状剝離した厚い石材を雜に研磨したもので、研磨によると思われる擦痕が多く見られる。側部も研磨されるが擦切の痕跡は残していない。一端を欠き、全体の形は推定できない。ST-34は刃部を2面もつ異形の石器である。一端を欠くが、ほぼ平面三角形を呈し、研磨による片刃の刃部を2面もつ。図上下面側の刃部はていねいに研磨されるが図上左側面の刃部は研磨が雜で、細かい凹凸が見られる。薄い板状の石材を使用し、刃部以外にも研磨による擦痕を多く残す。刃部の研磨が異なることから、破損した石包丁を再利用したものであろうか。ST-39は完形を保つ大型石包丁である。半月形に近い不整五角形を呈し、刃部はほぼ直線に作られる。刃部以外の周縁部には剝離痕を残すが、全体にていねいに研磨されている。繩掛状の抉りをもつ。片刃の刃部周辺には擦痕を多く残している。石材は頁岩を使用している。図上右側の抉りは研磨されており、しっかりした作りになっているが、それと対応する抉りが見られない。刃部左端にある打ち欠かれた抉りがそれに対応するものであろうか。

打製の石包丁は4点を確認した。ST-35は流紋岩製の石包丁で、一端を欠くが、原型が推定できるものである。薄い板状の石材を使用し、一側辺に細かい調整を施し、両刃の刃部を付けている。背部は調整を行っていないが、刃部端に「L」字形の抉りを入れている。ST-36は打製による大型石包丁の破片と思われるもので、一面は剝離している。刃部は粗く打ち欠かれており、研磨は見られない。頁岩を使用している。ST-37も大型石包丁の破片と思われるものであるが、形態から、石鎌の可能性もある。板状剝離した板材を使用し、両刃の刃部を作り出している。刃部の研磨は行っ



第83図 石器実測図(3) (2 : 3)

ていない。石材は頁岩を使用している。

ST-38は板状剝離した頁岩の剝片である。全ての面が剝離面をそのまま残しており、調整は行っていない。下端長側辺エッジ部に擦痕が見られることから、剝片をそのまま石包丁状に使用したと考えられるものである。両端を欠いている。

1988年度の調査では石包丁は大型のものしか出土していないが、西川津遺跡においては通常のも^{註2}も見られ、ST-31・32がそうしたもの可能性もある。1988年度調査では擦切技法の存在が推定されているが、今回の資料では確認できなかった。

石鎌（第84図 ST-40～43）

破片を含め4点が出土し、打製・磨製の両者が見られた。ST-40は完形を保つもので、典型的な形態と考えられる。板状剝離した石材の周縁を粗く打ち欠いたもので、研磨は行われていない。刃部は緩やかに外湾する。刃部以外の周縁部にもノッチを入れ、整形している。ST-41も同様の形状のものであるが、基部を欠いている。刃部の調整はST-40に比べ剝離が大きい。ST-42は、両端を欠いた小片である。刃部は外湾せず、背部も直線的に切断されていることから石包丁の可能性も考えられる。板状剝離した石材の側縁に両側から打ち欠いて刃部を付けたもので、刃部の研磨は行っていない。一面には使用によると思われる擦痕が多く見られる。

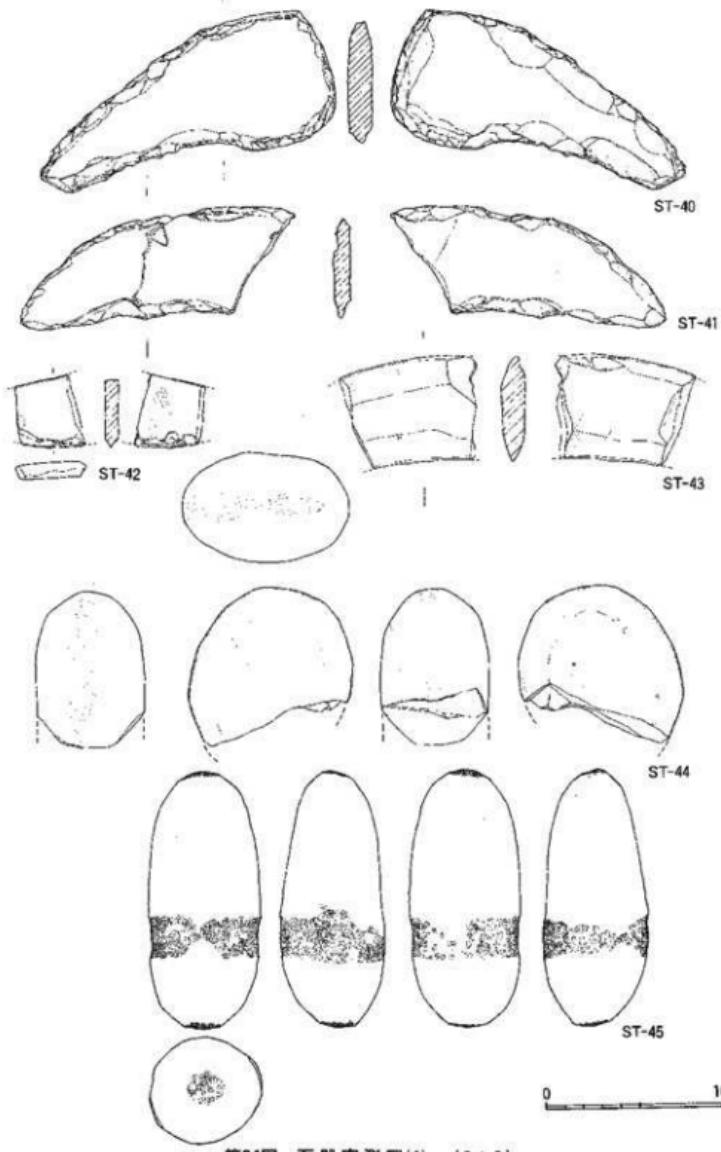
ST-43は両端を欠くが、刃部がわずかに内湾しており、磨製の石鎌と考えられる。刃部は両刃で、よく研磨されている。断面は、わずかに稜をもつレンズ状を呈す。刃部付近には、使用によると考えられる擦痕が見られる他、わずかに摩滅している。

石鎌と考えたものの石材はすべて頁岩であった。

敲石（第84図 ST-44・45）

敲石は2点出土している。ST-44は偏平な円盤をそのまま使用したもので、一部を欠くが約640gを有する。周縁部に細かく潰れたような敲打痕が多く見られる。平端になった部分は敲石としては使用しておらず、わずかに擦痕が走り、磨石としての使用が伺える。石材は、水磨を受けた流紋岩を使用している。

ST-45は円柱形の自然石を使用した敲石で、両端部と胴部を幅2cmに亘って一周する部分を使用している。胴部に見られる敲打痕は胴部中央よりわずかに端部に寄っており、他方を握りとして使用したものと思われる。一部に擦痕が見られ、磨石としても使用されているようである。石材は長さ137mm、太さ59mm、重量105gを測る水磨を受けた流紋岩を使用している。



第84図 石器実測図(4) (2 : 3)

石皿（第85図 ST-46）

石皿と考えられるものは1点が出土した。梢円形の自然石をそのまま使用している。使用面にくぼみは無く、ほぼ平坦になっている。使用面の器面が滑れ、擦痕が見られる。石材はデーサイトを使用している。

その他の石器（第85図 ST-47～50）

ST-47は、梢円形の風化安山岩を使用した石器の一端である。自然石をそのまま使用しているようであるが、周縁部は研磨されている。磨製石斧のようなものであろうか。

ST-48は、頁岩の石核である。各剥離面は概ね剥離されており、規則性は感じられない。一面には擦痕があり、磨かれている。

砥石と考えられるものは一点出土した（ST-49）。薄い短冊状になった流紋岩の2面を使用している。擦痕が多く見られる。

ST-50は、角柱形の頁岩片で、不規則な剥離が見られるものである。國上頂面には擦痕が見られることから、砥石としての使用が考えられる。

剝片・石核（第85図 ST-51～第87図 ST-84）

剝片・石核は多量に出土し、34点を図示した。

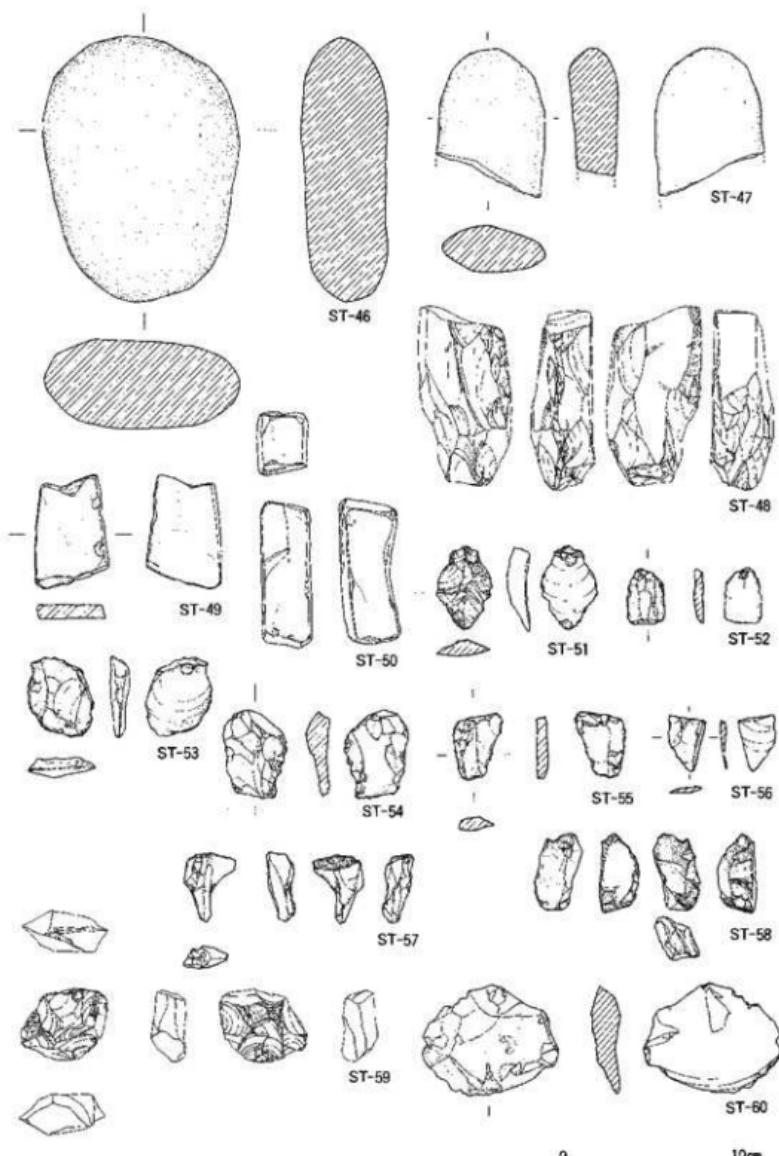
剝片は縦長のものが多いが、大半は大剥離面と主要剥離面の剥離方向が一致せず、不規則な剥離を行われたものだった。これらの中には、エッジ部に摩滅が見られる等の刃器としての使用を何わせるものがいくつか見られる。

ST-51は、一部に自然面を残す黒曜石の剝片で、剥離方向は不規則だがエッジ部に小さな剥離が見られ、刃器としての使用が考えられる。また、ST-52やST-77は、剥離方向が一定しており、規則的な剥離が行われたものようである。

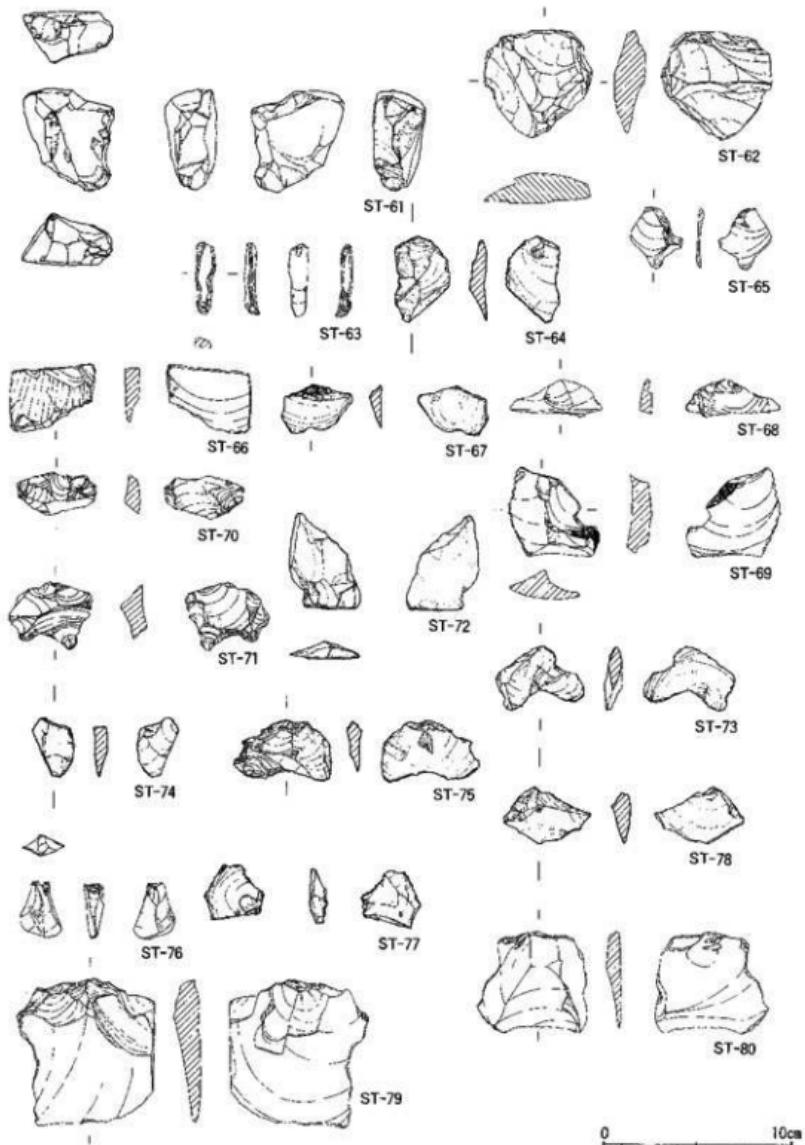
ST-54やST-75は、エッジ部の小さな剥離によって刃部を作り出そうとする意図が何われるもので、スクレーパーとしての使用が考えられる。また、ST-69・73は調査は行われていないものの、下端エッジ部に使用によると思われる摩滅が見られ、スクレーパーとして使用したことが想像される。ST-53も、規則的な剥離の認められない黒曜石製の剝片であるが、これにも下端エッジ部に摩滅が見られる。

ST-81・83・84には上下端部に階段状の剥離がわずかに見られ、楔形石器としての使用が考えられる。

ST-72は、模灰質頁岩の剝片であるが、下端部に平坦な面が見られ、細かい擦痕が多く見られる。



第85図 石器実測図(5) (2 : 3)



第86図 石器実測図(6) (2 : 3)

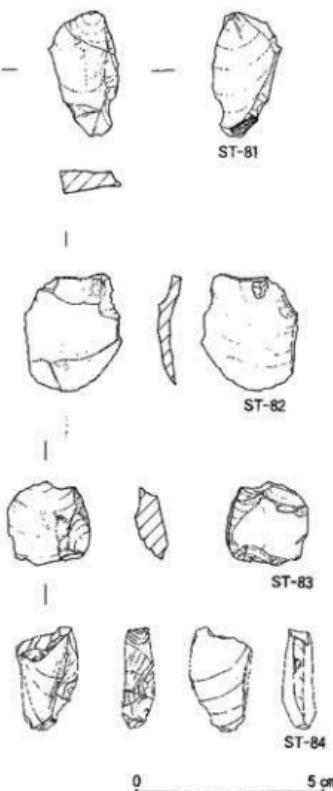
この擦痕は研磨痕と考えられ、擦り切り技法による切断が行われていた可能性がある。タテチョウ遺跡の1988年度調査や西川津遺跡では、玉作に関係する遺物も出土している他、石包丁等の刃器類にも擦り切り痕を残すものを見られる。ST-72は小片であり全体は何えないが、こうしたものである可能性をもっている。

石核としたものは、大半が剥離方向が一定せず、自然面を残すものも多い。

石器の石材は各種が見られるが、剝片等を含めると黒曜石の割合が圧倒的に多くなる。これは、砂礫層からの出土であることにより、黒曜石以外の剝片が自然石と区別しにくくことに起因している。この点については今後の注意次第で黒曜石以外の剝片が増加するおそれがあり、石器全体に占める黒曜石の割合が低下する可能性を秘めることになる。黒曜石の産地の同定は行っていないが、過去に行われたケイ光X線分析による原産地推定では、宍道湖・中海周辺の遺跡から出土した黒曜石はすべて隱岐島久見産と言うことであり、今回出土したものも大半は隠岐島産であろう。

タテチョウ遺跡では過去には多くの木製農耕具が出土しており、未成品も多く見られた。今回の調査でもミカン割り材や、鋤の未成品が出土しており、磨製の石製工具が多量に出土する可能性があったが、片刃磨製石斧が2点出土したにすぎない。獸骨には解体痕が見られるものがあり、金属器の使用も伺るが、磨製の石製工具類がわずかであったとは思えない。タテチョウ遺跡は河川堆積層であるため、今後、付近の集落跡が調査されれば、石製工具類が多量に出土する可能性があると思われる。

上流の西川津遺跡では、玉作に関係する遺物が多く出土しており、その中に未成品が多く含まれていたことから西川津遺跡周辺で玉作が行われていた可能性が指摘されている。しかし、今回のタテチョウ遺跡の調査では、確実に玉作に関係すると考えられる資料は出土しなかった。1988年度の調査では、板状に加工した石材に擦り切りを行った資料が多く出土しているが、この年度の調査で



第87図 石器実測図(7) (2:3)

は、石包丁・石鎌の成型に擦り切り技法が使われた可能性が指摘されているため、確実に玉作関係遺物と呼べるもののが少なくなっている。今回の調査でも擦り切り痕をもつ剝片(ST-72)が出土しているが、刃器である可能性も多い。西川津遺跡での玉作関係遺物は弥生時代前期から中期とされているが、タチヨウ遺跡でのその時代の遺物は豊富であった。こうしたことから、同時代に営まれた隣接する集落であっても、玉作を行う集落と行わない集落があったと考えられないだろうか。

註1 『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ(高崎地区1)』 島根県教育委員会 1987年

註2 『西川津遺跡発掘調査報告書V(高崎地区3)』 島根県教育委員会 1989年

註3 『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ(高崎地区1)』 島根県教育委員会 1987年

註4 『タチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 島根県教育委員会 1990年

石 器 觀 察 表

番号	井筒番号	出土地点	層位	法量(cm)	重量(g)	石材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備考
尖頭器	第81回 ST-1	64	SEW1	青灰色 砂礫層	長さ(3.5) 幅(1.6) 厚さ0.7	3.65	黒曜石	基部を欠く	
石鎌	第81回 ST-2	64	NZED	青灰色 砂礫層	長さ(1.6) 幅(1.4) 厚さ0.3	0.42	黒曜石	無茎石鎌、凹基式三角形	一部に第1次剥離面を残す
石鎌	第81回 ST-3	64	NZED NZED	青灰色 砂礫層	長さ(1.7) 幅(1.7) 厚さ0.2	0.70	黒曜石	無茎石鎌、凹基式三角形、抉りが浅い	わずかに第1次剥離面を残す
石鎌	第81回 ST-4	64	II区 トレンチ内	砂質土	長さ(1.2) 幅(1.7) 厚さ0.4	0.93	安山岩	無茎石鎌、凹基式三角形	第1次剥離面はほとんど残さない
石鎌 未完成品	第81回 ST-5		SEW1	青灰色 砂礫層	長さ(3.3) 幅(2.1) 厚さ0.7	5.1	ぬのう (Agate)	無茎鎌、凹基式三角形 の未完成品	第1次剥離面が大きくなれる
石鎌 未完成品	第81回 ST-6	64	SZED	青灰色 砂礫層	長さ(2.8) 幅(1.9) 厚さ0.9	4.3	黒曜石	無茎鎌、凹基式三角形 の未完成品	第1次剥離面を多く残す
石鎌 未完成品	第81回 ST-7	64	NRE1	青灰色 粘土質土	長さ(3.0) 幅(2.2) 厚さ0.8	6.75	黒曜石	無茎石鎌、凹基式三角形 の未完成品	第1次剥離面を多く残す
剝片	第81回 ST-8	64	NIEO	褐色 砂質土	長さ(3.5) 幅(2.3) 厚さ0.9	5.3	黒曜石	無茎石鎌の未完成品と考えられる	
複合石器	第81回 ST-9	64	NZEL	暗青灰色 粘土質土	長さ(1.6) 幅(1.1) 厚さ0.5	0.7	半纏質石英 Chalcedonic Quartz	上下端に階段状の剥離	
複合石器	第81回 ST-10	64	NZEN	暗褐色 粘土質土	長さ(3.0) 幅(1.7) 厚さ0.9	3.75	黒曜石	両側に階段状の剥離	
複合石器	第81回 ST-11	64	II区 排水路		長さ(4.2) 幅(1.4) 厚さ1.0	5.77	黒曜石	縦長の剝片の両端に階段状の剥離	
複合石器	第81回 ST-12	64	NIE3	褐色 砂質土	長さ(5.6) 幅(2.1) 厚さ0.6	8.8	黒曜石	縦長剝片の両端に階段状の剥離。自然面を残す	
剝片	第81回 ST-13	64	小明		長さ(3.3) 幅(1.4) 厚さ1.2	3.85	黒曜石	縦長の剝片の両端に、わずかに階段状の剥離	
複合石器	第81回 ST-14	64	SEW1	青灰色 砂礫層	長さ(2.0) 幅(1.4) 厚さ0.6	1.75	黒曜石	上下から打撃を受けた大きな剝離が見られる	
スクレーパー	第82回 ST-15	64	SIEO	暗青色 砂礫層	長さ(4.6) 幅(3.3) 厚さ0.9 万能長3.2	10.3	黒曜石	縦長剝片の刃端を使用したもの	

番号	標高	面積	出土地点	層位	法量	重量	石材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備考
スクレーパー ST-16	第82回 ST-16	61	S50年度 第Ⅲ調査区		長さ 5.9 幅 3.6 厚さ 0.8 万能鉄5.2	19.85	玉髓質石英 Chalcedonic Quartz	細長削片の側刃を使用 したもの		
使用痕 剥片	第82回 ST-17	64	Ⅰ区 林木路		長さ 4.2 幅 2.5 厚さ 0.9	11.15	黒縞石	自然面を残す。一側刃 に小さな倒産		
剥片	第82回 ST-18	64	Ⅰ区 林上中		長さ 6.3 幅 5.7 厚さ 0.7	20.25	真岩	板状剥離した剥片。下 端部には擦痕		
スクレーパー ST-19	第82回 ST-19	64	SOW1	青灰色 砂巖層	長さ 6.1 幅 2.3 厚さ 0.7 万能鉄5.1	51.9	頁岩	石核に二次加工を施し、 スクレーパーとしたもの		
使用痕 剥片	第82回 ST-20	64	NZB2	赤褐色 砂質土	長さ 6.3 幅 3.6 厚さ 0.7	20.05	珪質頁岩	薄い横長の剥片。下端 エッジ部に擦痕が見ら れる。		Siliceous shale
剥片	第82回 ST-21	64	NZB1	褐色 砂巖層	長さ 6.8 幅 8.6 厚さ 1.2	69.55	頁岩	薄い板状の剥片。下端 エッジ部が研磨		
スクレーパー ST-22	第82回 ST-22	64	SZW1	暗青灰色 砂巖	長さ (5.0) 幅 3.9 厚さ 0.9 万能鉄5.8	17.91	黒縞石	幅広の剥片の長側面に 刃部を付けたもの		
スクレーパー ST-23	第82回 ST-23	64	NZD2	暗赤褐色 砂巖層、下層 粘質土	長さ 12.2 幅 7.1 厚さ 1.5 刃部長11.8	129.0	頁岩	端尖の大型剥片の長側 面に刃部を付けたもの		
石錐	第82回 ST-24	64	Ⅰ区 林木路中	青灰色 砂質土	長さ 5.1 (6.1) 幅 5.0 厚さ 1.5	39.61	アブライト (Aplitite)			
石錐	第82回 ST-25	64	NB1	赤褐色 ～青灰色 砂巖層	長さ 6.7 (8.3) 幅 6.1 厚さ 1.5	113.24	安山岩			
石錐	第82回 ST-26	64	NLE2	暗青灰色 砂質土	長さ 6.0 (6.9) 幅 7.4 厚さ 1.4	87.81	砂質頁岩	fine sandy shale		
石錐	第82回 ST-27	64	Ⅰ区 トレンチ内	砂質土	長さ 5.7 (6.9) 幅 7.0 厚さ 1.5	78.01	アブライト (Aplitite)			
扁平片刃 石斧	第83回 ST-28	65	NSE1	赤褐色 粘質土	長さ 4.9 幅 3.2 厚さ 1.5 刃部長3.1	40.01	火山岩 (流紋岩?)	ていねいな調整が行わ れており、刃部はほ とんど残さない。		
扁平片刃 石斧	第83回 ST-29	65	Ⅰ区 トレンチ内	砂巖層	長さ 4.9 幅 2.9 厚さ 0.8 刃部長2.6	25.35	流紋岩	ていねいな調整が行わ れており、刃部はほ とんど残さない。刃部 は研磨している。		
打製石斧?	第83回 ST-30	65	NZB2	赤褐色 砂質土	長さ (5.3) 幅 4.9 厚さ 1.6 刃部長2.1	104.55		扁平な石材の端部に粗 く刃部を付けたもの		
石包丁状 石器	第83回 ST-31	65	SBE0	青灰色 砂巖層	長さ (3.1) (2.3) 幅 0.4 厚さ 0.4 刃部長(2.7)	6.15	頁岩	扁平な板状の石材に片 刃を付けたもの。全周 的に研磨		
石包丁	第83回 ST-32	65	NZB1	暗青灰色 砂質土	長さ (5.3) 幅 4.9 厚さ 1.5 刃部長(4.7)	11.42	流紋岩	扁平な板状の石材に片 刃を付けたもの。研磨		
石包丁	第83回 ST-33	65	Ⅰ区 トレンチ内 南側		長さ (5.9) (5.8) 幅 5.1 厚さ 1.4 刃部長(5.1)	64.8	頁岩	厚みのある板状の石材 に片刃を付けたもの。 研磨。厚度が多く見ら れる。		
石包丁状 石器	第83回 ST-34	65	SBD	暗青灰色 砂巖層	長さ 4.8 幅 4.9 厚さ 0.4 刃部長(4.5)	14.7		2面にわたる片刃の刃 部を側片の刃部はや かに作られている。 研磨		
石包丁	第83回 ST-35	65	NED2	青灰色 砂巖層	長さ (10.0) 幅 5.1 厚さ 0.6 刃部長(9.5)	49.33	流紋岩	打製の右包丁。両刃。抉 りを持つ		
大茎石包丁	第83回 ST-36	65	NZB2	褐色 砂巖層	長さ (5.9) 幅 6.2 厚さ 0.9 刃部長(5.1)	53.75	頁岩	打製による。裏面は削 離している		
大型石包丁	第83回 ST-37	65	NLE2	赤褐色 粘質土	長さ (10.4) 幅 4.7 厚さ 0.8	54.3	頁岩	打製による。扁平な石 材の長い側片に刃部を付 けたもの。刃部		
石包丁状 石器	第83回 ST-38	65	NSE2	赤褐色 砂質土	長さ (10.4) 幅 4.7 厚さ 0.8	57.31	頁岩	板状剥離による薄い石 材。底板が残られる。打 製による剥片をそのまま 使用		

器種	排番号	出土地点	層位	法量 (cm)	重量 (g)	石材	形態・文様の特徴	手法の特徴	備考
大盤 石皿丁	第63回 ST-39	65	NSE1	暗赤褐色 砂層下層 粘質土	長さ 27.3 幅 1.5 厚さ 1.3 方巾長 25.1	450.0	頁岩	直線刃、磨削、片刃。刃部近くに擦痕が見られる	
石錐	第84回 ST-40	65	NSE1	暗灰褐色 粘質土	長さ 16.7 幅 7.3 厚さ 1.3 方巾長 14.6	213.9	頁岩	扁平な石材の周縁を打ち欠き、両刃の方巾を付けたもの。打製	
石錐	第84回 ST-41	65	表土中		長さ (15.7) 幅 5.5 厚さ 0.9 方巾長 (11.1)	103.25	頁岩	扁平な石材。両刃の方巾を付けたもの。打製	
石錐	第84回 ST-42	65	S2E0	灰褐色 砂層	長さ (3.7) 幅 (3.5) 厚さ 0.7 方巾長 (3.5)	20.2	頁岩	扁平な石材を打ち欠き、両刃の方巾を付けたものの打製	
石錐	第84回 ST-43	65	NIE1	同道内 砂層	長さ (7.2) 幅 5.6 厚さ 0.5 方巾長 (5.2)	85.13	頁岩	両刃。刃部付近より擦痕が見られる	
敲石	第84回 ST-44	65	I区	表土中	長さ (8.3) 幅 8.7 厚さ 5.7	638.0	泥炭岩円礫 (水槽)	円錐をそのまま使用。擦痕が残っており表面としましては使用されている。	
敲石	第84回 ST-45	65	NIE1	赤褐色 砂質土	長さ 13.7 幅 5.9 厚さ 5.5	104.55	泥炭岩円礫 (水槽)	円錐形の雨氈石を使用。擦痕が見らるる面石としても使用されている	
石皿	第85回 ST-46	66	トレンチ内	暗赤色 粘質土	長さ 14.3 幅 10.5 厚さ 4.5	970.0	デーサイト (Dacite)	円錐形の自然礫を使用。わずかに擦痕がある	河宋謙
石斧?	第85回 ST-47	66	NIE2	褐色 砂質土	長さ (6.8) 幅 5.7 厚さ 2.4	137.9	風化安山岩	角円形の河岸石。端縁部は磨かれている	
石錐	第85回 ST-48	66	NIE2	褐色 砂質土	長さ 8.8 幅 4.8 厚さ 3.2	186.77	頁岩	一面には擦痕が見られ、背面は磨かれている	
砥石	第85回 ST-49	66	I区 トレンチ内		長さ 5.6 幅 4.0 厚さ 8.0	31.3	泥炭岩	薄い板状の石材。2面に擦痕が多く見られる	
砥石?	第85回 ST-50	66	S2E0	暗灰褐色 粘質土	長さ 7.6 幅 2.6 厚さ 2.7	110.91	頁岩	角柱形の石材。頂間に擦痕	
使用痕 剥片	第85回 ST-51	66	S2E0	暗青灰褐色 砂層	長さ 4.5 幅 2.9 厚さ 0.9	9.96	黒曜石	縱長剥片。側面部には大きな剝離部。一部に自然面を残す	
剥片	第85回 ST-52	66	S2E0	暗青灰褐色 砂層	長さ 3.0 幅 2.0 厚さ 0.6	3.9	黒曜石	縱方向の規則的な剥離。頂部には階級状の剥離	
剥片	第85回 ST-53	66	NIE1	褐色 砂層	長さ 4.6 幅 3.3 厚さ 1.1	13.0	黒曜石	角円形の縱長剥片。下端部には小さな剥離が見られる	
スクレーパー	第85回 ST-54	66	NIE1	灰褐色 砂層	長さ 4.5 幅 3.3 厚さ 1.2	17.02	黒曜石	縱長の剥片の傾近に刃部。裏面内面から剥離調節	
剥片	第85回 ST-55	66	NIE2	褐色 砂質土	長さ 3.3 幅 2.5 厚さ 0.7	5.56	砂質頁岩	剥離の方向は一定しない	
剥片	第85回 ST-56	66	S2E0	暗青灰褐色 砂層	長さ 2.9 幅 2.0 厚さ 0.4	1.80	黒曜石	縱長の剥片	
石核	第85回 ST-57	66	NIE2	赤褐色～ 青灰褐色 砂層	長さ 3.7 幅 2.6 厚さ 1.5	7.68	黒曜石	自然面を残す。新鮮方向に一定しない	
石核	第85回 ST-58	66	NIE2	褐色 砂層	長さ 4.1 幅 2.3 厚さ 1.9	15.59	黒曜石	自然面を残す。新鮮方向に一定しない	
石核	第85回 ST-59	66	NIE2	暗灰褐色 砂層	長さ 3.8 幅 4.5 厚さ 1.8	31.6	黒曜石	剥離方向は一定しない	
石核	第85回 ST-60	66	NIE1	赤褐色 粘質土	長さ 5.9 幅 7.3 厚さ 1.4	62.35	黒曜石	自然面を多く残す	
石核	第86回 ST-61	66	NIE1	赤褐色～ 青灰褐色 砂層	長さ 5.6 幅 4.9 厚さ 2.8	71.95	泥炭岩	剥離方向は一定しない。自然面を残す	

器種	持 国 号	遺 墓 の 名 称	出土地点	層 位	法 量 (cm)	重 量 (g)	石 材	形態・文様の特徴	手 法 の 特徴	備 考
石核	第86國 ST-62	66	NSE1	褐色 砂質土	長さ 5.7 幅 5.8 厚さ 1.6	54.7	真岩	剝離方向は一定しない		
剝片	第86國 ST-63	66	NSE2	褐色 砂質土	長さ 3.9 幅 1.0 厚さ 0.6	2.75	黒曜石	細長形の剝片。下端部 の剝離方向に一定しない		
剝片	第86國 ST-64	66	SSE0	褐色 砂質土	長さ 4.6 幅 2.8 厚さ 0.8	8.77	黒曜石	自然面を残す		
剝片	第86國 ST-65	66	NIE2	赤褐色 砂質土	長さ 3.3 幅 2.7 厚さ 0.2	2.45	黒曜石	薄い剝片。周縁からの 剝離がみられる		
剝片	第86國 ST-66	66	NIE1	暗灰色 粘土質土	長さ 3.6 幅 4.5 厚さ 0.7	15.3	黒曜石	板状の剝片		全面的に風化 が進んでいる
剝片	第86國 ST-67	66	NSE2	明白茶色 砂質土	長さ 2.7 幅 3.6 厚さ 0.5	4.12	黒曜石	横長の剝片。一部に自 然面を残す		
剝片	第86國 ST-68	66	NIE0	暗青灰色 砂質土	長さ 1.9 幅 4.9 厚さ 0.7	5.1	黒曜石	横長の剝片		
剝片	第86國 ST-69	66	NSE2	褐色 砂質土	長さ 4.8 幅 4.6 厚さ 1.5	23.74	黒曜石	剝離方向の一定しない 剝片。側縁エッジ部に は小さな剝離が見られる		
剝片	第86國 ST-70	66	NIE1	褐色 砂質土	長さ 2.3 幅 4.2 厚さ 0.8	8.8	黒曜石	横長の剝片		
石核	第86國 ST-71	66	NIE1	褐色 砂質土	長さ 3.3 幅 4.3 厚さ 0.8	19.55	黒曜石	剝離方向は一定しない		
剝片	第86國 ST-72	66	トレンチ内	暗灰色 粘土質土	長さ 5.1 幅 3.2 厚さ 0.9	17.52	摸灰質頁岩	薄い板状の剝片。下端 部には研磨痕		
使用痕 剝片	第86國 ST-73	66	T区 トレンチ内	古灰褐色 砂質土	長さ 2.3 幅 4.8 厚さ 0.9	9.36	黒曜石	横長の剝片。内凹する 下端線には小さな剝離		
剝片	第86國 ST-74	66	NSE1	褐色 砂質土	長さ 3.0 幅 2.1 厚さ 0.7	4.45	黒曜石	剝離方向は一定しない		
スクレーパー	第86國 ST-75	66	SSE0	暗青灰色 砂質土	長さ 5.3 幅 3.8 厚さ 0.3	8.82	黒曜石	横長の剝片の下端線に 刃部を付けたもの		
剝片	第86國 ST-76	66	不明		長さ 3.0 幅 2.2 厚さ 0.9	4.52	黒曜石	横長の剝片		
剝片	第86國 ST-77	66	NSE2	褐色 砂質土	長さ 3.1 幅 2.5 厚さ 0.9	6.65	黒曜石	剝離方向が一定		
剝片	第86國 ST-78	66	NSE2	褐色 砂質土	長さ 3.0 幅 4.6 厚さ 0.9	7.9	珪質灰岩	横長の剝片		
剝片	第86國 ST-79	66	NIE2	赤褐色 砂質土	長さ 7.7 幅 7.3 厚さ 1.3	91.42	沈没岩 (やや風化)	薄い板状の剝片		
剝片	第86國 ST-80	66	NIE1	赤褐色 ～青灰色 砂質土	長さ 5.2 幅 5.9 厚さ 0.7	22.3	真岩	薄い板状の剝片		
剝片	第87國 ST-81		NSE0 杭列	暗褐色 砂質土	長さ 3.4 幅 1.8 厚さ 0.6	4.3	黒曜石	継長の剝片。両端に階 段状の剝離		自然面を残す
剝片	第87國 ST-82		NIE1	褐色 砂質土	長さ 3.1 幅 2.5 厚さ 0.3	2.4	黒曜石	継長の薄い剝片		
剝片	第87國 ST-83		NIE2	赤褐色 粘土質土	長さ 1.2 幅 0.9 厚さ 0.6	3.75	黒曜石	両端に上下方向からの 剝離		わずかに自然 面を残す
剝片	第87國 ST-84		NIE1	赤褐色 ～青灰色 砂質土	長さ 4.8 幅 1.5 厚さ 0.8	3.7	黒曜石	継長の剝片。両端に小 さな剝離		

10. 木 製 品

木製品（第88～102図 図版67～92）は遺物包含層、各河道から多量に出土し、92点を図示した。しかし、出土層位が不安定なため、曲物容器等の一部の例外を除き、その所属時期を断定できなかつた。また、本遺跡出土の木製品はその原型を復元できない破片が多く、使用法について判然としないものも多かったが、資料を提示する意味で、できるだけ多くの図面を掲載した。なお、木製品の一部については渡邊正巳氏に樹種鑑定を依頼しているが、その結果については、第X章に記載した。

木製農耕具（第88図 W-1～第89図 W-6）

1988年度以前の調査では鋤類をはじめ、多くの木製農耕具が出土しているが、今回の調査では鋤と断定できるものは無く、鋤類も少量の出土に止どつた。

W-1・2は身が二股になった、いわゆる「ナスピ形」の鋤である。

西川津遺跡では鋤の分類を行い、身の平面形がナスピのような形状をもつ鋤をまとめてB1類と呼んでいる。^{註1}鋤B1類には身の部分が二股にならず、一枚の舌状を呈すもの、中央に三角形の透かし孔をもつもの、二股、もしくは三又に分かれるもの等様々な形態が見られる。W-1は、全長約50cmあり、別作りの柄と組み合わせて使用するものであろう。最も厚く作られている位置でも15mmしかなく、きわめて薄く作られている。W-2は基部付近しか残損していないため、下部の形態は判らない。

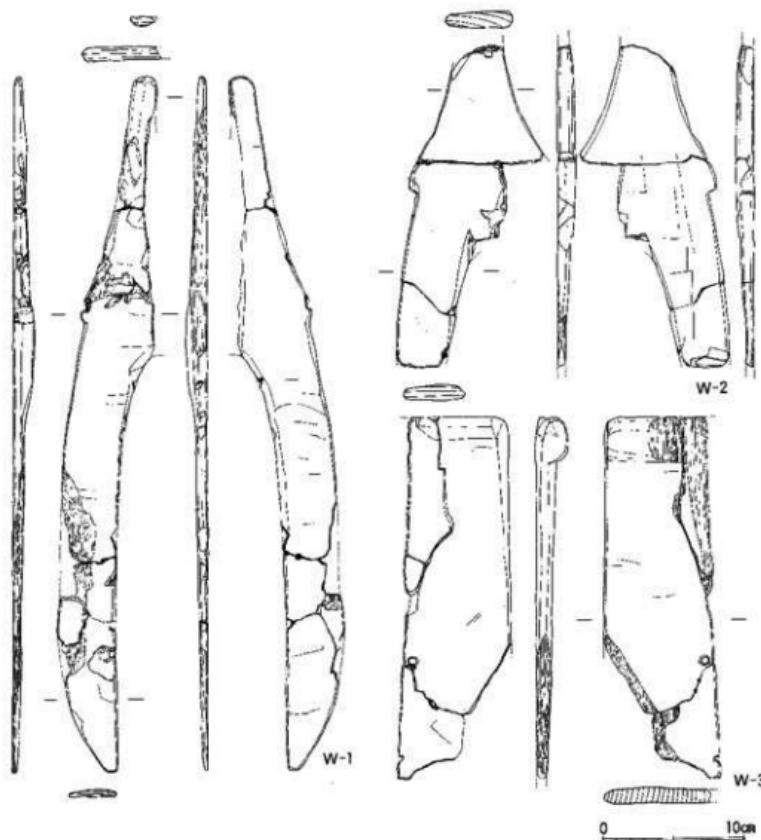
W-6は両端を欠くが、二股の身をもつ鋤B1類の未成品と考えられる。木材は、ミカン割りした征目材を使用しており、厚さ60mmを測る。完成品の厚さが10～20mmとすると、40mm以上も削らなければならないことになる。ミカン割りした材を粗削りし、股の部分を削り出そうとする段階のもので、股になる部分には刃物の痕跡が多く残っている。上方の頸部付近には抉りを作り出そうとしているが、この抉りは、W-1・2等の完成品には見られない。

W-4・5はミカン割り材である。W-4は、長さ1275mm、幅235mmを測るもので、両端の切断以外、ほとんど未加工である。背部には樹皮が残されている。未加工のため、用途は不明である。

W-5は長さ436mm、幅263mm、厚さ48mmを測るミカン割り材である。4隅を切断し丸鋤状の形状に、整形する段階のものと考えられる。丸鋤の製作は一般に、長さのあるミカン割り材を使用し、3枚程度を同時に粗削りし、中央の隆起部分まで整形したものを分割する方法が知られており、W-5とは合わない。しかし、西川津遺跡出土の丸鋤では一枚毎に分割した後で、隆起部分等の整形を行うものも知られているため、W-5は丸鋤未完成品の可能性も推定される。W-5には平面部分にわずかに加工痕が見られる。なお、丸鋤については、広鋤の泥避けとして「ゲタ」部分に装着して使用され

^{R2}たことが推定されており、丸鍬単独で鍬として使用することは行っていないようであるが、便宜上丸鍬の名称を使用した。

W-3は用途不明の板状製品で、薄い板の端部に突帯をもつものある。板状の部分の厚さ12mm、突帯部分では25mmを測る。当初、その形態から広鍬と考えていたが、突帯の形状が広鍬の「ゲタ」とは異なること、中程に貫通孔が穿たれていること、広鍬とは木取の方向が異なることから、他の用途を考えざるを得ない。しかし、木材は鍬等の農耕具に多用されるアカガシ亜属を用いており、農耕具である可能性が高い。



第88図 木製品実測図(1) (1:4)

有頭棒（第90図 W-7）

断面四角形の棒で、下端部をわずかに欠く。上端部は木偶頭状削り出し、下端部は杭状に尖らせている。同様の形態のものは、1984年度の調査で断面円形のものが出土している。

棒状木製品1（第90図 W-8～10）

W-8は断面長方形の棒の一端を斜めに削り出したものである。両端を欠くが、少なくとも一端は尖頭状になっていたものと思われる。削り出された部分には加工痕が多く残っている。建築部材であろうか。

W-9は芯持材の一端を頭を残して削り出したもので、一端を欠く他、片面が剥離している。全体の形状は判らないが、W-7と同様のものであろうか。使用痕は見られないが、頭部には、繩を掛けするような用途が考えられる。

W-10は中程がくびれた断面円形の棒状を呈すものである。一端を欠く他、一面が剥離し水磨を受けている。欠損した側の太さは46mmを測り、端部に向けてやや細くなっている。端部は切断された後、ていねいに面取りが行われており、くびれ部も細かい調整が加えられている。芯持材をそのまま使用しており、端部・くびれ部以外に面取りは行われていない。

杭状先端加工品（第90図 W-11）

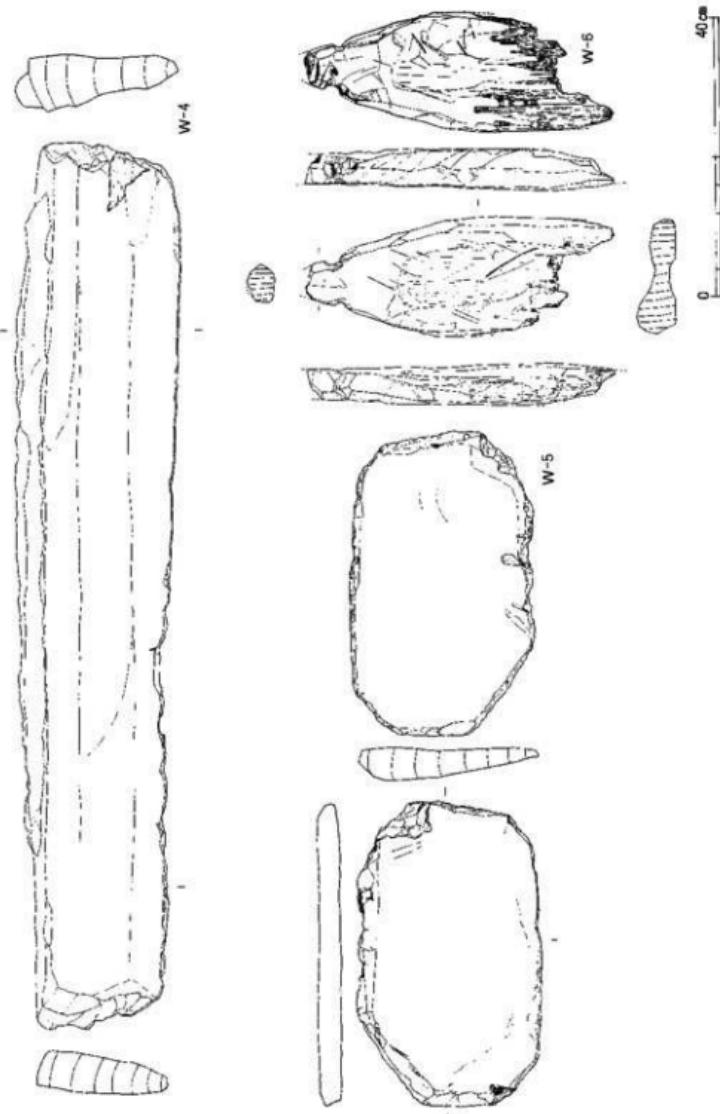
小枝を半裁して柾目材としたものの両端を加工したものである。下部は端部から7cm程の位置から尖らせるように削り出しており、端部はへら状に斜めに落としている。それに対し、上部は端部から2cm程の位置から緩く削り出し、頭部近くにわずかに段を残し、端部を丸く整えている。長さ約21cmを測る。

板状木製品1（第90図 W-12～第91図 W-17）

用途不明の木製品のうち、板状製品を図示した。

W-12は柾目材を使用した偏平な板材で、長さ267mm、幅56mm、厚さ9mmを測る。加工痕は残していないが、小さな貫通孔1カ所をもつ。貫通孔は四角形であることから釘孔の可能性も考えられる。なお、出土層位は遺物包含層の青灰色砂礫層で、この土層からは、古墳時代以前の遺物しか出土していない。

W-13は柾目材を薄く削り、両側辺に緩やかな抉りを切り出して羽子板状に整形したもので、両端と一侧辺を欠く。側辺はていねいに面取りが行われ、両面にはわずかに加工痕を残している。先端の形状は判らないが、抉りの入れられた部分の幅は25mm程で、面取りも行われていることから、



第39図 木製品実測図(2) (1 : 4)

この部分を握り、へら状、もしくは杓文字状の使い方をしたものであろうか。

W-14は反りをもつ板材で周囲を欠損している。方形の貫通孔が少なくとも2カ所に穿たれています。残存長398mm、残存幅122mm、厚さ20mmを測り、両面には加工痕をわずかに残しています。貫通孔は方形で両面から穿たれているが、穿孔を行う方向は、片面は木目に平行に、他面は木目に直行している。板目材を使用している。

W-15・16は板材の小片である。W-15は板目材を、W-16は柾目材を使用している。W-16は、断面扇形になっている。

W-17は隅丸方形の貫通孔が2カ所に穿孔された板材である。貫通孔は両面から穿孔されている。各面には加工痕を残していないが、側縁はわずかに面取りされている。側辺を欠くため全体の形状や穿孔の数は判らない。1977年度調査では4カ所の貫通孔をもつ板状の木製品が出土しており、田下駄状木製品の名称で紹介されている。厚さ14mmを測る板目材を使用している。

木鏃（第91図 W-18～21）

木鏃と考えられるものは4本が出土している。いずれも板目材を細く削り出したもので、一端を欠くものが多い。W-20は幅10mm、厚さ5mmの断面長円形を呈しており、平面形は柳葉形になっている。下方はわずかに抉られ、基部を作り出している。W-21は大きさ約10mmの板目材を使用しており、下端部を約3cmにわたって削り出している。

不明木製品（第91図 W-22・第92図 W-23）

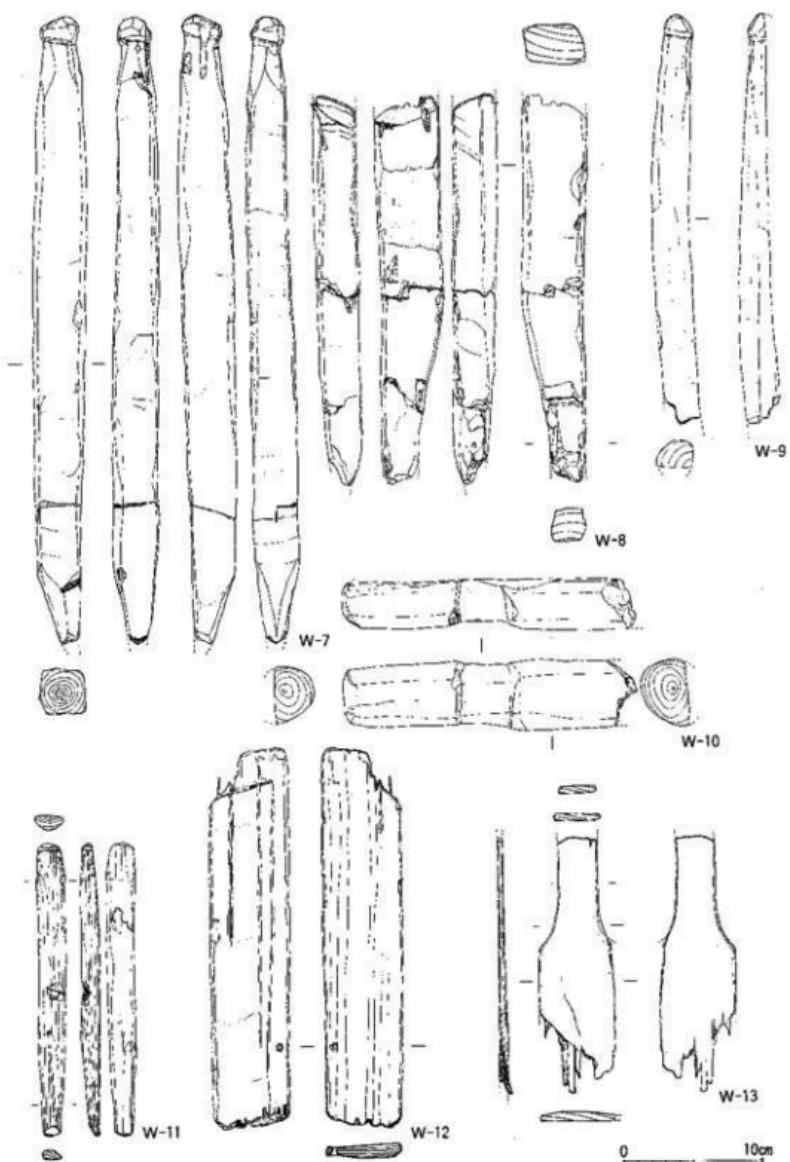
W-22は板目材を細く削り出し、球形の頭部を作り出したものである。W-23は薄い柾目材に2カ所の隆起部分をもつもので上端部は欠損しているようである。

棒状木製品2（第92図 W-24～26）

W-24は断面長方形の棒の一端を削り出した杭状のもので、一端を欠いている。棒状になった部分の両面には加工痕が多く残されている。下端部分は両側縁から鋭利に削り出している。板目材を使用している。

W-25も断面長方形の棒の一端を加工したものである。両端を欠損しているため全体の形は判らない。下端部は、各面から斜めに削り落とそうとしている。建築材のはぞのような形状か。

W-26は芯持材の各面を面取りした棒で、一端を欠く。やや湾曲した枝材をそのまま使用したものと思われる。切断面と考えられる上端はていねいに整形されており、使用痕は見られない。一面だけ広い面が作られており、面取りを行った各面にはわずかに加工痕を残す。残存長約45cm、幅38



第90図 木製品実測図(3) (1 : 4)

mm, 厚さ27mmを測る。

建築部材 1 (第92図 W-27)

貫通孔をもつ胸縁状の形態をもつもので、建築部材であろうか。残存長366mm, 幅20mm, 厚さ12mmを測る断面長方形の棒で、両端を欠く。約10cm毎に4カ所以上の貫通孔をもつ。貫通孔は一辺5mm程の方形で、釘孔と考えられる。材はわずかに炭化してひび割れが見られる。柾目材を使用している。

把手状木製品 (第92図 W-28・29)

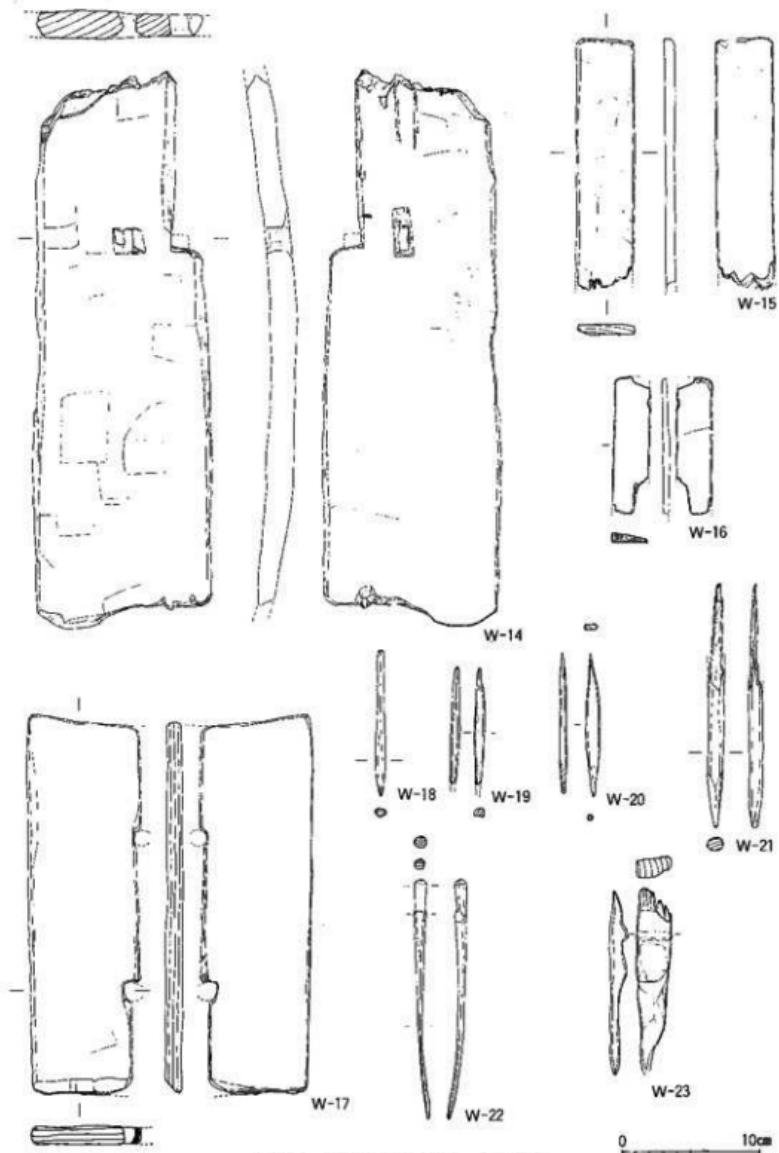
ほぞ穴状の貫通孔をもつものが2点あり、その形状から把手状木製品とした。W-28は長さ約29cmの棒状を呈するもので、中程に長方形の貫通孔が穿たれている。太さ43~48mmを測り、断面はほぼ円形を呈す。芯持の枝材をそのまま使用したもので、周縁は簡単に面取りされている。両端は斜めに切断され、切断部周縁は細かく面取りを行っている。ほぞ穴は約1cm×3cmの長方形で、両側から穿孔されているように思える。鋤や櫂の上部に別木をT字形に取り付けて使用するものであろうか。1977年度調査で出土したものは、ほぞ穴と直交する釘孔を持つものが出土しているが、W-28には見られず、はめ殺しの技法によったものであろう。両端の傾斜した切断方向とほぞ穴の穿孔方向は直交しており、傾斜した切断方向は、使用方法について、何らかの用途を持っていたものであろうか。木材はマツ属を使用している。

W-29は小型のものである。隅丸方形の断面をもち、長さ90mm, 幅32mm, 厚さ32mmを測る。各面ともていねいに面取りされ、加工痕を残している。両端の切断面はW-28と同様に周間に面取りを行っている。貫通孔は長方形で、一方が広く一方が狭い断面台形を呈している。釘孔等は見られない。芯持材を使用している。

これらの木製品はその形状から把手としての使用方法を考えたが、鋤の把手は、西川津遺跡での出土例にも見られるように柄と一緒に切り出すものが知られており、鋤の柄で別木を装着する例は朝駒川流域では知られていない。1977年度調査で出土したものには木釘を打ち込まれた例があり、別木を装着して使用したことは推定できるが、鋤であったかどうかは判らない。出土層位から、少なくとも古墳時代を下らない時期のものであり、今後の調査による装着例の出土を待って判断しなければならない。

棒状木製品 3 (第93図 W-30・31)

W-30・31は、棒状を呈するものでやや細いものである。W-30は長さ1185mm, 太さ28mmを測る。



第91図 木製品実測図(4) (1 : 4)

芯持材に面取りを行ったもので、全体に緩やかに彎曲している。一部を欠くが、ほぼ全形を推定できる。両端の切断面は、角を残さないように丸く整形されており、使用痕や縦等の糸痕は見られない。繊維の丈夫な、弾力のある材を使用している。

W-31はわずかに湾曲した棒状で、一端を欠く。端部はW-30と同様に丸く整形され、端部近くに小さな抉りが切られている。使用痕は見られないが、縦等を掛けたものであろうか。棒状の部分の約半面は面取りされるが、他面は樹皮を剥いだだけの自然面を残しており、小枝の痕跡が見られる。芯持材を使用している。

余材（第93図 W-32）

W-32は、切断痕が多く見られるが意図的な整形をしているとは思えないもので、木製品成型時の余材と考えた。長さ662mm、幅114mm、厚さ58mmを測る板目材である。両端は粗く斜めに切断される他、周縁部の所々に大きな加工痕が見られる。一面には溝状のくぼみが見えるが、これは枝等による自然のものであろう。板目材を使用している。

板材（第93図 W-33・34）

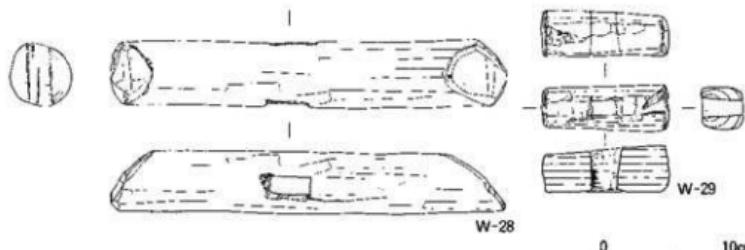
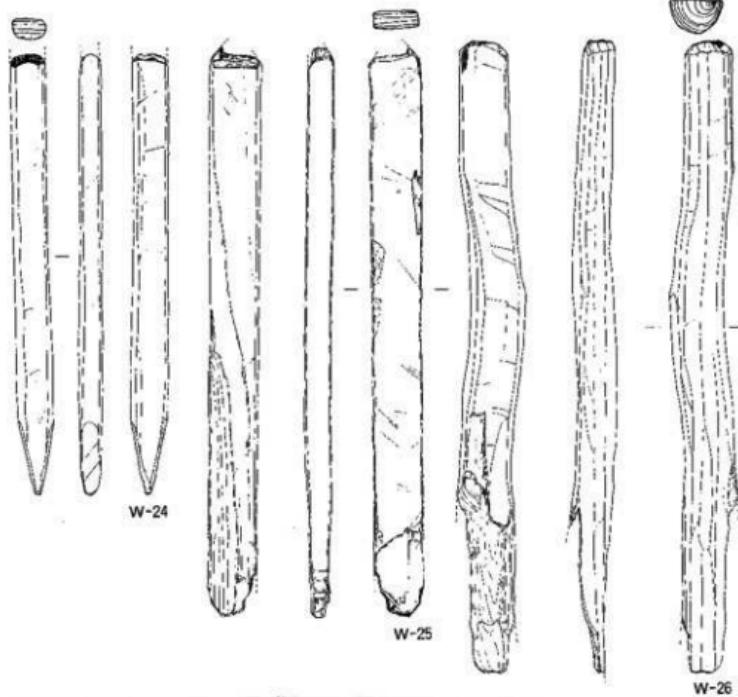
W-33・34の形状は板であるが、それぞれが単独で機能し得るものとは考えられず、他のものと組み合わせて機能するものと考えられるので、板材とした。

W-33は、長方形の板材で、一側辺を欠く。各側辺はていねいに面取りされ、上方は緩やかなカーブを描くように削られている。側辺下方には切り込みが入れられている。上方には3カ所の貫通孔が見られるが、方形を呈しており釘孔であろう。両面ともていねいに整形されており加工痕は残さない。板目材を使用し、長さ861mm、厚さ20mmを測る。

W-34も同様の形態をもつ板材で、長さ758mm、幅126mm、厚さ13mmを測る。端部近くに片面から削り込まれた、不整四角形の貫通孔をもつ。側縁は簡単に面取りされわずかに加工痕を残すが、両面はていねいに整形され、加工痕を残していない。板目材を使用している。

板状先端加工品（第93図 W-35）

厚い板の一端を尖らせたもので、他端を欠いている。幅92mm、厚さ38mmを測り、残存長も70cmを超える。板目材を使用し、下端を両側縁から斜めに切り落とした杭状の形態になっている。両面はていねいに整形されているが、側縁は未調査と言えるほど難に整形される。下端部の切り落としも加工痕を多く残している。



第92図 木製品実測図(5) (1 : 4)

建築部材2（第93図 W-36）

棒の端部近くにはぞ状の抉りをもつもので、一端を欠く。太さ約30mmの枝材をそのまま使用しており、小枝を落としただけで面取りは行っていない。端部はていねいに、丸く整彫されている。端部からわずかの位置に幅約2cm、深さ約1cmにわたって「ヨ」字形に抉りが入れられている。抉り周辺に粗等の痕跡は見られないが、横木を接続するためのものであろうか。同様の抉りは1986年度調査で出土した有頭棒と呼ばれる木製品に見られる。芯持材を使用している。

アカトリ状木製品（第94図 W-37～39）

W-37～39は箱形の一辺を取り除いたものに取手を付けた、塵取り状の形状をもつもので、船底に溜まった水（アカ）を掻き出す道具（アカトリ）に似たものであることから、アカトリ状木製品とした。

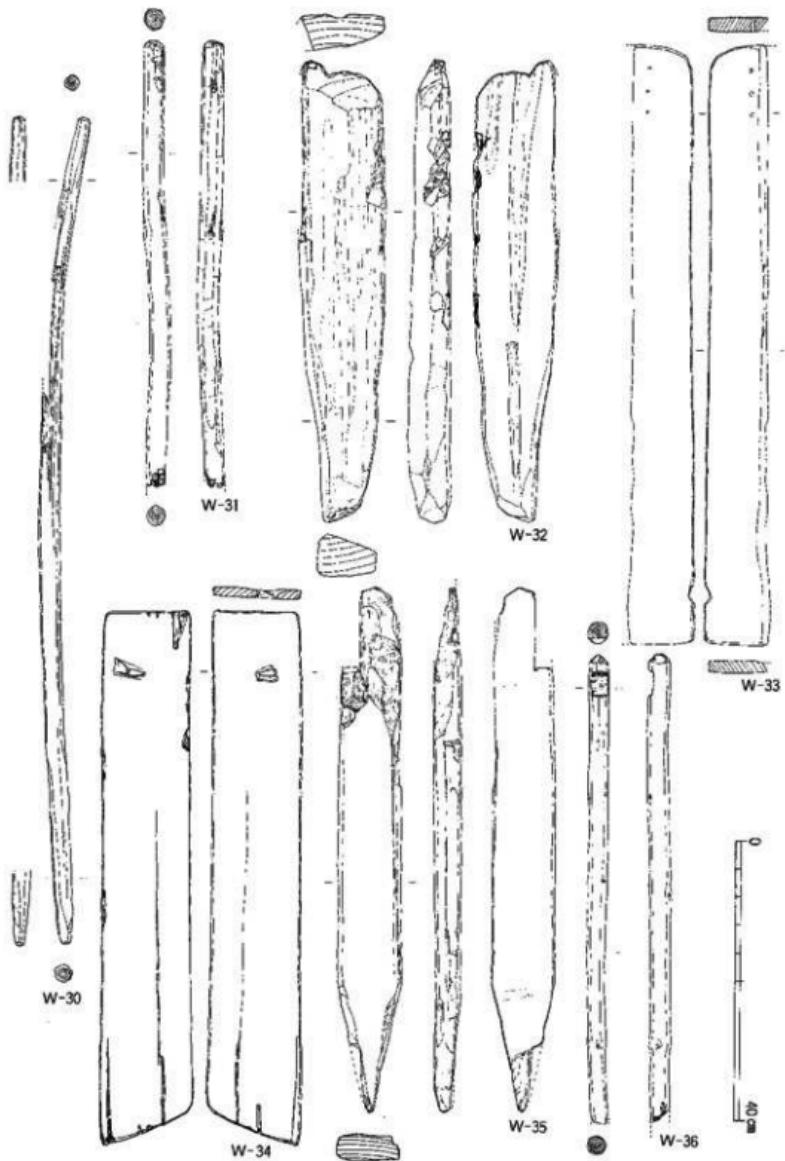
W-37は、最も残りの良いもので、全長約35cm、復元推定幅約20cmのものである。身の約半分を欠くが、身・柄とも一枚の板目材から削り出されていることが判る。身は、先端のやや開いた隅丸方形を呈す。側板は最も高いところで約3cmあり、先端に向かうほど低くなっている。先端部の背面は斜めに削られており、対象物に隙間なく密着できるよう工夫が見られる。太さ約3cmの柄は身の最下端から水平に延び、中程から緩やかに湾曲して上方に向かう。柄端部は面取りが行われ、丸く整彫されている。背面や身内面には加工痕が少ないが、側面や柄には加工痕を多く残している。木材はスギを使用している。

W-38は器高の高い小型のものである。片面を欠き、柄も見られない。身の先端は開かず、ほぼ平面長方形を呈す。6cm程もある高い側板は、ほぼ水平に切り揃えられており、先端近くで急激に傾斜を付け先端につながっている。底面は船底形になっており、側面から見ると、先端が尖るような形状になる。側板内面等にわずかに加工痕を残しているが、全体にていねいに整彫されている。器壁は非常に厚く、全体に無骨な印象を受ける。板目材を使用している。W-37と同様に柄も同一の材から一度に削り出されるものとしたら、幅はかなり広いものになる。

W-39は非常に残りが悪いが、W-37と同様の形態のものと考えられる。残存長は約30cmあり、復元推定幅もW-37と同程度になるものと思われる。側板は一部しか残存していないが、高さは3cmに充たない。身背面底部に付く柄は、斜め上方に向け直線的に延びる。太さ約3cmの柄には加工痕を多く残し、柄先端部は丸く面取りされている。板目材を使用している。

匙（第94図 W-40）

非常にていねいに整彫された匙が、1点出土している。柄の先端部をわずかに欠くが、ほぼ完形



第93図 木製品実測図(6) (1:4)

を保っている。身の幅は72mmで、卵形を呈し、器壁も薄い。身から連続的に続く柄は、上面をわずかにくぼませ、緩やかなカーブを描きながら斜め上方に延びている。全面に漆が使用されていたようで、柄に剥離した漆状のものが付着している。身・柄とともに一枚の板目材から削り出して成型している。

椀・皿類（第94図 W-41～44）

椀・皿類は、4点出土しているが、W-41とW-42は同一個体である可能性が高い。4点とも漆を使用したものと考えられ、黒色化されている。椀・皿類は總て河道3から出土しており、平安時代のものと考えられる。

W-41は椀の口縁部付近の小片で、口径は約17cmに復元できる。わずかに内湾気味に立ち上がり、全面を黒色化している。成形の痕跡は残していない。

W-42はW-41と同一個体と考えられるもので底径は74mmを測る。高台はほぼ直立し、高台内面を深くくぼめ、底部と体部の厚さはほぼ等しい。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。底部内面を除き、黒色化されている。木取りは堅木地を使用する。

皿と判断されるものはW-43が出土している。口径186mm、器高35mm、底径108mmを測り、底部内面を含め、全面が黒色化されたものである。高台はわずかな高さしかなく高台内面はくぼんでいない。直線的に立ち上がる体部は口縁付近でわずかに外反する。木取りは横木地を使用する。

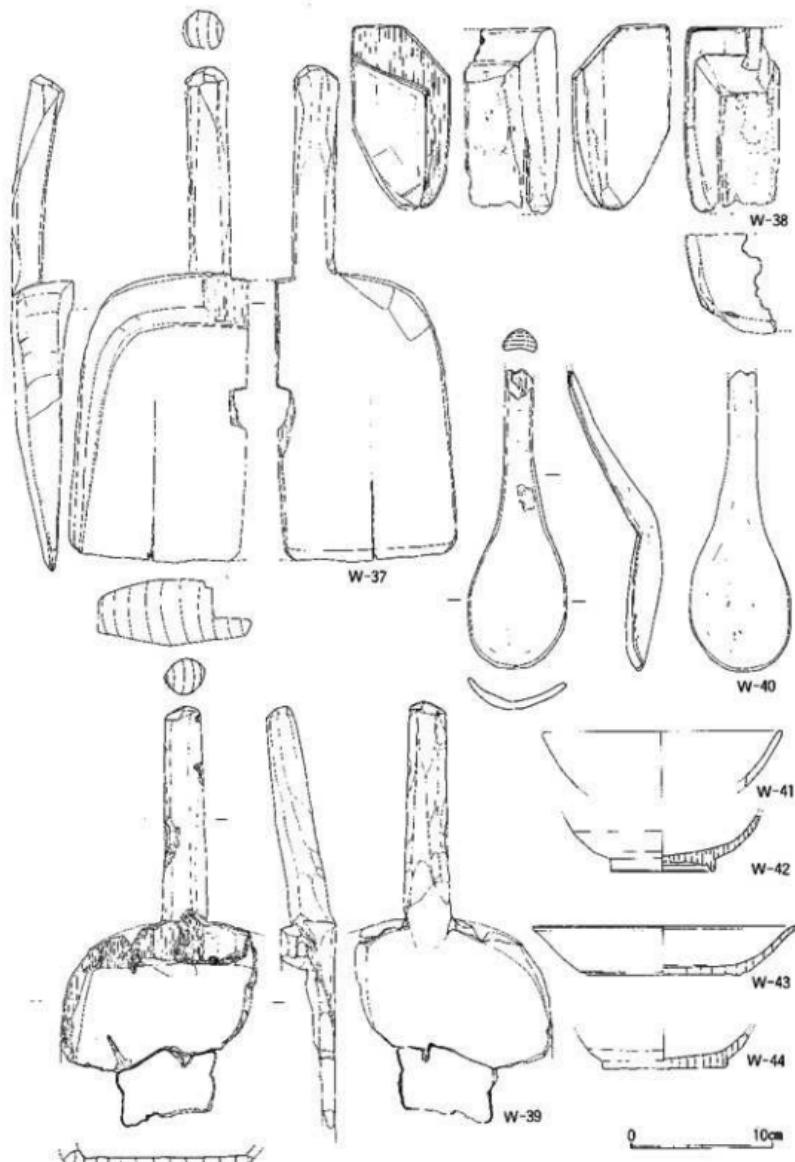
W-44は椀と考えられるものの破片で、底径88mmを測る。高台の高さは約7mmあり、高台内面はくぼめない。見込み部は高台取り付け位置程の高さまで彫り込められている。内湾気味に立ち上がる体部は厚手に作られており、漆と思われる黒色付着物が見られる。木取りは堅木地を使用している。

剣物（第95図 W-45）

W-45は小片のため挽き物か剣物かの区別がつかなかったが、剣物としておく。全体の形状が判らないが、仮に円形であれば挽き物の可能性も考えられる。現状で見る限り梢円形を呈すように思え、剣物による蓋ではないだろうか。柾目材をていねいにくりぬいており、加工痕を残さない。端部は水平に削り、一部に段をもつ。

曲物容器（第95図 W-46～55、第96図 W-58・59）

曲物容器と考えられるものは8点が出土している他、曲物容器の側板と考えられる小片が多数出土している。これらの多くは河道3から出土しており、平安時代の遺物と考えられる。



第94図 木製品実測図(7) (1 : 4)

今回出土したものは、形や大きさから大きく3種類に分けることができる。平面形がほぼ円形を呈すものをA類、梢円形のものをB類とし、直径が12~15cmの小型のものをA1類、16~19cmのものをA2類とした。A1・A2類の中にはそれぞれ、側板を木釘で固定するものと、桜皮で固定するものの、はめ殺しの技法を見るものがある。

W-46~48は、A1類としたものである。W-46は板目材の周縁を正円に削り出したもので、復元推定口径は約15cmになるものと思われる。周縁の裁ち落としに際してはわずかに傾斜を付けている。側板を固定するための貫通孔が見られ、桜皮が1枚残存している。全体にていねいに整形されているが、一部に刃物によると考えられる傷が見られる。木材はスギを使用している。

W-47・48は口径約13cmのもので、側板の固定に桜皮を使用しないものである。W-47は、木釘が1本残存しており、側板の固定に木釘を使用している。板目材の周縁を裁ち落とす際にわざかに傾斜を付けている。W-48は材や法量、周縁の傾斜はW-47と同様であるが、木釘の痕跡が見られない。側板の固定に際してはめ殺しの技法が使用されたものと思われる。材はスギを使用している。

A1類には、側板の固定に、桜皮を使用するものと使用しないものが見られ、前者は口径約15cmとやや大きく、後者は約12cmと小さい。こうした違いは身と蓋の違いと考えられ、前者が蓋、後者が身と思われる。

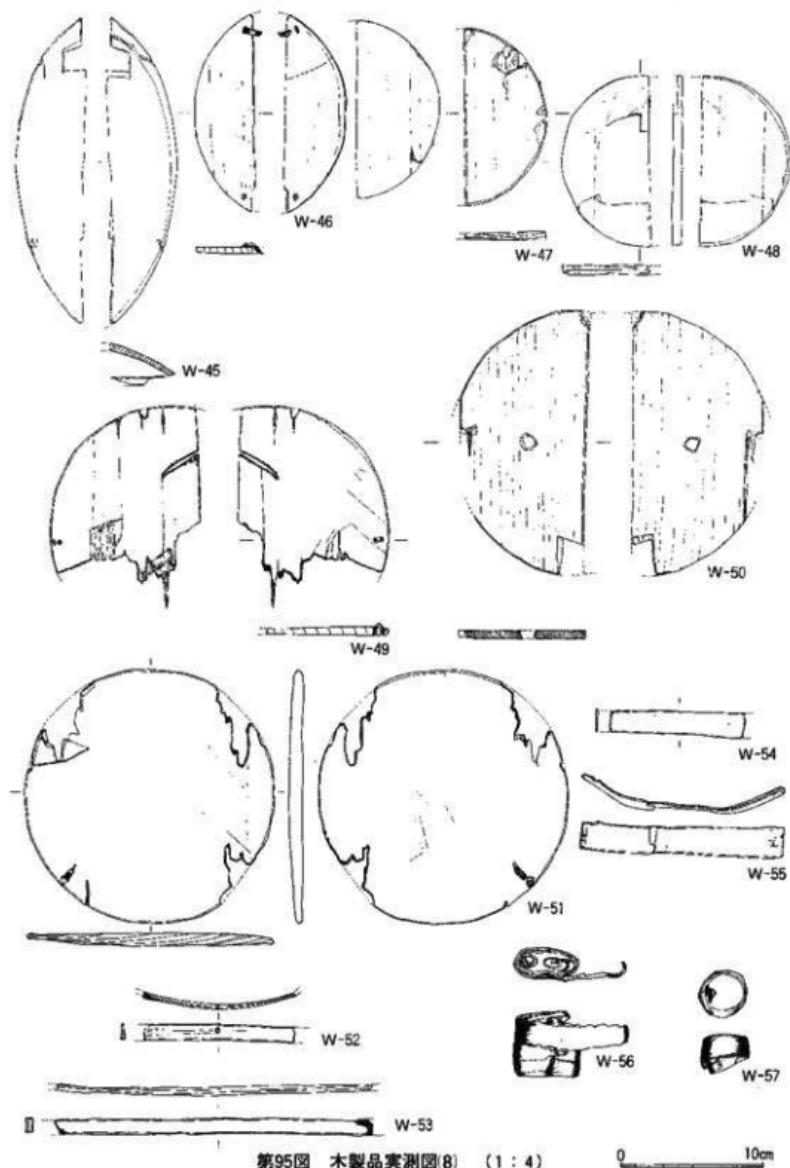
A2類としたものはW-49~51・W-59で、口径18cm前後を測るものである。側板の固定は総て桜皮を使用しており、木釘を使用するものは見られない。板目材を正円に削り出し、側板を4カ所で固定する。周縁の整形はA1類ほどていねいには行われておらず、傾斜を付けるものも見られない。口径は17cm前後のものと、19cm前後のものがあり、身と蓋に分かれるものと考えられる。W-50は木材にヒノキ属を使用している。

W-58はB類としたもので、梢円形を呈す大型のものである。残存長約50cm、残存幅約7cmを測る。側板の固定は桜皮を使用しており、穿孔の位置から、少なくとも5カ所以上で固定されていたようである。周縁の調整はA2類と同様に難で、傾斜も付けられていない。両面には整形時に付けられたと思われる擦痕が見られる。一端を欠くため全体の形を何うことはできないが、木取りからおそらく梢円形を呈するものであろう。板目材を使用している。

W-52~55は容器の部材と考えられるもので、湾曲した薄い板材である。W-52は、方形の小さな貫通孔があり、釘を使用した痕跡と思われる。曲物容器に使用されたものであろうか。

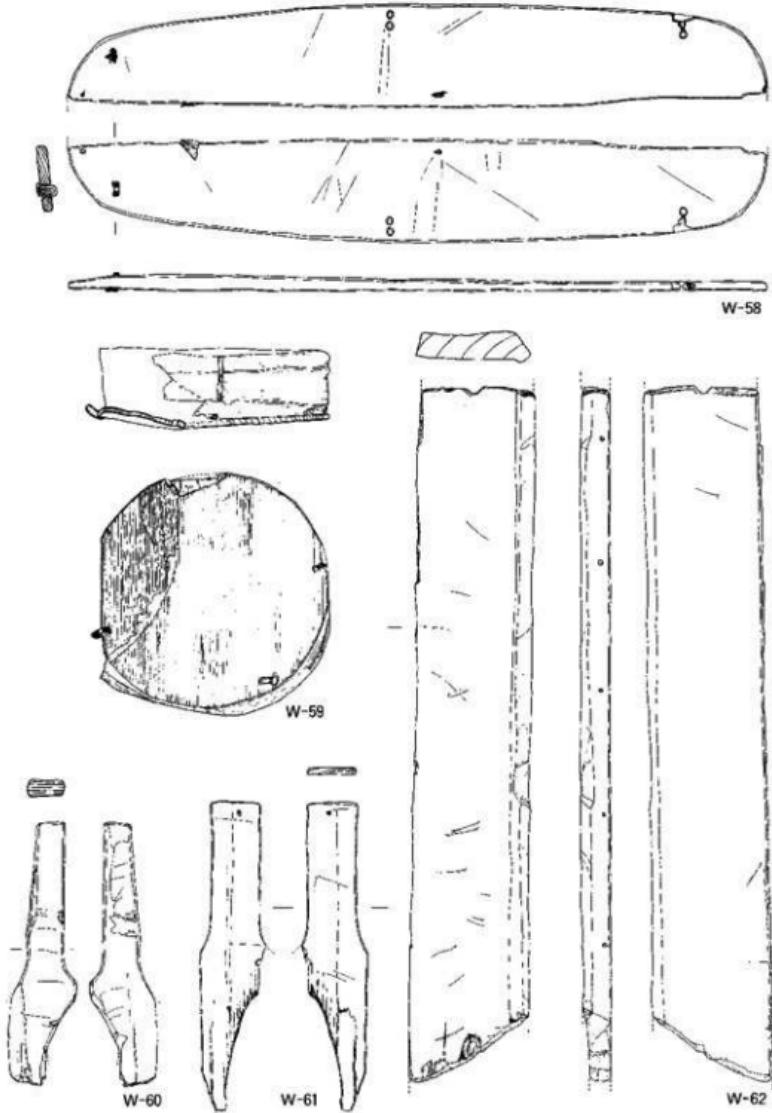
桜皮（第95図 W-56・57）

巻き込まれた状態のものを2点を図示した。脆くなっているため、引き伸ばしての全長の計測は行わなかったが、30cm程度はあるものと思われる。加工痕は見られないが、これほどの長さのもの



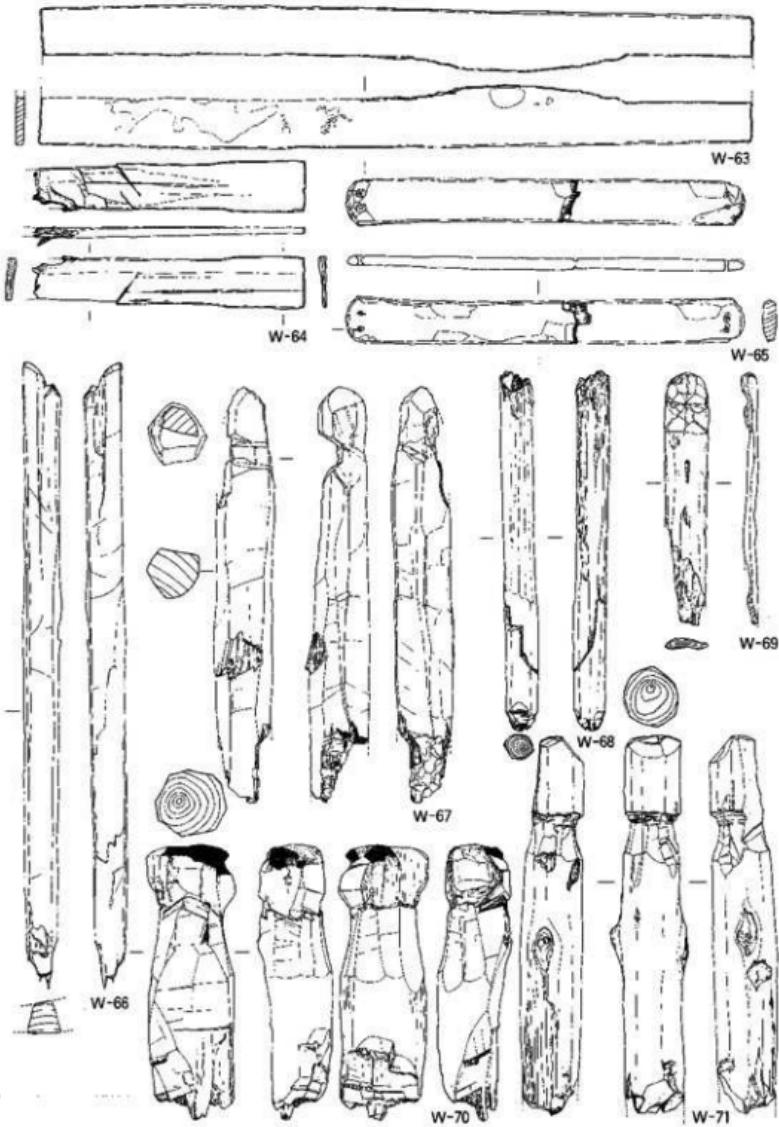
第95図 木製品実測図(8) (1 : 4)

0 10cm



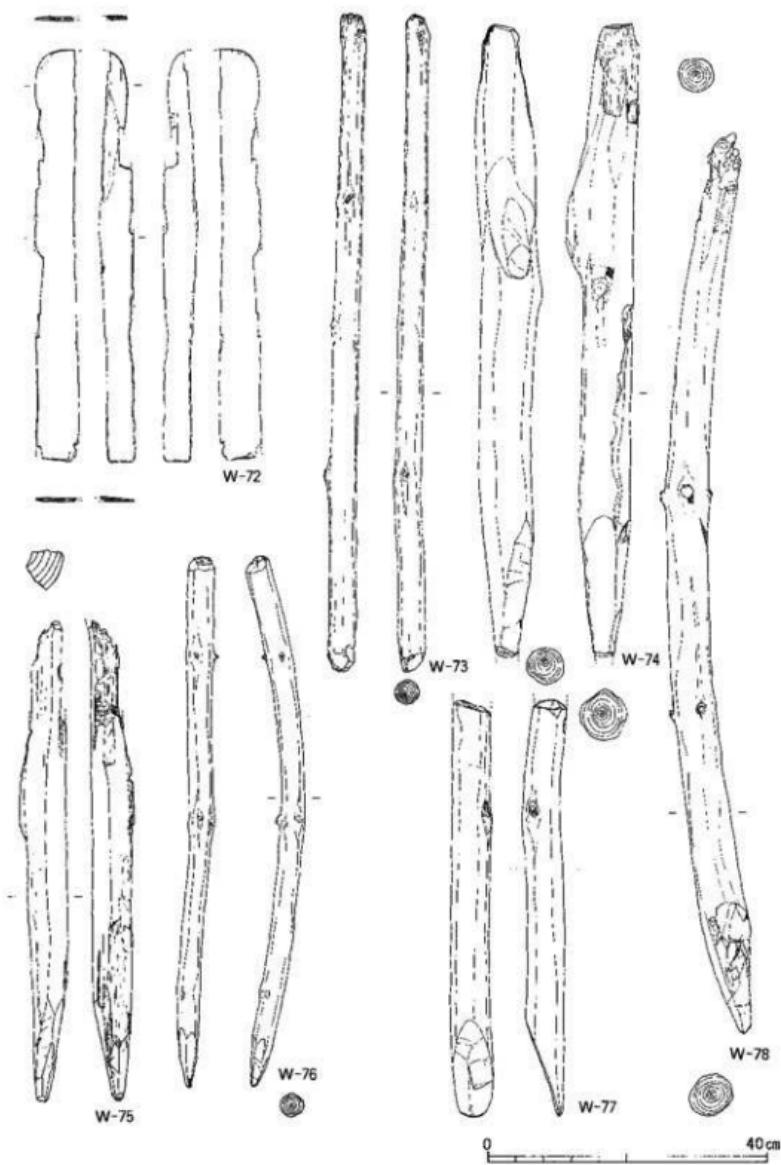
第96図 木製品実測図(9) (1 : 4)

0 10cm



第97図 木製品実測図(10) (1 : 4)

0 10cm



第98図 木製品実測図(II) (1 : 4)

が自然に剥落するとは考えられず、意図的に採集されたものであろう。1988年度のタテチヨウ遺跡の調査でも同様の桜皮は多く出土しており、曲物容器の縫い合わせに使用するものと推定された。現に、曲物容器の側板の固定に桜皮が使用されている例は何点か見られる。しかし、これら桜皮の出土地点は古墳時代以前の遺物しか出土しない河道4であり、曲物容器が出土する河道3からは出土していない。また、曲物等の生活用具の未製品と確認できたものは無く、この桜皮が河道3に伴うものとは思えない。これらの桜皮は古墳時代以前のもので、例えば工具類の身と柄の接続など、他の使用方法を考えるべきであろう。

板状木製品3（第96図 W-60～62・第97図 W-63～66）

板状を呈すもので、用途不明のものである。

W-60は、約文字形の一部をそぎ落とした形で、先端を欠く。12mmを測る厚手の材を使用し、側部は丸く面取りされている。板目材を使用し、各面に加工痕を多く残している。材はスギを使用している。

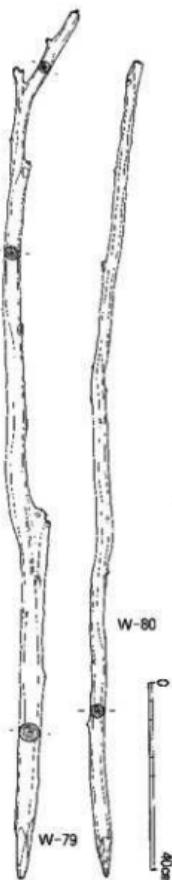
W-61は不整六角形の身に幅のある柄を付けたもので、2カ所に小さな貫通孔が穿たれるものである。約文字形と呼べる形状であるが、身にも貫通孔が穿孔されており、用途は判らない。各面ともていねいに調整されており、加工痕はわずかしか残さない。貫通孔は小さく、釘孔とは思えない。板目材を使用している。

W-62は建築部材と考えられるものである。幅81mm、厚さ23mmを測る板材で、側辺に傾斜を付け、低い縁をもつ。傾斜の付く側縁部には約9cm間隔で5カ所に釘孔を残している。板目材を使用している。

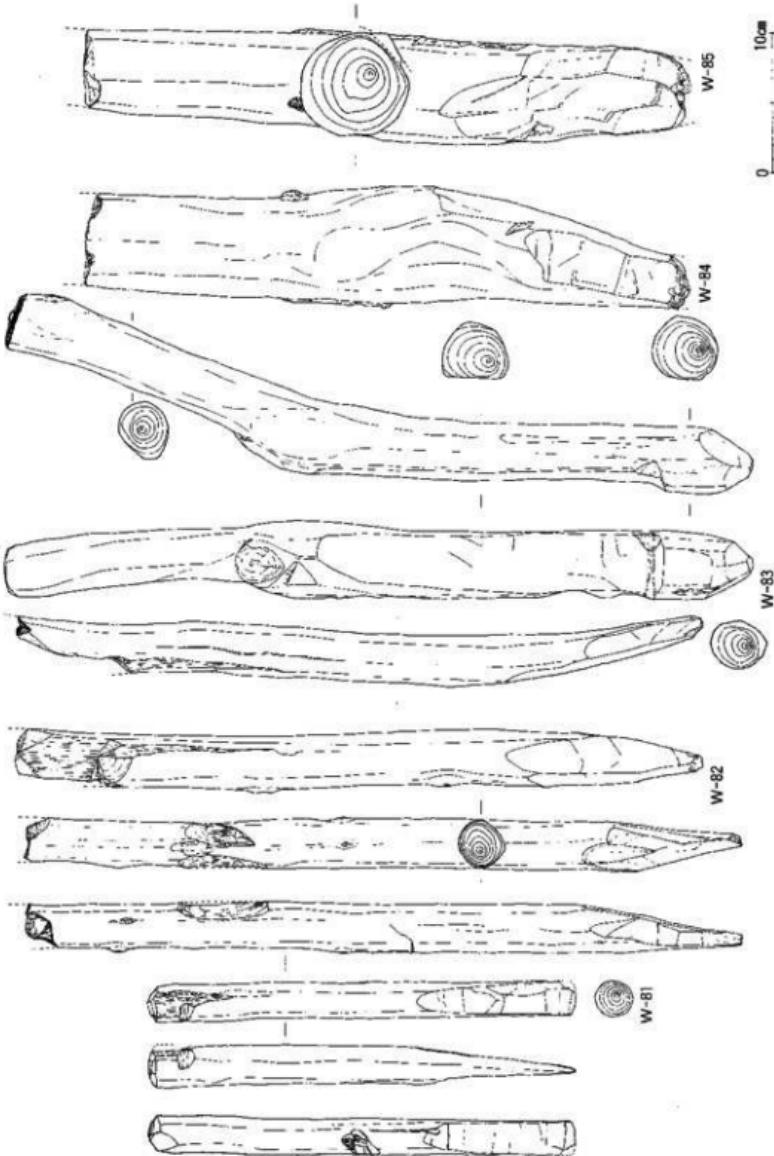
W-63は、薄い偏平な板材で、側辺を欠いている。長さ約51cm、厚さ6mmを測るもので、特別な加工は見られない。板目材を使用している。

W-64も偏平な板材で、幅36mm、厚さ8mmを測る。長側辺をわずかにくびれさせるが、他に目立った加工は見られない。板目材を使用している。

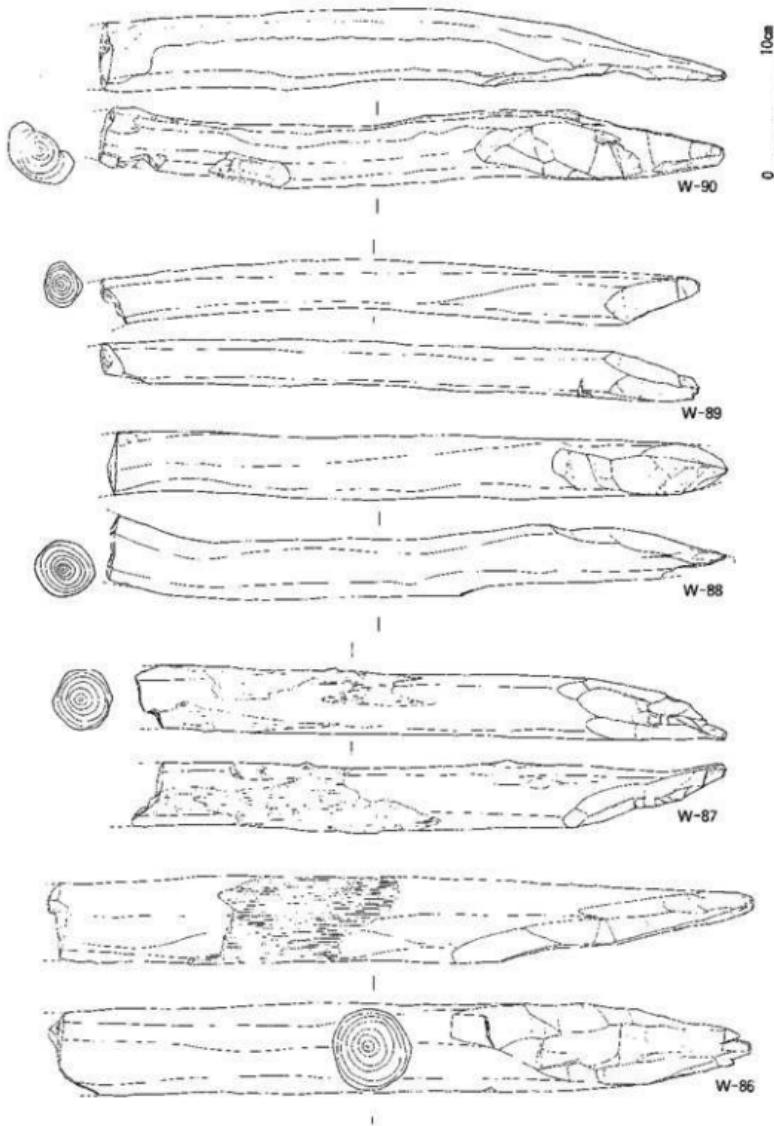
W-65は、両端に丸く面取りを施された薄い板材である。板目材を使用し、長さ約28cm、幅約3cm、厚さ9mmを測る。側辺は丸く整形が加えられるが、両端の面取りは粗く、加工痕を多く残している。両端近くには平行して2個所毎の貫通孔が穿孔されているが、釘孔であろうか。河道3から出土している。木材にはモミ属を使用している。



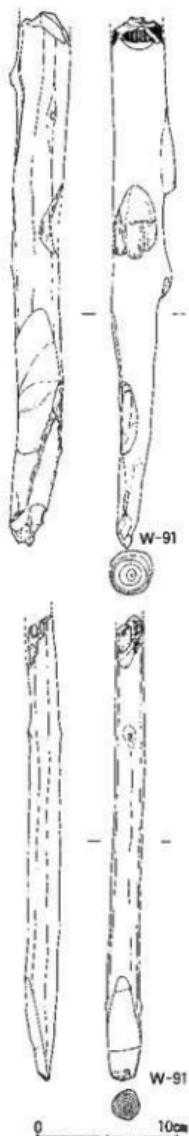
第99図
木製品実測図(1) (1:4)



第100図 木製品実測図(3) (1 : 4)



第101図 木製品実測図(4) (1 : 4)



第102図

木製品実測図(1) (1:4) る。

W-66は断面台形の棒状を呈するものであるが、両側辺を欠き、板状を呈していたものと考えられる。加工痕は見られず、用途は判らない。

棒状木製品4 (第97図 W-67・68)

W-67はほぞ状の抉りをもつもので、建築部材であろうか。断面不整六角形を呈す棒状で、残存長約30cm、幅40mm、厚さ37mmを測り、下端を欠く。上端を粗く削り、ほぞ状になった「コ」字形の抉りを切り入れている。抉り周辺に紐等の圧痕は見られないが、平面にもわずかにくぼみが見られ、紐を掛けた使用した可能性がある。各面の調整は非常に粗く、加工痕を多く残している。板目材を使用している。

W-68は、杭状に先端を加工した棒状木製品である。一端を欠くが残存長約25cmを測り、太さは約2cmの、ほぼ断面円形を呈するものである。周囲を粗く面取りした、芯持ちの枝材をそのまま使用しており、小枝の痕跡は残していない。先端部付近は杭状に尖らせようとしているが、何らかの使用により、先端は潰れている。木材はヒノキ属を使用している。

不明木製品 (第97図 W-69)

ヒノキ属の薄い板に2カ所の隆起を削り出したもの。先端を丸く面取りし、2カ所の隆起を粗く削り出している。隆起部には加工痕を残しているが、他の部分は、はぎ取ったようになっている。下端部を欠く。

有頭棒2 (第97図 W-70・71)

削り出した頭部を持つ、用途不明の木製品である。

W-70は太さ約6cmの芯持ちの棒の一端をへら状に削り出し、他端に頭部を持つもので、頭部の一部と、へら状になった部分の先端を欠いている。へら状に削り出した部分の他の面は、木材の自然面をそのまま使用しており、面取りは行っていない。頭部は面取りを行った不整多角柱で、たたかれたように潰れ、繊維が見えている。くびれ部は、下方から上方に深く削り込み、くびれ部径は48mmを測る。紐を掛けたような痕跡は見られない。残存長約20cm、太さ62mmを測る。イチイ属を使用している。

W-71も同様の形状の頭部を持つものであるが、下方のへら状の削りを持たないもので、下端を欠く。面取りを行わない枝材をそのまま使用しており、中程には枝の跡を残している。上端から約5cmの所を、下方から上方へ削り、細くすることによって頭部を作り出している。頭部先端は、垂直に切り落とし、約半分を斜めに削っている。擦痕は見られないが、その形状から紐等を掛けたものではないだろうか。残存長約27cm、太さ43mmを測る。

不明板状製品（第98図 W-72）

薄い板の側邊に「V」字形の切り込みを入れたものである。1側辺を欠くものが2点出土しているが、同一個体と考えた。所々が欠損しており、全体の形状が判らないが、五輪の形を表したものと考えると板塔婆のようなものだろうか。板目材を使用し、厚さ6～7mmを測る。河道3から出土し、平安時代のものと考えられる。

1988年度調査では信仰に関係する遺物が多く出土しており、その中には板塔婆も含まれている。しかし、1988年度調査で出土した板塔婆は第1河道から出土したものが多く、室町時代のものと考えられ、今回の調査では見られない時代のものである。また、1988年度調査で出土した板塔婆は幅に対する厚さが厚く、W-72とは異なる印象をもつものである。

杭・杭状先端加工木製品（第98図 W-73～第102図 W-92）

杭は河道2を中心に多量に出土している。杭と同様の形状を持つもの、杭と同様の使い方をしたと考えられるものを含め、19点を図示した。

W-73は1m近く長さのある棒の両端を加工したものである。小枝を落とした芯持ち材をそのまま使用しており、面取りは行っていない。上端は垂直に切り落とし、下端は斜めに削っている。杭と同様に使用したものだろうか。

W-81は先端を尖らせず、へら状になったものである。面取りを行わない芯持ち材をそのまま使用しており、長さ307mm、太さ25mmを測る。上端の切断面はていねいに丸く面取りを行っており、杭として打ち込む機能は考えにくい。下端は、約10cmに及び、両面から斜めに削り落としており、へら状に作り出している。上端のていねいな調整や下端が尖らない点から、杭以外の使用方法を考えるべきであろう。

杭と考えたもののはほとんどは、面取りを行わない芯持ち材の一端を片側から斜めに削り落としたもので、使用する材は必ずしも直線ではなく、湾曲するものも多い。これ以外のものでは、周縁から鉛筆状に先端を尖らせたもの（W-84）や、上端の面取りを行うもの（W-76）等がある。W-84は、先端を船筆状に尖らせたものであるが、中程で大きく湾曲しており、打ち込めるようなもので

はない。また、上端の面取りを行なうW-76等も、土中に打ち込む為のものとは考えにくいが、周縁部の面取りを行なわず、自然面をそのまま残し、他の杭とはほぼ同様に見える。W-75は、ミカン割りを行なった柱目材を使用した杭で、自然木をそのまま使用した他の杭と違うように見えるが、一面には自然面を残し、面取りも行っておらず、他の杭と同様に使用したものであろう。

註1 『朝霧川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ(海崎地区2)』島根県教育委員会
1988年

註2 黒崎直「西日本における弥生時代農具の変遷と展開」「西日本における稻作農耕の期別と展開」
日本考古学協会静岡県大会実行委員会 1988年

註3 『朝霧川河川工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』島根県教育委員会 1990年

木 製 品 觀 察 表

器種	標 本 号	出 土 点	層 位	法 長 (cm)	形態・文様の特徴	手 挿 の 特 徴	木 取	備 考 (分類を含む)
鑿	第88回 W-1	67	S3E0	暗青灰色 砂巻	長さ 49.6 幅 (5.2) 厚さ 1.5	身が二叉になった、いわゆる ナスピ形の鑿	征目	B類
鑿	第88回 W-2	67	N3E2	河道内	長さ (22.8) 幅 (9.8) 厚さ 1.3	ナスピ形の鑿の一部	征目	B類
板状木製品	第88回 W-3	67	N3E2	暗青灰色 砂巻層中の粘質土	長さ (25.7) 幅 (7.7) 厚さ 2.5	鉤物の一部	板目	平縁状の形態、孔2カ所あり
ミカン割材	第89回 W-4	67	河道4	流路中	長さ 127.5 幅 23.5 厚さ 8.1	両端の加工痕以外に立った 加工は見られない	征目	
ミカン割材	第89回 W-5	67	河道4	流路中	長さ 43.6 幅 26.3 厚さ 4.8	本製農耕具の未成品と考えら れる	征目	丸鋸状の形態だが、 孔等はない
鑿未成品	第89回 W-6	67	S3E0	暗青灰色 砂巻層	長さ (44.5) 幅 (16.7) 厚さ 6.0	ナスピ形の鑿の未成品	ミカン割材を使用	征目 B類?
有縫環	第90回 W-7	68	S3E0	暗青灰色 砂巻層	長さ (34.5) 幅 3.6 厚さ 2.8	断面四角形の輪廓部を木西頭 部に削り出す。他の一端は尖 錐状	芯持	
棒状木製品	第90回 W-8	68	S3W1	褐色 砂巻層	長さ (27.8) 幅 4.6 厚さ 3.2	木底の棒の一端を削り出した もの	板目	
棒状木製品	第90回 W-9	68	S3E0	暗青灰色 砂巻層	長さ (29.3) 幅 2.7 厚さ (2.1)	小枝を使用し上端を丸く削り 出したもの	芯持	
棒状木製品	第90回 W-10	68	N1E0	暗青灰色 砂巻層	長さ (21.0) 幅 4.6 厚さ (3.1)	中程がくびれた棒状	芯持	
杭状 先端削工品	第90回 W-11		N3E0	褐色 砂巻層	長さ 20.8 幅 2.0 厚さ 1.3	半截した板材を使用し両端を 削り出す	板目	
板状木製品	第90回 W-12	68	N3E0	灰褐色 砂巻層	長さ 26.7 幅 5.6 厚さ 0.9	貫通孔1カ所を持つ板材、貫通 孔は四角形	板目	
板状木製品	第90回 W-13	68	N3E1	褐色 砂巻層	長さ (18.3) 幅 (5.5) 厚さ 0.7	扁平な板材を加工。身の下端 を欠損している	板目	
板状木製品	第91回 W-14	69	S3E0	暗青灰色 砂巻層	長さ (39.8) 幅 (12.2) 厚さ 2.0	貫通孔2カ所を持つ板材	板目	

容積	排 番 号	固 形 番 号	出土地点	層 位	法 量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備 考 (分類を含む)
板状木製品	第91回 W-15	S3W1	褐色 砂漠層	長さ(18.0) 幅 4.1 厚さ 0.8	扁平な板材			板目	
板状木製品	第91回 W-16	69	N3E6	灰褐色 砂漠層	長さ(9.9) 幅 2.7 厚さ 0.5	断面楕円形の板材		板目	
板状木製品	第91回 W-17	69	河道4	泥路中	長さ 26.4 幅 (8.1) 厚さ 1.4	方形の貫通孔2カ所		板目	
木漆	第91回 W-18	69	N3E2	暗青灰色 砂漠層	長さ(10.4) 幅 0.8 厚さ 0.6	板目材を細く削り出し、先端を尖らせている		板目	
木漆	第91回 W-19	69	N3E2	河道内	長さ(8.4) 幅 0.8 厚さ 0.7	板目材を細く削り出し、先端を尖らせている		板目	
木漆	第91回 W-20	69	N3E2	赤褐色 砂質土	長さ(9.9) 幅 1.0 厚さ 0.5	両端を尖らせた柳葉形。新聞 長印形		板目	
木漆	第91回 W-21	69	小原		長さ(17.5) 幅 1.2 厚さ 1.0	板目材を細く削り出し、先端を尖らせている		板目	
不規木製品	第91回 W-22	69	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ 17.1 幅 0.9 厚さ 0.8	球形の頭部を持つ		板目	
不明木製品	第91回 W-23	69	S3E0	暗青灰色 砂漠層	長さ 13.2 幅 2.6 厚さ 1.3	細い板目材に2カ所の擡起部		板目	
棒状木製品	第92回 W-24	70	河道4	泥路中	長さ(49.3) 幅 2.4 厚さ 1.6	両側面から削り出し、先端を尖らせたもの		板目	
棒状木製品	第92回 W-25	70	河道4	泥路中	長さ(40.5) 幅 3.5 厚さ 1.8	細く削りした板目材の両端を尖らせようとした部分で欠損 している		板目	
棒状木製品	第92回 W-26	70	N3E1	暗青灰色 砂層	長さ(45.1) 幅 3.8 厚さ 2.7	両端を丸く削り落とした棒状。 面取を行っている		芯持	
建築部材	第92回 W-27	70	S3E0	暗青灰色 砂漠層	長さ(36.6) 幅 2.0 厚さ 1.2	断面長方形の棒状。5カ所の釘 孔を持つ		板目	
把手状 木製品	第92回 W-28	70	N3E2	河道内	長さ 28.5 幅 4.8 厚さ 4.3	貫通孔を持つ棒状。両端を斜 めに削り落とす		芯持	
把手状 木製品	第92回 W-29	70	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ 9.0 幅 3.2 厚さ 3.2	方形の柄孔が貫通した断面方 形の棒状		芯持	
棒状木製品	第93回 W-30	70	S3W1	青灰色 砂層	長さ(18.5) 幅 2.8 厚さ 2.8	両端を丸く削り落とした棒状。 面取を行っている		芯持	
棒状木製品	第93回 W-31	70	河道4	泥路中	長さ(64.2) 幅 3.0 厚さ 2.9	両端を丸く削り落とした棒状。 約半分を3面にわたり直取する		芯持	
余材	第93回 W-32	70	N3E0	L字型 遺構内	長さ 66.2 幅 11.4 厚さ 5.8	板目材の端部を切り落とした もの		板目	
板材	第93回 W-33	70	N3E3	墨灰色 粘質土	長さ 66.1 幅 (12.6) 厚さ 2.0	面取を行った板材。上方に3カ 所の釘孔。下方に切り込みを 入れている		板目	
板材	第93回 W-34	70	N3E2	河道内	長さ 75.8 幅 (12.6) 厚さ 1.3	不整形の貫通孔を持つ		板目	
板状 先端加工品	第93回 W-35	70	N3E3	墨灰色 粘質土	長さ(25.5) 幅 9.2 厚さ 3.8	やや渋手の取材。枕状に先端 を尖らせたもの		板目	
建築部材	第93回 W-36	70	N3E2	河道内	長さ(67.3) 幅 (12.3) 厚さ 1.1	両端を丸く削り落とした棒状。 端部近くに「コ」の字状の削 込みを持つ		芯持	
アカトリ状 木製品	第94回 W-37	71	S3E1	灰褐色 粘質土	長さ(35.4) 幅 (12.3) 厚さ 1.1	柄・身とも1枚の板目材から 削り出す		板目	
アカトリ状 木製品	第94回 W-38	71	N3E0	淡褐色 粘質土	長さ(13.1) 幅 (6.7) 厚さ 7.1	正面は舟底形の丸味を持つ			
アカトリ状 木製品	第94回 W-39	71	N3E1	茶褐色 粘質土	長さ(29.2) 幅 (13.6) 厚さ 3.9	取手部径2.9×2.6	柄・身とも1枚の板目 材から削り出す	板目	
匙	第94回 W-40	71	S3E0	暗青灰色 砂層	長さ(21.4) 幅 7.2 厚さ 2.1	平面卵形を呈す身を持ち、柄 も実木から削り出されている	全面にうるしを使用	板目	

器種	番号	形態	出土地点	層位	法量 (cm)	形態・文様の特徴	手法の特徴	木取	備考 (分類を含む)
碗	第94回 W-41 W-42	71	NSE1	暗褐色 粘質土	口径 16.8 底径 7.4	高台裏面に凹め、底部と体部の 厚さはほぼ等しい。体部は 内肉突出に立ち上がる。	裏面を除きうるしを使用	墨木地	
豆	第94回 W-43	71	NSE1	暗褐色 粘質土	口径 18.6 厚さ 3.5 底径 10.8	高台裏面は凹めない。口縁付 近でわずかに外反する。	全面にうるしを使用	墨木地	
碗	第94回 W-44	71	NSE1	暗褐色 粘質土	直径 8.8	高台裏面に凹めない。やや厚 手の体部が内肉突出に立ち上 がる。	うるし?	墨木地	
盤?	第95回 W-45	72	不明		長さ(21.7) 幅(4.8) 厚さ 0.7	口部裏面の一部に段を持つ			墨木地
曲物容器	第95回 W-46	72	NSE2	暗褐色 粘質土	長さ(14.0) 幅(4.2) 厚さ 0.5	わざかに外方に短斜を付けて いる。裏面に刀刃によるとキズ があり	桜皮1枚が残存	板目 A類	
曲物容器	第95回 W-47	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ 12.6 幅 5.9 厚さ 0.5	裏板に側板を打ち付けた木割 が残っている		板目 A類	
曲物容器	第95回 W-48	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(12.1) 幅(6.3) 厚さ(0.7)	外方へわずかに傾斜。板度を つなく貫通孔が無い		芯持 A類	
曲物容器	第95回 W-49	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(14.4) 幅(10.7) 厚さ 0.5	桜皮が一方所に残る		板目 A類	
曲物容器	第95回 W-50	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ 18.8 幅(9.2) 厚さ 0.6	側板を付けるための桜皮の貫 通孔が残される。中板に貫通 孔が見られる		板目 A類	A類。板度2枚が同 位置から出土しているが、裏面は不明
曲物容器	第95回 W-51	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ 17.9 幅 17.9 厚さ 1.0	側板を付けるための桜皮が1 カ所に残る		板目 A類	
曲物容器 側板?	第95回 W-52	72	SII年來 第5調査区		長さ(10.0) 幅 1.1 厚さ 0.4	水鉄によると考えられる貫通 孔があり		板目	
曲物容器 側板?	第95回 W-53	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(22.7) 幅(1.0) 厚さ 0.6			板目	
曲物容器 側板?	第95回 W-54	72	不明		長さ(9.6) 幅 1.7 厚さ 0.1				
曲物容器 側板?	第95回 W-55	72	SSE2	暗褐色 砂糖	長さ(14.3) 幅 2.0 厚さ 0.2				
桜皮	第95回 W-56	72	SSE2	褐色 砂糖					
桜皮	第95回 W-57	72	SSE2	暗褐色 砂糖					
曲物容器	第95回 W-58	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(40.9) 幅(7.2) 厚さ 1.1	側板を付けるための桜皮が残 る		板目 B類	
曲物容器	第96回 W-59	72	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(16.9) 幅(16.2) 厚さ 5.7	側板は4カ所で、桜皮によって 付けられている			
板状木製品	第96回 W-60	73	SSE2	暗褐色 粘質土	長さ(18.7) 幅(4.4) 厚さ 1.2	円筒形状木製品の一部を削り 落とした形状。加工痕を残し ている		板目	
板状木製品	第96回 W-61	73	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(21.8) 幅(4.7) 厚さ 0.5	側面と身の一側面近くに貫 通孔あり		板目	
板状木製品	第96回 W-62	73	SSE1	暗褐色 粘質土	長さ(49.3) 幅 8.1 厚さ 2.3	丸みを持つ板状の側板を側斜 を付けて削ったもの。底面は 斜面に削られたもの。斜面に削 られたところに穴があいてしま る		板目	
板状木製品	第97回 W-63	73	NSE2	暗褐色 粘質土	長さ 51.1 幅 6.6 厚さ 0.6	圓平な板材		板目	
板状木製品	第97回 W-64	73	SSE2	暗褐色 粘質土	長さ(19.6) 幅 3.6 厚さ 0.8	圓平な板材		板目	
板状木製品	第97回 W-65	73	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ 28.3 幅 3.1 厚さ 0.9	圓筒を丸く削取した板材。圓 筒附近に2カ所ずつの貫通 孔(街札か)を持つ		板目	
板状木製品	第97回 W-66	73	NSE1	暗褐色 粘質土	長さ(44.7) 幅(3.6) 厚さ 2.2	断面台形の棒状を呈す		板目	
板状木製品	第97回 W-67	73	SSE2	暗褐色 粘質土	長さ(29.5) 幅 4.0 厚さ 3.7	断面不整六角形の棒状を呈す。 貫通近くが「ヨ」の字形に欠き 取られている		板目	

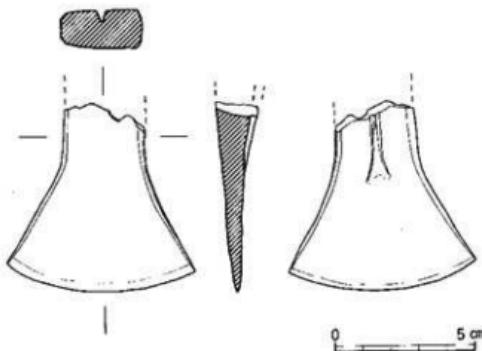
器種	標 両 番 号	内 容	出土地点	層 位	法 異 (cm)	形態・文様の特徴	手 法 の 特徴	木 取	備 考 (分類を含む)
棒状木製品	第97回 W-68	73	NIE1	茶褐色 粘質土	長さ(23.7) 幅 2.4 厚さ 1.7	先端部は何らかの使用により つぶれている		芯持	
不規木製品	第97回 W-69	73	NIE1	茶褐色 粘質土	長さ(7.9) 幅 3.1 厚さ 0.7	先端を丸く彫り取った底、2カ所 の突起を削り出している		板目	
有氣孔	第97回 W-70	74	NIE1	暗褐色 粘質土	長さ(19.5) 幅 6.2 厚さ 1.8	下端をへラ式に削り出した際 に削り落としたもの。底面には用いた 機械につぶれている		芯持	
有氣孔	第97回 W-71	74	SIG年度 第五回目	暗褐色 粘質土	長さ(35.0) 幅 4.3 厚さ 4.3	円錐形の底部を付けたもの。 底面は斜めに削り出されて いる		芯持	
不明 板状製品	第98回 W-72	74	NIE1	暗褐色 粘質土	長さ(50.0) 幅 (4.8) 厚さ 0.7	薄い板の側面に「V」字形のき ざみを入れるもの		板目	
不明 板状製品	第98回 W-72	74	NIE1	暗褐色 粘質土	長さ(50.3) 幅 (5.7) 厚さ 0.6	薄い板の側面に「V」字形のき ざみを入れるもの		板目	
丸状 先端加工品	第98回 W-73	74	SSE0	暗褐色 粘質土	長さ 94.9 幅 4.6 厚さ 3.5	小枝を落とした棒の先端を加 工したもの		芯持	
杭	第98回 W-74	74	NIE2	暗褐色 砂質土	長さ 90.9 幅 7.4 厚さ 6.9	芯持の丸太材の下端を片面か ら削り、尖らせている		芯持	
杭	第98回 W-75	74	SSE0	暗褐色 砂質土	長さ(60.1) 幅 5.1 厚さ 5.7	丸太材をミカン削した芯持材 を使用。片面から削り、尖らせ ている		板目	
丸状 先端加工品	第98回 W-76	75	NSE0	上がみ状 漆喰内	長さ 76.3 幅 3.4 厚さ 3.4	小枝を落とした芯持材の一端 を片面から斜状に削り落と したもの		芯持	
杭	第98回 W-77	75	杭	暗褐色 砂質土	長さ(60.1) 幅 5.3 厚さ 5.1	芯持の丸太材を一方向から斜 めに削り落としたもの		芯持	
丸状 先端加工品	第98回 W-78	75	NZB0	暗褐色 砂質土	長さ(129.7) 幅 6.2 厚さ 5.9	小枝を落とした芯持材の一端 を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第99回 W-79	75	杭 No.21	自然 流路中	長さ(201.1) 幅 4.6 厚さ 4.2	芯持材の先端を斜めに削り落 としている		芯持	
杭	第99回 W-80	75	不明		長さ(174.6) 幅 2.9 厚さ 2.8	芯持材の先端を斜めに削り落 としたもの		芯持	
ヘラ状 先端加工品	第100回 W-81	75	トレンチ内	暗褐色 砂質土	長さ(30.7) 幅 2.5 厚さ 2.8	芯持材の一端を二方向からヘ ラ式に削り落す。底面は丸く 面取を行っている		芯持	
杭	第100回 W-82	75	NIE2	暗褐色 砂質土	長さ(56.4) 幅 3.5 厚さ 3.4	小枝を落とした芯持材の一端 を斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第100回 W-83	75	NIE1	暗褐色 粘質土	長さ(49.4) 幅 3.4 厚さ 3.9	小枝を落とした芯持材の一端 を斜めに削り落としたもの		芯持	
丸状 先端加工品	第100回 W-84	75	NIE2	暗褐色 粘質土	長さ(53.8) 幅 5.5 厚さ 4.9	芯持材の先端を円錐形に削り 落としたもの		芯持	
杭	第100回 W-85	75	NIE1	暗褐色 粘質土	長さ(43.6) 幅 7.8 厚さ 7.3	芯持の丸太材の先端を斜めに 削り落としたもの		芯持	樹皮を多く残す
杭	第101回 W-86	75	杭 No.25	暗褐色 砂質土	長さ(50.3) 幅 5.8 厚さ 5.6	芯持の丸太材の一端を一方か ら斜めに削り落としている		芯持	樹皮を残す
杭	第101回 W-87	75	杭 No.50	暗褐色 砂質土	長さ(42.5) 幅 4.4 厚さ 4.2	芯持材の先端を一方から斜め に削り落としたもの		芯持	樹皮を多く残す
杭	第101回 W-88	75	杭 No.8	暗褐色 砂質土	長さ(41.6) 幅 4.1 厚さ 3.9	芯持の丸太材の一端を斜めに 削り落としたもの		芯持	
杭	第101回 W-89	75	No.39	暗褐色 砂質土	長さ(40.6) 幅 3.2 厚さ 2.5	芯持の丸太材の先端を2方向 から斜めに削り落としたもの		芯持	わずかに樹皮を残す
杭	第101回 W-90	75	杭 No.10	暗褐色 砂質土	長さ(41.9) 幅 5.2 厚さ 3.2	芯持の丸太材の先端を1方向 から斜めに削り落としたもの		芯持	
杭	第102回 W-91	75	杭 No.40	暗褐色 砂質土	長さ(37.9) 幅 3.7 厚さ 3.7	小枝を落とした芯持材の先端 を丸く削り落としたもの		芯持	
杭	第102回 W-92	75	杭 No.15	暗褐色 砂質土	長さ(33.1) 幅 2.2 厚さ 2.0	小枝を落とした芯持材の先端 を2方向から斜めに削り落と したもの		芯持	樹皮を残す

11. 金 属 遺 物

今回の調査では、引手等の金属遺物（第103図）が2点出土したが、いずれも表土近くの採集で、現代のものと考え図示しなかった。しかし、河道3底面より金属が腐食した後の型を残す土の塊が出土し、その型を取ることができた。この土の固まりは、表面に凹凸のある拳大の大きさの不整球形を呈するものであったが、方形の空洞が空いていたため、内部にシリコンを流し込み凝固させた後、土の部分を破碎して、型を取ることにした。

103図はシリコンによって型取りしたもの実測図である。癹形の刃部をもつ鉄斧が腐食して消滅した痕跡と考えられるもので、型取りによって確認できる長さ67mm、刃部幅66mm、厚さ15mm、基部付近の幅31mmを測り、基部が更に長かったものと推定される。基部断面は長方形を呈し、刃部先端まで角を丸めた縁が延びる。基部中央には「Y」字形に開いた溝状のくぼみが見られ、袋状の基部を持っていたことが分かる。基部は直線的に延びるが、刃部は左右に大きく開き、刃部先端は扇形に湾曲する。研ぎ出しあは、両面から行われたものと思われるが、表面側の縦線がより明確に見える。側面から見ると、裏面に向けてわずかに湾曲しており、横刃として袋状になった部分を下方に向けて使用したものと考えられる。

この金属遺物は河道3の底面から出土しているが、河道3の埋没時期は出土遺物から平安時代と考えており、この金属遺物もそれに近い時期のものであろう。



第103図 金属遺物実測図 (1:2)

第V章 タテチョウ遺跡1990, 91年度調査出土の動物遺体

西本 雄弘

タテチョウ遺跡第4次調査で出土した遺体は39点である。その内容は表に示した通りである。シカ・イノシシ・ウシの3種が含まれていた。そのうちシカとイノシシは、縄文時代から5世紀にかけての遺物包含層より出土したもので、縄文時代と弥生時代のものがほとんどであろう。ウシは、いずれも9～10世紀の遺物包含層から出土したものである。

動物遺体の内容を見てみると、シカでは、肩甲骨に大小があることから雌雄の個体が含まれていると思われる。年齢組成を考慮して最小個体数を推定すると、生後6ヶ月程度の幼獣1個体・3歳以上の成獣3個体の計4個体である。イノシシは、最小個体数は約1歳半の若獣1個体と成獣2個体の計3個体であり、成獣の1個体は雄である。なお、イノシシについては、弥生時代のものも含まれるので、ブタも含まれるかもしれない。しかし、今回の資料はすべて破片であり、イノシシとは異なったブタとしての形質を明瞭に示すものは認められなかった。そこで、今回の資料は、すべてイノシシとして記載しておくこととした。ウシについては、上腕骨と大腿骨の2片が出土ただけである。いずれも小型のウシであること以外はよく分からない。

第1表 動物遺体出土内容

捕獲番号	動物名	部位・ほか	備考	出土地点	層準
2	シカ	角片	加工痕あり	N2E2	4
12		角片		N1E1	4
13		角+骨		N1E1	4
23		角先		N2E1	4
26		角座+骨		S0E0	4b
4		下顎骨・左・成歯	(P1~M3)	N2E2	4
20		下顎骨片(幼歯)		N1E0	3
1		肩甲骨・右・成歯	大型	N2E1	4
3		肩甲骨・右・成歯	小型	N2E2	河道2
19		肩甲骨・左・成歯		N1E2	4
30		肩甲骨・右・成歯		N3E1	4
25		橈骨・右・成歯	近位部~中間部	S0E0	4b
10		大腿骨・右・成歯	遠位部	不明	河道2
17		大腿骨・左・成歯	近位部	N0E0	3
9		脛骨・右・成歯	遠位部	90年度中央セクション	4
27		脛骨・左・成歯	遠位部	I区トレンド	4b
21		踵骨・左・成歯		N1E0	3
24		基節骨		N0E3	4
31		中節骨		N1E1	4
18	イノシシ	上顎大歯・左・雄			廃土中
8		下顎・左・若歯	(xxxx P4 M12)	N2E2	河道2
5		上腕骨・左・成歯	中間部	N2E2	河道2
29		上腕骨・右・成歯	中間部~遠位部	S1E0	4b
28		寛骨・左・成歯		S1E0	4b
14		脛骨・左・成歯	中間部~遠位部	N2E1	4a
6		胸椎・若歯			不明
22	シカ または イノシシ	肩甲骨		N1E0	3
15		肋骨片		N3E1	3
7		骨肩9			
11	ウシ	上腕骨・右・成歯	遠位部・小型 現存長 193.0mm		
		田舎大腿骨・左・成歯	中間部・小型 現存長 196.5mm		

注 下顎骨の備考の()は、歯の残存状況を示す。Pは前臼歯、Mは後臼歯、数字は歯の番号、Xは歯槽はあるが歯のないものを示す。

第VII章 タテショウ遺跡の珪藻遺骸分析と軟X線解析

大西郁夫・徳岡隆夫・山本重幸・田村嘉之

タテショウ遺跡発掘現場の地層観察と試料採取をおこない、珪藻遺骸分析と軟X線解析をおこなったので、ここに報告する。

1. 硅藻遺骸分析

(1) 試料採取地点と層準

分析用試料は東西の壁面の4ヶ所（第1図のA～D）において層ごとにおこなった（第2図）。また、壁面から北10mの地点において、ハンドオガードを使用して、床面（-0.9m）から-3.4mまで掘削し、20～30cmごとに採取した（E-01～16）。

(2) 分析結果

これらの39試料について、プレパラートを作成し、観察・同定をおこなった。礫層や砂層からは珪藻はほとんど検出されなかったので、主に泥層についての結果を第3図に示す。

A：Iは少量の砂を含む茶褐色の泥層。IVとVIは暗灰色泥層で、VI中にはレンズ状の砂を挟む。珪藻はVIのみから検出された。VIの珪藻は、海水性種が33%であり、主な種は、*Cocconeis scutellum*と*Diploneis smithii*で、河口などの淡水域に生息する*Achnantes hauckiana*も出現する。

B：Iは砂混じりの茶褐色の泥層。II・IV・VIが暗灰色泥層である。I層からは珪藻は検出されなかった。海水性種の割合は、IIで28%，IVで55%，VIで44%である。主な種は、*Cocconeis scutellum*と*Grammatophora* spp.であり、個体数は下位ほど多い。

C：Iは少量の砂を含む泥層。IIは暗灰色泥層、Vは含泥砂層である。IIでは海水性種珪藻が45%であり、*Cocconeis scutellum*と*Grammatophora* spp.の割合が高い。Vは全個体数は少ないが、*Cocconeis scutellum*や、*Diploneis smithii*などの海水性種が50%を占める。

D：Iは赤褐色、IIは暗灰色の砂混じり泥層で、珪藻は検出されなかった。IVは暗灰色の砂混じり泥層で、多量の珪藻を含む。海水性種は62%であり、*Cocconeis scutellum*と*Grammatophora* spp.が多い。

E：上部は砂混じり泥層、下部は暗灰色泥層である。標高からみて、Dの下位に位置する。全体的にみて、海水性種が50%を越えているが、その数値は3～4回の小さな変動を繰り返している。

□ 環境推定

珪藻分析の試料採取した壁面は、1977年度発掘調査の際に花粉分析をおこなった第Ⅲ調査区と重複している。大西は(1979)は、第Ⅲ調査区の壁面のスケッチを示している。それと、今回の壁面スケッチ(第1図)とを比較すると、次のような地層の対応が考えられる。

今回の最下位層(A-VII, B-VII, C-VI, D-VおよびE-01~16)は大西(1979)のF層に対応し、その時代は縄文~弥生時代初頭と考えられる。

その上位にある砂礫層のうち西端部のA-V~VIIは、大西(1979)縄文・弥生および古式土師を含むE層に相当し、古墳時代以前と考えられる。

その上位のB-VII以上の層は、より以前の層を割り込んで堆積していく、西から東に向かって上位となるが、砂礫層が優勢なB-VIIからC-IIぐらいまでは、大西(1979)のD層~B層に相当するものと考えられる。

また、主に泥層からなるD-I~Iは、大西・大谷(1990)の上位層(試料番号1~23)に相当し、その時代は室町以後と考えられる。

このような時代推定に基づくと、次のような環境変化が考えられる。

縄文時代：この地域は中海・宍道湖を結ぶ水道の一部で、朝鈴川の河口はもっと上流にあり、海水性の珪藻が50%を越えるような海水の影響の強い汽水域であった。しかし、朝鈴川からの淡水の淡水の流入に起因すると考えられるよう、淡水性珪藻がやや増加し、海水性がやや減少するような小変動が、3~4回くりかえした。ヤマトシジミの貝殻層とEとの関係は不明であるが、かなり淡水性が強くなり、ヤマトシジミが繁殖した時代はF層最上部の弥生時代初頭であると考えられる。

弥生~古墳時代：古墳時代の後半には、砂礫層(A-III~II)がこの地域一帯に広く堆積した。この砂礫層下部(A-VII)では海水性珪藻が33%と低いことから、小海退が起こったために河口がこの付近まで下がったものと考えられる。さらに、上部(A-III~II)の堆積によってこのあたりは広く陸化し、朝鈴川はこの陸地を流れ、流路に沿って浅い川谷が削り込まれた。

奈良時代以後：その川谷を流れる堆積物の下部(B-VII~IV)は砂泥質で、44~55%の海水性珪藻を含むこと、上部(B-III)は疊層であることから、川谷の埋立ては、その後の小海進によって始まり、小海退によって完了したものと考えられる。このような小海進小海退は、その後室町時代以後まで数回繰り返したものと考えられる。

2. 軟X線解析

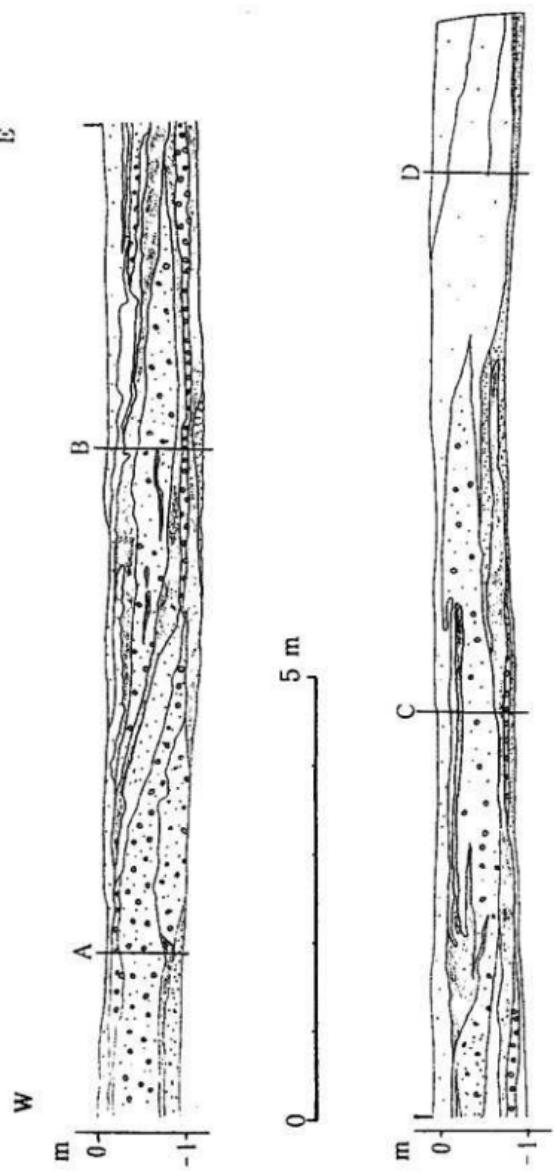
旧河道堆積物の下部を占める、褐色泥と灰色泥の細互層から、長さ25cm、厚さ1cmの試料を4個

とり、軟X線写真を撮影した。結果は写真（T-910802 下位から1, 2, 3, 4）の通りである。

最下部には、孤状の模様が数個見られる。X線がよく通過し、ネガが黒くなったところが、写真では白くなるから、黒い3個はシジミの貝殻を、白い1個は貝殻が抜け落ちた跡を示す。又、上下方向の直線的な模様がみられる。これはアシなどの植物の茎の跡であろう。全体的に、厚さ0.5～1 cm程度の水平方向のラミナが顯著である。また厚い灰色の部分にも細かいラミナが認められる。今回の試料では、これらのラミナは色の違いとして肉眼的に認められる。しかし、色の違いがなく堆積構造が肉眼的に認められないような堆積物の内部構造を知るためには軟X線写真は重要となるであろう。

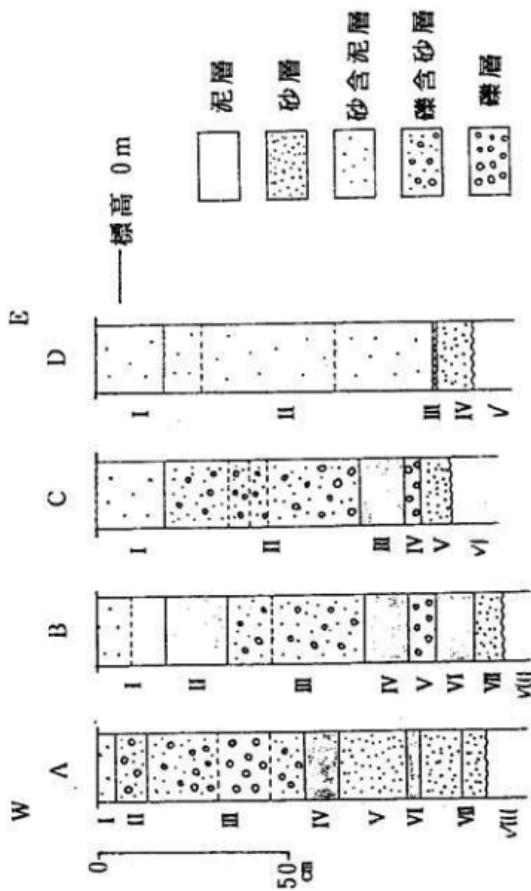
文献

- 大西郁夫（1979）花粉の分析、朝霧川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ、188～193、
島根県教育委員会。
- 大西郁夫・大谷美之（1990）タテチヨウ遺跡'88の花粉分析、同上 Ⅲ、434～436、島根県土木部河川課、
島根県教育委員会。

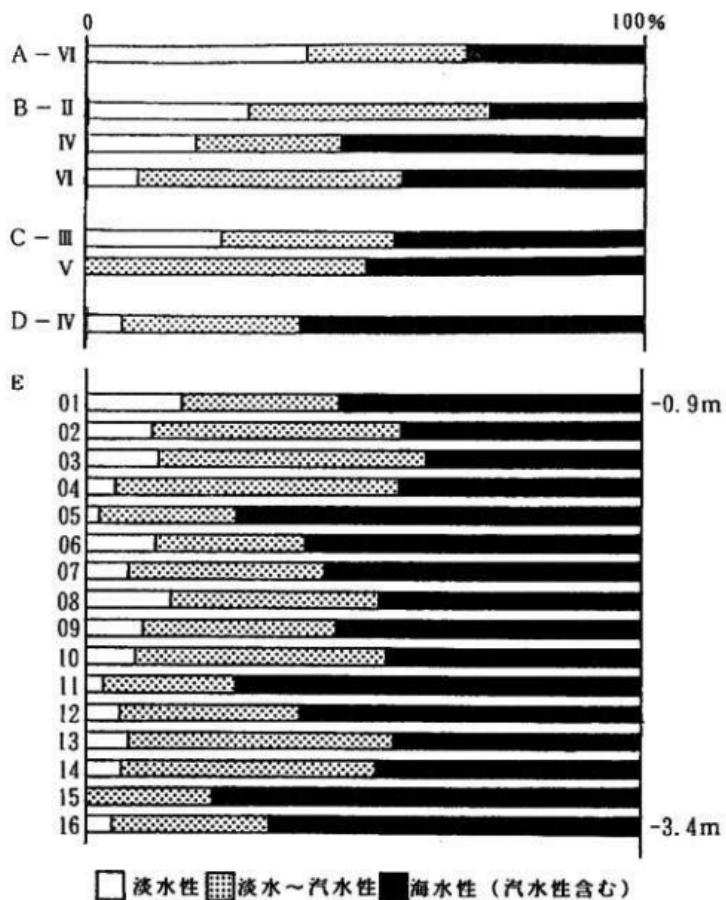


第104図 壁面の断面図

A ~ D 地点の柱状図



第105図 タテチョウ遺跡東西壁面断面図と柱状図



第106図 タテチョウ遺跡における堆積物中の珪藻化石の分析結果

第Ⅶ章 松江市タテチョウ遺跡出土木製品の樹種の記載

—その2—

平成2・3年度調査での出土木製品

川崎地質株式会社 大阪支店

渡邊 正巳

1. はじめに

近年島根県内では、低湿地での遺跡の調査やこれに伴う木質遺物（木製品）の出土が相次いでいる。しかし多くの遺跡では、考古学的記載は行われているものの樹種鑑定（記載）はほとんどの場合行われていない。このような現状のもとで、松江市北東部の朝鶴川流域では、渡邊（1987）により、西川津遺跡出土の船型木製品の樹種記載が行われて以来、渡邊（1988, 1990）により、西川津、タテチョウ両遺跡出土の木製品の樹種鑑定（記載）が行われてきた。また、大西ほか（1988）により西川津遺跡での自然流木の分析が行われ、花粉分析結果との比較から弥生時代前期から中期の環境復元が行われている。

本報告ではタテチョウ遺跡の平成3年度調査において出土した木製品の内、11個について樹種鑑定（記載）を行う。

2. 遺跡の概要

松江市の北東部を流れる朝鶴川流域一帯には、低湿地遺跡が広く分布しており、上流部を西川津遺跡、下流部をタテチョウ遺跡と呼んでいる。タテチョウ遺跡では、島根県教育委員会により1974年以来調査が行われてきた（島根県教育委員会、1979ほか）。

これまでに、両遺跡が繩文時代前期より中世に至る遺跡であり、土器、石器などに混ざって多くの植物遺物、動物遺物が出土したことが報告されている（島根県教育委員会、1979ほか）。また西川津遺跡では、弥生時代前期から中期にかけての期間の遺物が多く、この時代の貝塚群や掘立柱の柱穴も見つかっている。タテチョウ遺跡においても同時期と考えられる出土遺物は存在するが、人間の生活した跡は未だ報告されていない。

3. 試料の処理方法

樹種鑑定を行うにあたり、試料にできるかぎり損傷を与えないように注意し、横断面・接線断面・

放射断面の切片を作り、サフラニンで染色した後、カナダバルサムで封入し永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡下で観察し内部形態的特徴から樹種の同定を行った。また今回樹種同定に使用したプレパラートは全て、島根県教育委員会により作成されたものである。

4. 木材の記載及び結果

樹種同定に至った根拠を以下に示す〔用語は島地ほか(1985)に準じた〕。樹種同定は、小林(1957)、鈴木・能代(1986)、須藤(1959)、能代・鈴木(1987)の記載を参考にし、現生標本のあるものについてはそれを参考にした。試料の同定結果を第2表に示す。

1) モミ属 *Abies* sp. (M2)

仮道管、放射柔細胞、傷害樹脂道からなる針葉樹材で、早材から晩材へに移行はゆるやかである。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型であり、末端壁は、じゅず状であるなどから、モミ属であると同定できる。モミ属にはモミ、ウラジロモミなどいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでモミ属としておく。

2) マツ属(複雑管束亞属) *Pinus* (*Diploxylon*) sp. (M17)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、軸方向・水平樹脂道、およびエビセリウム細胞からなる針葉樹材である。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の壁に鋸歯状肥厚が著しいことなどからマツ属(複雑管束亞属)であると同定できる。マツ属(複雑管束亞属)には、アカマツ、クロマツなどいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでマツ属(複雑管束亞属)としておく。

3) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don (M3, 4, 6, 7 試料)

仮道管、樹脂細胞、放射樹脂細胞からなる針葉樹で、早材から晩材への移行は急である。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型で2個存在するなどからスギであると同定できる。

4) ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. (M1, 12, 13)

仮道管、樹脂細胞、放射樹脂細胞からなる針葉樹材で、早材から晩材への移行はややゆるやかで、樹脂細胞は晩材に偏在する。放射柔細胞早材部の分野壁孔はヒノキ型で2個存在することからヒノキ属であると同定できる。ヒノキ属には、ヒノキ、サワラなどいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでヒノキ属としておく。

5) イチイ属 *Taxus* sp. (M14)

仮道管、放射柔細胞からなる針葉樹材で、晩材の巾が非常にせまく年輪界がやや不明瞭である。仮道管には螺旋肥厚が明瞭であることなどからイチイであると考えられるが、本地域に近い大山には同属のキャラボクが生育しており、対比標本がないことからイチイ属としておく。

6) アカガシ亜属 *Quercus (Cyclo.)* sp. (M10)

中庸の道管が単独で配列する放射孔材で、道管穿孔は單穿孔、軸方向柔細胞は、1ないし数細胞巾の独立帶状柔組織を示すことが多い。放射組織は単列できわめて低い同性放射組織型のものと複合放射組織があることなどから、アカガシ亜属と同定した。アカガシ亜属にはいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでアカガシ亜属としておく。

5. 謝 辞

鳥根県教育委員会文化課主事林健亮氏には、物心両面にわたり多くの御援助をいただいた。今回の報告をまとめるにあたりここに厚く感謝の意を表したい。

文献

- 小林弥一, 1975: 本邦における針葉樹材のカード式識別法. 林業試験場研究報告, no.98, 1-84, pl.1-16.
- 能代修一・鈴木三男, 1987: 中里遺跡出土木材遺体から推定される古植生. 東北新幹線建設に伴う発掘調査 中里遺跡 2, 253-320.
- 大西郁夫・渡邊正巳・内田伸雄, 1988: 松江市西川津遺跡出土の材化石. 山陰地域研究. (自然環境), no. 4, 65-79.
- 鳥地謙・佐伯広・原田広・塙倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司, 1985: 木材の構造. 文永堂, 276p. 東京.
- 鳥根県教育委員会, 1979: 朝酰川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書 -I-. 鳥根県教育委員会, 204p.
- 須藤彰司, 1959: 本邦広葉樹材の識別 (識別カードを適用して). 林業試験場研究報告, no.118, 1-138, pl.1-36.
- 鈴木三男・能代修一, 1986: 新保遺跡出土加工木の樹種. 新保遺跡 I 亦生・古墳時代大講編 一関越自動車道 (新潟線) 地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 --- 本文編, 71-94, pl.136.
- 渡邊正巳, 1988: 西川津遺跡より出土した绳文時代早期末～前期初頭の鉢形木製品について. 朝酰川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書 -II- (海崎地区 I), 262-263, pl.3-19.
- 渡邊正巳, 1987: 松江市西川津遺跡出土木製品の樹種について. 朝酰川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書 -III- (海崎地区 II), 244-260, pl.76-81.
- 渡邊正巳, 1990: 松江市タテチヨウ遺跡出土木製品の樹種の記載. 朝酰川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書 III, 458-462, pl.202-203.

第2表 木製品樹種一覧表

挿図番号	図版ページ	実測番号	製品名	樹種	出土地点	層準
W-50		M1	曲物	ヒノキ属	N3E1	3
W-65		M2	板状木製品	モミ属	N4E1	河道3
W-48		M3	椀?	スギ	N4E1	河道3
W-46		M4	曲物	スギ	N5E2	河道3
W-37		M6	垢取り状木製品	スギ	N3E1	3
W-60		M7	不明木製品	スギ	N2E1	3
W-3		M10	鍤? (板状)	アカガシ属	N3E2	4
W-68		M12	杭状木製品	ヒノキ属	N1E1	3
W-69		M13	不明木製品	ヒノキ属	N5E1	3
W-70		M14	不明木製品	イチイ属	N1E1	3
W-28		M17	把手状木製品	マツ属 (複数管束) 属	N0E2	河道2

第Ⅷ章 松江市タテチョウ遺跡の材化石

川崎地質株式会社 大阪支店

渡邊 正巳

1. はじめに

島根県教育委員会が、1991年度にタテチョウ遺跡において行った発掘調査に伴って、古墳時代前半の堆積物から多数の材化石が出土した。本報では出土材化石の樹種鑑定結果をもとに、古植生の推定を試みた。

2. 遺跡の概要

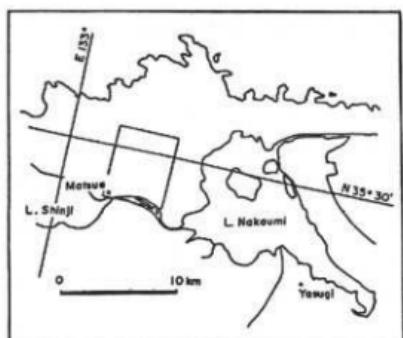
松江市の北東部を流れる朝酌川流域一帯には、低湿地遺跡が広く分布しており、上流部を西川津遺跡、下流部をタテチョウ遺跡と呼んでいる（第107図）。タテチョウ遺跡では、島根県教育委員会により1974年の予備調査以来、数回におよぶ発掘調査とまとめ（島根県教育委員会、1979；島根県土木部河川課・島根県教育委員会、1987, 1990）が行われてきた。これまでの調査で、タテチョウ遺跡は弥生時代を中心として、縄文時代早期から古墳時代にいたる複合遺跡であることがわかっている。また、上流部の西川津遺跡では弥生時代前期から中期にかけての貝塚群や擧立柱の柱穴も見つかっているが、タテチョウ遺跡では人間の生活した跡は未だ報告されていない。

タテチョウ・西川津の両遺跡においては、従来から継続的に花粉分析が行われており、およそ縄文時代後半から現在に至るまでの花粉分带が行われている（大西、1974；大西・渡邊、1987a, b, c；大西ほか、1989；大西・大谷、1990）。大型植物化石については、タテチョウ遺跡では粉川（1974, 1990）の報告がある。また西川津遺跡では内田（1987）が、縄文時代のものと考えられる種子、実などを記載している。材化石の鑑定では、タテチョウ遺跡で渡邊（1990, 1992）が、西川津遺跡で渡邊（1987, 1988）、大西ほか（1988）がある。

3. 試料と出土層について

今回の報告に使用した材化石試料は、1991年度に発掘された旧河川の埋土より出土（第108図）したものであり、その中から任意に抽出した50点である。

またこの旧河川埋積土は、共伴した土器より古墳時代前半に堆積したものであると考えられている（島根県土木部河川課・島根県教育委員会、1992）。



第107図 調査地点

4. 試料の処理方法

今回の試料作成は渡邊の指導により、島根県教育委員会が行ったものである。樹種鑑定を行うにあたり、横断面・接線断面・放射断面の切片を作り、サフラニンで染色した後、カナダバルサムで封入し永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡下で観察し内部形態的特徴から樹種の鑑定を行った。

5. 木材の記載及び結果

樹種同定に至った根拠を以下に示す〔用語は島地ほか（1985）に準じた。〕。樹種同定は、基本的には現性標本との対比で行ったが、小林（1957）、鈴木・能代（1985, 1986）、須藤（1959）、能代・鈴木（1985, 1987）の記載も参考にした。試料の鑑定結果を表3に、出現率を第109図に示す。

1) モミ属 *Abies* sp. 試料番号: p-1

仮道管、放射柔細胞、傷害樹脂道からなる針葉樹材で、早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型であり、末端壁は、じゅず状であるなどから、モミ属とした。モミ属にはモミ、ウラジロモミなどいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでモミ属としておく。

2) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don 試料番号: p-4, 7, 12, 23, 28

仮道管、樹脂細胞、放射樹脂細胞からなる針葉樹材で、早材から晩材への移行は急である。放射柔細胞早材部の分野壁孔はスギ型で2個存在することなどからスギとした。

3) ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp. 試料番号: p-32, 34, 49

仮道管、樹脂細胞、放射樹脂細胞からなる針葉樹材で、早材から晩材への移行はややゆるやかで、樹脂細胞は晩材に偏在する。放射柔細胞早材部の分野壁孔はヒノキ型で2個存在するなどからヒノキ属とした。ヒノキ属には、ヒノキ、サワラなどいくつかの種が存在するが、区別が困難なのでヒノキ属としておく。

4) イヌガヤ属 *Cephalotaxus* sp. 試料番号: p-24, 55

仮道管、樹脂細胞、放射樹脂細胞からなる針葉樹材で、晩材の巾が非常に狭く、年輪界はやや不明瞭である。仮道管にはらせん肥厚が明瞭であるなどからイヌガヤ属とした。イヌガヤ属には、イ